

ブラジル国における農牧林業の生産流通事情
(1982-1986年)

17790

JICA LIBRARY



1066340[9]

昭和62年 3月

国際協力事業団サンパウロ事務所農業情報室

国際協力事業団

17790

< 目 次 >

1	经济概况	1
1.1	概 要	1
1.2	1985年国内生产总值	2
1.2.1	概 要	2
1.2.2	工业部门	3
1.2.3	轻工业部门	6
1.2.4	重工业部门	10
1.3	在水产	14
1.4	投资状况	15
1.5	物资及外汇	17
1.6	对外贸易	20
1.6.1	概 况	20
1.6.2	1985年贸易政策	21
1.6.3	贸易收支	24
	a) 输 出	27
	b) 输 入	35
1.6.4	外汇收支	36
1.6.5	资本收支	37
1.6.6	对外贸易收支	38
1.6.7	外 债	39
1.3	1986年经济概况	40
1.3.1	概 况	40
1.3.2	1986年农业状况	43
1.3.3	1986年对外贸易	48
2	农业政策	50
2.1	政策	50
2.1.1	概 要	50
2.1.2	金融政策	52
2.1.3	价格政策	56
2.2	生产资料	58
2.2.1	肥料	58

2.2.2	米	-----	63
2.2.3	穀子	-----	68
2.2.4	農業機械(トラクター)	-----	70
2.3	農産物の価格推移	-----	79
2.4	その他収入	-----	78
3.	1982~1986年度の農業生産状況	-----	81
3.1	穀類	-----	81
3.1.1	ヒウホニシ	-----	81
3.1.2	米	-----	87
3.1.3	アヒメシ	-----	96
3.1.4	ソルガム	-----	103
3.1.5	大豆	-----	106
3.1.6	大豆	-----	111
3.1.7	大豆	-----	112
3.1.8	大豆	-----	114
3.2	油粕原料作物	-----	116
3.2.1	大豆	-----	116
3.2.2	落花生	-----	124
3.2.3	ヒマ	-----	128
3.2.4	ココヤシ	-----	129
3.3	工業原料作物	-----	131
3.3.1	砂糖キビ	-----	131
3.3.2	綿	-----	137
3.3.3	マンゴ	-----	143
3.3.4	煙草	-----	145
3.3.5	サイヤル	-----	148
3.3.6	ジュンジュン	-----	149
3.3.7	ラミ	-----	151
3.4	嗜好作物	-----	152
3.4.1	タバコ	-----	152
3.4.2	ココア	-----	158
3.4.3	ヒメシ	-----	162

3.5	米	天	-----	165
3.5.1	オレンジ		-----	165
3.5.2	バナナ		-----	171
3.5.3	ぶどう		-----	173
3.5.4	パイナップル		-----	176
3.6	野菜		-----	178
3.6.1	トマト		-----	178
3.6.2	ジャガイモ		-----	180
3.6.3	玉ねぎ		-----	182
3.6.4	にんじん		-----	185
3.7	牧畜部門		-----	188
3.7.1	牛		-----	188
3.7.2	豚		-----	192
3.7.3	鶏		-----	194
3.8	林業部門		-----	196
4.	1986/87年度の仕事概要及び収支予想		-----	197

＜ 目 次 ＞

表 1	国内総生産 (GDP) 推移	2
2	工業生産成長率	2
3	石油の生産及び輸入	7
4	石油副産物及び燃料用重油の推定消費量	8
5	電力消費量の推移	9
6	過去 5 年間の農業生産推移	12
7	GNP システムにおける投資額	16
8	物価指数	18
9	最低賃金の変遷	19
10	ブラジルの貿易収支	24
11	ブラジルの輸出入指数	25
12	ブラジルの主要貿易国との貿易収支 1985 年	26
13	コーヒー：世界及びブラジルの動向	27
14	砂糖：世界及びブラジルの生産、消費及び輸出	29
15	大豆及び加工品の生産、消費及び輸出	30
16	玉米の生産及び輸出	30
17	農林水産物輸出実績 1985 年	31
18	サービス収支の推移	36
19	ブラジルの国際収支	38
20	ブラジルの外債総額、外債にかかわる支出と輸入額の関係	39
21	1986 年上半期主要生産指数	41
22	主要物価指数	42
23	1986 年上半期の投資生産量	43
24	85/86 年度の農業生産状況、前年度との対比	44
25	1986 年度農林水産物の輸出実績	45
26	主要農林水産物の輸入実績	47
27	農林水産物の輸出実績、85/86 年対比 (1～11 月)	45
28	農林水産物の輸入実績、85/86 年対比 (1～11 月)	47
29	1986 年度の対外収支	49
29 a	主要品別 VBC (生産量及び基準値)	52
30	主要作物の VBC ()	53
31	農業融資の増減と償還割合	53
32	農業融資の増減	56

表 34	肥料の国内生産、輸出入及び国内供給量	58
35	肥料の原料の国内生産量及び輸入量	59
36	肥料の国内推定消費量	60
37	肥料及び原料の国際価格	60
38	肥料の国内価格の1例	61
39	肥料及び石灰の価格比較	61
40	1986年1-7月間の生産及び輸入	62
41	炭素の生産、輸出入及び推定消費量	63
42	炭素別推定消費量 1984/85 年比	64
43	炭素の取引量及び全額	65
44	地域別炭素取引量	65
45	作物別炭素取引量	66
46	炭素取引量及び全額	67
47	85、86年の炭素価格	67
48	種子：改良種子の使用量及び使用比率 85/86年度	68
49	：改良種子の生産量	68
50	：最低保証価格	69
51	：民間会社の販売価格	69
52	：サハラ以南の発展途上国の合算価格	70
53	トランプの生産取引量推移	71
54	：1986年1-8月実績、前年との比較	72
55	：4輪トランプ輸出実績	72
56	：ブラジルのトランプ輸出	73
57	：中央南部地域の中型トランプ価格 85/86年比較	73
58	：トランプ1台と購入可能な女性と73歳女性の量	73
59	ブラジルの炭素価格：地域別平均価格	75
60	中央南部地域の主要炭素地帯の炭素価格	75
61	サハラ以南の平地炭素価格 (1986年支)	76
62	炭素地及び牧草地価格 (中央南部地域)	77
63	サハラ以南の牧草地価格 (平均)	77
64	経済人口と炭素部門の比率 1984年	78
65	経済活動人口の増減	78
66	中央、南部地域の労働形態 1984年支	79

表	67	農林省労働者賃金の推移	80
“	68	農林省労働者賃金の推移（平均）	80
“	69	とうもろこし：1986年生産状況	81
“	70	“：過去5年間の生産推移	81
“	71	“：主要生産地の単収	82
“	72	“：世界の生産及び輸入	83
“	73	“：過去5年間の需給	85
“	74	“：生産者受取価格推移	85
“	75	“：生産コスト 収支 45 円	86
“	76	“：” 収支 60 円	86
“	77	米：1986年生産状況	87
“	78	“：過去5年間の生産推移	88
“	79	“：主要生産地の単収	88
“	80	“：生産者受取価格	92
“	81	“：米の需給 80/81 ~ 84/85	93
“	82	“：生産者受取価格	99
“	83	“：生産コスト 産地 27 円	99
“	84	“：” 55 円	95
“	85	フェイジョウ：1986年生産状況	96
“	86	“：収穫時期の生産推移	98
“	87	“：過去5年間の生産推移	98
“	88	“：主要生産地の単収	98
“	89	“：フェイジョウの需給状況	99
“	90	“：生産者受取価格	102
“	91	“：生産コスト 16 円 収支 15 円	102
“	92	“：” 10 円 収支 15 円	103
“	93	ソルガム：1986年生産状況	103
“	94	“：過去5年間の生産推移	104
“	95	“：主要生産地の単収	104
“	96	“：需給状況	105
“	97	小麦：1986年生産状況	106
“	98	“：過去5年間の生産推移	107
“	99	“：主要生産地の単収	107

第 100	小 麥	世界の生産消費	108
101	・	ブラジルの輸入推移	108
102	・	国内需要	109
103	・	生産者受取価格と製粉工場の買い付け価格	110
104	・	生産者受取価格	110
105	・	小麥粉小売価格	110
106	大 麥	1986年生産状況	111
107	・	過去54年間の生産推移	112
108	・	主要生産地の平均	112
109	カシ小麥	1986年生産状況	112
110	・	過去54年間の生産推移	113
111	・	主要生産地の平均	113
112	ライ麦	1986年生産状況	114
113	・	過去54年間の生産推移	115
114	・	主要生産地の平均	115
115	大 豆	1986年生産状況	116
116	・	過去54年間の生産推移	117
117	・	主要生産地の平均	117
118	・	10大油粕作物の消費動向	117
119	・	世界の大豆(豆)生産、工業用豆及び飼料用豆	118
120	・	マレー半島におけるオイルパームの生産と在庫	119
121	・	大豆の米国市場価格	119
122	・	大豆の国際市場価格 (CIF ロンドン)	119
123	・	ブラジルの輸出推移	120
124	・	1985年度の輸出	120
125	・	大豆油(粗油)ブラジルの輸出推移	121
126	・	1985年度の輸出	121
127	・	大豆粕 ブラジルの輸出推移	121
128	・	1985年度の輸出	121
129	・	生産者受取価格	123
130	・	生産コスト	123
131	落花生	1986年生産状況	124
132	・	過去54年の生産推移	124

表	133	落花生	主要生産地の単収	125
	134		落花生油の国内相対	125
	135		落花生及び副産物の輸出入	126
	136		落花生(殻つき)輸出、1985年	126
	137		落花生(殻つき)輸入	126
	138		精製油 輸出入	126
	139		粗油 輸出入	126
	140		生産者受取価格	127
	141		生産コスト	127
	142	ヒマ	1986年生産状況	128
	143		過去5年間の生産推移	128
	144		主要生産地の単収	128
	145		生産者受取価格	129
	146	ココヤシ	1986年生産状況	129
	147		過去5年間の生産推移	131
	148		主要生産地の単収	130
	149	砂糖キビ	1986年生産状況	131
	150		過去5年間の生産推移	132
	151		主要生産地の単収	132
	152		砂糖及びアルコール生産計画	133
	153		砂糖及びアルコール生産推移	133
	154		砂糖の国内相対	134
	155		ブラジルの輸出入	134
	156		粗糖 輸出入	135
	157		精製糖 輸出入	135
	158		結晶糖 輸出入	135
	159		生産コスト 対日	135
	160		対2年日	136
	161		対3年日	136
	162	綿	卓綿 1986年生産状況	137
	163		木綿 1986年生産状況	137
	164		卓綿 過去5年間の生産推移	137
	165		主要生産地の単収	137

表	166	綿	木綿 過去5年間の生産推移	138
"	167	"	主要生産地の単収	138
"	168	"	世界の綿糸生産量	139
"	169	"	世界の綿糸価格	139
"	170	"	綿糸の国際価格	140
"	171	"	ブラジルの繊維消費量	140
"	172	"	生産者受取価格	141
"	173	"	生産コスト 生産量 145 万トン	141
"	174	"	"	142
"	175	マングロ	1986年生産状況	143
"	176	"	過去5年間の生産推移	143
"	177	"	主要生産地の単収	143
"	178	"	生産者受取価格	144
"	179	"	生産コスト 26/27 歳年	145
"	180	煙草	1986年生産状況	145
"	181	"	過去5年間の生産推移	146
"	182	"	主要生産地の単収	146
"	183	"	煙草及び製品の輸出推移	147
"	184	"	国別輸出推移 1985年	147
"	185	"	生産者受取価格	147
"	186	サイガル	1986年生産状況	148
"	187	"	過去5年間の生産推移	148
"	188	"	主要生産地の単収	148
"	189	"	サイガル 織物及びロープの輸出推移	148
"	190	シコト	1986年生産状況	149
"	191	"	過去5年間の生産推移	149
"	192	"	主要生産地の単収	149
"	193	マルバ	1986年生産状況	150
"	194	"	過去5年間の生産推移	150
"	195	"	主要生産地の単収	150
"	196	"	シコト及びマルバの輸出推移	150
"	197	ラミ	1986年生産状況	151
"	198	"	過去5年間の生産推移	151

表 199	ラミ -	:	主要生産地の単収	-----	151
200	コ - ヒ -	:	1986年生産状況	-----	152
201	"	:	過去5年間の生産推移	-----	152
202	"	:	主要生産地の単収	-----	152
203	"	:	世界の生産量	-----	153
204	"	:	コ・ヒ・生産国の供給量及び在庫量	-----	154
205	"	:	コ・ヒ・協定相対価格	-----	154
206	"	:	輸出推移	-----	155
207	"	:	コ・ヒ・国) 1985年輸出実績	-----	155
208	"	:	インスタントコ・ヒ・ 1985年輸出実績	-----	155
209	"	:	生産者受取価格 84/85	-----	156
210	"	:	" 85/86	-----	156
211	"	:	生産コスト カンボジア	-----	157
212	"	:	" タイランド	-----	157
213	ココア	:	1986年生産状況	-----	158
214	"	:	過去5年間の生産推移	-----	159
215	"	:	主要生産地の単収	-----	159
216	"	:	ココア及び加工品の輸出	-----	161
217	"	:	ココア(豆) 1985年輸出実績	-----	161
218	"	:	ココア・110-14 1985年輸出実績	-----	161
219	"	:	ココア・バター 1985年輸出実績	-----	161
220	ヒョウタン	:	1986年生産状況	-----	162
221	"	:	過去5年間の生産推移	-----	162
222	"	:	主要生産地の単収	-----	162
223	"	:	ヒョウタンの輸出推移	-----	163
224	"	:	ヒョウタン(黒) 1985年輸出実績	-----	164
225	"	:	ヒョウタン(白) 1985年輸出実績	-----	164
226	オレンジ	:	1986年生産状況	-----	165
227	"	:	過去5年間の生産推移	-----	166
228	"	:	主要生産地の単収	-----	166
229	"	:	オレンジ濃縮ジュースの輸出推移	-----	167
230	"	:	オレンジ濃縮ジュース 1985年輸出実績	-----	168
231	"	:	生産者受取価格	-----	168

表 232	オレンジ	生産コスト 元1年目	169
233		元2年目	169
234		元3年目	170
235	バナナ	1986年生産状況	171
236		過去5年間の生産推移	171
237		主要生産地の単収	171
238		輸出推移	172
239		1985年の輸出実績	172
240		生産者受取価格	172
241		生産コスト	172
242		"	173
243	ぶどう	1986年生産状況	173
244		過去5年間の生産推移	174
245		主要生産地の単収	174
246		生産者受取価格	174
247		生産コスト 元1年目	175
248		元2年目	175
249	パイナップル	1986年生産状況	176
250		過去5年間の生産推移	176
251		生産者受取価格	176
252		生産コスト 元1年目	177
253		元2年目	177
254	トマト	1986年生産状況	178
255		過去5年間の生産推移	178
256		主要生産地の単収	178
257		生産者受取価格	179
258		生産コスト	179
259	じゃがいも	1986年生産状況	180
260		過去5年間の生産推移	180
261		主要生産地の単収	180
262		生産者受取価格	181
263		生産コスト	181
264	五穀類	1986年生産状況	182

表	265	玉米	過去5年間の生産推移	183
"	266	"	主要生産地の収収	183
"	267	"	生産者受取価格	184
"	268	"	生産コスト	184
"	269	にんじん	1986年生産概況	185
"	270	"	過去5年間の生産推移	185
"	271	"	主要生産地の収収	185
"	272	"	生産者受取価格	187
"	273	牛	カンパネ州の牛産肉頭数	187
"	274	"	肥育牛生産者受取価格	187
"	275	"	乳牛生産者受取価格	190
"	276	"	ブラシルの輸出実績	190
"	277	"	牛肉(冷凍骨なし)輸出実績	191
"	278	"	コンビ-フ輸出実績	191
"	279	"	牛肉輸出 1985年86年比較	191
"	280	"	牛肉の国内推定消費量 85, 86年比較	191
"	281	豚	カンパネ州の産肉頭数及び豚肉生産量	192
"	282	"	豚肉生産者受取価格	193
"	283	"	豚肉ととうもろこし価格の関係	193
"	284	"	豚肉と飼料との関係	193
"	285	"	冷凍豚肉の輸出推移	194
"	286	鶏	鶏肉生産者受取価格	194
"	287	"	卵生産者受取価格	194
"	288	"	鶏肉と飼料の価格関係	195
"	289	"	ブロイラーの輸出推移	195
"	290	"	ブロイラーの輸出実績 1985年	195
"	291	林業部門	ユ-カリの植林面積と植付本数	196
"	292	"	ア-カシアの植林面積と植付本数	196
"	293	"	木材、薪、木炭生産量(造材林)	196
"	294	"	木材、薪、木炭生産量(天然林)	197
"	295	"	木材の輸出実績	197
"	296	86/87年度の仕事状況		198
"	297	"	生産予想	198

1 経済概況

1.1 概要

1985年度は20年間にわたる軍事政権より、民政に移管して最初の年として、慢性化したインフレと逼迫した海外勘定の調整という困難な事態に直面し、も国内経済活動の回復による雇用の増大と、これに伴う国民所得の向上と目指した政策が実行された。

インフレ対策としての公共投資の削減や、国内金利の上昇により、民間部門への投資は前年と比べて減少したものの、国内の生産活動は安定して11%と伸び、政府の遊休施設を利用して需要の増大に応じた。年間を通じて工業部門の生産率は9.0%に達し、前年の6.0%に比べて81年以降増えたと見られる。工業部門では大勢を占める製造業16部門のうち前年比で生産が増加したのは、前年と比べて4部門、83年には12部門の増加が完全な平常に戻った。このように工業部門の回復は雇用水準に反映し、6.5%の雇用増が記録された。輸送、電気通信部門等も大中程度の増がみられた。

農業部門もまた工業部門に似て8.8%の増を記録し、国内総生産の形成に大きく貢献した。年間を通じて天候に恵まれたが、一部の作物が良好な成績を納め、秋作の生産量は従前の54万トンを、一季に57万トンに引き上げた。これは、輸出作物に負うところが大きく、国内食糧の生産は小幅に伸びた。一部の作物は供給不足による価格の上昇がみられた。

物価指数は83年以降連続して200%を越す上昇を記録した。85年の前年と比べ、上は235%のインフレ率であった。下半期には公共料金や燃料の規制により、一時的にインフレは鈍化したものの、一方には公共サービスの増大に伴い、その健全な運営のために行われた国債の発行により、国債償還の増大も引き起こされた。

海外取引面では貿易収支における大赤字の悪化により、資本移入の減少がもたらされた。国際金利の下降によってサービス収支の悪化が前年より改善されたが、総合収支は依然として赤字と見られる。貿易面では貿易交渉の進展や貿易相手国の保護主義の緩和と好ましい環境の中、輸出額は前年を下回ったが、輸入面では国際石油価格の下落が大きい影響に加えて、石油の国産増産、代替燃料計画の推進による輸入量の減少のため、輸入額は前年より減少し貿易収支は14億ドルの増となった。1985年の外貨準備高は118億ドル、ブラジルの対外債務は814億ドルであった。

1985年度の国内生産状況

概要

1985年度における生産活動は実質完全な向上と産出の増大に支えられた国内需要の増大に
 応じ活発な動きを示した。このため各生産部門では既存設備の利用率が高まり、また新増設
 の増加がみられた。ゼン・リポート・シブルガス経済研究所が発表した予測推定による国内生産の成
 長率は前84年と比較して8.3%の高度成長と見られている。中でも農林部内の農産物生産増加に
 伴い、各作物に生産の増加がみられたが、穀物では史上最高の525万トンの生産と前年比
 8.8%の成長を遂げた。

その次に工業部門では公共サービス部門及び飲茶部門がそれぞれ10.2%及び11.5%の成長、
 工業部門にもついても大いに比重を占め、製造工業部門及び建築部門はそれぞれ8.3%及び11.3%の成長を
 挙げた。また三次産業部門では商業部門が8.7%、金融、輸送通信及び政府部門がそれぞれ10.0%
 4.6%、16.9%及び24.4%の成長を遂げた。

表1 国内総生産(GDP) 推移 単位: 億円

年度	総生産高 100万 ヲルセロ	デフレター %	人口 100万人	1人当り生産高	
				金額	前年比 %
1973	483,340	28.0	100.3	4,821	10.8
74	707,978	32.5	102.3	6,890	7.1
75	1,009,674	35.3	105.3	9,588	2.9
76	1,625,134	46.7	107.9	15,059	7.1
77	2,486,270	44.7	110.6	22,484	3.2
78	3,763,867	44.1	113.4	33,205	2.5
79	6,311,762	57.6	116.2	54,333	3.8
80	13,163,818	94.6	119.1	110,568	4.6
81	25,631,772	97.8	122.0	210,062	(-) 4.0
82	50,815,295	96.4	125.1	406,331	(-) 1.5
83	120,267,535	144.4	128.2	938,322	(-) 5.5
84	386,967,409	207.9	131.4	2,945,742	2.0
85	1,364,123,965	225.5	134.6	10,132,272	5.3

国内総生産(GDP) 推移 単位: 億円 前年比%

生産	農業	工業	商業	輸送通信	平均
1973	3.6	16.3	12.9	21.0	13.6
74	8.2	9.2	7.7	17.5	7.7
75	4.8	5.9	2.7	13.7	5.4
76	2.9	12.4	7.3	14.5	9.7
77	11.8	3.9	4.7	9.4	5.7
78	(-) 2.6	7.2	4.2	7.6	5.0
79	5.0	6.4	5.4	12.9	6.4
80	6.3	7.9	6.8	10.1	7.2
81	6.4	(-) 5.5	(-) 2.8	0.2	(-) 1.6
82	(-) 2.5	0.6	0.9	5.6	0.9
83	2.2	(-) 6.8	(-) 3.5	0.1	(-) 3.2
84	3.2	6.0	2.4	6.6	4.5
85	8.8	7.0	8.7	-	8.3

出所: BANCO CENTRAL

※ 円換算

1.2.2 工業部内

工業部内は、1985年度に 8.4%の成長を遂げ、前年より開始された経済活動の回復を来すとの成長率の達成は、数年前より言われていた輸入代替政策の中で国の支払収支を圧迫することなく実現したことが特筆される。

工業部内を構成する二大部門のうちの工業部内では石油及び天然ガスの生産増大を中心として 11.5%の成長があった。非製造工業部門も極めて良好な成長を認め、同部門を構成する工業部内がすべてプラス成長を遂げている。

中でも強化された国内市場を反映して耐久消費財工業部門が 15.1%の高度の成長を遂げ、この製造工業界全体の成長を牽引した。耐久消費財の中からは電気通信部門及び輸送機器部門の成長が大きく、中でも乗用車、家電製品などの生産には見事な増加があった。

非耐久消費財の生産は前年比 2.9%の増加であったが、中でも実質価格の向上による購買力の増加にもつながっている。中でも繊維品は 11.3.6%、飲料は 11.1.0%、及び香料香粧品は 12.8%が特に目立っている。

製造工業界の成長に大きな比重を占める中肉鉄は 2.2%の成長、これは主に金、鉄、銅、亜鉛、鉛等の非鉄金属工業部門の 11.2.0%、石油及び副産物、プラスチック、肥料、アルコール等を含む化学部門の 6.4%の成長を反映している。最近数年前に於いて中肉鉄工業部門が主たる回復をみせた海外市場への輸出に伸びた製造工業部内、化学工業部門及び金品工業部門であった。

原本工業部門の成長は 25年間の高いレベルを保持し、その高い成長率の生産システムにより新しい技術普及の推進体となっていることもまたあり、前年度に於いて産業振興 (+14.7%)、85年度は エンジン、ポンプ、電気機器、トランス等の増産が特筆される。

鉱業部内における鉄鉱石の生産は 12.3%増加して 1250万トンに達し、1980年に達した 1130万トンに超す記録を残した。しかし、85年の成長率は 3年間の低位成長のあと 25.4%の成長を遂げた 84年より低いものとなった。

鉄鉱石の輸出は 9.5%増加して 94.363千トン、国内市場では 28.729千トンが消費された (前年は 26.322千トンであった)。鉄鉱石に関しては、1125試験機関 2.4万トン、カーパス 牧道 2000トンが特筆される。この牧道は 1984年のカーパス鉄鉱石と 200000の相対的

マダガスカルとモザンビーク(890Km)の輸送に必要となる鉄道の敷設が、85年に竣工した。86年には15万トンの輸送が予定されており、最高能力は年間で35万トンの輸送となる。1988年に達成される予定である。

表 2 工業生産成長率

区 分	生産高成長率 %	対前年比成長率 %		
		1983	1984	1985
採鉄部門	3.30	15.3	29.9	11.5
製造工業部門	96.70	(-) 6.1	6.1	8.3
計	100.00	(-) 5.4	7.0	8.4
製造工業内訳				
非鉄金属	6.35	(-) 16.5	0.0	7.5
金属	12.59	(-) 2.3	13.9	7.0
機械	10.97	(-) 13.4	18.5	10.1
電気・通信機器	6.94	(-) 10.6	3.0	19.3
輸送機器	8.26	(-) 6.7	4.4	11.7
製紙	3.31	1.7	6.8	6.4
化学	1.39	0.8	8.8	8.2
化学製品	16.05	(-) 3.6	7.3	6.4
化学製品	1.79	(-) 7.7	8.6	5.2
化学製品	0.95	1.3	(-) 1.1	12.8
プラスチック	2.66	(-) 7.8	3.9	11.3
繊維	6.99	(-) 10.6	(-) 3.6	13.6
皮革	5.29	(-) 17.5	2.0	7.5
食品	10.98	3.0	(-) 0.7	0.1
飲料	1.32	(-) 5.3	(-) 0.6	11.0
煙草	0.86	(-) 4.8	3.3	10.5
使用目的別区分				
資本財	—	(-) 19.3	14.7	12.2
中間財	—	(-) 3.0	10.3	7.2
消費財	—	(-) 4.0	0.2	9.1
耐久消費財	—	(-) 0.8	(-) 7.4	15.1
非耐久消費財	—	(-) 4.6	1.9	2.9

出所: 中金報告

製造工業部門は 84 年よりもはるかに低い成長率を示したが、これは好況の減速を反映している。上半期は米国の EEC 諸国における保護貿易の障害、国内市場の伸び悩みなどのため生産は低調であったが、下半期に入ると工業界とくに自動車工業、家電、機械器具業界の生産が活発化したため、それに応じて輸出品需要が増加した。鉄鋼消費の大きい土木建築業界及び重機械工業界も又振返り需要を高めた。鉄鋼の 1 人当り消費量は 80 年に 1 人年間で 125 kg に達したと 83 年には 73 kg に減ったと 85 年には 91 kg に戻っているものの、工業先進国の消費量の 400~500 kg であることに比べると極めて低いレベルである。

洗鉄の生産は 10% 増加し 18.960 トンに達している。これは国内消費の増加によるものであり、輸出

は前年並みで生産量の13%が向うといふ。

国内生産設備能力22.5万トンを持つ粗鋼の生産は20.4万トンに達し、前年を11.2%上回った。生産は下半期に加速し、上半期の月間平均1,599千トンに対し1,809千トン生産に伸びた。

鉄鋼製品の輸出はリゴット9,222千トンで前年比10.2%増、このうちツバルン鉄鋼所と主体とする半製品の取次による伸びが最も大きい。加工度の高い鉄鋼の輸出の減少がみられる。鉄鋼部門では85年に2鉄鋼所(MENES JUNIOR 鉄鋼所及びALFA MINAS 鉄鋼所)が開設されたといふ。

非鉄金属部門ではアルミニウムの生産は前年を99,831トン~~増~~549,830トンに達し、この増産は主に84年より採掘に入ったALCOA ALUMINIO S.A. 及びBILLITON METAIS S.A. (マニソンカ)の生産によるものであり、又85年に採掘に入ったALUMINIO DO BRASIL S.A. (ALBRAS)も生産に参入した。アルミニウムの生産は前年比11.8%の44,828トンであった。

銅の輸出は前年を19.8%上回り177,153トン、半製品の割合は36.0%下回り29,304トンであった。この部門では世界的に供給過剰の状態にあり、鉄鋼価格の大幅下落が視察された。国内粗鋼消費量は前年比11.2%の382,846トンに達した。

1次加工銅の唯一のメーカー-CARAIBA METAIS S.A. はその生産を前年比53.1%増加して93,880トンの生産を行った。国内需要は供給を上回った。アルミニウムの生産は49,000トンで前年比11.3%、国内粗鋼消費量は186,974トンで前年を14.4%上回った。

鉛の生産は前年比11.8%の29,811トンであった。79年に達した記録的生産量55,084トンには遠く及んでいない。

鉛の生産は主に海外市場を対象として行われ、極めて高い増加率をみている。生産は前年30.9%上回り24,701トンで、この中20,051トンが輸出された。

亜鉛の生産は3エポカフル採掘で116,136トンに達した。又ニッケルの生産は非鉄金属の中で最も低い増加率の3.5%に止まった。

次にセメントの国内生産についてみると85年4月20.635千トンの生産が行われ、83年の20,870トン、84年の19,497トンとほぼ同水準の生産が続いた。この部門は1983年以降土木建築部門の低調な需要によって生産施設の遊休率を増加しており、利用率は約67%に低下した。85年の年間を通じて低調な生産であったが下半期に回復し、月間生産量は1,562千トンで、1,941千トン

へ増大した

セメントの国内消費量は前年^比 6.4%増^加の20,547千トンと推定された。地域別の消費量は大きく異なり、中西部地域、東部地域及び南部地域で減少した。6.8%、11.0%及び10.0%の伸びが観察された。北部地域は過去2年間と同じレベル、南東地域はわずかに3.5%の増大に止まった。南東地域の全国消費量に対する割合は83年の58.6%、84年の57.6%、85年には56.0%へと落ちた。

自動車工業界は、1985年中サマソン^社における全販売額^のスト(4A~5A)、メーカーと部品工業界との間に部品価格に肉付問題の激化、争いがあつたにもかかわらず良好な生産状況を示し、増大の勢いを伸ばした。

85年度の総製造数は966,625台で前年より11.8%増加しており、乗用車、トラック、及びバスがそれぞれ11.7%、33.6%、14.2%の増加であった。これは総生産量の主として3.9%の増加に過ぎない。

販売面では国内市場への販売が12.8%伸びたが輸出は5.7%の増加に止まった。これは、メーカーの期末ストックは過去2年間生産量の30%を保持していたが85年には14.6%へと急激に減少した。

トラックの生産は48,976台で前年とほぼ同じ水準であった。これは全体の89.7%を占める4輪トラックの生産動向と直接関連している。

タイヤの生産は国内ゴム消費の70%を占める天然ゴム及び合成ゴム225千トン消費した。前年より13千トン増加し、又乗用車に用いられるタイヤは16,968千個で前年より1,518千個増加した。これは総生産量の3.359千個より3,487千個へ増加、部門の総販売量は8.4%の増加、その中21.5%が海外に用いられた。

国内のゴム生産量は304,699トンで前年より3.5%増加、全体の87%が合成ゴム、残りが天然ゴムであった。国内のゴム消費量は328,963トンで85,910トン輸入された。

1.2.3 エネルギー

国家エネルギー委員会が提出したレポートによると、電力消費量は最近数年間に大規模な増加を示しており、その結果として1979~84年間にエネルギーの対外依存度が128.6%増えた。

電力エネルギーの消費増大と関連する石油の需要比率が減少し水素とアルコール

の比率増大が顕著である。石油燃料の比率は1978年のエネルギー消費量の42.6%と占めていたが84年には32.8%に落ちた。これに対して火力発電の比率は23.7%から31.1%と5.4%増加し28.8%から12.2%へと増加した。

このようなエネルギー代替プロセスは工業部門におけるエネルギー消費の推移をみれば合意に明らかである。すなわち1974年当時工業部門におけるエネルギー消費は電力が32.6%、燃料油30%であったが84年にはこの比率が48.2%と10.6%へと変化している。これにセメント工業では燃料油より電力及び石炭の比率が11.5%増加した。

同様に鉄業、化学、機械、食品、紙張部門においても電力の比率は消費増大の傾向があり、その結果燃料油の消費が減少している。

1979年の第2次石油ショック以降ペトロブラス（石油王国）は特にカンボジアの大規模な中心地として国内石油生産を増大し、新探検も進められた。この結果石油の国内生産は急速に増加し、輸入を必要としない状況となり、これに成功し燃料の新探検も進められた。又、新しい油田の発見によって国内の石油及び天然ガスの生産地も大きく増加している。

表 3 石油の生産及び輸出入

年 度	原 油			副 産 物		自給率 % (国内生産量/消費量)
	国内生産量	輸入量	輸出量	輸入量	輸出量	
1979	171	1,003	—	28	29	14.6
80	187	871	1	44	37	17.6
81	220	841	15	28	81	22.2
82	268	793	22	69	108	26.8
83	339	729	1	31	120	34.7
84	404	649	—	14	183	49.7
85	563	545	—	36	169	57.7

出所: PETROBRAS

このような国内油田の新規発見の結果、石油の国内埋蔵量は、84年の2,035億バレルより85年末には2,194億バレルへと増加した。主要油田としてはカンボジアの1-RJS-297, 1-RJS-252, 及び1-RJS-305 地域、天然ガスではアマゾン、ノボレティ・ド・ノルテ、及びエスピリトサント各州内の新規発見地であるカンボジア沖80km水深、114mの水深で発見された地があげられる。

国内石油生産量の増加のペースは85年には日産563千バレルに達し、国内消費量の58.4%が賄われることとなった。これに対して天然ガスの生産量は1日あたり15百万m³であり、80年当時の6百万m³の2.5倍に達している。

石油副産物の国内消費は石油ショック以降根本的に変化した。すなわち、1973年以降副産物消費の30%を占めていたガソリンは85年比4割減の13.3%に落ち、1日の平均消費量は128千バレルに落ちた。又燃料油も経路に減されておき、その石油副産物全体に占める割合は73年当時の25.7%より、17.5%に落ちた。このうち軽油は21.2%より35.4%へ又ガスを6.5%より11.6%へと増大、ナフタンの消費は4.0%より13.4%へと増加している。ナフタンの消費増加は、この原料として使用する東北地帯及び関東、南部地帯の石油化学基地の競争力と直接関連するものがある。

国家アルコール計画（ナショナル）は最近の経済調整プロセスの中で、完全に制約を課せられ、85年も従来に引きついで行なわれる。85年中のCCNAL（国家アルコール計画実行委員会）がアルコール生産プロジェクト14件を承認しているが、国内の製造能力は258.9百万リットルに増加し、これにナショナルの施設と水素装置を加えて560プロジェクトを加えると全製造能力は120億リットルとなる。これは更にナショナルの製造前にある能力418.4百万リットルを考慮に入ると国内の総能力は124億リットルに達する。アルコールに付する資金融資は、その79%がナショナル銀行によって行われ、開発銀行、州立貯蓄銀行、一般商業銀行が残りを補充する形とされている。またナショナル融資の資金源は85年末までの投資額の60%を占めるに依存している。

1985年のアルコール製造量は経路に増加しており、ナショナル才二期の目標116億リットルに向っている。生産するアルコールの72.8%はアルコール車団のHIDRATADO、残りのガソリン混入用のANIDROである。85/86年度のアルコール生産量は116億リットルに達したものと推定されている。

これに付する国内消費量は85年2月の80億リットルと前年を22.2%増加する規模であり、その中アルコール車団HIDRATADOの生産は前年を31.9%上回るANIDROの1.4%よりも増加するが、アルコール車団の増加を占めている。

表 4 石油副産物及び燃料アルコールの推定消費量

区 分	1983	1984	1985		
	1000バレル/日	1000バレル/日	1000バレル/日	%	85/84 %
石油副産物					
燃料油	190.0	175.9	168.2	4.4	17.5
ガソリン	149.8	135.6	128.3	5.4	13.3
ディーゼル	318.6	326.5	341.0	4.4	35.4
液体ガス	104.0	104.7	112.0	7.0	11.6
軽油	39.1	37.9	39.8	5.0	4.1
その他	159.9	167.6	174.4	4.1	18.1
計	961.4	948.2	963.7	1.6	100.0

7月 - 12月	37.4	35.8	36.3	3.4	26.4
ANIDRO	50.7	76.3	101.2	31.9	73.6
HIDRATADO					
計	88.1	112.5	137.5	62.2	100.0

出所: C.N.F.

次に85年度の電力事情についてみる。総消費量は前年比9.9%増の165,930 GWhで、地域別では北部及び東北部の消費が大きく、それぞれ前年比16.7%及び13.8%増の増加した。これは北部ではALBRAS社、東北部ではALUMAR社の採掘開始によるためであった。これは特に南東、南部及び中西部地方はそれぞれ前年比8.6%、11.3%及び10.2%の増加となっている。

全体的な電力消費の増加は主に1983年北月にみられ、世界の電力需要増加によるものであり、83年及び84年には石油の代替を目的とした政策の中で電力料金と補助してその消費を奨励した政策がとられた。又、85年は国内経済活動の復活、これに伴う工業生産の増加と電力需要も更に増加させた。85年における部門別の増加率は工業13.5%、商業4.9%、住宅5.9%であった。

電力消費量の推移		1985			
区 分	1983 GWh	1984 GWh	GWh	%	85/84 %
部 門 別					
商 業	16,752	17,708	18,579	11.2	4.9
住 宅	29,770	31,058	32,888	19.8	5.9
工 業	68,023	80,531	91,390	55.1	13.5
その他	19,809	21,655	23,073	13.9	6.5
地 域 別					
北 部	2813	2,848	3,325	2.0	16.7
東 北 部	18,462	21,261	24,197	14.6	13.8
南 東 部	90,426	101,007	109,718	66.1	8.6
南 部	17,866	20,283	22,569	13.6	11.3
西 部	4,785	5,553	6,121	4.7	10.2
合 計	134,352	150,952	165,930	100.0	9.9

出所: ELETROBRAS

国内の発電能力は85年末までに17170 MW（ブラジル、パラナ、両国間の電力）を除いて39,465 MWに達した。このうち89%（35,207 MW）は水力発電であった。これは84年末の発電能力と比較すると1,766 MWの増加である。85年にはTUCURUI発電所（3×330 MW）17170 MW（1×700 MW）NOVA AVANHANDAVA（2×100 MW）が操業に入った。

電力部門の投資は、二、三年間十分と見られていたがその大部分が発電部門に投じられ、送電配電部門への投資は小規模にとどまっている。又、電力料金が低く抑えられているため、投資の還元が遅く部門の自給能力は低かった。

1985年11月11日電力工業省・資源庁の復興計画が承認された。この計画は発電部門の
拡張計画と新エネルギー・資源庁の復興計画と適合させ、各電力会社の設備面、財政面、
労働面を調整し、20年間の計画を定めた。また改革の中で料金水準の改訂、投資促進の段階的
回復に同じ措置が採られる。

1.2.4 農業部門

85年度における農林部門の生産は前年比 8.8% の増で PIB (国内総生産) の推移に大差を
見せずであった。この成果は農業部門における大中小増産 (13.6%) によるものであり、牧畜部門
は 1.3% に止まった。

天候に恵まれ、主要な作物が良好な収穫と納められ、中でも農業生産の拡大に貢献した
大豆の増産は、大豆、小麦、砂糖、及び綿花で、これらを合すると前年を 12% 上
回る生産量であった。

大豆及び小麦の生産は記録的な 57.460 千トンに達した。これは前年比 12.1% の増産
であり、小麦 (117.1%)、大豆 (17.6%) の増産が主であった。また、全体の増産割合は小
麦 (367.7%)、大豆 (108.6%) が全体の生産増に貢献している。

このように農業部門は全般的に良好な生産状況であったが、国内食糧の生産は小麦を除いては、
フィニッシュ (前年比 -2.6%)、シヤウロウ (-8.4%)、玉ねぎ (-11.3%)、米 (増産なし) と前年並み
または前年を下回っており、マニョウ (8.4%)、ヒヨウタン (4.0%)、トマト (6.2%) が増加したに過ぎない。

過去10年間の生産の減少傾向が続いてきた米は、1985年度は作付面積の前年を下回り、前年
販売における低価格と需要不足に足るおくれの結果を明らかにした。しかし平均単収は大幅に上
り、1,898 kg/ha に達した。マニョウの大増産は、前年並みの 900 万トンの生
産量に達した。これはストックに加えて国内消費量推定 940 万トンに達するに足る状態であった。

ヒヨウタンの生産量は 22,007 トンで、相対消費量の 21,300 トンに達した。ヒヨウタンの増産は
前年を 2.6% 上回り、1,866 kg/ha の単収が得られた。全国生産地帯の中、東北
地方の生産は降雨多量の影響を受け、全体の生産に落ち込んでいる。例外的に生産に伸びは
ないが、北海道が全体の 70% を占めている。

85年の小麦作は史上最高の大収穫であった。小麦物の買上保証価格が高額設定されたことが生産者の作付意欲を刺激した。面積の前年比52.6%を上回り2658千ヘクタールに達した。加之栽培全期間を通じて天候に恵まれ、優良品種の使用が更に効果的に作用した結果であった。単収は前年比1142.2%の、1.598 kg/heに達し、425万トンの収穫を得ることができた。このように増産による輸入の必要性が減少し、640万トンを見積りした国内消費量に対し約400万トンの輸入が行われた。

輸出作物の全体的に生産の増加が記録された。中でも主要輸出品である小麦は84年の被害に回復し3,753千トンの収穫であった。これは前年比40.1%増の収穫量であった。平均単収は15.2 kg/heで81年に達した15.52 kg/heを少し上回る高単収であった。

大豆の場合も国際価格が低調であったにもかかわらず、わずかな面積の前年比2.8%増の19,531ヘクタールに達した。最近数年間に見られる傾向と同様に栽培面積の拡大は中央部にあり、伝統的な生産地の南部ではむしろ若干の減少であった。平均単収は1,800 kg/heの高水準で国内生産量は記録的に18,178千トンに達した。

アムニール（国際アムニール計画）に支えられ、毎年増産が続けられてきた砂糖も85年も前年比10.4%を上回り生産面積も面積において5.2%増、単収4.9%増の指標245,933トンであった。砂糖の国際価格が低いため国内における砂糖の生産は減少した。その分アムニールの生産に廻されており、その結果砂糖2995千トン、アムニール1,564千kg（前年比25.7%増）が生産された。

草綿の栽培面積は前年比34.1%増、単収も増え、増加した生産量は前年比40%を上回り2,648千トンに達した。これは主に東北部で栽培された木綿の劣化に伴う需要と、ビロードの被害によって単収を落し、前年比28.8%減の188千トンの生産に止まった。東北部の木綿は次期に草綿に置き換えられている。

アムニールの生産は70,496万kgと増え、前年比2.9%を上回り収穫となった。これは面積及び単収の増加によるものである。

コッパズ大豆の増産で合計4.9千トン（前年比21.4%増）を生産し、単収も過去平均値を上回っている。

85年を中心とする過去5年間の収穫面積及び生産量の推移は次表の通りである。

作物別	栽培面積 1000ha.					生産量 1000t				
	1981	1982	1983	1984	1985	1981	1982	1983	1984	1985
A) 麦類										
小麦	11,520	12,601	10,742	12,205	11,802	21,167	21,865	18,744	21,174	22,017
大麦	6,102	6,016	5,140	5,356	4,752	8,228	9,716	7,749	9,022	9,019
小 麦	1,920	2,829	1,885	1,741	2,658	2,209	1,849	2,365	1,956	4,247
ライオン	5,027	5,929	4,069	5,309	5,317	2,341	2,906	1,587	2,614	2,547
ソルガハ	92	115	110	151	163	213	211	213	301	258
大 麦	96	167	122	73	110	110	98	131	77	161
オース	90	97	97	120	142	98	68	98	133	162
ライオン	24	5	4	3	13	11	24	4	3	13
小 計	24,871	27,759	22,169	24,958	24,957	34,390	36,717	30,791	35,280	38,424
B) 油脂作物										
大豆	8,501	8,202	8,136	9,417	10,153	15,007	12,835	14,582	15,536	18,278
落花生	245	237	212	150	198	335	317	284	247	339
マモナ	447	463	221	413	495	292	192	172	225	416
小 計	9,193	8,902	8,569	9,980	10,846	15,634	13,344	15,038	16,008	19,033
A + B	34,064	36,661	30,738	34,938	35,798	50,024	50,061	45,829	51,288	57,457
C) 工業原料作物										
砂糖キビ	2,826	3,086	3,447	3,661	3,851	155,924	186,292	216,703	222,716	245,904
マンジョウ	2,067	2,133	2,021	1,815	1,866	24,516	24,009	21,746	21,289	23,072
苧	3,484	3,644	2,929	3,104	2,243	1,731	1,725	1,426	2,160	2,648
煙草	297	319	316	285	267	366	421	395	415	411
サイマル	312	342	307	320	333	239	249	181	225	251
マルバ	56	46	45	45	42	58	49	48	54	42
ジュート	36	15	11	21	21	29	14	13	19	20
ラミ	7	6	5	5	5	10	10	10	10	10
小 計	9,085	9,591	7,081	9,266	8,630	182,883	213,069	240,522	246,888	272,398
D) 嗜好作物										
コーヒー	2,618	1,857	2,279	2,452	2,483	4,064	1,854	3,305	2,679	2,753
ココヤ	505	317	544	609	638	335	363	380	345	419
グラナ	4	4	6	7	8	1	1	1	1	1
小 計	3,127	2,178	2,829	3,068	3,129	4,400	2,218	3,686	3,025	3,173
E) 畜産作物										
ニンニク	13	18	16	12	11	48	64	58	44	44
ピメタ	23	22	21	20	19	40	51	32	43	38
小 計	36	40	37	32	30	88	115	90	87	82
F) 野菜類										
ジャガイモ	171	182	168	172	157	1,412	2,148	1,818	2,172	1,789
トマト	48	55	48	52	54	1,452	1,737	1,547	1,820	1,932
玉ねぎ	74	62	67	69	58	778	669	725	718	637
小 計	293	299	283	293	269	3,642	4,554	4,090	4,710	4,358
G) 果実類										
オレンジ	575	570	623	632	602	56,767	57,739	58,136	64,613	70,996
パイナップル	27	26	30	32	37	413	446	551	641	763
ブドウ	57	57	58	57	58	663	688	574	603	718
バナナ	388	395	402	496	441	447	455	441	470	500
小 計	1,047	1,068	1,113	1,217	1,198	62,290	63,328	63,202	71,927	79,977

出所: I.B.G.E. 注) オレンジの生産量単位は 100万個、バナナは 100万房

84/85年度は以上の通り、主要作物の生産は拡大により、供給量が増加し、市場が政府の最低保証価格を下回るものもあり、政府の市場への介入度が高まった。通常収獲直後の穀類価格は下落したが、次第に上昇傾向となり、前年度より一部の作物は価格の反跳があり、その結果、不足の収入が得られることが発表されている。85年も又この現象が繰返すことが懸念され、最低価格での政府への売却が増大した。この結果、CFP(在外融資公社)を通じて行われた政府の買上げ(AGF)は前年のCR2500億に増えCR8.5兆、又EGF(現物担保融資)は前年のCR126兆に増え85年はCR22兆へと拡大した。

中でも前年買上げ実績の多かった大豆は、1,958千トンに増え、その価格は上昇の期待が示されている。如実に示すものであり、綿花も減少した。前年の買上げに増え85年には買上げ345千トン、模範で364千トンに買上げられた。このほか、米、小麦の政府買上げも増加し、その量はそれぞれ313万トン、150万トン、245万8千トンに及んだ。

牧畜部門の生産活動は3年連続して低調であった。10月までの予備データによれば肉の生産は牛肉と鶏肉の増加、豚肉の生産減少により、全体で約20%の増加に止まり、飼料作物の生産は牛乳生産の減少、即ち飼料量の増加がある。

牛の各牧数は8,739千頭で前年より1%増加したに止まったが、屠殺数の中に占める牝牛の比率は31.9%で前年の36.3%を下回った。1頭当りの平均重量が増加した。牛肉の生産量は3.4%増加し、10月までの180万トンに達している。

冷凍、冷蔵及び生肉の輸出は84年に比して22.2%の増加で、合計141千トン、これは生肉加工肉の輸出は2.7%増の130千トンであった。

豚肉の生産は屠殺頭数の減少、1頭当りの平均重量の減少により、生産量は1-10月の統計で前年より2.2%低下し458千トンに止まった。

鶏肉の生産は前2部門と異り、生産は伸びた。唯一の部門で10月までの統計で前年同期より3.2%増加する921千トンの生産であった。輸出量は前年並みの279千トンであった。

牛乳の生産は前年より1.4%増の6,770万トン(1-10月)であった。

生産者受取価格は前年より比して農業部門で195.2%、牧畜部門で186.0%、全体で平均すると188.0%で、この間インフレ率235%と大きく下回った。

また、農産物の工業製品の交換率、すなわち農産物の単位重量あたりの工業製品の購買力は調査が行った

8-11の中 64/111 において 低下した

1985年度の農業政策は国民の食料供給に因りて、かつ穀類に於て国内食糧生産に優先度が高いこと、
その奨励策は基本的にVBC(生産調整基本税)と、おいて、明らけとす。奨励、フェイスン、とす
たす、マニョカの奨励に於ては、小農の場合、前年の80%と、100%と、両方に切り替へ、又中
大農の場合、米と、とりあへず、前年の60%と、80%と、又フェイスンとマニョカの割合を60%
と、70%と、2/3と、上げ、

最低価格保証制度の適用率は216.6%の最大の調整率、需の182.0%の最低の調整率を示す。需の増減は供給選別品の生産と押さへてFとT3要因によるもの。又、価格、F1、F2、F3、F4、F5、F6、F7、F8、F9、F10、F11、F12、F13、F14、F15、F16、F17、F18、F19、F20、F21、F22、F23、F24、F25、F26、F27、F28、F29、F30、F31、F32、F33、F34、F35、F36、F37、F38、F39、F40、F41、F42、F43、F44、F45、F46、F47、F48、F49、F50、F51、F52、F53、F54、F55、F56、F57、F58、F59、F60、F61、F62、F63、F64、F65、F66、F67、F68、F69、F70、F71、F72、F73、F74、F75、F76、F77、F78、F79、F80、F81、F82、F83、F84、F85、F86、F87、F88、F89、F90、F91、F92、F93、F94、F95、F96、F97、F98、F99、F100、F101、F102、F103、F104、F105、F106、F107、F108、F109、F110、F111、F112、F113、F114、F115、F116、F117、F118、F119、F120、F121、F122、F123、F124、F125、F126、F127、F128、F129、F130、F131、F132、F133、F134、F135、F136、F137、F138、F139、F140、F141、F142、F143、F144、F145、F146、F147、F148、F149、F150、F151、F152、F153、F154、F155、F156、F157、F158、F159、F160、F161、F162、F163、F164、F165、F166、F167、F168、F169、F170、F171、F172、F173、F174、F175、F176、F177、F178、F179、F180、F181、F182、F183、F184、F185、F186、F187、F188、F189、F190、F191、F192、F193、F194、F195、F196、F197、F198、F199、F200、F201、F202、F203、F204、F205、F206、F207、F208、F209、F210、F211、F212、F213、F214、F215、F216、F217、F218、F219、F220、F221、F222、F223、F224、F225、F226、F227、F228、F229、F230、F231、F232、F233、F234、F235、F236、F237、F238、F239、F240、F241、F242、F243、F244、F245、F246、F247、F248、F249、F250、F251、F252、F253、F254、F255、F256、F257、F258、F259、F260、F261、F262、F263、F264、F265、F266、F267、F268、F269、F270、F271、F272、F273、F274、F275、F276、F277、F278、F279、F280、F281、F282、F283、F284、F285、F286、F287、F288、F289、F290、F291、F292、F293、F294、F295、F296、F297、F298、F299、F300、F301、F302、F303、F304、F305、F306、F307、F308、F309、F310、F311、F312、F313、F314、F315、F316、F317、F318、F319、F320、F321、F322、F323、F324、F325、F326、F327、F328、F329、F330、F331、F332、F333、F334、F335、F336、F337、F338、F339、F340、F341、F342、F343、F344、F345、F346、F347、F348、F349、F350、F351、F352、F353、F354、F355、F356、F357、F358、F359、F360、F361、F362、F363、F364、F365、F366、F367、F368、F369、F370、F371、F372、F373、F374、F375、F376、F377、F378、F379、F380、F381、F382、F383、F384、F385、F386、F387、F388、F389、F390、F391、F392、F393、F394、F395、F396、F397、F398、F399、F400、F401、F402、F403、F404、F405、F406、F407、F408、F409、F410、F411、F412、F413、F414、F415、F416、F417、F418、F419、F420、F421、F422、F423、F424、F425、F426、F427、F428、F429、F430、F431、F432、F433、F434、F435、F436、F437、F438、F439、F440、F441、F442、F443、F444、F445、F446、F447、F448、F449、F450、F451、F452、F453、F454、F455、F456、F457、F458、F459、F460、F461、F462、F463、F464、F465、F466、F467、F468、F469、F470、F471、F472、F473、F474、F475、F476、F477、F478、F479、F480、F481、F482、F483、F484、F485、F486、F487、F488、F489、F490、F491、F492、F493、F494、F495、F496、F497、F498、F499、F500、F501、F502、F503、F504、F505、F506、F507、F508、F509、F510、F511、F512、F513、F514、F515、F516、F517、F518、F519、F520、F521、F522、F523、F524、F525、F526、F527、F528、F529、F530、F531、F532、F533、F534、F535、F536、F537、F538、F539、F540、F541、F542、F543、F544、F545、F546、F547、F548、F549、F550、F551、F552、F553、F554、F555、F556、F557、F558、F559、F560、F561、F562、F563、F564、F565、F566、F567、F568、F569、F570、F571、F572、F573、F574、F575、F576、F577、F578、F579、F580、F581、F582、F583、F584、F585、F586、F587、F588、F589、F590、F591、F592、F593、F594、F595、F596、F597、F598、F599、F600、F601、F602、F603、F604、F605、F606、F607、F608、F609、F610、F611、F612、F613、F614、F615、F616、F617、F618、F619、F620、F621、F622、F623、F624、F625、F626、F627、F628、F629、F630、F631、F632、F633、F634、F635、F636、F637、F638、F639、F640、F641、F642、F643、F644、F645、F646、F647、F648、F649、F650、F651、F652、F653、F654、F655、F656、F657、F658、F659、F660、F661、F662、F663、F664、F665、F666、F667、F668、F669、F670、F671、F672、F673、F674、F675、F676、F677、F678、F679、F680、F681、F682、F683、F684、F685、F686、F687、F688、F689、F690、F691、F692、F693、F694、F695、F696、F697、F698、F699、F700、F701、F702、F703、F704、F705、F706、F707、F708、F709、F710、F711、F712、F713、F714、F715、F716、F717、F718、F719、F720、F721、F722、F723、F724、F725、F726、F727、F728、F729、F730、F731、F732、F733、F734、F735、F736、F737、F738、F739、F740、F741、F742、F743、F744、F745、F746、F747、F748、F749、F750、F751、F752、F753、F754、F755、F756、F757、F758、F759、F760、F761、F762、F763、F764、F765、F766、F767、F768、F769、F770、F771、F772、F773、F774、F775、F776、F777、F778、F779、F780、F781、F782、F783、F784、F785、F786、F787、F788、F789、F790、F791、F792、F793、F794、F795、F796、F797、F798、F799、F800、F801、F802、F803、F804、F805、F806、F807、F808、F809、F810、F811、F812、F813、F814、F815、F816、F817、F818、F819、F820、F821、F822、F823、F824、F825、F826、F827、F828、F

与の後半中部、南部及び南部の両端に、被害を受けた行政のその影響を被った
に止まるべく、各社の播送にとつて、その中で、VBC - 放送局の拡大、最近の放送、調整期間の延
び、特等、その播送にある。

八、佳田木琴

1986 (ブラジル地理院) のデータによると、1985年に工業部門で前年比45%の増加があった。このうち製造業部門には1.9%増、工業部門には6.6%増があった。工業部門の大半は占める製造業部門、16部門のうち、煙草部門の前年比前年比を落し、全体にわたって増加を示した。中でも最も前年比で高かったのは輸送装置(15.7%)、電気通信部門(14.6%)、繊維(11.1%)であった。

カンパシロ川二業連盟が発表のデータによると、大カンパシロ圏内におきの在田指数は前年より増加したが、これは前年に比して5.9%の増加率で大幅に上廻りものである。調査の結果として19部門の全体において在田の増加の顕著なものは中でも輸送費が19.2%、機械12.9%、プラスチック12.6%、家具12.4%、コウ12.2%、お持等である。

毎月の住居状況調査と基盤として、1345の情報に基づき都市圏におよ20.年間を通じて段階的に失業率の減少していることが明らかとなっている。

各地域別の経済活動人口推移をみて、平均失業率が85年に11.7%に減少したのが親
菜である。すなわち1月の指標が6.31%であったのに対し12月は3.15%であった。

部門別にみると、建設は前年より若干増加したものの、除く経常人口に対する失業率の比率は、製造工業の場合前年より1.03%に減り0.78%、商業は0.63%に減り0.46%、建設部門は0.44%に減り0.46%であった。

1.4. 投資状況

前掲データによるとPIB(国内総生産)に対する総投資額の比率は1985年に若干減少したものの、70年代の中期より始まった減少傾向が継続している。このように投資比率の減少傾向は金融面における金利の上昇と公共投資の削減による影響である。

固定資本形成にもっとも大きな比重を占めるセクターの消費は、過去3年間に若干減少傾向の減少傾向を認め、6.4%の増加であった。又、資本財の生産(+12.2%)は前年に達した(+14.7%)に近いものがあった。しかし81~83年には生産の大幅な減少があり、投資の過剰化が、85年の投資利用率も下り、69.0%に落ちた。尚、85年度における資本財の輸入は前年より若干増加であった。

SEST(国家企業管理委員会)は312の公共企業を管理している。そのうち173企業は生産企業であり、資本を自己資本と自己資本に有している。残りの139企業は、政策的に政府関係企業であり、自己資本の所有率は少ない。この公共企業は、国家予算の減少と目的の達成が目的であり、85年の場合、投資総額のうち投資に回す金額は、前年より0.7%減少した。投資総額のうち51.5%は、パトロナス(石油会社)及びエレクトロニクス(電機会社)に回った。

ODI(工業開発委員会)は、1985年中に650プロジェクトを承認した。この固定投資額は、名目価格で前年よりCR 1.032億に減り、CR 1.977億に減り、実質的には42.4%の減少であった。投資は基礎工業及び全産業中、工業に37.7%が集中し、化学、石油化学及び食品工業(48.0%)が中心となっている。

又、総務社会開発銀行(BNOCs)システムにより行われた投資総額は、1985年にCR 20.4兆に達したが、前年よりCR 6.4兆であった。実質的には2.6%の減少である。この投資総額は、工業部門が84年の46.6%より85年には41.1%に減少したものの、減額した高比率を保持している。84年より85年にかけての減少は、基本的に基礎投資部門に向けられた資金の減少によるものである。

ニホに於いて(仁ツラ部)が25.7%と前年の14.2%より、その比率を高め、農業部門も又前年の比率8.10%と10.9%に増加した。

SUDANE (東北南交予) 管下地域における税務関係にもとづく投資に因りて、総額CR. 3.2兆のプロジェクトが承認されたが、中でも工業部門が2.8兆と占め、実質的に前年と33.2%上昇した。ニホに於いて農業部門への投資は前年と1.168倍と大分に減少した。

又 SUDAM (アロバン南交予) では総額^{CR} 4.1兆のプロジェクトが承認され、前年と実質的に32.2%増加した。工業部門の又農業部門が前年に於いて比率が大分高。この部門内では全体の86.7%と占められた。

部 門 別	1984	1985	85/84 (%)
工業部門			
基礎資材	2,344,391	5,833,014	249
資本財	267,347	971,994	264
消費財	225,963	744,160	229
土木建築	108,558	574,360	429
その他	56,229	275,626	390
計	3,002,488	8,399,154	180
農業部門			
肥料	8,681	26,874	210
農地産品	24,642	122,936	299
アグロインダストリー	205,511	894,816	355
農業機械	15,688	53,778	243
農村インフラ	262,875	1,112,111	323
その他	5,136	11,665	127
計	522,553	2,222,180	325
エネルギー			
石油	968	1,155	21
石炭	1,029	16,609	
電力	336,817	1,242,457	269
核発電	3,644	1,039	(-) 64
アルコール	137,579	341,168	148
その他	15,342	55,677	263
計	495,369	1,658,375	285
インフラストラクチャー			
計	1,237,816	5,260,486	325
社会開発プログラム			
計	962,486	1,689,216	75
その他のプログラム			
計	224,436	1,214,513	401
合 計	6,445,148	20,443,924	217

出所: BNDES

1.5 物価及び賃金

ブラジルの物価指数は、83年以降34年連続して200%を超す上昇を遂げた。

1985年度は、第4四半期の政権の交替期であったが、総物価指数は月間平均11.8%の上昇を遂げた。第2四半期に入り、工業製品に対する政府の価格統制が厳しく行なわれ、公共料金や石油及び副産物、アルコールを含む国産工業製品の価格凍結が行われたため、物価指数は平均7.6%の変動に止まった。7月以降は物価統制が緩和され、政府の監督下にある製品及びサービス料金の逐月調整に戻った。

工業製品と農産物の価格動向をみると、どちらも上昇し、価格推移をみると、過去12ヶ月間の変動率、工業製品において1月の249.7%より、2月の221.1%へと下降した。農産物の場合は1月の220.0%より、2月には262.6%へと上昇した。これは10月に見舞われた長期乾涸により、サトウキビ、パパイヤ、バナナ、オレンジ及びパイナップル等の夏期作物、ヒヨコ、鶏、豚、フィッシュ、エビ、大豆、及び米の価格及びコーヒーの減産に大きな影響を受け、不作の恐れが反映したためである。

政府は、CFP(生産融資公社)を通じて政府在庫の放出を行い、農産物価格の上昇を阻止する手段を取ったが、11月の農産物価格は卸売市場で27.7%の上昇をみ、農産物全体の60%の比重を占める総物価指数は15%に押し上げられた。

11月以降は、IAGG(ブラジル地理統計院)が算出する拡大消費者物価指数(IPCA)が経済界における価格変動指標として用いられるようになった。この指数は1980年1月以降、9大都市圏及びブラジルにおいて最低賃金1ヶ月分、30ヶ月分までの給料生活費に代表される調整を施したものである。このIPCAは、同月以降、経済界の主要な価格調整の目安として、給料、家賃、クレジット、ORIN(物価修正済み国債)のすべてに統一された調整指数として用いられるようになった。

同指数は、1985年中には233.6%の上昇を遂げた。

85年中価格の統制下におかれた主要製品のうちの変動は、小麦151.2%、電力料金306.8%、通信料金171.2%、石炭204.0%、郵便料金225.6%、鉄道料金297.7%、港湾サービス料金400.0%、そして石油燃料及びアルコールは年間の4回の価格調整が行われ、大幅な上昇となった。ガソリン146.9%、ディーゼル油130.2%、燃料油147.0%、GLP 123.9%、アルコール146.7%。

表 8

物価指数

月 別	総物価指数 (GPI)		30 物価指数		消費者物価指数 (INPC)		修正消費者物価指数 (ICPI)	
	月 別	過去12ヶ月	月 別	過去12ヶ月	月 別	過去12ヶ月	月 別	過去12ヶ月
1984年								
1	9.8	213.2	10.2	235.2	9.8	176.5	10.1	163.6
2	12.5	230.1	11.9	255.2	8.9	182.4	9.1	171.2
3	10.0	229.7	10.1	253.2	9.6	185.9	9.0	172.3
4	8.9	228.9	9.6	250.9	10.4	192.9	9.2	175.9
5	8.9	235.5	8.8	258.3	8.6	201.2	9.9	187.1
6	9.2	226.5	9.1	243.6	8.8	202.4	8.1	187.9
7	10.3	217.9	10.8	282.5	11.6	197.0	12.6	189.3
8	10.6	219.3	9.2	229.8	7.1	190.6	7.3	186.6
9	10.5	212.9	11.2	220.5	9.9	191.5	11.4	191.6
10	12.6	211.0	13.7	215.2	11.3	187.0	10.9	191.6
11	9.9	215.1	10.4	220.1	10.1	194.7	10.4	200.8
12	10.5	223.8	10.8	230.3	10.3	203.3	10.4	208.9
1985年								
1	12.6	232.1	12.9	238.5	14.0	214.8	14.6	221.5
2	10.2	225.9	9.2	280.3	9.9	217.5	9.0	221.0
3	12.7	234.1	18.6	240.7	11.8	223.9	12.8	232.2
4	7.2	228.8	7.2	233.4	9.5	221.3	8.8	230.9
5	7.8	225.6	6.5	226.2	6.7	215.6	6.8	221.5
6	7.8	221.4	7.1	220.2	7.8	212.8	7.7	220.2
7	8.9	217.3	7.6	211.2	8.8	204.8	7.3	210.7
8	14.0	227.0	14.5	226.3	12.3	219.4	12.1	224.6
9	9.1	222.9	9.1	220.1	10.7	221.8	12.0	226.3
10	9.0	212.8	9.5	208.5	8.9	215.0	9.6	222.5
11	13.0	227.2	15.1	221.6	11.2	218.3	11.1	248.8
12	12.2	235.1	12.3	223.7	13.6	228.0	13.4	233.6

出所: FQV, I.B.G.E.

給料については 1985 年中、84 年 10 月 29 日付法第 72 号にむづ調整が行われた。同法
 律では最低賃金の 3 ヶ月分を 1 年報酬に上乗せする労働者がおらず、IPCA の 100% に、その以上の
 給料をもらう労働者はおらず、IPCA の 80% 以下の調整と、その補充措置とによる労働協定（但し
 最高限度は IPCA の 100% 以下）によることが定められている。しかしながら年々通行している
 労働協定の協定では、全般的に実賃面が IPCA の 100% を上回り、又 3 ヶ月分を 1 年賃金に上乗せ
 するものがある。

最低賃金については 85 年 4 月 30 日付デクレット 9.2.3 号と 5 月 18 日付全国統一 CR 333.120 に定め
 られ、11 月 1 日には、その CR 600.000.00 に改定された。（85 年 11 月 1 日付デクレット 9.361 号）

工業界の実賃金は 1985 年中に 263.2% 上昇した。部門別では、コマ部門が 198.6% 上昇
 した。輸送機器が 343.7% の最高値を、肉が 10.5% の最低値であった。仁肉を除く実賃金の上昇率は
 7.4% とされている。

国家公務員給与 85年中に23.1%の調整が行われた。同公給費給付に2.1%
 IF 85年12月17日付法律第74号により、86年1月1日付75%の調整が行われることが決定された。
 7月17日付大統領令により、14.35%の追加増額。合計37.35%の調整が行われることが決定された。
 一方、85年7月～12月16日のPCAの変動率を考慮した結果、86年以降は6ヶ月ごとに
 調整が行われることが決定し、調整率の最低限度を10倍に引き上げた。これによりPCA 100%の調整が行われる
 ことが決定された。

表 9 最低安全の基準

期 間	A 地域	B 地域	C 地域
81年5月～81年10月	8,969,800	7,128,000	9,712,800
81年11月～82年4月	11,928,000	10,200,000	9,732,000
82年5月～82年10月	16,608,000	14,800,000	13,929,000
82年11月～83年4月	23,568,000	20,736,000	20,328,000
83年5月～83年10月	34,776,000	30,600,000	30,600,000
83年11月～84年4月	57,129,000	50,256,000	50,256,000
84年5月～84年10月	97,176,000	97,176,000	97,176,000
84年11月～85年4月	166,560,000	166,560,000	166,560,000
85年5月～85年11月	333,120,000	333,120,000	333,120,000
85年12月	600,000,000	600,000,000	600,000,000

出典: ANUARIO ESTADISTICA

A 地域: 南米、南部、ブラジル

B 地域: 北部、東北部、中西部地域の一部

C 地域: 北米地域

1.6 対外取引

1.6.1 概況

1985年度は世界の経済活動が前年と比較して成長率は低く、世界の貿易量も従来に比してその増加率を落すという低調な状況にあったが、ブラジルは前年に引続き、貿易収支に大増進を遂げた。

ブラジルの輸出は工業先進国、中でもブラジルの主要貿易相手国である米国における成長率の激進により、一次産品の需要が減少し価格も落ちたことや、ブラジル国内の新増産に伴う需要の増加により、輸出品が伸びたことにより輸出金額は前年を下回ったが、輸入面では石油の国内生産増進により、対外依存の減少と国際石油価格の下落により輸入金額も落ちたため貿易収支は前年に比べ、劣るものの125億ドルの大幅な増進を見た。なお石油価格を除いた輸入額は前年と大増進しており、これは資本財の輸入増進が顕著であった。

為替政策は前年に引き続き、国内インフレにたいしてドル相場を下方にシフトしてブラジル製品の輸出競争力を維持する方法を採用した。85年には11月9日、10月に米ドルの国際相場が急激に下落したため、ドルに平行するブラジル製品の価格も落ち、輸出の増大に大きく貢献した。

恒常的に赤字を計上している貿易収支面では、利息の外国送金に依存して大増進を計上しているが、85年には国際金利の下落により、同項の増加率は前年を下回った。しかし貿易収支面においては、関税の減少が影響し、経常収支は前年を下回る275百万ドルの黒字に落ちた。

資本収支面では、外国証券の償還額が前年を上回ったことにより、資金の流入額が減少したため、資本収支は前年と比較して大増進を遂げた。総計収支はわずかに19億ドルに落ちた結果となっている。

85年度は84年に比べ、円相場が1,000億ドルに近しい巨額の外債の償還を遂げたことにより、貿易収支の大型黒字と新増産全体の減少により、外債の増加率は83年以降の傾向と一致している。85年度の外債保有高は約119億ドルと発表されているが、外債総額9,331億ドルから差し引くと、ブラジルの純外債は85年末において814億ドルであった。

1.6.2 1985年度の貿易政策

1985年中、外国貿易部門に与えられた政策は、一方においてフランスの貿易相手国が
採用した保護政策を回避し、輸出を振興するほか、また他方国内供給を確保するた
めの商品輸入に便宜を与えることが考慮された。主な政策として次の事項があげられる。

- 輸入の限度については、CDE（工業商英商協会）決議CM 32/84号を通じて、公衆部門の85
年度における輸入限度を2,335百万ドルに決定した。後日2,186百万ドルに減少し、又
国内においてルセロ貨を購入する輸入品の限度をCR 6270億と定めた。
- 85年1月8日付IBC決議997号で、従来の在庫没収金に代り輸出税のルセロ貨表
示額算出の方式を改定、その在庫レートを平均値の日における買入に適用する
と定めた。後日85年6月28日付決議1028号でこれを改定、CACEX（フランス銀行貿易
管理局）が輸出証明書と交付する日と定めた。
- マナヌ自由港の輸入限度を500百万ドル（84年は440百万ドル）とすることを決定した。
たばこ、石油と副産物、その他特別の制度下に与えられたものの輸入はこの限度に含ま
れない。（85年2月18日付デクレット第70931号）
- 85年2月6日、CACEX布告第119号でフランスの輸出を規制する法規基準が発表され、後
3月12日付布告第123号によって一部変更。又輸入に關する基準はCACEX布告第133号（6月20
日付）によって規制され、後日11月13日付布告第147号で一部の変更が行われた。
- 陸上ルートで輸出され、ルセロ貨で決済される製品はIP1（工業商品税）を免除する特典
を受けることが出来るようになった。但し、織物製品、家電製品及び家具は含まれない。
- 外国からの輸入が実際の需要量以上に上るのを避けるため、電気製品及び非鉄
金属製品の輸入を事前許可制とした（85年5月17日付CACEX決議第145号）
- 米国及びカナダ向けサイロ用木材の輸出は、供給量を調整するため85年8月13日付1月間割当利
とした（85年7月25日付CACEX布告第138号）
- 輸出製品の製造企業及び輸出を行う企業に新設融資の恩恵として特別利息を改定、
また、非合法的にこの恩恵を享受した企業に対し、その金の返還を命じ、返還命令は、通貨価値
正と延滞利息として年2.5%（後日1%）を課せられることになった。（中領決議第1009号/85年）
- 国際金融市場における金利の低下に伴い、輸出金融の利息を2%減率した。

- ブラジルの輸出増大に伴う運輸コストの急増を、CECEXとコンテナ・ターミナル輸送問題委員会が設置された (CONCEX 決議第 199 号 - 85 年 5 月 17 日付)
- 以上のほか、輸出振興策として、木材の輸出に更に有利な条件を設けることを目的として、原料の搬送に用いられる森林材、中間材、部品の輸入に draw-back 制度の恩恵を適用するべく定められた (85 年 8 月 26 日付 MF 布告第 377 号)。但しこの恩恵は国内企業のみにより、行われなければならない。
- 85 年 10 月、同委員会が国内の製菓工業に対し、国際価格の砂糖の供給を行なうプログラムを復旧させるべく決定した。これは同工業が広く国際市場を開拓しており、外国における競争力維持が重要とされているためである。
- ブラジルの輸出に對する保護主義について、貿易相手国の更に逆激な行動を避けるため、各々の手段が講じられた。その一つとして 85 年 3 月 29 日付 CACEX 通告第 124 号では 84 年 10 月 1 日、85 年 9 月 30 日までの期間の米穀向け穀物の輸出基準を決定し、先に同国との間に行われていた新穀協定に基き、

また米穀以外の国々間にも生じうる貿易摩擦の問題を軽減するため、輸出業者が享受し得る恩恵を相対するレベルでの輸出税を決定した。各商品ごとに定められた輸出税の中で、最も高い米穀向け減額率 3.5% の輸出税が設定された。

- 一方輸入に肉付規定の中での国内供給を保障するため、各々の穀物が輸入にかかっている 10% (金融操作税) を免除されたが、中でも次のものが特筆される。
 - 牛肉 - 84 年 12 月 31 日より 85 年 1 月 31 日まで
 - ALADI (ラテンアメリカ自由貿易市場) より購入される 6 年米
 - 色付きフェイジョン 14,700 トン程度
 - 岩塩 及び 海水塩 150 千トン
 - 消費用 じゃがいも
 - 牛皮革の一部の種類
 - レーヨン糸 700 トン
 - 印刷用紙の製造原料に用いられるパルプ
 - 食用のゼラチン・カプセルの製造に用いられる国産穀物の粉、板紙、容器、部品

- 航空機用エンジン パーツ、工具、特殊材料

- ショート 22,500トン (従来10F 25% を 5% に減額)

年末には供給不足による国内価格の上昇を避けるため、大豆油 200トン、牛肉 50トン
ともともし 1,000トンの輸入が許可された。

1986年1月25日、輸入目標の承認による CARC は通商 148号 (25年12月31日) をもって1986
年度の輸入規制を廃止した。但し、小麦、大豆及び飼料用穀、マニラ自由港への輸入品 draw-back 制度
にもとづき輸入品が 2%に引き上げられた。

1985年度の為替政策は従来と同様にミニマム・レートの維持を目的として、海外市場の困難な情
勢下で、その影響を最小限に抑える手段として各控の措置が講じられた。これに1985年12月国内イン
フレの推移と米ドルに対するルビの相対的な肉連を維持する為、為替レート調整のための計算システムに
通貨価値修正システムが導入された。

インフレの推移に対する対応は、完全な流動化、又輸出に相対的な影響を及ぼすこと
と考慮した次のシステムが中級決議 1001号により発表された。

1) 為替レートの変更及び通貨価値の変更は通商3ヶ月間のインフレ率 (統合物価指数) の平
均値に基づき

2) 1ヶ月の為替レートの調整は毎日の相対的なインフレ率を基に発表する

従来、インフレ率の推移が速く変動していたため、この方法では為替レート及び通貨価値の修正がイン
フレの進行と共に生じる可能性が生じていたことから、為替レート変動率の事前発表を1週間毎に行
うことと変更された。これにより、偶発的に発生する問題は迅速に調整され、為替レートの変更がイン
フレ率に平行するようになることが可能とされた。

85年11月27日付中級決議 1,062号では、為替レート、通貨価値修正、給料及び家賃の調整
を統一して発表すること、毎月15日と翌月の15日までの為替変動率は IPCA (拡大消費者
物価指数) の変動率に応じて決定されることとされた。

1985年中、ルビの相対的な相対的なインフレ率は21.2%、国内インフレ率は24.9%であった。こ
れに対し、統合物価指数 (19P-DI) は 235.1%、IPCA は 233.6% であった。

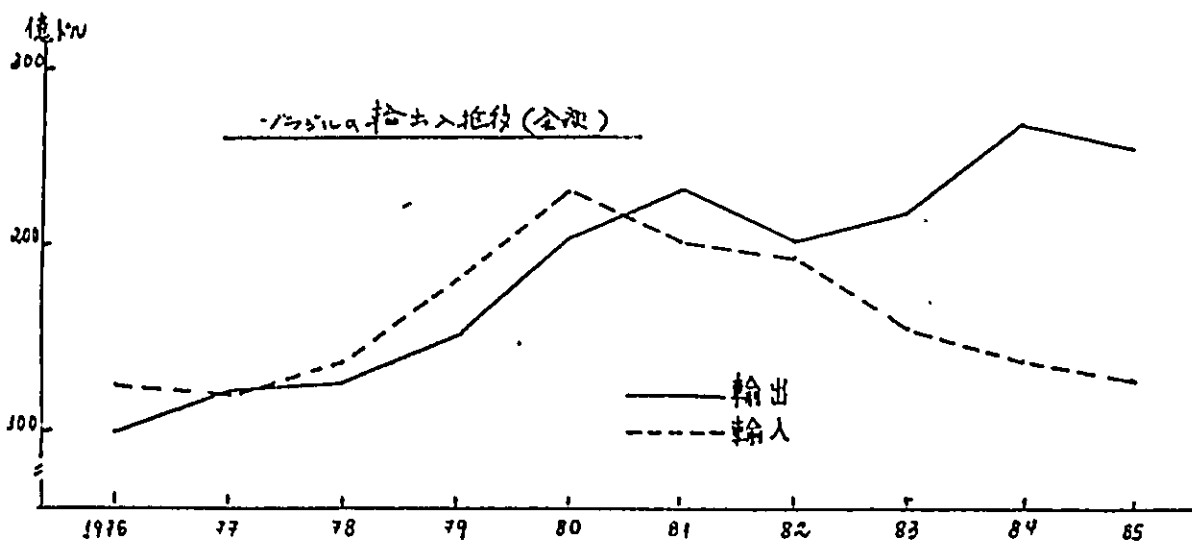
1.6.3 貿易収支

1985年度の貿易収支は前年に次いで史上2番目の大型黒字残高 125億ドルを記録した。この収支残高は83年度の65億ドル、84年度の131億ドルの場合と同様に対外勘定調整の結果の努力にもとづくものである。輸出品の減少と輸入抑制策の結果として現れたものである。

対外輸出額は82年の202億ドル、84年の270億ドル、85年の256億ドルに伸びた。対外輸入額は82年の194億ドル、83年には154億ドルに落ち、84年、85年もその水準に留まり、139億ドル及び131億ドルに低下した。このうち対米輸出は82年の94億ドル、85年には59億ドルへと減少した。

ブラジルの貿易収支 (100万ドル)			
年度	輸出 FOB	輸入 FOB	収支残高
1976	10,128.3	12,383.0	(c) 2,254.7
77	12,120.2	12,023.4	96.8
78	12,658.9	13,683.1	(c) 1,024.2
79	15,244.4	18,083.9	(c) 2,839.5
80	20,183.4	22,955.2	(c) 2,822.8
81	23,293.0	22,090.6	1,202.5
82	20,175.1	19,396.3	778.4
83	21,899.0	16,429.0	6,470.0
84	27,005.3	13,915.8	13,089.5
85	25,639.0	13,168.1	12,470.9

出所: CACEX



前年に比し85年度の輸出が落ちたのは、従来従属的に減少されてきた工業製品に対するブラジルの競争力に全般的に低下したため、中でも工業製品の輸出競争力に不利に作用した。年頭ヨーロッパ通貨及び円相場がドル高の影響でブラジル製品の競争力が弱まったこと、また主要産業である鉄鋼の価格競争力に不利に作用したことが主な原因である。輸出は前年

斗を上廻る。但相場の下落をカバーするに十分な輸出増産を招いたものではない。中でも大豆及び副産物 豆粕、大豆油、大豆粕、小麦、大麦、肉用牛の増産は受けて商売であった。

このように国際市場の問題の1つはブラジルが貿易相手国としての工業諸国の経済活動の停滞と相違なく、特に米国及びカナダにおき保護主義の強化はブラジルの輸出に大きな影響を及ぼした。

このように情勢下で、米国の輸出政策は211先ん立って、85年3月22日付中銀決議で1001号による減産と大豆の増産を要する、事前に為替レートに改定したこのシステム、輸出部門がみれば、レートの変動中を知らずにはいられず不安を解消したため、国内インフレが下落した時期に実施されたため輸出部門に即座に及ぼした。すなわち4-6月のレート調整中は34.4%であったのに対しこの間のインフレ率は24.6%であり、この差額は輸出に与える影響を及ぼすに不利な要素に軽減した。

85年度における前年比輸入の減少は一方においては石油及び輸入代替穀物（トウモロコシ、小麦、大豆）の国内生産の増大、他方においては国際石油価格の下落によるものである。

85年における輸出価格及び量に因る損収をみると輸出面では量が前年並みで価格が下落、輸入面では量及び価格の下落であった。

表 11 ブラジルの輸出入指数 1977年=100

年 度	輸 出		輸 入			
	価 格	量	全 体		石 油 の み	
			価 格	量	価 格	量
1976	82	99	96	108	96	101
77	100	100	100	100	100	100
78	92	113	107	105	101	111
79	101	124	128	115	135	124
80	107	152	164	115	226	107
81	101	183	182	99	270	104
82	95	167	176	91	260	98
83	89	191	167	76	235	90
84	91	234	158	73	229	80
85	84	238	153	67	223	66

出所: BANCO CENTRAL

外国貿易における輸出価格と輸入価格との関係は84年にブラジルのとて有利に展開したが、85年には再び悪化して輸出価格の下落率に輸入価格の下落率を上回った。

輸入と統計をみると、81年以降視察された主要穀物の輸出傾向が下落していることは、一方においては米国の保護主義の増進、経済活動に占める米国の比率が減少した反面、他方においてはブラジル側の主要穀物の輸入が増大した点も、現象である。すなわち85年には各穀物の輸出傾向であった。

米国に次いで重要な EC 諸国との貿易収支は、その黒字残高が米国のそれに比べ 4.282 億ドルに達し前年と同様に次の位置を交代した。

伝統的にブラジルの出超を担ってきた ALADI 諸国との貿易は、従来の同様の形態を保ち、その黒字残高は前年に劣るものの 4.62 億ドルであった。

東ヨーロッパ諸国に対するブラジルの輸出は、この諸国の一部にみられた支払収支の問題から最近数年間続いたレベルで落ち込んでいる。1985年には 6.58 億ドルの黒字残高を保っている。

日本との貿易はブラジル側の 8.44 億ドルの出超であったが、対日輸出の減少により、前年に比し 1.962 億ドルの収支差を下げた。

経済圏又は国名	輸 出		輸 入		収 支
	金額	比率 %	金額	比率 %	
米 国	6.801	26.5	2.616	19.9	4.185
EC 国					
独	1.274	5.0	864	6.6	410
オランダ	1.652	6.0	164	1.2	1.388
イタリ	1.125	4.4	188	1.4	937
英 国	663	2.6	251	1.9	412
フランス	780	3.0	302	2.3	478
その他	758	3.0	101	0.8	657
(小計)	(6.152)	(24.0)	(1.870)	(14.2)	(4.282)
ALADI					
アルゼンチン	548	2.1	469	3.6	79
メキシコ	220	0.9	380	2.9	- 160
パラグアイ	299	1.2	75	0.6	224
その他	745	2.9	426	3.2	319
(小計)	(1.812)	(7.1)	(1.350)	(10.3)	(462)
O.P.E.P.	2.576	10.0	4.673	35.5	- 2.097
日 本	1.394	5.4	550	4.2	844
COMECON	992	3.9	334	2.5	658
A.E.L.C	731	2.9	410	3.1	321
カナダ	414	1.6	398	3.0	16
その他	4767	18.6	767	5.9	3.800
合 計	25.639	100.0	13.168	100.0	12.471

出所: CACEX

ブラジルの主要貿易先国と貿易収支は、国際石油価格の下落により、OPEC 諸国からの輸入は前年の 5.568 億ドルより、85年には 4.673 億ドルへと落ちた。これは、同経済圏との貿易赤字は 84年の 3.093 億ドルより、2.097 億ドルへと大分減った。

ブラジルの輸出先国に占める米国の比率減少は、代ってアフリカ市場及びアジア市場に対する輸出の増大が観察される。アジア市場中、中国1国に比べて貿易黒字残高 400 億ドルに達した。

a) 輸出

1985年度の輸出は256億ドルで前年より5.1%増であった。生産の増加も輸出価格の値下りにもかかわらず輸出総額に減少した。輸出量はコーヒー製品において増加、工業製品で減少した。輸出額はコーヒー製品が前年の8,755百万ドルと1984年度の8,533百万ドルであった。

主要輸出品のコーヒー部門では国際コーヒー協定でコーヒーの国際価格を120〜135ドルに保った生産国の輸出割合が61百万ポンドと減少した。市場の回復が期待され580万ポンドに減少した。この協定の中でブラジルの輸出割合は16.4百万ポンドであった。

国際市場におけるコーヒー価格が85年を通じて不利な環境に置かれ、これは世界生産の増大(98.6百万ポンド)、生産国におけるストックの増大(48.5百万ポンド)が大きな影響を与えた。このほか、輸入諸国側の貿易政策の遅延も影響を与えた。このような情勢下でブラジルのコーヒーの需要低下と高級コーヒーの供給量減少が相対的な下落に結びつき、唯一の要素となった。

価格が85年10月10日ブラジルにおける長期契約の被害により、ようやく上昇を開始、価格が1.40ドルを越すことによりOIC(世界コーヒー協定)で100万ポンドに市場に放出された価格が年末にかけて上昇を続けた。

1985年の世界生産は南米及びアフリカ諸国の増産により、前年より9.5%増加し98.6百万ポンドに達した。この中でブラジルの生産量は前年より44.2%増加した32.6百万ポンドであった。2年連続で最大の年であった。これは過去数年間の天候に恵まれたことと生産量の要因となっている。これはブラジルに次ぐ生産国のコロンビアでは降雨と疫病により被害を受け生産が落ちた。

表 13 コーヒー：世界及びブラジルの動向 1000トン(1000t)

項目	1983	1984	1985
ブラジルの生産量	30,400	21,800	32,600
ブラジルの国内消費量	7,433	6,900	6,400
ブラジルの輸出量	12,820	19,597	19,143
世界の生産量	90,049	90,357	98,647
世界の輸出量	68,297	71,429	70,699
世界生産及び輸出に占めるブラジルの比率			
生産%	33.8	24.2	33.0
輸出%	26.1	27.4	27.1
OIC指示価格、1ポンド当り年間平均USD	186	196	200

出所：中経年報。ブラジルの輸出にはインスタント・コーヒーを含む。

ブラジルのコヒー輸出は 84年1-12月 8.2% 増と、このドルの収入であった。上半期には輸入国に於ける追加割引も、輸入国諸国の平均関税削減の進展、国際市場の低価格がコヒーの輸出に寄与した。下半期にはIBC(ブラジル・コヒー・協)が8月5日、12月に64%の引き下げを輸出価格に引き下げた。この引き下げは、1984年に引き下げた価格が4%の引き下げを設け、1985年1月1日から輸出価格の引き下げがコヒー協定の規定に照準して輸出に押さへられることになった。85年の末には、長期契約による引き下げが明らかとなり、国内外の相場をつりあわせたため、11月以降はIBCの政府在庫の放出に開始、輸出価格は1億5000万バレイに引き上げ、1億に引き下げた。

世界の砂糖市場は、供給の増加と需要の減速によって、困難な情勢にある。1985年の状況は、生産過剰の原因の一つはEC諸国の従来の輸入関税、輸出関税と転換したことにあり、一方需要面では主にとうもろこしと米科にシフトした。甘味料による砂糖の代替が、主要輸入国例に自給能力の拡大にともなうため、需要は減少傾向を辿っている。

このような情勢下で、増大する過剰在庫の前は、ブラジルを含む主要生産国の中には生産能力の削減を明らかにする国もあつたが、世界の生産を押し下げたのは、指針はとらえていない。このため、85年6月のニューヨープ取引市場でトウモロコシ 50.7ドルという最低の記録を築いた。しかし下半期には、過剰在庫の削減が減少する見込みが強くなったため、世界の砂糖相場は上向きになり、市場回復の兆しが見えた。このため、世界の供給の減少を図る主要生産国で生産減少の方向が打ち出されたため、世界の在庫は急激に減少した。世界の消費量の約40%が保たれているため、この価格上昇傾向は、ブラジルを含む主要国に波及する。

1985年度における世界の砂糖生産量は、722万トンで、前年比 3.8% の減少であった。この全生産量の中、325万トンがEC諸国に占められていた。砂糖大産国である米科とトウモロコシの59.7万トンが、砂糖生産量の約8%である。

砂糖の世界の消費量は、前年比 1.2% の増加で 99.5万トンと推定されている。又、年終在庫は前年比 4% の減少で 39.4万トンであった。

ブラジルの砂糖生産量は、730万トンで、84年の960万トンにあり、砂糖の輸出量は、84年の310万トンに対し、85年には260万トン、輸出金額は前年比 3.8% の減少で 364億バレイであった。輸出数量1トン当たりの収入は 450 88.94、このうち、国内生産コストは 300.- に達するといわれている。

表 14 砂糖: 世界及びブラジルの生産、消費及び輸出 1,000t

年 度	生 産 量		消 費 量		輸 出 量	
	ブラジル	世 界	ブラジル	世 界	ブラジル	世 界
1976	7236	86573	4800	81977	1167	22542
77	8759	92073	4754	84746	2465	28191
78	7913	90787	4952	86181	1962	25027
79	6971	89210	5648	89862	1829	25929
80	7844	84638	5890	87921	2572	26676
81	8258	92523	5521	89301	2701	29125
82	8941	101452	6097	92079	2710	30417
83	9555	96912	5909	93608	2503	28843
84	9259	99200	6201	96213	3059	28424
85	8271	97071	6287	99800	2609	27453

出 所: FAO, CACEX / BANCO CENTRAL

84/85 年度における世界の大豆生産量は、主要生産国における生産増加の反り、前年より 11.2% 増加する 91.1 百万トンを達し、年度当初に行われた予想よりも、楽観的な予想を上回った。世界生産の大幅増加に、消費も追随し、前年より 3.6% 増加した 88.5 百万トンに上った。世界の在庫は前年度末の 12.8 百万トンより、84/85 年度末に 13.7 百万トンへと増大した。

このうち世界市場の中で、ブラジルの生産は相対的に拡大し、前年より 25% 増加した 15.2 百万トンに達し、18.2 百万トンに史上最高記録を達成した。その平均 1805 kg/ha は、前年より 12.5% 上回った記録である。

世界的な供給量の増大、ドル高、国際金利高が、現在国際市場に与えている低価格の理由となっており、過去 25 年間に、この取引市場の平均価格は 1 吨あたり 258 ドルに上昇し、1 倍近くに達した。85 年には 203 ドルへと落ちた。この価格の大豆はブラジルの巨額収入に大きく貢献し、5 年ぶりに再び 1 兆 2 千 2 百 2 十 5 万 2 千 5 百 2 十 5 円に達した。

大豆副産物では大豆粕が EC 諸国の需要増大に反響して 1 トンあたり 192 ドルより 144 ドルへと下落した。大豆油の価格も、半期に供給量の減少から 1 トンあたり 215 ドルに達した。下半期には他の植物油類とオイルパームの供給量の増加により 458 ドルへと落ちた。

全体的に低価格が支配した 85 年度の国際市場に対する買入政策により、価格の下落が更に促され、前年より 1 倍近くに達した。この政策はドル高の反動で競争力を失った大豆製品が、その秋の輸出と前年の 20 百万トンより 16 百万トンに落ち、価格の中で効果的に作用し、ブラジルの大豆(豆)輸出は前年の 1.6 百万トンより 3.5 百万トンへと伸び、2 倍近くに達した。

大豆粕の輸出は合計 860 万トンで、前年より 13.2% 上回り、大豆油は前年より 100 万トンに上った。このうち輸出の増加は、前年より大豆及び副産物の輸出は前年より 25 億 2 千 5 百 2 十 5 円に上った。

大豆の国際相場は 85/86 年度の米国産の 57セントの大増産の予想と自然の在庫の増加のため相対上昇の期待は低く、10月の芝加哥取引価格は 76年大増産のレベルに落ちている。米因政府は大豆増産による生産抑制を余儀なくされ、50セント以上の価格上昇の期待は外れにない状況にある。

表 15 大豆及び加工品の生産、消費及び輸出 1000ト

摘 要	1983	1984	1985
世界生産量	73,310	82,330	91,120
ブラジルの生産量	14,533	15,535	18,278
ブラジルのシェア(%)	15.6	18.9	20.0
ブラジルの推定消費量			
豆	13,675	13,490	13,850
大豆粕	2,285	1,932	2,062
大豆油	1,558	1,571	1,649
ブラジルの輸出	10,873	10,026	13,045
豆	1,295	1,561	3,495
大豆粕	8503	7,587	8,595
大豆油	1,075	928	956
粗油	358	803	521
精製油	717	105	435

出所: 米銀報告

1985年度における世界のコーン生産は同年度の消費量を127トンに上廻り、190トンに前年比27.3%の増加であった。このように生産の増加により、その生産量と世界の需要との差は180トンに縮まり、世界の在庫は過去20年間の減少の勢を再び増強した。そのレベルは依然として低く、OPEC(石油輸出機構)の調整在庫を形成する程まで低下している。このように状況の悪化はコーンの国際相場を前年のレベルに下廻り、在庫の大幅な変動を示さなかった。

84/85年度におけるブラジルの生産量は302トンに前年の352トンに大に下廻った。しかし輸出量は前年の244トンに10.3%増加した318トンであった。この結果は、ブラジルの外貨に寄与している。

表 16 コーンの生産及び輸出 1000ト

摘 要	1983	1984	1985
世界生産量(A)	1,530	1,510	1,931
ブラジルの生産量(B)	336	302	412
B/A %	22.0	20.0	21.3
ブラジルの輸出			
コーン(豆)	153	107	172
コーン・パター	32	36	43
リコーン	52	67	67
粕	29	30	36
その他	54	41	38

出所: 米銀報告

鉄鉱石の輸出量は、全額が前年並みに輸出された。666万トンであった。

煙草は平均価格が2.6%減少したものの輸出金額は438百万ドルで84年の449百万ドルに近しい規模であった

牛肉の取扱は前年より13%増加し263百万ドルに達したが、鶏肉の方は244百万ドルの輸出で前年より7.2%低下した。輸出平均価格が前年より6.7%下落している

工業製品の輸出は合計16,822百万ドルで前年より6.3%減少した。工業製品の中牛乳製品は2,760百万ドル、農産品は14,062百万ドルでそれぞれ2.2%及び2.1%の減少であった

半加工品の中には大豆粗油331百万ドル、合衆鋼303百万ドル、バルブ276百万ドル、洗炭268百万ドル、鉛鉱石232百万ドル、合金227百万ドル、コップバー203百万ドルが特筆される。

又、農産品の中では輸送機器1,688百万ドルが全体の12%に占めて大きく、かつ前年より24.7%上昇した。中でも車両用バルブ・アッセンブリ339百万ドル、100馬力以上のエンジン付き乗用車323百万ドルが特筆される。ボイラ・蒸気発生機の輸出は1,570百万ドルで前年より12.8%に増加している。中には合衆内燃機関641百万ドルの輸出が特筆される

製鉄副産物の半量収入は1,362百万ドル(-12.1%)、又炭酸ソーダ・ソーダの輸出は大幅な増減にみられ753百万ドル(前年より1,415百万ドル)、靴の輸出も又落ちて909百万ドル(-9.6%)に低下した。

この他に有機化学製品646百万ドル(+1.3%)、電気機器580百万ドル(-1.9%)、石油燃料412百万ドル(-31.9%)等がある

表 ブラジルの農林水産物輸出実績(1985年度)

項目	関税番号	品目	重量 1,000トン	金額 100万ドル
I. 動物及びその製品	CAPITULO 1	小計	0.2	1.3
		牛肉	0.1	0.2
		・ (生肉等)	4.8	13.5
		・ (冷凍等)	0.5	0.5
		・ (冷凍等)	134.6	248.5
		羊肉(冷凍)	0.4	0.4
		豚肉(-)	5.2	7.7
		馬肉(生又は冷凍)	1.0	1.9
		・ (冷凍)	13.4	13.2
		鶏肉(-)	277.1	242.9
		その他	25.1	31.0
		小計	462.2	559.8
		マカ	23.6	13.4
		エビ	16.0	48.8
		イサナ	2.3	38.8
3)	CAPITULO 2	小計		
		マカ	23.6	13.4
		エビ	16.0	48.8

		その他	11.3	19.7
4)	CAPITULO 3	小計	53.2	170.7
5)	CAPITULO 4	小計	2.5	2.5
	CAPITULO 5	小計	26.3	13.3
	SECCION I	合計	544.6	751.6
II-植物及びその製品				
6) 苗及び花卉類	06.03.01.01	花卉類	0.3	1.2
		その他	3.4	4.9
	CAPITULO 6	小計	3.7	6.1
7) 野菜類	CAPITULO 7	小計	24.7	9.1
8) 果実	08.01.02.01	バナナ	105.3	16.6
	08.01.03.00	パイナップル	17.4	4.6
	08.01.05.02	ブラジルナット (殻付き)	12.8	14.0
	08.01.05.03	" (殻なし)	7.0	11.2
	08.01.06.02	カジューナット	25.0	103.4
	08.01.08.00	アバカト	0.3	0.3
	08.01.09.00	ゴメバ	3.1	2.1
	08.02.01.00	オレング	24.9	18.6
	08.02.02.00	ムカン (タンジリナ)	4.1	1.2
	08.02.03.00	レモン	0.1	0.1
	08.02.06.00	リマ	1.7	0.7
	08.03.01.00	イチジク	0.4	0.5
	08.04.01.00	ジャコ	1.5	1.3
	08.08.01.00	イチゴ	1.0	1.3
	08.09.01.00	メロン	7.5	3.2
	08.09.04.00	パパイア	10.1	1.1
		その他	3.1	1.7
	CAPITULO 8	小計	280.3	181.9
9) コーヒー茶類	09.01.01.00	コーヒー (豆)	1033.6	2369.2
	09.02.03.99	紅茶	8.2	12.1
	09.02.03.99	緑茶	0.5	1.4
	09.03.01.00	マテ茶	11.6	6.7
	09.04.04.01	ピクソフ (黒)	22.5	69.3
	09.04.04.02	" (白)	2.1	8.0
		" (その他)	0.6	1.1
	09.07.01.00	クレーホ	2.2	7.4
		その他	15.4	11.6
	CAPITULO 9	小計	1096.7	2466.8
10) 穀類	10.05.02.00	コムギ	0.4	0.3
	10.06.01.00	米	0.1	0.1
	10.07.01.01	ソバ	6.0	1.2
	10.07.01.99	"	3.5	0.7
		その他	6.1	2.4
	CAPITULO 10	小計	16.1	4.7
11) 粉類及び澱粉類	11.02.02.03	コムギ粉	65.9	6.7
	11.04.03.02	マンジョカ粉	0.6	0.1
	11.08.01.02	コムギ粉澱粉類	2.7	0.8
	11.08.02.03	マンジョカ澱粉類	1.0	0.2
		その他	8.8	1.3
	CAPITULO 11	小計	79.0	9.1
12) 油脂作物	12.01.01.01	落花生 (殻付き)	1.7	1.4
	12.01.01.02	" (殻なし)	16.6	9.8
	12.01.04.00	大豆	3491.5	762.7

19) 穀類調整加工品	19.02.04.01	穀類類	—	—
	19.03.00.00	マカロニ類	1.9	0.9
	19.08.	パン、ケーキ類	2.5	2.1
		その他	1.0	1.2
	CAPÍTULO 19	小計	5.4	4.2
20) 野菜調整加工品	20.02.13.00	トマトケチャップ	4.2	4.0
	20.05.03.01	バナナ加工品	0.5	0.3
	20.05.03.04	ジャム加工品	1.8	1.1
	20.06.01.01	パイナップル缶詰	2.8	2.5
	20.06.01.04	バナナ(乾燥)	6.9	3.6
	20.06.01.15	桃缶詰	0.1	0.1
	20.07.01.01	パイナップルジュース	13.0	12.6
	20.07.01.03	ココナ加工品	1.1	1.3
	20.07.01.05	オレンジ濃縮ジュース	484.8	748.9
	20.07.01.07	レモンジュース	4.4	3.3
	20.07.01.09	マラゲジュース	3.3	3.3
	20.07.01.12	グレープフルーツジュース	2.0	1.5
	20.07.01.13	みかんジュース	12.0	15.8
	20.07.01.14	アボカドジュース	4.3	3.4
		その他	8.5	7.4
	CAPÍTULO 20	小計	549.7	809.1
21) その他加工品	21.02.01.01	インスタントコーヒー	39.7	253.1
	21.04.01.01	トマトジュース	0.6	0.5
	21.04.01.02	マヨネーズ	0.1	0.1
	21.07.06.00	パルメット缶詰	5.1	10.2
		その他	15.4	18.7
	CAPÍTULO 21	小計	60.9	282.6
22) 飲料、アルコール類	22.03.03.00	ビール(輸入)	4.4	1.7
	22.05.01.99	・ (その他)	1.3	0.7
	22.08	アルコール	335.7	94.6
	22.09.02.00	ラム酒	1.9	1.2
	22.09.07.00	ビネガー	3.0	1.0
		その他	6.1	2.5
	CAPÍTULO 22	小計	352.4	101.7
23) 植物油類	23.04.05.01	大豆類	8588.0	1174.8
	23.06.01.00	みかん粕	990.1	69.3
		その他	663.1	57.4
	CAPÍTULO 23	小計	10.241.2	1301.5
24) 煙草	CAPÍTULO 24	小計	201.1	459.3
25) 皮革及び加工品	SECCIÓN IV	合計	14947.3	4479.3
26) 木材及び加工品	SECCIÓN VIII	合計	53.0	262.4
27) 繊維類	SECCIÓN IX	合計	288.1	303.3
	CAPÍTULO 50	絹類	1.9	32.7
	CAPÍTULO 53	羊毛	13.0	49.6
	CAPÍTULO 54	羊毛	4.4	23.4
	CAPÍTULO 55	絹類	218.1	386.4
	57.03	ジュート	1.7	1.3
	57.04	サリカール	90.7	28.7
	59.04.03.00	サリカル加工品	105.1	50.5
		合計	434.9	572.6
28) 炭水化物類			23,120.2	10,706.6
29) その他の項目			123,231.2	14,932.4
輸出合計			146,351.4	25,639.0

出所: CACEX

	12.07	食料、薬品、農薬肥料 その他	1.0 12.6	4.3 4.4
13) ガム・レジン他	CAPITULO 12	小 計	3523.4	782.6
14) その他	CAPITULO 13	小 計	19.8	7.4
			3.5	1.6
	SECCAO II	合 計	5048.2	5489.3
III- 動植物油				
15) 動植物油	15.07.01.01	大豆油(粗油)	521.3	331.4
	15.07.01.02	綿実油(・)	—	—
	15.07.01.03	落花生油(・)	56.4	45.9
	15.07.01.06	ヒマリス油(・)	13.8	7.9
	15.07.01.09	パーム・オイル(・)	7.5	3.5
	15.07.01.12	パラスー油(・)	5.6	4.2
	15.07.02.01	大豆油(精製油)	433.1	271.1
	15.07.02.02	綿実油(・)	117.0	71.8
	15.07.02.03	落花生油(・)	23.0	19.5
	15.07.02.11	ヒマ油(・)	95.0	57.3
	15.07.02.13	オリーブ油(・)	5.0	3.6
	15.10.01.99	その他	1.8	2.3
	15.11.01.02	グリセリン	2.9	4.3
	15.13.01.00	マーガリン	2.7	3.1
	15.16.02.00	カルナウバ油	9.4	12.7
		その他	9.6	9.5
	CAPITULO 15	小 計	1304.1	848.1
	SECCAO III	合 計	1304.1	848.1
IV- 加工食品				
16) 肉、魚肉調整加工品	16.01.00.00	ソーセージ	0.2	0.4
	16.02.01.01	コーン・ビーフ	112.6	215.8
	16.02.01.02	・ (冷凍)	16.1	43.5
	16.03.01.01	肉エキス	3.2	19.6
	16.04.04.00	イワシの缶詰	1.0	1.2
		その他	6.8	6.2
	CAPITULO 16	小 計	139.9	286.7
17) 砂糖及び製品	17.01.01.01	結 晶 糖	308.0	33.4
	17.01.01.02	粗 糖	1047.9	166.3
	17.01.02.00	結 晶 糖	1192.1	168.2
	17.03.01.02	糖 蜜	200.7	9.3
	17.04.02.00	菓 子 類	12.0	8.1
	17.04.03.00	キャンメル 類	4.2	3.7
	17.04.05.00	カ の 類	4.0	3.6
	17.04.06.00	チューインガム	6.5	6.8
		その他	265.4	26.0
	CAPITULO 17	小 計	3040.8	4160.3
18) ココア及び加工品	18.01.01.00	コ コ ア (豆)	172.2	360.6
	18.02.00.00	・	3.1	2.6
	18.03.01.00	リ コ ー ル	68.6	180.8
	18.03.99.00	その他ココア	36.1	30.9
	18.04.00.00	ココアパウダー	42.8	203.4
	18.05.00.00	粉末ココア	2.4	3.0
	18.06	チョコレート	29.3	20.7
		その他	0.3	0.1
	CAPITULO 18	小 計	355.8	808.1

の輸入

85年度の輸入は石油と小麦の輸入減少が主な理由として前年比に5.4%減少した132億ドルであった。石油と小麦を除く前年比は11.4%の増加である。国内経済活動の回復を不景気指標であるMARSHAL-EDGEWORTHの基準にもよる輸入価格指数は113.3%とあり、特に価格の下落が11.1%とあり、鉄鉱石113.5%、穀類114.4%、石油及び石炭113.6%、食料116.4%等である。また、輸入価格の下落した品目は電気用材料25.4%、化学薬品6.4%である。

石油の輸入は全体の輸入総額の41.1%、資本財の18.9%、穀類5.5%、鉄鉱石1.3%、化学薬品9.6%、プラスチック及びゴム2.5%、非鉄金属1.7%と占める。この中、石油の輸入額は前年の6735億ドルに対して5418億ドルと減少した。これは前年にも述べた通り、石油の国内生産増加と石油の国内消費の減少、代替燃料としての液化天然ガスにもよるものである。

穀類の輸入は全体の7.1億ドルで前年比に12.5%、重量は4850トンで前年比に8.5%であった。この中、小麦の輸入は591億ドルで前年の755億ドルに164億ドル減少した。これは史上最高の国内生産（4.2億トン）による自給率向上のためのものである。輸入量は400万トンであった。輸入価格は前年比に112.7%とあった。このように価格の下落は世界生産の回復、ドル高の調整による需要の減少、主要生産国におけるストライクが主な理由とされている。

資本財の輸入は2494億ドルで前年比に15.9%増加した。主なものとして電気機械器具1972億ドル（+19.7%）、輸送機器523億ドル（+3.8%）がある。

化学薬品の輸入は1265億ドルで前年比に3.8%増加したが、中でも有機化学薬品56.8%、無機化学薬品12.4%の増加が見られ、その輸入額はそれぞれ718億ドル及び157億ドルであった。

プラスチック製品の輸入は170億ドル、天然及び合成ゴムは161億ドルでそれぞれ前年比に9.7%及び5.9%増加した。

鉄鋼及び銅の輸入は174億ドルで前年比に19.4%、非鉄金属は前年比に220億ドル。この中銅の輸入は非鉄金属全体の56.4%と占める。但しその輸入額は124億ドルで前年の輸入額より23.5%低いものであった。

肥料の輸入は231億ドル（2486トン）で、これは前年の246億ドル（2628トン）より下回った。

1.6.4 サービス収支

1985年度のサービス収支は123億ドルにのぼる赤字収支であった。前年の赤字と比較すると3.1%の増減であった。利息の送金が大幅に減少したため、その影響は96億ドルに達している。サービス収支の赤字は前年比で止まった。国際金利の低下と、この期間外債の増加が影響していることと見られる。

利息の送金額は前年比で減少したにもかかわらず利益配当は前年比で33.0%増加し約10億ドルに達したが、この増加はブライルの価格高騰が回復して戻ったことによるものである。

外国旅行費は相対的にサービス収支赤字の要因の一部となっており、85年度は375億ドルの赤字を記録した。前年の赤字は153億ドルであった。倍増したことになる。同年度の中で観光費は27.6%と最も増加し、残りの22.4%は留学、科学交流、政府ミッション、商団等に関する費用であった。観光費は前年比で1人あたり500ドルより1,000ドルに上昇した（ただし南米諸国の場合は500ドルが限度）と見られる。この制度は1984年12月に実施されたものである。

貿易に深い関連を持つ輸送品目の赤字は前年の半額に止まった。これは輸入の減少により船舶の利用度が減ったためである。また保険料の赤字は84年度の114億ドルから85年度に103億ドルに落ちた。その他のサービス収支は前年比で676億ドルの赤字で前年比で13.3%増加した。この中で、保険料の増加、契約のコミッション、特殊技術サービス等が大きな比率を占めている。

表 18

サービス収支の内訳

100万ドル

項 目	1984			1985		
	収入	支出	残高	収入	支出	残高
外国旅行						
観光	52	127	(-) 75	49	340	(-) 291
その他	13	91	(-) 78	17	101	(-) 84
小計	65	218	(-) 153	66	441	(-) 375
輸送						
貨物	772	318	454	860	360	500
その他	523	1,737	(-) 1,214	630	1,500	(-) 870
小計	1,295	2,055	(-) 760	1,490	1,860	(-) 370
保険料	37	151	(-) 114	32	135	(-) 103
利息及び利益						
利息	1,246	11,449	(-) 10,203	1,503	11,092	(-) 9,589
利益及配当	3	199	(-) 196	80	1,139	(-) 1,059
小計	1,249	12,248	(-) 10,999	1,583	12,231	(-) 10,648
政府割当	73	193	(-) 120	69	247	(-) 178
その他	484	1,081	(-) 597	435	1,111	(-) 676
合 計	3,203	15,946	(-) 12,743	3,675	16,025	(-) 12,350

出所: BANCO CENTRAL

1.6.3 資本収支

1985年中に期限が到来した中長期資金の中、再支持を行なったのは新規資金の受入と、資本勘定の外国融資又は通貨コン勘定に計上し、会計上の反転記帳と、再融資合と資本償還の項目に計上された。1985年中 外国民間銀行、外国政府機関 及び パリ・クラブ に對する債務繰上りにつきの再支持は 殆んど達しないため、中央銀行より 外国通貨による支払のための準備が、すくなくならぬ。

資本勘定の残高は 268百万ドルで 前年の 6,114百万ドルと比較して 大分減少である。これは 新規外国商業銀行資金の不足、償還額の増加、セーフティの減少等によるものである。

外国からの投資勘定残高は 1984百万ドルで 84年の 1,123百万ドルに比して 下回った。この減少は 融資金、利息の支払額等 外国への送金の中で 国債投資に充てられた金額が 前年より 1,100百万ドルに減少したためである。又 外国銀行から得た フラットの投資は 84百万ドルで 前年より 1,100百万ドルに減少した。純増額は 700百万ドルに達した。

通貨による 中長期ローン 6,751百万ドルの残高で、その中 306百万ドルは 金融市場に計上され、6,445百万ドルは 外国銀行からの支拂による、待っている。結果は 前年より 1,100百万ドルに減少した。

国際金融機関 及び 外国政府機関からの 資金融資は 前年より 1,100百万ドルに減少した。セーフティ 1,141.5%の減少と、B10 資金融資 35.0%の増加、米國小手の融資と、対する 融資用 CCC 資金 1,193%の減少等がある。

サプライズ 及び パイラーズ・クレジットも 減少した。これは 大部分が 外国に おける フラットの輸入に對する パイラーズ 資金である。85年の 輸入減少に 密接に関連するものである。

中期期の融資と、対する 資本償還額は 前年より 2,707百万ドル増加し、10,533百万ドルに達した。この中 実際の支払額は 2,374百万ドル、再融資に切替された金額は 8,139百万ドルに達した。実際の支払額の中、934百万ドルは 国際金融機関 及び 外国政府機関 644百万ドルは サプライズ・クレジットにかかわるものである。

外国に對する フラットの 中長期融資額は 1,672百万ドルで、その大部分は 前年より 1,622百万ドル フラットの輸入に對する フラット銀行の融資にかかわるものである。

1.6.6 対外収支

1985年度の対外収支は、14百万ドルの黒字収支に比し、前年の70億ドルと比較すると極度の差であった。前年の対同商業銀行、中、長期融資は64億ドルが導入され、1985年度には、この種の資金導入が、償還額が増大したためである。

対外収支の中、経常収支の残高は前年の5,700百万ドルに比し、275百万ドルの黒字収支に減少した。このうち貿易収支は、黒字収支が前年の270億ドル、256億ドルに減少したと大きく理由となっている。貿易収支の減少は輸出金額が前年比に5.1%減少したためである。輸入金額も減少した。大中小企業減少した。125億ドルの残高が確保された。輸入の減少は基本的に石油の国際価格の下落と石油及び代替燃料の国内増加による石油輸入量の減少によるものである。価格相対率の形で、食糧品の輸入の削減、行なわれたにもかかわらず、全体的に前年を下回り(95%)輸入金額は増加した。

サービス収支は、123億ドルの赤字の利息送金と、10億ドルの赤字に比し、6%の減少にすぎない。国際金利の下落が、この結果にみられる。

対外資本収支は、その残高は、268百万ドルで前年の6,1億ドルに比し、減少した。新規資金の導入、とくに外国債、資金導入の相対的に減少したためである。

中、長期外国債の償還は合計105億ドルで、そのうち150億ドルは、1984年度の間に66億ドルの商業銀行との間に交付の結果、再融資した。このため、残高の24億ドルが交付された。

表 19 73億ドルの国際収支		100万ドル	
項	目	1984	1985
貿易収支			
輸出		27,005	25,639
輸入		- 13,916	- 13,168
貿易収支		13,089	12,471
サービス収支			
利息送金		- 10,203	- 9,589
その他		- 2,540	- 2,761
サービス収支		- 12,743	- 12,350
経常収支		517	275
資本収支			
投資		1,076	710
融資		5,119	8,936
外国融資 (新規融資)		(3,386)	(2,411)

(再融資)	(1,733)	(2,525)
外債の再融資	834	508
小計	5,953	5,844
元本償還		
支払額	- 2,160	- 2,394
再融資(含バニラ)	- 5,656	- 2,139
小計	- 7,816	- 10,533
通貸ローン		
短期	- 3,367	- 1,579
中長期	10,979	6,751
残	761	5,172
その他の資本移転	- 711	- 525
資本収支残	6,114	268
誤差・脱漏	203	- 529
収支残	7034	14

出所: BANCO CENTRAL

1.6.7 外債

1985年末の外債残高は933億ドルで前年とほぼ同様のレベルにあった。このように前年並みの外債残高維持されたのは前年と異なり、外国商業銀行からの新規借入が前年より減少したことが主な理由とされている。これに加えて、85年始めに行われたIMFとの調整プログラムが実施中止されたこと、あるいは、債務の返済に同程度以上の外債の融資を全額解消が実現したことが挙げられる。このように新規融資の中断にもかかわらず、金と米とを合わせた125億ドルの外債に、総合収支は少額ながら黒字残に転じた。これは、

1985年末の外債保有高は118億ドルであった。これは、814億ドルの外債の85年末における純債務となる。

年度	債務総額	外債保有高	純債務	外債返済の対外支出			輸出貿易 FOB (?)	債務/輸出 U/(?)%
				元本償還	利息	計		
1976	25,985	6,504	19,481	2,998	2,091	5,089	10,128	50
77	32,037	7,256	24,781	4,123	2,462	6,585	12,120	54
78	46,511	11,895	34,616	5,426	2,344	7,770	12,059	69
79	49,904	9,689	40,215	6,627	5,348	11,975	15,244	77
80	53,847	6,913	46,934	6,689	7,457	14,146	20,132	70
81	61,411	7,507	53,904	7,496	10,305	17,801	23,293	76
82	70,198	3,994	66,204	8,213	12,551	20,764	20,175	103
83	81,319	4,563	76,756	5,294	10,263	15,557	21,899	71
84	91,091	11,995	79,096	2,866	11,449	14,315	27,006	53
85	93,313	11,860	81,453	2,907	11,092	13,999	25,639	55

出所: BANCO CENTRAL

1.3. 1986年度の経済概況

1.3.1 概 要

1986年度16年間にわたる経済政策に於ける国民の期待が年末にかけてインフレ再燃の危険へと急激な変化をきたし1年間であった。この間、国の経済政策に国民が多少の関心を寄せたものの、近年では極めて少ない年の1つであった。

年間230%のインフレ率に達した1985年と対し、86年に入ると年度平均インフレ率の激化は、11月のインフレ率の急激な例にみられ、17%に達した。2月の15%の高峰を維持し、半ばに過ぎず今年半300%に達するインフレが予想された。政府はこれを将来にわたる根本的な改革に迫らねばならぬ。しかしながら、国民生活の安定を中心とした社会問題に直面する新民主政権にとって不可欠な政策として、経済政策と併せて実現すべき問題の条件が深まってきた。この両者の政策が苛求された。

ブラジルのインフレ率は慢性化している。過去に採用された経済上、金融上の措置が決定的な効果を持てなかった。このため、将来、インフレ率のペースをコントロール（通貨価値修正）を遂行し、同時に物価を凍結する必要がある。ドラスチックにインフレを抑制する方針を採用した。この方法はイスラエル及びフィリピンに比較的成功的に採用された。このため、ブラジルのインフレ率を抑制する試みであった。

フルド・プラン（PLANO CRUZADO）と呼ばれる同政策の骨子は次のとおりである。

- 1) 新通貨としてフルド（CRUZADO）を設立する。1000 クルゼイロ（CRUZEIRO）を1フルドとす。デノミを実施する。
- 2) 1年以内の契約には通貨価値修正（コレソン）の条項を合意せしめ集約する。FAPL（カピタル・デ・ホーバ（定期貯蓄連立））、FIS（社会年金基金）及びFGTS（勤続年数保証基金）は除外される。
- 3) 物価及び為替レートは1986年2月27日現在の価格で凍結する。
- 4) 過去6ヶ月間の平均実質価格に基づき給与の決定。インフレ率が20%を超えれば自動的に調整される。

長年にわたるインフレ率の下で実質所得を圧迫してきた国民の大半はインフレを抑制しようとする改革に歓迎し、主婦が物価を監視する効果的なフルド計画への熱狂的な賛同が国民の苛みから、これを推進するカーネン政権は近年に例を見ない高い国民的支持率を

を得た。改革の結果は即座に現われ、3月以降10月までの物価指数は近き程度で、4月以降1%以下の上昇率に抑えられ、車と物価の動きは付随して見えた。

しかし、単に物価に抑制を課せしめ、両面価格改革のみに実質賃金の向上を図る政策は、むしろ過去の事例の如く異常な消費ブームを起すことになり、その最初の歪みは、以後の政策実行に大きな影響を及ぼした。このように消費ブームを抑えようとする上策の面では、実質賃金の増加が、インフレ・ターゲット政策時に3%の実質インフレ率に引き上げられ、FICP（消費者物価指数）のインフレ率は3〜7月間に17.8%上昇した。85年末に行われた税制改革で、給付金者に対する源泉徴収率の減額が、実質収入を増加させた。インフレ率の増加の下で銀行金利も急激に下落し、金融市場の健全運用の両面が失われ、定期貯金が増え、消費は起さなかった。このように、インフレ率の下で金融市場の健全運用が失われ、定期貯金の増加が減少し、両面価格改革の先駆けは、前年より30%増加したペースで、既に全体的な物価不足、生産能力の不足や、他の要因という好転が、今後の事象が現れた。

このように、インフレ率の下で生産、競争力、生産者の実質賃金の向上が、前年を上回った。年間で通じて、12%（中級所得世帯）の成長を遂げた。

月別	1986年度主要産業指数前年比の対比				%
	工業	建設	鉱業	従来産業	
1	11.6	11.6	12.6	9.1	22.8
2	12.4	12.3	13.5	9.4	28.3
3	9.5	9.4	11.4	9.3	17.0
4	12.0	12.0	10.3	9.3	39.2
5	11.8	11.9	8.7	9.6	21.8
6	12.0	12.2	7.9	10.5	19.0
7	11.9	12.2	6.9	10.9	20.9
8	11.4	11.7	5.9	10.9	26.1
9	11.7	12.0	5.5	10.9	32.2
10	11.6	12.0	4.8	10.3	24.7
11	11.3	11.6	4.1	-	-
12	10.9	11.3	3.7	-	-

出所: CONJUNTURA ECONOMICA.

このように消費ブームがインフレ要因として作用するのを防ぐため、政府は消費の抑制と目的としたインフレターゲットの最初の調整は7月に実施された。7月に実施されたこの調整は、自動車税（ガソリン、及びR1000）、乗用車及び外国旅行（航空料金及び公共交通料金の増徴に25%）に対する課税額

現金給付の支給という形で行われた。この現金給付は後日返還される形式で、事実上の借上りであり、物価凍結と政府自らの手元破産をともに招き、不信の念を国民に与えた。消費抑制の効果はあつたが、この措置はクルード・プランによつてようやく物価水準が回復して中所得級と低所得級の生活に与えた改革であった。

8月に1989年7月の3ヶ月間、平均平均7%の成長を期待する目標計画(PLANO DE META)を発表されたが、そのために改選された国家開発基金(FUNDO NACIONAL DE DESENVOLVIMENTO - FND)の資金と上級の保証金が充たされることになった。

国内経済における物価のバランスによるインフレ率の発生、対外取引面における大中小の街クルード・プランの目標の達成に失敗した。実現した公共政策の均衡率の改善とクルード・プランのオニ次調整は早くもその効果が論議された。11月に総選挙と控えた政府はクルード・プランで高めた国民の支持を選挙に利用し、その修正案による国民の支持率下落を招き、選挙(11月15日)まで放置し選挙明け(12月)にクルード・プランのオニ次調整を主張した。このように選挙の中で政府は選挙に圧迫された時期と失った経済改革の国民の投票の不信の中にその支持を大膽に失い再びインフレの泥沼へつみこまれた。

- 彼にクルード・プランと呼ばれる。11月の調整は、公共政策の均衡、市場の抑制、及び対外取引の均衡を目的としたものであり、公共政策の均衡とそれに伴う公共支出の削減及び公共料金の増徴と連動。市場の抑制は特に一部商品の高値を工業製品税(最高240%)を改定、対外取引の調整は為替レートの固定と物価凍結の事実上崩壊することによりインフレの再燃を促す結果となった。

表 22 86年度の物価指数

月別	総物価指数(19P)		卸物価指数		採大消費物価指数(IPCA)	
	月別	過去12ヶ月	月別	過去12ヶ月	月別	過去12ヶ月
1	15.7	255.9	19.0	243.2	16.23	238.36
2			16.1	269.9	14.36	255.16
3	17.03	248.6	1.0	234.6	9.11	-
4	1.1	230.4	1.46	207.5	0.78	-
5	0.99	210.3	0.99	189.0	1.40	-
6	0.63	182.2	0.37	170.9	1.27	-
7	0.58	152.5	0.58	153.2	1.19	-
8	0.88	125.7	1.34	124.1	1.68	-
9	0.95	108.7	0.67	106.8	1.72	-
10	1.01	94.4	1.15	90.0	1.90	-
11	0.1	75.2	0.1	69.5	5.45	-
12	2.5	63.5	2.2	62.6	-	-

出所: F.G.V.

上表にみられる通り、9月まで月間1.0%以下に止まっていた物価の上昇率は、11月おき再び上昇を
開始し、12月には一挙に7.5%に達した。87年に入ると1月12.0%、2月14.1%、3月15.0%
フルザート計画前のインフレ目標に近づいている。

インフレの近づくに従い、銀行金利も昔のレベルに逆行し、CDB（銀行貸付金証書 - 定期）の月利
利率は10月の3.02%より、87年1月には13.8%に、86年1月は12.9%にも上り上りしている。

このようにインフレ経済への進行に伴い、政府はフルザート計画改定の際、インフレの根元を根絶
止めたコロン（通貨価値修正制度）を復活せざるを得なくなり、本邦レートも急激な暴落を、現在
大衆の不安を招き、カテルバンク・ネーデル（金融財政省）も従来の形態（国庫の新設計画）で、
フルザート計画改定と同時に3ヶ月間の新設計画を中止した。インフレの根絶を失った
新設計画の中止は、経済的・金融的・政治的・社会的に大いに影響を及ぼし、永続的価格を1000%と
超す傾向にあり、極めて深刻な状況の中、87年に入っている。

1.3.2. 1986年の農業生産状況。

農業生産の指標となる穀類（GRAIN: 穀物及び油脂作物）の生産は、80年に入ってから
84年までの間50万トンと、わずかに上下する基化の低い生産が続いた。85年には一挙に5%
万トンに増産した。60万トンと多量に増産した。85/86年度作の生産は、
長期穀類の被害を受け、生産は再び53万トン台に落ちた。

表 23. 1986年の穀類生産。

作物別	面積 1,000ha	生産量 1,000トン
穀物		
とうもろこし	12,465.0	20,509.5
米	5,599.3	10,399.3
小麦	3,908.0	5,432.9
フエージョン	5,484.1	2,221.3
ソルガム	198.6	379.1
大豆	102.0	189.0
かぼち	129.4	121.0
ライ麦	5.1	4.5
小計	27,882.5	39,238.6
油脂作物		
大豆	9,185.5	13,334.7
花生	161.0	216.2
ヒマ	957.7	263.0
小計	9,804.2	13,813.9
合計	37,686.7	53,052.5

単位: 1986.

中央銀行の指針による農業生産高は(-)5%の減収に止つては、穀物では小麥が前年に
達した最高記録の432万トンを更に大増に上廻り534万トンの生産を成したのを始め、相
当の減収が予想された米も過去5年間で最高の生産となり、ソルゴも又前年と43%
増加した。大豆の増加は前年より更に増収を成し、前年をしのぐ生産となった。
しかしながら油粕等科作物を代表する大豆の減収(-27%)、花生の減収(-36%)等により穀
類全体として前年と約450万トンの下廻り生産に止つた。

工業原料作物では代表的作物としての砂糖が前年を上廻り、増加のペースが落ちた。
この現象は、この長期に亘る減収の傾向、プロパールの生産量の減少に起因する。サ
ラセの国際相場が低迷していることと反映している。今後とも合衆国との交渉が重要と
思われる。又綿花でも世界的なストップの増加による国際相場の低迷が国内市場に影響を及ぼし、活
況を呈している。

嗜好作物ではタバコ、代表的な作物としてのタバコも減収の被害を大きく受けて単収を
落した。減収に達した。輸出税の10%のストップ減収と国際相場の上昇により、前年と下廻り
26億ドルを計った。国内市場は近年最低のレベルに落ち、87年の影響が大きい。
ココアも生産の増加による国際市場の好況で、

数年前好況に達したオレンジ作物、この後相対的に下落が止まり、ブラジル産柑橘
ジュースの需要が課題となる。好況に達した国際相場の中での国際価格の低迷と反映
した輸出額の半減が、この状況下にある新興市場の開拓が急務である。

牧畜部門では年間を通じて供給不足によるヤシの増産、政府に協力した牧場の肥育
牛の増産、果物輸入の増加が、状況下に置かれた。牛肉の不足は豚肉及び鶏肉
需要の増大に、このため、最近の豚肉価格の暴落により、小売店は利益を押し下げ、生産者価格も
期待を上昇させた。しかしこの間部門では年間の間に物価指数の上昇、生産者価格の記録
された。

表 4 1986年の農業生産状況 85年との対比

作物別	面積 1000ha.			生産量 1000t		
	1985	1986	85/86 %	1985	1986	85/86 %
砂糖 ヤシ	3,899.5	4,054.6	9.9	246,542.2	249,277.1	1.1
マンゴスチン	1,867.3	2,049.3	9.7	23,111.0	25,542.5	10.5
とうもろこし	11,801.5	12,466.0	5.6	22,019.7	20,509.5	(-) 6.9
大豆	10,152.7	9,185.5	(-) 9.5	18,278.4	13,334.7	(-) 27.0
米	4,760.1	5,590.3	17.4	9,019.3	10,399.3	15.3
小豆	2,670.4	3,908.0	46.3	4,322.8	5,432.9	25.7

フェ	イ	ジュ	ン	5,817.1	5,484.1	3.1	2,548.4	2,221.3	(-) 12.8
		糸		3,581.8	3,160.8	(-) 11.8	2,840.1	2,314.4	(-) 18.5
コ	ー	ヒ	ー	2,483.0	2,259.0	(-) 9.0	3,753.4	2,007.2	(-) 46.5
ト		マ	ト	53.9	61.5	(-) 4.5	1,931.8	1,838.3	(-) 4.8
ビ	カ	イ	モ	157.4	160.8	(-) 2.2	1,989.2	1,833.6	(-) 7.8
玉		ね	ギ	57.8	63.4	9.7	637.0	635.2	(-) 0.3
ジュ		ビ	ン	57.8	58.5	1.1	715.0	589.8	(-) 17.5
コ		コ	ア	640.2	658.2	2.8	419.6	459.3	9.5
火	壁	草	菜	268.6	279.5	4.1	410.9	385.6	(-) 6.1
ソ	ル	カ	ム	162.9	198.6	21.9	257.8	370.1	43.5
サ	イ	ヤ	ル	353.6	322.3	(-) 3.1	290.9	246.2	(-) 15.4
花		花	生	192.0	161.0	(-) 16.6	339.2	216.3	(-) 36.2
大			季	110.3	102.0	(-) 7.5	164.7	180.2	9.4
ラ		イ	走	142.0	129.4	(-) 8.9	167.4	121.0	(-) 23.1
に	ム	IC	ク	11.3	14.7	29.5	46.2	60.8	31.6
ビ	メ	ソ	ク	19.3	20.6	7.2	27.9	45.4	19.6
マ		ル	バ	42.5	37.6	(-) 11.6	42.3	34.8	(-) 17.6
ジュ		ー	ト	21.2	28.2	35.6	20.1	27.8	38.7
ラ		ス	ー	4.9	6.5	13.2	10.0	7.0	(-) 30.0
カ	ス	ト	走	12.6	5.1	(-) 59.6	13.2	4.5	(-) 66.1
オ	ル	ソ	ジ (1)	662.3	707.1	6.8	70,994.5	66,607.4	(-) 6.2
バ	イ	マ	マ (1)	26.6	39.8	8.9	762.6	838.6	10.0
コ	コ	メ	ン (1)	166.2	174.5	5.0	563.1	575.7	2.2
バ		ト	ト (2)	441.1	429.8	(-) 2.5	500.4	504.2	0.8
合 計				50,631.8	52,272.9	3.2	—	—	—

出所 1896

表 25 1986年度の森林木材の輸入と1985年の比較 (1~11月)

区 分		量 1000ト			金 額 US\$ 1000 CIF		
関税番号	品 目	1985	1986	増減	1985	1986	増減
輸出	動物及びその製品、肉類						
02.01.01.04	牛 肉(冷凍)	130.2	75.1	(-) 42.3	239.0	145.9	(-) 39.0
02.02.01.02	ブイヨウ(ロ)	250.6	225.6	(-) 10.0	219.4	222.2	3.3
	その他の肉類	46.9	33.2	(-) 29.2	62.2	38.8	(-) 55
CAPITULO 02	小 計	427.7	333.9	(-) 24.9	520.6	426.9	(-) 18.0
	そ の 他	76.5	71.0	(-) 7.2	175.8	168.2	(-) 4.3
SEÇÃO I	計	504.2	404.9	(-) 19.7	696.4	595.1	(-) 14.6
CAPITULO 06	植物及びその製品						
CAPITULO 07	苗木及び花卉類	3.5	2.6	(-) 25.7	5.6	6.8	26
	野菜類	24.2	16.1	(-) 33.5	9.1	6.3	(-) 30.8
	果実類						
08.01.02.01	バナナ	90.6	95.0	4.8	14.5	13.1	(-) 9.7
08.01.05.02	ブドウナット	17.9	11.2	(-) 37.4	14.0	7.6	(-) 45.7
08.01.05.03		6.5	8.4	29.2	10.3	13.8	34.0
08.02.01.00	オリーブ	75.0	87.8	17.1	18.6	16.7	(-) 10.1
	そ の 他	87.4	70.4	22.6	107.3	124.2	15.7
CAPITULO 08	小 計	247.4	272.8	10.3	164.7	175.4	6.5

09.01.01.00	コーヒ-、茶類							
09.04.01.01	コーヒ- (豆)	831.4	365.6	(-)56.0	1931.1	1627.0	(-)15.8	
09.04.01.01	ビネグタ黒	18.2	18.8	3.3	52.2	77.5	48.5	
09.04.01.02	白	1.9	0.9	(-)52.6	7.0	5.9	(-)15.7	
	その他	82.4	126.3	53.3	154.3	279.0	80.6	
CAPITULO 09	小計	933.9	511.6	(-)45.2	2144.6	1989.4	(-)2.5	
	穀類							
10.05.02.00	とうもろこし	0.4	0.2	(-)50.0	0.2	0.2	—	
	その他	15.0	15.3	2.0	4.2	3.1	(-)26.2	
CAPITULO 10	小計	15.4	15.5	0.6	4.4	3.3	(-)25.0	
CAPITULO 11	粉末及び凝粉	78.6	8.5	(-)89.2	9.0	2.3	(-)74.4	
	油脂作物							
12.01.04.00	大豆	3495.3	1200.1	(-)65.7	768.5	243.2	(-)68.2	
	その他	29.7	16.9	(-)43.1	18.9	11.5	(-)39.2	
CAPITULO 12	小計	3525.0	1217.0	(-)65.5	787.4	254.7	(-)67.5	
	その他	22.2	22.3	0.4	8.2	1937.0	2350.0	
SECCAO II	計	4850.2	2066.4	57.4	3128.0	2446.4	(-)21.8	
	動植物油							
15.07.01.01	大豆油(粗油)	518.7	213.3	(-)58.9	330.7	69.9	(-)78.9	
15.07.01.03	落花生油(粗)	55.9	7.2	(-)87.1	45.4	3.9	(-)41.5	
15.07.02.01	大豆油(精製)	414.0	163.5	(-)60.8	260.2	65.1	(-)75.0	
15.07.02.02	棉実油(粗)	109.9	84.0	(-)23.6	67.8	28.2	(-)58.4	
15.07.02.11	マモナ油(粗)	73.5	85.0	15.6	46.6	44.1	(-)5.4	
	その他	77.8	41.6	(-)46.5	67.3	37.7	(-)44.0	
CAPITULO 15	小計	1249.8	593.6	(-)52.5	818.0	248.9	(-)64.6	
SECCAO III	計	1249.8	593.6	62.5	818.0	248.9	(-)64.6	
	加工食品							
	肉、魚肉調整加工品							
16.02.01.01	コーン・ビーフ	102.5	91.0	(-)11.5	196.3	178.2	(-)9.2	
16.02.01.02	イ	14.8	12.7	(-)14.2	39.7	33.5	(-)15.6	
	その他	10.4	8.3	(-)20.2	25.4	23.1	(-)9.1	
CAPITULO 16	小計	127.7	112.0	(-)12.3	261.4	234.8	(-)10.2	
	砂糖及び製品							
17.01.01.01	結晶	262.3	299.3	14.1	27.4	45.2	65.0	
17.01.01.02	粗糖	933.6	850.5	(-)10.8	135.4	134.9	(-)13.2	
17.01.02.00	精製	1066.9	1147.3	7.5	151.6	182.2	20.2	
17.03.01.02	糖蜜	155.7	346.9	122.8	7.0	17.6	2.8	
	その他	208.2	347.4	66.8	38.1	59.0	54.8	
CAPITULO 17	小計	2646.7	2991.4	13.0	379.5	440.9	16.2	
	ココア及び加工品							
18.01.01.00	ココア(豆)	155.8	127.1	(-)18.4	336.7	259.6	(-)20.5	
18.03.01.00	リコ-IV	60.7	51.0	(-)16.0	159.9	125.4	(-)21.6	
18.04.00.00	ココアバター	39.1	39.8	1.8	185.3	182.2	(-)1.7	
	その他	64.7	65.3	0.9	54.2	51.1	(-)5.7	
CAPITULO 18	小計	320.3	283.2	11.6	726.1	618.3	(-)14.9	
CAPITULO 19	穀類調整加工品	4.7	4.3	(-)8.5	3.6	4.4	22.2	
	野菜、果実調整加工品							
20.02.01.05	オレンジ濃縮ジュース	430.2	845.6	96.5	686.5	712.1	3.7	
	その他	56.2	62.2	10.7	53.0	52.9	(-)0.2	
CAPITULO 20	小計	486.4	907.8	86.6	739.5	765.0	3.4	

2102.01.01	その他の加工品						
	インスタント・コーヒー	31.1	27.9	(-)10.3	303.5	234.2	15.1
	その他	25.5	33.4	31.0	45.1	79.0	75.3
CAPÍTULO 21	小計	56.6	61.3	8.3	248.6	313.2	25.6
	飲料、アルコール、酢						
22.08.0101	アルコール	8.1	2.8	(-)65.4	2.6	0.9	(-)65.4
	その他	312.5	273.8	(-)12.4	90.4	83.4	(-)7.2
CAPÍTULO 22	小計	320.6	276.6	(-)13.7	93.0	84.8	(-)8.8
	植物油ほか						
23.04.05.01	大豆粕	8054.7	6665.6	(-)17.3	1089.3	1198.4	10.0
	その他	1384.3	1051.0	(-)24.1	105.3	98.6	(-)6.4
CAPÍTULO 23	小計	9439.0	7716.6	(-)18.3	1194.6	1297.0	8.6
CAPÍTULO 24	煙草	186.6	165.6	(-)11.3	426.6	392.0	(-)8.1
	小計	0.9	—	—	2.9	—	—
Seção IV	計	13,588.9	12,518.8	(-)7.9	4075.8	4150.4	4.8
Seção VIII	皮革及加工品	47.8	39.5	(-)17.4	237.9	241.1	1.3
Seção IX	木材及加工品	710.6	725.5	2.1	269.8	293.3	8.7
CAPÍTULO 50	糸織物類						
	絹	1.7	1.8	5.9	29.6	30.3	2.4
CAPÍTULO 53	羊毛	11.8	12.4	6.1	45.5	45.7	0.4
CAPÍTULO 54	羊毛	3.9	3.4	(-)12.8	21.2	20.0	(-)5.7
CAPÍTULO 55	絹糸	185.0	134.3	(-)27.4	345.1	262.6	(-)23.9
57.03.0101	ジュート	1.6	—	—	1.3	—	—
57.04.0101	サイヤル	17.6	64.8	268.2	25.0	22.5	(-)10.0
59.04.03.00	その他	102.4	79.4	(-)22.2	49.0	47.1	(-)3.9
Seção XI	計	482.3	385.1	(-)20.2	901.5	841.4	(-)6.7
	その他	112469.2	111422.8	(-)0.9	4843.4	12250.1	132.9
	合計	133,903.0	128,156.6	(-)4.3	23,084.3	21,066.7	(-)8.8

表 26

1986年度の農林水産物輸入実況 85年度の対比 (1-11月)

区分		量 1,000ト			金額 US\$100万 CIF		
関税番号	品目	1985	1986	増減	1985	1986	増減
Seção 01	動物及びその製品 計	83.7	506.7	508.4	68.3	434.6	536.3
	植物及びその製品						
07.01.05.00	ニンニク	17.3	17.3	—	9.9	27.4	176.8
07.01.08.01	種子ほか	2.1	1.5	(-)28.6	0.9	0.8	(-)11.1
07.03.05.01	アセトナ(ホルム)	19.6	23.6	20.4	9.5	16.8	76.8
07.05.03.01	黒ライシヨ	—	43.7	—	—	17.8	—
07.05.03.02	白	2.1	6.2	100.0	1.2	3.4	183.3
07.05.03.09	その他のライシヨ	11.6	10.4	(-)10.4	6.5	4.4	(-)32.3
08.06.01.00	リノゴ	56.1	54.5	(-)2.9	15.3	28.2	84.3
08.06.02.00	梨	30.6	27.8	(-)9.2	9.8	11.6	18.4
10.01.02.00	小麦	3,546.6	1,834.2	(-)48.3	527.6	203.5	(-)61.1
10.03.01.00	大麦	38.7	95.8	147.5	20.1	10.4	(-)48.3
10.05.02.00	とうもろこし	188.4	1,865.8	890.3	25.6	198.7	676.2
10.06.02.00	白米	7.8	57.0	481.6	2.7	15.2	463.0
11.07.01.00	マニラ(紙)	102.0	181.9	78.3	28.4	30.7	22.2
12.06.01.00	ホウレンソウ	2.1	1.8	(-)14.3	9.5	7.8	(-)17.9
	その他	311.5	1,511.3	365.2	80.8	339.0	319.5
Seção 02	小計	4,839.5	5,732.8	22.1	747.8	721.7	—

表 29. 1986年度の支払収支

項目	1984	85	86
貿易収支			
輸出	27,005	25,639	22,393
輸入	-13,416	-13,168	-12,866
残	13,089	12,471	9,527
非貿易収支			
利息送金	-10,203	-9,589	-9,300
その他	-2,500	-2,761	-3,200
残	-12,703	-12,350	-12,500
移転収支			
残	171	154	-
経常収支残	517	275	-2,519
資本収支			
投資助成	1,076	710	-200
融資助成	5,953	5,444	4,600
資本償還	-7,816	-19,533	-13,400
通貨ロ-ン	2,612	5,172	8,500
その他	-711	-525	-
残	6,114	268	-800
誤差、脱漏	403	-529	-
収支残	2,034	14	-3,319

出所: BANCO CENTRAL - 1986年12月10日現在

表 29 A 為替レート 1985

月別	買レ-ト	売レ-ト	対米12ヶ月変動率
1	3567	3585	231.8%
2	3931	3951	225.7
3	4430	4450	233.6
4	4960	4980	243.0
5	5460	5480	246.9
6	5960	5980	246.7
7	6420	6440	238.6
8	6950	6970	231.4
9	7785	7825	236.0
10	8515	8560	226.4
11	9305	9350	224.6
12	10440	10490	229.5

出所: BACEN

表 29 B 為替レート 1986

月別	買レ-ト	対米12ヶ月変動率
1	11,264.84	13.0%
2	13,000.00	15.4
3	13.84	6.5
4	13.84	0.0
5	13.84	0.0
6	13.84	0.0
7	13.84	0.0
8	13.84	0.0
9	13.84	0.0
10	13.97	0.9
11	14.11	1.0
12	14.58	3.3

出所: BACEN

2. 農業界の動向

2.1 農業政策

2.1.1 概要

最近の農業界は近年に例のない大規模な変動を経験した。農業生産面では85年末85/86農年作物の収作連続に中南部地方が長期乾旱の影響を受け、稲作や追肥による作物の補強等の措置にもかかわらず結果的に雨期に入ったものの天候条件が比較的安定したため大減収とはならなかった。しかし長期乾旱の期間に付随して農業的予想の中で減収による基礎食糧の供給不足とそれに伴う価格の上昇が懸念され、米及びその他の輸入が必要とされ、予想を恐れた収穫、とくに米の供給不足は過去50年間で最大の収量となったのに加えて外国に到着した輸入米は国内米市場と混同され、生産者の収益が圧迫された。

86年に入った悲観的な予想と減収による収益が低下する中で2月末には経済競争が激化し農業界も又新しい情勢下に置かれることになった。同経済政策による消費者物価の凍結と第一次需物資の価格統制による人々のインフレの脅威は一時的なものではあったが従来日毎に値上り続いていた農業生産原料の価格と安定せず、インフレが長期にわたるコロン（通貨価値修正）の廃止は24年率230%に上り、これは農業融資利息（コロン+年利3%の利息）と新しく設定されたコロンなし、年利10%の利息に替り農業界に大きな希望を与えることになった。

8月に大規模により農業生産目標とそれに伴う政府の援助方針が35年計画として発表されたが特に農業融資面では従来の短期融資政策と中期の農業投資に替り融資を行ない、農業インフラへの投資による根本的な農業生産構造の改善を図る方向性に向かい、その方針が明らかになった。また最低価格保証制度では従来年々計画に開始した長期の生産計画に阻害をきたす弊害を改め、特定の基礎食糧に於いては85/86~88/89の3年間に於いて同一の基準価格を設定し、必須1PP（生産者の支払価格拍数）によって自動的に最低価格を調整していくシステムに切り換えられた。

このように農業界は新たな希望を与え86年の経済政策発表年の後半に入り、インフレ抑制のFMA強硬策とこれに伴う物価凍結の調整を放逐し、経済界の各所にダメージが現われ始め凍結による利益を圧迫された商品の不足、やむを得ず換行の必要を要したインフ

が再燃し始めた。とくに主要食糧の1つである米の不足は、政府の神工協定価格の低減に起因する状況主として、肥料等の輸入にまで波及し、石油などの緊急輸入の行われた上、米や小麦などの大量輸入と共に食糧収支に大きな赤字が生じた。また、

他方経済政策の主要目的の一つとして、公共サービスの削減が行われた。結果として、赤字の補填に迫られた政府は、俗に「赤字予算」と呼ばれる調整策で、公共料金と値上げ、増徴制の導入で、一部農産物の工業製品税と値上げなど一連の価格調整を行い、政府自身の手で物価凍結と削減を遂げた。この結果、物価は急激に上昇し、年末には逆に2.5%に達し、この合計で、銀行金利の上昇が始まった。

政府は再びインフレ抑制策の中で、フルード計画の基本として、インフレ（通貨価値修正）の復活を余儀なくされた。このように、農業融資政策の急激な引き上げは、農業界に大きなインパクトを与えた。

2.1.2 金融政策

86年度に実施された経済安定策の下での金融政策は、国庫基金増強への重点的対応、農業融資に対する融資の復活、及び新しい経済情勢に合わせた金利の引き下げと特許とされている。

各主要項目の変更内容は次の通りである。

1) 生産融資基準額 (VBC)

基礎食糧の生産から低価格による低価格、社会政策と環境の新政策の主要目標の一つであり、この政策が農業融資面に反映された。すなわち生産者に与えられる融資基準の改訂による生産融資基準額、生産コストに見合った基準額を担保前に設定し、生産者の規模（大、中、小及びミニ）別、作物別にその一定額を融資する制度であり、金融政策の限度及び作物の優先度合に応じて毎年一定額の比率が算出される。

85/86年度のVBCについては、新政策最初の制度として、基礎食糧と非基礎食糧が明らけられた。経済安定策以降のVBCは、86年中期に定めた前年と増した。融資の引き上げは、米、小麦、大豆、アブラムシ及びマンゴスチンなどである。

の場合 ¹⁹⁸⁴VBC の 80% に押さえた他、小、中農のすべからず 100% の融資を決定した。
 又、国産商品のうち大豆は同様に相場の影響を受け、最近便給増利意味の大豆に押し上げられ、
 押さえた大豆の場合には VBC の 50%、中農には 60% の押し上げ不足が一般の商業銀行金利に引合の引連を引かせることになり、小農(零細農を合す)に押し上げる引連
 作物に押し 100% の融資の行なわれることになった。

表 30 経営規模別 VBC (生産融資基準率) 融資率 %

作物別	81/82	82/83	83/84	84/85	85/86	86/87
大 農						
米	60	50	40	40	40	40
米 稻	60	50	40	60	80	80
陸 稻	60	50	40	60	80	80
アヒル	100	100	100	60	90	100
アヒル	60	50	40	60	-	-
アヒル	60	50	40	60	80	80
大 豆	60	50	40	40	50	50
中 農						
米	80	70	60	-	50	50
米 稻	80	70	60	-	80	100
陸 稻	80	70	60	-	90	100
アヒル	100	100	100	-	90	100
アヒル	80	70	60	-	90	100
アヒル	80	70	60	-	50	100
大 豆	80	70	60	-	60	60
小 農						
米	100	100	90	60	60	100
米 稻	100	100	90	80	80	100
陸 稻	100	100	90	80	100	100
アヒル	100	100	100	80	100	100
アヒル	100	100	100	80	100	100
アヒル	100	100	90	80	100	100
大 豆	100	100	90	60	60	100

出所: BANCO CENTRAL

注1) 大、中、小農の区分は生産高によっており、大農は 3,000 MVR (基準額) 中農は 600~3,000 MVR

小農は 600 MVR 以下という。1986年5月時点での 1 MVR は C.R. 328.38

注2) 84/85 年度には中農のカテゴリーに属する 2,000 MVR 以上の大農、以下は小農

区分された。85/86 年度には再び従来の分類方法に戻った

表 31 主要作物のVBC (生産融資基準額) 名目価格及び実価価格 020/10							
作物別	単位 kg/ha	81/82	82/83	83/84	84/85	85/86	86/87
(名目価格)							
米	1,601 ~ 1,800	69	124	276	1041	3522	5616
米 稻	3,601 ~ 4,200	45	83	197	725	2453	3926
陸 稻	1,001 ~ 1,300	16	32	74	274	997	1662
ライム(両期)	801 ~ 1,000	25	40	113	150	1408	2787
マングカ	10,000 ~ 15,000	28	54	129	427	1,501	2,111
ヒメマング	2,001 ~ 2,500	19	34	84	309	1,135	1,686
大豆	1,501 ~ 1,750	22	41	98	421	1,355	2,163
(実価価格)							
1986年7月価格							
米		8615	2,747	7,098	8,408	8,965	5,616
米 稻		5,619	5,204	5,070	5,856	6,244	3,926
陸 稻	全上	1,989	1,988	1,904	2,213	2,538	1,662
ライム(両期)		2,095	2,505	2,898	3,634	3,584	2,787
マングカ		3,468	3,384	3,312	3,449	3,824	2,111
ヒメマング		2,350	2,138	2,163	2,496	2,889	1,686
大豆		2,735	2,568	2,521	3,400	3,449	2,163

出所: BANCO CONTRAL.

中央・南部地区

① 農業政策に於ける融資の役割

86年の経済政策の中で、発表された農業政策の特徴の一つとして、投資に於ける融資に改め、月と向けたことがあげられる。

農業融資の目的別に於て、生産融資、販売融資、及び固定投資に於ける融資の3種に分けられ、前者が短期融資、後者が中・長期融資となる。農業融資の歴史を振り返ると、60年代の中期以降、農業融資政策の転換化を実現させたのが最も重要な手段として、70年代の前半には農業政策の改良、並びに農業の機械化と生産増進の利用の点

で、農業融資が利用された。

このように農業インフラの投資を目的として行われた農業融資は、第一次石油ショックに伴う景況の悪化と経済情勢の下で、次第に金融引き締めが迫られて、従って中・長期にわたる投資への融資も、短期に回収する資金への融資と比較して減少した。この傾向は、77年以降に顕著となった。

表 32 農業融資の変遷と用途別比率					
年度別	農業融資総額		用途別		
	1986年6月価格 100%	- 指数 -	生産費	販売費	固定投資
1977	23,548.5	100.0	50.3	24.7	25.0
80	22,509.7	95.7	56.6	24.6	18.8
81	19,530.8	83.0	58.6	26.0	15.4
82	18,283.8	80.4	64.3	22.6	13.1
83	18,515.3	80.5	62.2	21.1	16.7

84	87,315.3	57.1	795	17.2	12.3
85	124,464.9	52.8	71.1	15.9	13.0
86	87,400.0	38.0	...	...	22.7

出所: 中核 推定

上表は、農業優遇策が打ち出された 79 年以降の、農業融資総額と融資の償還率の比率を示している。この比率は、融資総額の減少が、固定投資への割合の増加によって補われていることが明らかになっている。

86 年の経済政策基本法に基づき、農業政策の方向性として、融資総額の 70% 以上を投資に回すこととされた。固定投資の資金は次の項目である。

a) 野産施設の増設、増改。

国内の野産施設は、生産拡大に必要に応じて増設、増改が行われている。

b) 地力の回復

国内最大の穀倉地帯である「北関東」及び「北九州」の農地が、限りに達している。土地の回復、地力の増進及び環境保全の問題が、農業政策の重要な課題となっている。

c) 灌漑農業の拡大

中央部地方は、灌漑計画に基づき、灌漑施設の増設、増改が行われている。灌漑施設の増設、増改は、農業生産の増進に必要である。

d) 農業融資の健全化

農業融資の健全化は、農業政策の重要な課題である。a) 商業銀行の農業融資義務額の増設、b) 農業信用保証の増設、c) 農業融資基金の増設が行われている。

商業銀行の農業融資義務額は、前年度より増加した。86 年 11 月の時点で、当座貸付金高に占める、小型銀行の割合 10%、中型銀行の割合 20%、大型の銀行の割合 30% である。各融資義務額の 30% を削減し、他の 30% を農業政策に振り回す。義務づけられた特徴となっている。従って残りの 40% 中、大規模の短期融資に振り回す。小規模の融資は、基礎的な融資と見做される。この目的に達するため、各商業銀行の融資義務額を算出する場合、通常の農業融資に占める 1.0 の係数を用いる。また、優先部門の融資は、1.2 の係数を用いた。合計を義務額として計算した結果は、

農業部内における経済政策の基本方針として定められた以上の項目は農業界がかねてより要求していた事項であった。この実施は農業界に新たな希望を与えることとなり、翌年の生産を刺激するが、拒任を行って半の後半は収獲を減らす81年の年頭には42情勢は大きく変化し、オーストラリアに契機として再燃したインフレの前に政府は設定したばかりの基本方針を又もや大中に変更せざるを得ない状況に追い込まれ、これに抗議する農民の動きが主要な地域にみられた。

生産融資基準額に就くところ、政府は小規模者及び団体の基礎金融に就く優遇的取扱いや、農業投資の強化などの基本線は変更されなかったが、問題は融資の安全率と資金の運用に就く利息が大幅に変化したことである。農業融資の全額を一部で構成する一般商業銀行の融資義務は、当座資金の減少によって大幅に減少しており、農業者の要求に応じ得ない状態にある。政府は経済政策の完全新時代における金融市場の利率（例として通貨価値の修正など、実質的な利益ではないが）月10%前後の金利が一般投資家の関心を集めていた）に意味を失った大衆の当座資金を積極的に長期に切り換える動きがみられ、従って銀行の当座資金残高が増加し、これにより、インフレの緩和、金利の上昇によって再び長期への投資の激増し、銀行の当座資金残高は極度に減少し、これによって農業融資に与える義務額も大幅に減少した。このため政府は融資義務額を10%（小銀行）20%（中銀行）及び30%（大銀行）とし、これを30%、40%及び50%に変更する意向である。

⇒ 融資利息

α) 86年3月～87年2月までの期間

農業融資利息は従来インフレ率＋年利3%と基本としていたが、86年の経済政策によってもインフレ率の急激な上昇により融資利息も大幅に変更されることとなった。

新しく設定された融資利息は経済政策の最初の目標として、87年3月1日と期して87年3月1日より、3月1日の2期に分けられた。

87年3月1日の利息は、その前半と後半にインフレ率の増減に適合した利息としてインフレ率の年利10%と基本として特別地域（SUDAM-マダガスカル、SUDANE 東北部及び南部の地域、ミナ州、ミナ州、ミナ州、ミナ州、ミナ州）に特別の利息を設けられた。

b) 87年3月以降の利率

中央銀行の決定によるインフレ率の再燃とコレソンの復活による農業融資も新しい情勢に合せた改訂が行われた。当然融資利率にもコレソンの復活による従来のコレソンの融資に比して同一のインフレ率であったことに従い、今回の改訂では生産者融資及び販売融資に比して低率を、農業投資に比して高率を課しているのが特徴である。逆に利息は国庫投資に年利6%、その他に10%と低くあり、上記特別地帯に比しては生産者のカテゴリ別に利率を異なる水準を定めることになった。

中央銀行 1.266号による決定された最新の農業融資利率の概要の通りである。

表 33		農業融資利率	
区分		87年 3月以前	87年 3月以降
農業投資に 対する融資	融資規模	年 利 %	
		SUOMI, SUOMEN, 32773 224 及び 22 (11) 4277	その他 9277
		一般投資	コヒン・サハ 2277, 5277
		小 及び 小	3.0 8.0 10.0
		中	6.0 8.0 10.0
大	8.0 8.0 10.0		
		年利 特別地帯 (SUOMI 化) 3% その他 6%	
		融資政策の適応促進策: カリキュラ・7. 本ページと同様とす 注: 3月以降 6.62% 4月 19.0%	
生産者に 対する融資	融資規模	年 利	
		SUOMI 化の特別地帯	その他 9277
		一般	コヒン・サハ 2277, 5277
		小 及び 小	3.0 8.0 10.0
		中	6.0 8.0 10.0
大	8.0 8.0 10.0		
		年 利 特別地帯 (SUOMI 化) 3% その他 10%	
		融資政策の適応促進策: LRC (中級債票) IRP (融資政策の適応促進策) の適用 注: 3月以降 6.62% 4月 6.52%	
販売に 対する 融資 (GAF)	融資規模	年 利	
		生産者	その他
		10.0 15	
		融資政策の適応促進策、上と合す	
農業特別割引		年利 10%	
協同 組合	組合に 対する 融資	年利 14%	
	組合へ の融資 の範囲	年利 特別地帯 8% その他 10%	
		年利 10% 適応促進策の融資の場合と同様 生産者別に異なる。	

出所: BANKO CENTRAL

2.1.3 価格政策

価格政策は、基礎食糧の安定供給を図ることを目的として最低価格制度を実施。一部に
 卸した。結果、産物の最低保証価格を毎年決定し、基準に設定され、定期更新の
 政策に応じて価格が定められた。すなわち、与作物の生産コストに、価格の2割を
 11の場合に最低価格と高目に設定して生産を奨励し、逆の場合に価格を落して生産を
 1-4でかきと方法がある。このため農業者の生産設計は毎年恒例前に発表する最低価格
 を考慮して、年々の計画と長期の計画と行われ得る。また、基礎食糧の調達が国
 内供給と月指す新政策として特に重要作物とみられる米、とうもろこし、マニョカ、ソルガム及
 び「ライム」の最低価格と3年に渡り変化し、レベルと生産者に与える作物の長期
 生産計画を促進し、これを促しとる。

3年にわたる最低価格の決定方法として上記5作物に対して86年に決定された最低価格
 は実売価格に今後3ヶ月間変化し、これを立て前と比べ、国内インフレ率に調整され、78
 CFP (抗物価公社) が毎月1PP (生産に因る長年にわたる生産の平均価格指数) を基準とし、毎年8月1日に
 調整する。調整率の1PP変動率の最低80%を確保し、3月1日の1PPの変動率の3月1日の
 125%以上に変動する場合自動的に調整する。この方法が3年連続して3年間にわたる
 生産コストの増大を抑制し、基準を決定する。

これらの基礎食糧に米、大豆、高粱、綿、ヒマシの輸出品にこれら上記5作物と並んで
 工業品、国際価格と参照して最低価格が決定する。

最低価格制度は以上のように変更された。調整の基準として1PPの算定方法に多くの問題がある
 ため、農業関係者は生産コストを基準として調整を行うべきことを要求し、87年
 に行われた米、大豆の調整で、1PPを26.12%の増とみられ、これを38%の調整を
 行われ、農民の要求が受け入れられ、基礎食糧の調整率も大幅に引き上げられた。

最低価格の調整				
作物	単位	基準価格	3月10日調整価格	調整率%
米	50kg	130.00	175.50	35
大豆	60kg	133.80	180.60	35
高粱	60kg	318.00	429.00	35
マニョカ	1T	348.56	470.00	35
とうもろこし	60kg	79.20/84.60	114.40/115.20	39/36
ソルガム	60kg	67.20/72.00	92.60/97.80	39/36

出所: CFP.

2.2 生産回収部門

2.2.1 肥料

肥料。国内生産量は 81 年より 83 年にかけて 1 センチン 経済下において 150 万トン（有効成分）に前後した。経済活動の回復と共に 84 年には一挙に 215 万トンに達した。85 年は前年レベルに達した。86 年には 200 万トンの生産を維持した。85 年の前年比減産の理由として、11 月 燐酸肥料の減少（14%）にあった。窒素肥料は 3.1% 増産による大中の下落と相殺された形である。近頃、尿素、MAP 剤、重過燐酸及び複合肥料がもっとも生産された肥料であった。

同題のカリ肥料部門では、タワリ-バウラ（TAQUARI - VASOURA）工場が操業に入り、長年の期行が実現化した。11 月試験稼働した。86 年末には 5 万トンの生産に達した。11 月には全面的な操業に達した。同工場の生産目標として、1989 年には 60 万トンの生産に達する予定である。

表 34		肥料。国内生産、輸出入及び国内供給量				単位: 1,000 トン
肥料別	年度	国内生産量	輸出入	輸出入	供給量	供給量
窒素肥料	1981	348.8	319.1	1.3	665.5	
	82	396.8	246.8	2.3	640.1	
	83	532.3	103.9	23.0	569.2	
	84	669.2	153.8	21.3	801.7	
	85	723.6	131.7	5.2	850.1	
燐酸肥料	1981	1,150.1	169.2	9.8	1,319.5	
	82	1,095.1	103.4	12.0	1,186.5	
	83	1,055.2	-	55.5	999.7	
	84	1,483.2	70.8	13.8	1,549.1	
	85	1,281.7	31.1	8.8	1,309.0	
カリ肥料	1981	-	766.6	1.1	765.6	
	82	-	876.4	1.3	875.1	
	83	-	728.1	1.4	726.7	
	84	-	1,076.0	2.5	1,073.5	
	85	-	1,061.6	3.4	1,058.2	
合計	1981	1,498.8	1,254.9	2.2	2,746.5	
	82	1,491.8	1,226.6	16.8	2,701.6	
	83	1,588.5	832.0	129.9	2,290.6	
	84	2,152.4	1,300.6	37.7	3,415.3	
	85	2,005.3	1,224.3	17.4	3,212.3	

出所: SIACCP.

85 年には国内生産の前年比減少に陥り、前年より減産された。また、カリ肥料の輸入も減少した。国内生産による代替が不足しているため、肥料とその他の肥料原料の輸入も減少した。

上表にみられる通り、前年比輸入量の重要肥料において、(一) 14.4%、硫酸肥料は 56.1%、カリ肥料は 11.3% と減少している。また原料については、P₂O₅ の輸入は 50.6%、硫酸は 197.2%、硫酸は 17.1% と減少、燐灰石は 11.6% 大増の輸入増加 (+279.7%) と増えている。

しかし肥料原料の輸入減少は、原料の国産増加にもとづいており、各品目について増産が認められている。

品名	1984 (t)	1985 (t)	85年1-7月 (t)	86年1-7月 (t)	増減	
					増	減
硫酸アモニウム (N)						
国産量	837.8	949.9	524.4	439.0	12.7	-14.3
輸入量	28.3	14.0	14.0	-	-50.6	-
燐灰石 (P ₂ O ₅)						
国産量	1,346.5	1,498.6	835.2	868.0	11.3	19
輸入量	3.2	12.2	3.6	2.9	-279.7	-10.6
硫酸 (P ₂ O ₅)						
国産量	650.3	695.4	372.3	365.2	6.9	-1.9
輸入量	192.8	5.4	-	78.6	-197.2	-
硫酸						
国産量	2,688.0	2,747.6	1,465.1	1,577.8	2.2	27
輸入量	158.2	36.3	21.3	70.7	-177.1	-232.0

単位: SIACSP, ANOA, ANA, SIMP, FESP

国内生産に輸入量を加え、輸出量を差し引いた国内供給量は、84年に 340万トンに達したと 85年はやや減少し 320万トンに止まった。

一方肥料の国内市場は、85年の上半期に一時需要が停滞したと、下半期に反発しており、年間の消費量は、製品定価(有効成分+率加割)で、約 800万トンに達し、前年の 740万トンに 8% 増加しており、81~83年にわたって続いていた減少傾向が、続いていると発表されている。

85年上半期にみられた需要の減退は、主に次の理由によるものと考えられる。

- 1) 農業政策が明確とされ、85年度の農業政策などの確立、設定が不明であったため生産者が肥料の購入を先延ばしした。
- 2) 肥料の大口消費作物である大豆の国際相場が下落し、大豆生産者の意欲が減少した。
- 3) 同じく肥料を大量に用いるオレンジは、数年前に国産化が完了し、肥料の使用が削減された。
- 4) CIP(省肉物産流通委員会)が肥料価格の調整(低上げ)時期を延期したため、工場側の市場への供給を減らした。

又 85年下半期における需要の復活は、中央南部地方が数回に亘り乾季となり、播種が迫ったためと見られる。

を全量と見做す作物が多く、新規に肥料の使用を余りしないうち、最初に植える生育段階の肥料による増産を余りしないうち

表 35-a 既述の如く、推定した肥料の地域別消費は、中南部地域中、サトウ、バナナ、パイナップル、スズラン及びミズ・シライチに集中しており、85年にはその合計が全国消費量の70%を占めた。又作物別にみると大豆、砂糖芋、とうもろこし、コーヒ、小豆及び米において肥料消費が大きい。このうち6品目7年間の肥料消費量は、約70%が占められている。

表 36 肥料の国内推定消費量 1000トン

年度	北部・東北部		中央部		南部		合計
	消費量	%	消費量	%	消費量	%	
1981	395.4	14.4	1880.4	68.3	477.9	17.3	2753.7
82	326.7	12.0	1736.9	64.6	634.9	23.4	2700.5
83	304.1	12.6	1655.1	68.3	461.3	19.1	2420.5
84	486.6	11.2	2474.7	71.7	591.7	17.1	3553.0
85	389.1	11.9	2349.0	72.7	496.6	15.4	3234.7
86*	284.2	15.9	1220.7	68.7	673.8	15.4	2178.7

出所: SIACSP * 86年1-6月

注) 中央部 - ミズ・シライチ、パイナップル、サトウ、バナナ、ミズ・シライチ、サトウ、パイナップル、サトウ、パイナップル
南部 - サトウ、バナナ、パイナップル、スズラン、スズラン

外国市場への輸出は、83年と頂点として下降しており、85年には僅か17.4千トンに止まった。この量は前年と比較して54%の減少であり、輸出先市場も近隣諸国に止まっている。輸出された肥料は、塩化カリ、硫酸肥料(05-30-10)及びDAP剤であった。

次に価格についてみると世界の主要市場における肥料及びその原料価格の急激な減価に反映して下降しており、86年9月の価格は前年9月と比較して全般的に低い価格であった。特に肥料消費の多い米市場の生産者の間、前年と比べて、価格の暴落が最も顕著である。

表 37 肥料及び原料の国際価格 (1991年) 100kg FOB

品名	1984	1985	1986
アンモニア			
西欧	190 ~ 200	165 ~ 168	100 ~ 110
米国	176 ~ 180	140 ~ 145	80 ~ 83
硫酸			
西欧	60 ~ 67	60 ~ 68	36 ~ 38
米国	65 ~ 75	55 ~ 60	30 ~ 31
尿素			
西欧	168 ~ 173	95 ~ 105	97 ~ 98
米国	175 ~ 185	104 ~ 110	81 ~ 90
塩化カリ			
西欧	83 ~ 85	82 ~ 91	75 ~ 80
米国	83 ~ 80	78 ~ 80	65 ~ 68
燐酸 (100% P ₂ O ₅)			
米国	310 ~ 315	240 ~ 250	250 ~ 260
南アフリカ	315 ~ 320	310 ~ 320	310 ~ 320

出所: SIACSP

国産価格の推移は、86年2月末に設定された臨時増産策の下で、230粒の肥料にのみ消費者価格の最大限まで引き下げられ、後日139粒に引き上げられた。このように臨時価格が設定された製品以外の肥料や土壌矯正剤については、86年2月27日現在の価格で凍結されている。

表 35 肥料臨時価格の推移

品名	小売価格 円/kg
単一肥料	
尿素	2,735.90
NITRATO DE AMONIO	2,021.51
NITROCALCIO	1,660.70
硫酸アンモニア	1,929.79
重過硫酸アンモニア	1,883.76
空過硫酸アンモニア	3,580.16
DAP	2,648.41
MAP	2,982.31
塩化カリ	2,418.12
混合肥料 (NPK)	
02-30-10	2,856.57
03-15-15	2,157.35
04-14-08	1,912.47
04-30-16	3,200.88
05-25-15	2,868.67
10-10-10	2,095.66
12-16-12	1,977.95
19-10-19	2,587.02
20-05-20	2,307.63

出所: CIP

このように価格統制により、中央-南部地方の各州において生産者が支払った主要5品目（塩化カリ、硫酸アンモニア、重過硫酸アンモニア、空過硫酸アンモニア）の86年8月現在の価格と、1年前の価格に比べて53.2%~128.3%の上昇であり、この間、輸入品をばり下回る価格で売れた。

表 39 肥料及び石灰価格（臨時価格）比較（1985年10月1日現在）

品名	価格 円/kg		増減	
	85年8月	86年8月	名目	実質
塩化カリ	1,463	2,420	65.4	- 26.7
硫酸アンモニア	1,265	1,930	52.6	- 32.3
尿素	1,596	2,760	72.9	- 29.7
重過硫酸アンモニア	829	1,693	98.5	- 12.4
空過硫酸アンモニア	1,771	3,440	94.2	- 19.1
石灰	58.58	135.25	75.8	- 22.3

出所: FAO, ICN

1986年度の国産生産量は、117.5年割と近い統計は発表されていないが、1~7月間の統計で見ると、今年度は前年とほぼ同等であり、肥料需要の増加が顕著である。この間、N、P、Kの中で最も生産量の増加が見られるのは、硫酸アンモニアで、前年を5.7%上回る652.6千トン、硫酸アンモニア、空過硫酸アンモニア、尿素、NITRATO DE AMONIO、及び石灰の生産減により、前年を14.7%減らす390.3千トンと減少した。

他方 86年1-7月間に於ける肥料の輸入は前年と22.2%増加した733,341トンであった。このうち主要肥料の輸入は20.2%の増加。燐酸肥料の増加率は更に大きく75.9%の増加であった。塩化カリは86年度も国産が全般的に輸入に依存している。この期間中の輸入は前年同期と22.0%の上増であり肥料輸入全体の85.4%を占めている。草料の方も輸入の増加が記録されている。例外として2-7月の輸入はこの期間中に5行を減少している。

表 40 1986年1-7月間の生産及び輸入 1000トン

地域別	肥料別	生産量		輸入量	
		1985(1-7月)	1986(1-7月)	1985(1-7月)	1986(1-7月)
北部・東北部	N	185.5	157.6	14.8	17.8
	P ₂ O ₅	5.9	8.2	13.3	23.4
	K ₂ O	-	-	68.7	73.2
	小計	191.4	165.8	96.8	114.4
中部	N	205.2	203.2	33.2	40.3
	P ₂ O ₅	496.0	521.3	-	-
	K ₂ O	-	-	387.6	453.8
	小計	701.2	724.5	420.8	494.1
南部	N	19.3	30.1	8.6	7.5
	P ₂ O ₅	113.3	123.0	-	-
	K ₂ O	-	-	90.2	113.1
	小計	132.6	153.1	98.8	120.6
全国計	N	410.0	390.8	56.6	65.6
	P ₂ O ₅	611.5	652.6	13.3	23.4
	K ₂ O	-	-	506.5	642.0
	小計	1021.5	1043.4	576.4	731.0

出所: SIACESP

86年度における国内生産及び輸入の増加にかかわる国内市場での取引量は1-8月間に前年と同レベルを保持した。大半の取引は6月の後半に集中したものと推定されている。このような結果を招いたのは、(1)政策の中、VBC(生産融資基準額)の決定が遅れたこと、(2)価格決定策が行った価格の凍結により、生産者が買収をせず、植体直前まで延びたこと、(3)理由として、このように取引は年度後半に集中するが、このように集中が輸送能力を超えて、現物の到着遅延、輸送コストの上昇等の問題に併発した。

このような供給上の問題と更に複雑化しているのは、生産者の肥料供給の遅延に相当している。協同組合や販売代理店が、価格決定策による消費価格の凍結と、利中と低められたため、その参加比率は本来の30%以上より20%に縮小していることである。

以上のような問題を招いた86年は、全般的な作物面積の拡大により肥料需要は数倍に前年の80万トンから8.5~9.0万トンに達したものと推定されている。このような需要の増加は、上述の作物面積の増加のほか、コーヒーの回復の拡大、換算の増加、それに小麦と大豆の栽培面積の拡大による。

で賄われると見られて理由とされている。

需要の増加は肥料に必要とする農業用石灰においても見られ、特にバングラデシュの場合前年比12%の増加とされている。

今後の予想として、政府が86年に設定した86~89年度の農業生産3年計画によ、この期間中に生産は27.7%増加するとの見通しがある。肥料部門では肥料及びその原料の生産増大と共に大量の輸入増加が考えられる。国内の大半の工場は現在すでにその設備能力を最大限度まで利用しているため、輸入への依存は押さえることが国内での工業部門に与える打撃を軽減し必要とされている。

一方、配合肥料工場は現在保有している12万トンの能力の中、25%が遊休状態にあるため、この程度深刻ではないが、需要が季節的に集中するから輸送能力の配分と行方など不安がある。従って、農業者の肥料に十分の貯蔵的余裕をもたせ購入するよう、そのための適切な農業政策を明らかにする必要がある。

このように情勢は急変している。ANOA（肥料及び農業用石灰普及協会）では政府の内部体制に及ぼす国家肥料部門内策計正に作成中であり、87年3月に作業計画が完了する予定とされている。

2.2.2 農業

年次	生産量	前年比%	輸入量	前年比%	輸出货量	前年比%	推定消費量	前年比%
1975	22,441	—	39,659	—	1308	—	60,592	—
76	18,450	(-) 17.8	38,686	(-) 2.5	2,171	44.0	54,965	(-) 9.3
77	31,364	70.0	39,736	2.7	2,367	9.0	68,734	25.0
78	45,534	45.2	38,065	(-) 4.2	3831	61.8	79,768	16.0
79	53,902	18.4	36,228	(-) 4.8	10,140	164.7	79,900	0.3
80	48,477	(-) 10.1	40,799	12.6	8308	(-) 18.1	80,908	1.2
81	45,814	(-) 5.5	23,555	(-) 42.3	10,000	20.4	59,369	(-) 26.7
82	41,297	(-) 9.9	15,536	(-) 34.1	14,000	40.0	42,533	(-) 23.4
83	45,375	9.7	10,805	(-) 30.5	21,790	55.6	34,390	(-) 19.2
84	57,233	26.1	14,027	29.8	15,957	101.26.8	55,303	60.8
85	56,116	(-) 2.0	12,105	(-) 6.6	17,056	19.4	50,165	(-) 9.3

出所: CDI (1975-1983) SINDAG, ANDEF (84, 85)

農業の国内生産量は79年に54千トンに達した所、80年に27千トンに減り、81年に41千トンに落ち、84年に44千トンに達して最高の記録を作った。85年は前年より12%減ったものの56千トン

の生産は維持された。85年度は前年比生産の減少は南東、南部地方の長期乾涸による。表果の中殺菌剤の需要が減少したためであった。しかし殺虫剤及び除草剤はそれぞれ0.8%及び1.5%の増加であった。

表果の輸入は殺虫剤において増加、殺菌剤は除草剤が減少した。85年全体は前年比11.6%の減少と見られる。有効成分は13.1千トンの輸入であった。

他方表果の輸出は殺虫剤、殺菌剤、除草剤のすべてに比べて前年より19.4%増加して19.1千トンに記録されている。輸入の減少、輸出の増加は国内生産能力の増進に寄与したのである。表果の国内生産は増大している。

表 42 表果剤 生産消費量 1984/85年対比		トン	
品名	1984	1985	増減
殺虫剤			
輸入	5,581	5,731	6.6
国内生産	12,565	12,672	0.8
輸出	1,100	771	-128.1
生産消費量	17,046	17,632	3.6
殺菌剤			
輸入	2,789	2,034	-122.0
国内生産	20,300	18,716	-7.8
輸出	4,978	5,729	15.1
生産消費量	18,311	15,021	-18.0
除草剤			
輸入	5,437	5,120	-5.8
国内生産	24,368	24,728	1.5
輸出	9,879	12,536	26.9
生産消費量	19,926	17,312	-13.2
合計			
輸入	14,027	13,105	-6.6
国内生産	57,233	56,116	-2.0
輸出	15,957	19,056	19.4
生産消費量	55,303	50,165	-9.3

出所: SINODAG ANDCF.

最近の表果需要は、81~83年に低迷した後、84年に回復しており、他の経済部門と同様の傾向である。しかし84年には大豆、綿、小麦の類に害虫の被害が増加したため、販売代理店や農協が在庫補充のために購入を行った。輸出が増加した点では、前年比需要の増加のみならず、中でも除草剤においてその傾向が強かった。

全国農薬協会(ANDCF)によれば、85年の登録量は84年にほぼ同等のレベルであり、登録量そのものは前年より2.8%増加した。128,741トンの有効成分に対して2.6%増の51.5千トンであった。これは登録全額の実効量は前年より11.4%減少しており、表果販売量が少なかったため、表果剤価格に比べて

表1 価格のレベルが高かったことを示している

表1の取引量と製品生産とを比較すると85年にはすべての種類について前年比増加となつてゐる。有効成分のみは殺虫剤のみが前年比15.5%の増加をみだす以外はすべて減少している。

表 43		農薬の取引量及び金額			
区 分		1983	1984	1985	85年対前年増減
取引量、製品生産量(t)					
殺虫剤		32,236	45,625	47,168	3.4
殺菌剤		2,254	4,162	4,479	7.6
殺線虫剤		8,839	9,628	10,161	5.5
殺草剤		26,674	23,185	24,039	3.7
除草剤		35,421	42,656	42,867	0.7
計		105,424	125,156	128,714	2.8
取引量、主要成分(t)					
殺虫剤		8,462	12,722	14,694	15.5
殺菌剤		761	1,265	1,212	-4.2
殺線虫剤		454	179	109	-39.1
殺草剤		16,796	14,780	14,610	-1.2
除草剤		17,888	21,278	20,907	-1.7
計		44,350	50,224	51,532	2.6
製品1t当り価格(CR1000) (実質価格)					
殺虫剤		26,869	28,276	26,474	-6.4
殺菌剤		44,810	38,327	48,575	26.7
殺線虫剤		4,615	4,023	3,412	-13.2
殺草剤		29,337	26,288	24,265	-7.7
除草剤		57,859	52,503	47,992	-8.6
計(平均)		36,299	34,614	32,176	-7.0

出所: ANDEF, IEA.

国内の地域別農薬消費は、次表に示す通りである。これは85年の総取引量の90%が中央南部地域に向つており、東北地域が9%、北部地方への取引量はわずか1%である。又州別では、サントパウロ州の取引量が最も大きく、全国取引量の38.0%を占め、パラナ(18%)、ミナスジェリス州(17.%)が次いでいる。この3州は国内でも最も農薬技術水準の高い地域であり、これらの農薬の使用度も高い。

表 44	地域別 農薬取引量、1985年	1000t.		
地域別	殺虫剤	殺菌剤	除草剤	計
北部地方	0.3	0.1	0.2	0.5
東北地方	6.7	2.5	2.0	11.2
(パラナ州)	(5.6)	(2.2)	(0.5)	(8.3)
中央南部地方	59.8	21.5	49.7	131.0
(サントパウロ州)	(21.3)	(13.0)	(9.7)	(44.0)
(パラナ州)	(7.3)	(3.6)	(10.2)	(21.1)
(ミナスジェリス州)	(7.4)	(1.2)	(12.3)	(20.9)
(リオデジャネイロ州)	(9.0)	(1.6)	(1.7)	(12.3)
全国計	61.8	24.0	52.9	138.7

出所: ANDEF, SINDAG.

農薬の消費と作物別にみると使用率がもっとも高かったのは殺虫剤でその被害を受けたかんきつ類が全体の31%、大豆23%、綿12%の順となる。殺菌剤とが同じかんきつ類で35%、ジャガイモが15%、コヒ-10%の割合となっている。又除草剤は大豆に被害を受けた面積が全体の36%を占めており、お茶で27%、ジャガイモ16%がそれに続いている。

作物別	殺虫剤		殺菌剤		除草剤	
	84	85	84	85	84	85
大豆	9.2	9.0	-	-	16.8	15.9
綿	9.1	6.9	-	-	1.1	1.5
かんきつ類	2.7	9.0	5.7	2.2	9.2	9.1
煙草	2.5	5.6	2.5	2.7	0.1	0.1
コヒ-	3.0	2.9	2.3	2.4	1.2	0.8
ココア	4.0	3.7	0.5	1.8	0.1	0.1
ジャガイモ	2.5	2.9	2.7	2.0	9.2	9.1
お茶	2.5	1.4	-	-	8.6	9.2
小麦	1.5	0.7	2.9	2.0	0.8	1.1
米	2.3	0.3	2.4	2.2	2.1	2.3
その他	12.1	9.4	2.2	5.7	6.4	5.7
計	59.4	61.8	23.2	24.0	42.6	42.9

出所: ANDET, CINAAG

1986年度の農薬市場は前年より11月までの間に上半期の交際に伴って農薬取引量は全体で前年同期より12%の減少である。殺菌剤は前年比増40%、殺虫剤と除草剤は減少しており、殺虫剤の中からは殺菌剤の前年比に41%の減少と大きな落ち込みがあった。

このように農薬の全額面をみると86年上半期の売上高は269.5百万円、前年比に63%、内訳として殺菌剤の売上は46%増40%、殺虫剤は159.5%、除草剤は35.6%、殺菌剤は112%と前年比で大きく伸びている。

86年度におけるこのように全額面での減少は、売上高の減少と反映している。これは前年に農薬使用量が異常に増加したかんきつ、大豆及び綿の消費量が平常に戻ったためである。その他、塩素系農薬の取引量が減少したことも原因となる。又86年の特徴として、経銷政策による価格の凍結されたため生産者の農薬の買入れを促す（インフレ近中の時に価格が上がる前に買おうという傾向が強かった）冬作に合わせた分には止めた。またVBC（塩素系基準額）の発表が近かったため生産者の購入計画も遅れたことなどが加えらる。

86年上半期における農薬の取引量及び全額面は前年同期と比較したものが次の通り。

表 46 農薬取引量及び全額 1985/86年比較 (1-6月)

農 薬	取引量 (長細字) 1000 t			取全額 1000,000		
	85	86	増減 %	85	86	増減 %
殺虫剤	22.0	22.6	- 13.0	84.9	83.0	0.3
殺菌剤	2.5	2.1	- 15.3	17.4	15.3	- 12.0
殺線虫剤	0.9	2.9	- 01.2	29	1.2	- 57.5
殺菌剤	12.6	10.7	17.3	60.8	88.7	45.9
除草剤	15.2	11.1	- 25.7	112.4	76.2	- 35.6
計	61.1	53.6	- 12.1	284.4	264.5	- 6.3

出所: ANDR

86年度の農薬取量は 2月中旬に 40%の調整が行われ、その後 7月、8月の調整を経て、2月末に最終調整による求量を算出された。更に 7月の始末に、改定 CIP (省物産統制局) による価格の統制が行われ、その価格が 2月末の農薬価格を下回るレベルに設定されたため、価格の前半のレベルに大きく下地。農薬生産者への影響は、M-C、販売代理店、農協等の利益に圧迫し、及び行向に不況を生ずる問題に起因。

農薬の取量方法に工夫が、生産者の直接取量方法と、販売代理店、卸商、農協による方法の 3つの形態を持つ。前者の比率は 17%、販売代理店、卸商の 50%、農協の 33%の割合となっている。

表 47 85, 86年の農薬価格 (6月価格)

商 品 名	単位	85 年 価 格			86 年 価 格		
		1985	86	増減 %	1985	86	増減 %
殺虫剤							
AZODIN 40	L	47.80	48.70	10.5	131.70	98.70	(-) 25.1
AMOUSH	L	297.00	720.00	142.8	818.28	720.00	(-) 12.0
CARVIN 80 PM	Kg	58.60	137.00	132.8	61.15	137.00	(-) 15.1
APTREL	Kg	26.60	99.30	85.3	72.29	49.30	(-) 32.7
FOLIOL 60	L	35.60	68.40	92.1	98.08	68.40	(-) 30.3
PARATHION 60	Kg	33.20	66.70	100.9	91.87	66.70	(-) 27.1
TAMARON 600	L	53.20	106.00	92.0	152.08	106.00	(-) 30.3
殺菌剤							
ANTHACOL 70 PM	Kg	26.30	61.60	134.2	72.46	61.60	(-) 15.0
BENLATO 50 M	Kg	150.00	292.00	94.7	413.27	292.00	(-) 29.3
JOHRE SANDOZ 50%	Kg	17.80	36.60	105.6	43.04	36.60	(-) 14.5
DITHANE M-45 PM	Kg	22.90	44.50	94.3	63.09	44.50	(-) 29.5
MANZATE 0.50 M	Kg	22.70	44.60	95.6	62.54	44.60	(-) 28.7
除草剤							
GRAMOXONE	L	55.00	111.00	101.8	151.53	111.00	(-) 26.7
TREFLAN	L	35.00	71.00	102.9	96.43	71.00	(-) 26.4

出所: DERAL - PARAN

86年の下半期には、検査官の不足、包装材の不足、価格統制による M-C 及び販売会社の利益の圧迫による製品の不足等の問題が生じた。先述の前半に 5% 程度の上昇が見られたが、86年に近い需要の増加は、有利な農薬取量条件、全国的な価格の増大によるものと見られる。

五、二、三 第 3

全国のヒメビロ改良種子の使用比率は作物毎に大に異なり、小麦の95%、大豆の92%と高く、比較的高い比率(65%)を示しているのは、米におよそ39%、フエイジョンには、20%程度しかなく、9%の使用率である。州別にみるとパラナ州とチカゴ州の除外で100%改良種子を使用している。その他に作物によっても高い使用比率を示している。このうち18%の州がブラジル、そのうちチカゴ州、ミナス・ジェライス州の場合に比較的高い使用率であり、農業生産技術がすすんでいて南東部地方において改良種子の使用比率が高くなり、他地域に勝る生産性が表れている。

10.1 全国的に、特に農業前線地域での使用比率が低いこと、作物による格差の大きい使用率は、その生産形態によること、すなわち、麦・稲・や、米の場合、資本の少ない零細農業者の割合が大きい改良種子の投資も少ないこと、この理由のほか、従来農業融資の貸付条件として改良種子の使用義務が免除（中銀決済 2006号）であったことも原因、影響している。

種子: 改良種子の使用量及び使用比率 85/86 年 使用量: 使用率: %

外 別	%		米		ライオン		ヒヨウニレ		大 正		小 手	
	ト	%	ト	%	ト	%	ト	%	ト	%	ト	%
11. グラシ、ド、ス、レ	-	-	44,760	33	610	10	22,670	80	325,960	95	105,000	95
サン、カ、リ、ナ	-	-	2,440	35	1,020	10	14,180	75	35,840	90	1,620	95
バ、ラ、ナ	12,480	100	2,150	35	2,600	10	34,080	80	195,840	95	161,500	95
サ、ン、バ、ラ、ロ	10,620	100	2,400	52	8,000	33	21,000	90	42,110	90	22,610	95
ゴ、ヤ、ス	1,850	80	12,120	35	175	5	8,800	60	58,820	90	70	95
マ、ワ、ト、ブ、ロ、ウ、ソ	350	80	4420	35	48	8	2,780	60	65,520	90	-	-
マ、ワ、ト、ブ、ロ、ウ、ソ、ド、ス、レ	1,880	93	2,860	35	50	9	3,360	60	117,580	90	18,200	95
ミ、タ、ジ、エ、ウ、イ、ス	2,630	80	9,570	35	980	10	22,450	75	30,060	90	1,600	95
その他	12,190		6,530		-	-	22,910		5,240		-	-
全 計	43,000	65	103,250	34	10,295	9	162,230	64	876,970	92	310,370	95

2/14. ETAC,

种子: 改良种子 (证明仔及检查者), a 生产量 5% 利

種子別	1933/34	34/35	35/36	36/37 中 秋平均	全年平均
棉	18,150	13,500	18,900	-	-
花生	5,530	10,640	2,200	9,050	55.7
米	3,760	7,600	2,040	4,400	35.4
小麦	6,030	7,330	7,800	7,560	48.7
油菜	9,470	7,600	13,600	13,220	73.8
(Yale)	780	840	1,120	-	-
大豆	10,960	10,000	7,600	66,620	89.8
小豆	8340	11,200	7,500	29,610	75.7

2. 2. DSMM, CARI, CCROSEM.

改定種子の証明付種子と検査済種子の2種があるが最近の傾向として81/82年度より左が開始された検査済種子の生産が増え、大半の作物について証明付種子と検査済種子が行われていた。これは検査済種子の生産に証明付種子の場合よりも各社の義務付けが前記化されたため、例えば検査も抽出検査のみ、公共のラボラトリーによる分析も免除されるなどの便宜があるためである。

86/87年度田の種子価格：フルード計画に沿って設定されており、最低価格保証制度による許容範囲内での価格調整が行われていた。この価格がフルード計画設定時点の価格（85/86年度分）の種子価格、1985年の価格を基準としていたが、州農務局の種子価格と民間の種子価格に開きが生じたためフルード計画以外でもとる持ち込みにあり、両者の間に開きが生じたためである。

種子に与える最低保証価格は、平均価格を大きく下回るものであり、生産者の満足を得るレベルでなく、たとえ低価格（30%）の場合でも最低保証価格の最低割合は価格の44%に止まる状況にある。

全体的にみて、特別の修正は必要としない限り、現在の状況は需要に応じて得るレベルにある。

表 50 種子：最低保証価格(86/87年度) C24

種子別	単位 kg	証明付種子	検査済種子
苜蓿	30	86.70	79.10
落花生	40	338.00	276.00
陸稲	40	158.00	130.80
水稲	40	176.80	145.60
フェイジョウ	40	334.40	276.00
とうもろこし (VAC)	40	102.20	85.60
" (30%)	40	113.20	100.80
大豆	40	120.80	117.60
ソルガム (VAC)	40	90.40	75.20
" (30%)	40	94.40	77.60

出所: CFP

表 51 種子：民間会社の最低価格 86/87年度 C2/15

種子別	価格単位 kg	1/4 減額	パラ	甘藷	ミカド	ミカド
落花生	40	-	-	500	-	-
陸稲	40	-	400	450	380	340
水稲	50	265	-	-	-	350
フェイジョウ	50	-	650	630	580	-
とうもろこし	40	440	440	420	430	400
大豆	50	285	280	290	290	300

出所: ETAC

表 52 種子：チニチ州産物の合算価格(注1) 円/俵

種子別	1俵重量	84/85	85/86	86/87
大豆	20	27.00	24.00	154.00
落花生	40	136.00	180.00	219.00
米	40	40.00	120.00	276.00
万葉草	40	102.00	240.00	400.00
とうもろこし(赤粒)	40	36.00	128.00	280.00
" IAC-1粒	40	28.00	108.00	220.00
" PEROLA粒	40	56.00	140.00	280.00
大豆	40	60.00	100.00	184.00
小豆	40	68.80	100.00	200.00

出所 DSMM.

2.2.4 農業政策 (トラクター)

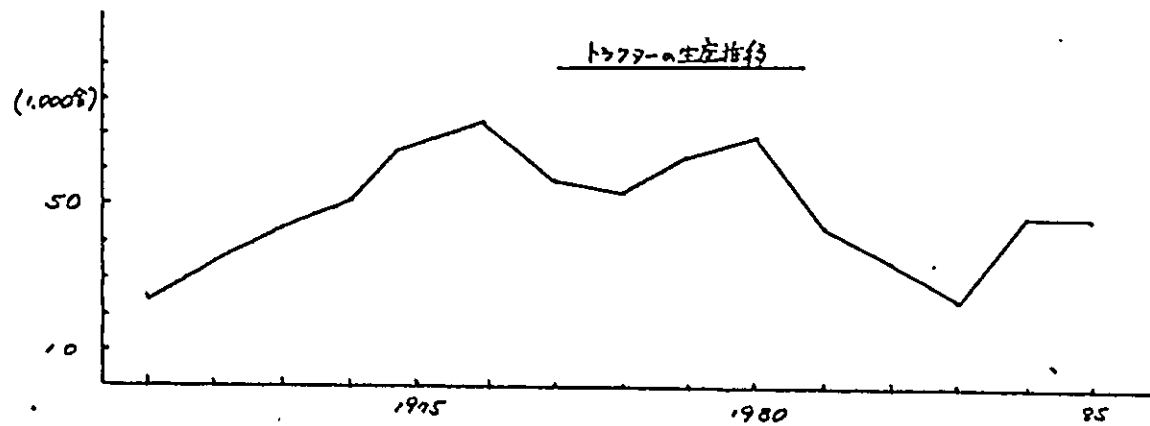
トラクターの国内生産は、国の経済政策と政策に直接の影響を受けた部門に、国産を開始して 60 年代の後半から今日まで急激な変遷を遂げてきた。この間、70 年代の中期に、国内生産の拡大に際して生産の増加が、76 年には最高潮に達して 75 万台に達した。このうち農業用 4.1 万台、トラクターの生産は 65 万台に達した。トラクター業界では、この需要増加の傾向が、オーストラリア内閣計画によっても更に増大すると予想し、これに対応するために政府は、完全な自由貿易の恩恵の下に、設備能力を年間 10 万台に拡張して来たと、需要の増大に備えた。しかしながら石油ショックに端を発した国内経済の悪化の中で、70 年代後半に入ると国際収支の急速な悪化とインフレの再燃に際して政府は金融の引き締めと余剰を削減、農業政策に際して補助の削減、その直接の影響として、金利の上昇と引き合わせ、業界に大きな影響を与えた。77、78 年には天候不順による農業生産の不振もあり、農業界の資本減少はトラクター需要の減少へと直結した。更に 80 年代に入ると全般的なリセッション経済の中でトラクター生産もわずか 26 万台に落ち、70 年代の中期に予想した 10 万台の生産は実現されず、今日の状況である。

このように経済と社会トラクター業界が、およそ景気と同様に振る舞ったのは 84 年に入ってからで、リセッションに脱却して経済が全般の回復と共に合意生産の復活がみられた。そのうち生産台数は 83 年の 26.6 万台より 49.8 万台へ 87.3% の増加、国内市場への販売額、輸出額もそれぞれ 73.4%、及び 69.2% と大幅な増加を示した。この成長の要因は、上述の一般情勢のほか、農産物価格が有利に振舞ったことと、長期に亘って使われてきた古い耐用年数の越えてきたものが多く、更新の時期に来たことと、そしてトラクター部門特有の理由として、ついでに示される。

表 53 トワフ-の生産、販売推移

項目	1981	1982	1983	1984	1985	85/84	85/81
4輪トワフ-							
生産台数	38,013	29,379	21,949	44,687	42,676	- 9.5	12.3
国内販売台数	26,913	23,571	21,809	40,849	39,982	- 2.1	48.6
輸出数量	10,042	6,231	1,883	3,291	3,275	- 0.5	- 67.9
販売計	36,955	29,802	23,692	44,140	43,257	- 2.0	17.1
2輪トワフ-							
生産台数	4,548	5,364	3,212	2,595	3,300	27.2	- 27.4
国内販売台数	4,724	5,157	2,496	2,566	3,139	22.3	- 33.6
輸出数量	179	59	103	213	259	21.6	44.7
販売計	4,903	5,216	2,599	2,779	3,398	25.9	- 14.5
3輪トワフ-							
生産台数	1,329	767	663	1,155	1,238	7.2	- 6.8
国内販売台数	1,191	1,091	687	1,103	1,261	14.3	5.9
輸出数量	31	8	2	7	19	171.4	- 38.7
販売計	1,222	1,099	689	1,110	1,280	15.3	9.7
トワフ-							
生産台数	3,153	1,900	751	1,348	1,762	30.7	- 43.8
国内販売台数	2,393	1,503	877	1,198	1,600	33.6	- 33.1
輸出数量	297	329	221	227	216	- 4.8	- 45.6
販売計	2,790	1,832	1,098	1,425	1,816	27.4	- 34.9
合計							
生産台数	47,002	37,610	26,570	49,785	48,976	- 1.6	4.2
国内販売台数	35,221	31,322	26,369	45,716	45,982	0.6	30.6
輸出数量	10,449	6,627	2,209	3,738	3,769	0.8	- 64.6
販売計	45,670	37,949	28,578	49,454	49,751	0.8	8.7

出所: RNFNVEH



1985年のトワフ-生産は前年より1.6%減少した49万台であった。前年に比して伸びなかったのは農業機械の不振、伝統的に機械化が進んでいない大豆作における国産機械の下落、中南米の乾燥機不振、サバロ川全河川化組合による生産の中断などによるものと見られる。

86年に入ると2月末に行われた増産発表（フルガード計画）により消費者価格を抑え、共に生産コストの削減を図る措置がとられた。トワフ-の需要が高まった。供給側のV-6-1の過去最期における施設の遊休化から一部の生産活動が中止されたことや、新生産計画による大型の長期に亘る生産計画が実行されたことによる需要の増加に起因する見方となる。1～8月の統計で前年同

期に24%増加に止まった。これは国内需要が20.6%、海外への輸出が46.3%の増加であった。

表 5V トラック：1986年1-8月実績、前年比の増減

品名	1985(1-8月)	1986(1-8月)	増減%
生産量			
新車	1,956	4,293	119.5
中古車	1,055	1,534	45.4
4輪トラック	27,882	32,470	16.4
小計	30,893	38,297	24.0
国内販売量			
新車	1,851	4,049	118.7
中古車	930	1,415	52.1
4輪トラック	26,195	29,475	12.5
小計	28,976	34,939	20.6
輸出量			
新車	107	252	135.5
中古車	151	126	-16.6
4輪トラック	2,163	3,655	69.3
小計	2,421	3,933	63.3

出所：ANFAVCA

産業用トラックの輸出は国内市場需要の減速に悩んでおり、海外市場への活路を求め、始り同年に前年比の500台前後から、一帯に4,300台に輸出を伸ばした。また、輸出に9,500台に達するに成功した。この大量の輸出は82年に最後に海外市場の需給が減速し、83年に2万台以下に落ち、以後再び回復をみている。70年代後半、80年代前半には4万台生産レベルに達している。輸出先市場は南米の近隣国が圧倒的に多く、アフリカの一部の国、オーストラリア等がある。また、主要市場である南米の近隣国は、自国に十分な外貨事情がなく、輸入能力が低いことが最近の輸出不振の原因となっている。

表 5T 4輪トラック-輸出実績 1983年

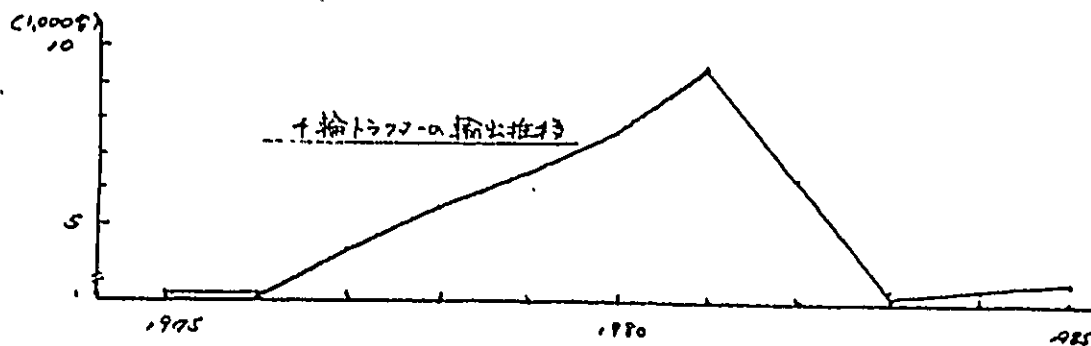
輸出先国	台数	金額 100万ドル
ボリビア	771	8.4
パラグアイ	631	6.2
ペルー	419	4.8
オーストラリア	29	3.6
ウルグアイ	218	3.1
チリ	289	2.3
ナイジェリア	162	2.0
象牙海岸	106	1.7
アルジェ	133	1.4
コロンビア	113	1.4
その他	488	4.6
計	3,579	39.5

出所：CACEV

表 56 ブラジルのトラクター輸出

年度	1トン未満	1トン以上2トン未満	2トン以上3トン未満	3トン以上4トン未満	4トン以上5トン未満
1980	8,823	545	357	94	7
81	9,553	410	182	2	-
82	6,325	748	68	1	-
83	1,893	221	103	2	-
84	2,578	267	251	3	1
85	3,579	261	238	-	-

出所: CACEX



86年8月の価格と1年前の85年8月の価格との間のインフレ率除外した実質価格と比較すると、価格低下の傾向が顕著にみられる。中でも最も重要な中型トラクターの価格変動が最も顕著で、年率30%の減少に6.2%、1トン未満のトラクターは13.1%の減少があった。

表 57 中央部地区の中型トラクター価格85/86年比較

モデル	85年8月	86年8月	増減率%	増減金額
エスウィット+タ	49,776.-	91,259	82.3	- 9.0
ノーススター+タ	57,222.-	91,635	60.1	- 29.2
サウススター	43,022.-	91,259	112.1	- 6.2
12トン	72,366.-	115,733	60.0	- 29.3
サウススター+タ	54,070	101,111	87.0	- 17.3
マクドナルド+タ	66,462	103,920	55.6	- 31.2
マクドナルド	69,000	124,045	79.8	- 20.5
コックス	67,719	104,914	54.2	- 31.8

出所: FGV, IEA

農産物のトラクター購入能力の指標となる農産物価格の下落は、前年と比較して顕著で、綿、大豆、小麦、コーヒの価格が著しく下落し、オレンジ、花生、砂糖、米、大豆、小麦は不利な状況にある。

表 58 トラクター (GHP) 1台を購入するために必要とする農産物の量

年度	オレンジ (箱 40kg)	大豆 (1kg)	綿 (15kg)	花生 (5kg)	砂糖 (1kg)	米 (60kg)	小麦 (60kg)	大豆 (60kg)	小麦 (40kg)	花生 (60kg)
1981	4,688	1,790	1,922	1,303	918	1,036	515	840	554	216
82	5,539	2,341	2,088	2,286	1,046	844	1,119	1,102	488	472
83	7,529	1,984	1,981	2,008	1,009	919	441	1,031	572	299
84	3,361	1,699	1,393	996	958	895	878	727	451	196
85	2,556	1,593	1,712	1,513	989	807	871	913	318	319
86	3,660	1,570	1,657	1,795	1,298	913	403	961	140	334

出所: IEA

2.3. 農地価格の推移.

最近の農地市場は、経済・社会環境の変化を反映し、大きな変化を観察される。農地価格の変動は、農産物価格の動向と、政策とに全面的に政策及び経済・社会情勢に影響を受けており、82-83年に金融引き締め政策下で農業融資の貸付条件が変更され、貸付利率が自己資金の貸付率より高くなり、また高金利により、農産物の市況が著しく悪化し、農産物の買取価格が低下したことが理由として農地価格の変動的な下落をみた。

1984年1985年に及ぶ 83/84年度は、各種農産物価格の上昇、とくにオレンジ、大豆、綿、小麦、牛肉等の値上がりがあったこと、政治的支援の受け、農地への投資が促進されたことにより、農地価格も反転し、1985年上半期に支那に政治的な不安定な環境の中で、農地改革の発表や農産物価格の下落など、土地価格の動向に不利な条件があったにもかかわらず、農地価格が逆に上昇した。

85年の下半期に、中央南部地区での長期乾燥により、被害や農地収量率の急激な低下により、中心部、172.33%、18.7%の減少、また、その中で、土地価格の下落のみならず、土地の総額に占める全般的に、名目全額で 282.7%~312.0%の範囲で上昇した。この期間中のインフレ率は、実質価格でも 14.1%~24.4%の値上がりであった。

1986年上半期に、政府は農業政策の調整策により、金融市場の投資に面白さを感じ、他に投資対象が求められ、不動産投資が増加した。同政策による農業部門内優遇策の中で、従来のコレクション（通貨価値修正）を廃止した低利の農業融資が非常に魅力的なものとなり、各作物とくに小麦、砂糖、ソルガム、ライム、とろろし等に作付面積増加の傾向があったこと、物価の暴落により、農産物価格と生産物価格との価格差が農業者に有利に展開したことが、農地の需要を増加し価格を押し上げた。86年上半期の農地価格は前年同期と比較して、農耕地が 329.3%、かんが 351.1%、牧草地 340.5% の名目価格の上昇であった。この間には、他の経済指標として、物価指数 175.5%、ORTN（価値修正付国債）14.1%、消費者物価 153.2% のいずれもも上昇しており、農地への投資が、むしろ収益性の高い方法となった。

この間、各地域別、及び主要作物の農地平均価格を示したグラフがある。この間のインフレを除いた実質価格と比較すると、全体におおむね価格の上昇が記録されており、農耕地は、18.7%の増加に際して、平均して値上りしており、中でも 172.33%の増加、実質的に倍増の上昇であった。

表 59 75年度の農地価格：地域別平均価格

農地別	地域別	85年上半期	86年上半期	変動率(%)
農耕地	北海道	861,07	3,530,41	40.8
	東北	1,165,59	6,498,07	102.3
	関東	5,508,17	27,009,87	78.0
	中部	6875,40	25,131,27	32.7
	関西	2,205,52	13,958,03	58.0
	全国平均	9,386,04	18,829,66	55.8
かん水地(灌漑)	北海道	150,56	679,69	63.9
	東北	545,68	3,122,85	108.4
	関東	2,268,50	11,851,96	89.7
	中部	3,104,63	16,053,90	87.7
	関西	1,214,29	5,533,96	65.4
	全国平均	1,634,16	7,469,98	65.9
牧草地	北海道	610,48	2,483,21	47.6
	東北	947,06	5,018,97	92.4
	関東	3,424,06	16,685,56	76.9
	中部	2,508,42	12,244,16	26.7
	関西	2,199,17	9,189,96	51.7
	全国平均	2,466,39	10,365,28	59.9
マコト(森林)	北海道	219,10	1,295,27	123.8
	東北	534,29	2,595,21	75.6
	関東	4,208,53	20,276,91	79.9
	中部	3,478,77	17,116,91	78.6
	関西	1,450,18	6,489,27	62.4
	全国平均	1,471,07	6,778,78	67.3

出所：F&V, IEA

表 60 中部地方の主要農産物の生産価格

農産物別	地域別	85年上半期	86年上半期	変動率(%)
農耕地	小麦	3,556,46	20,927,02	113.6
	大豆	2,304,07	30,961,00	53.9
	とうもろこし	8,924,60	37,180,01	51.2
	米	5,885,78	15,896,00	20.0
	雑穀	5,551,56	17,484,78	14.3
	マコト	1,799,60	2,813,08	57.6
牧草地	小麦	2,546,33	13,700,78	95.3
	大豆	5,894,00	23,200,00	42.9
	とうもろこし	5,183,24	23,230,86	62.7
	米	3,198,12	8,864,33	0.6
	雑穀	2,902,67	10,049,33	28.2
	マコト	1,077,31	5,242,88	49.0
かん水地(灌漑)	小麦	1,318,22	8777,21	109.8
	大豆	4,149,00	18,300,00	60.2
	とうもろこし	4,551,03	19,877,69	58.3
	米	2,877,58	-	-
	雑穀	1,721,62	6,659,85	40.3
	マコト	633,36	3,004,03	72.1

出所：F&V, IEA

86年の各地域別及び市町村別の平均農地価格の推移は、各年度。土地と通じて南東部地域の価格が高、全国平均を上回っている。その中で、農地収率地と比べて、その南東部、特にその南部の農地の価格が最も高、これは、アマノセエ(北部)の農地よりも低い価格水準である。

市町村別の農地価格では、農業技術水準が高、拡大の余地が少ないバダナ州とサバダナ州において最も高く、農業面線地帯である大原上地を挟むマダ・ゴロソ州において最も低い価格水準となっている。

又、バダナ州に限らず、86年中にも大規模な変化がみられ、86年6月の市内平均土地価格が同年2月の価格に比べて、2.9%、2.9%、収率地 73.8%、植林地 73.4%、カンパ 83%と値上りしており、結構なペースで農地価格の反転がみられる。中でもカンパの値上り率が最も高かった。農地価格の反転は、この農地価格に反映する傾向がカンパから求められ、これは、又、サバダナ州内においても各区域別土地価格の間にも大きな差がみられる。例として、86年6月の1級地平均価格を1haあたり 224,900.-と仮定すると、海岸地帯では 13,400.-、カンパでは 57,000.-である。このように価格差は、内地帯における技術開発レベル、経済的立地、既存のインフラ、開発計画等に関連するものである。

表 61 市町村別の平均農地価格 (1986年度)

地域別	1級地				2級地	
	2月	6月	2月	6月	2月	6月
海岸地帯	6,612	13,400	2,893	3,800	2,066	1,900
バダナ州	16,529	21,500	6,198	10,100	4,132	8,400
ソロナ	19,008	33,200	13,636	22,600	11,570	15,000
カンパ	38,328	57,000	23,967	39,300	17,142	34,600
バダナ州	26,446	48,000	18,595	32,000	16,529	29,200
バダナ州	21,809	36,000	13,636	24,900	9,090	18,500
バダナ州	18,595	36,300	14,050	27,200	9,917	23,800
アマノセエ	16,982	33,000	13,636	26,400	11,570	25,100
バダナ州	16,115	30,000	11,983	22,200	7,851	15,800
アマノセエ	22,724	41,000	15,702	23,500	10,743	19,300
平均	20,311	34,900	13,430	23,200	10,061	18,300

出所: IEA, CATI

資料: 農地価格

農地の価格と関係するとして、86年の上半期には前年同期に比べて、サバダナ州の価格が最も高く、これは、5.6% ~ 66.7%の上昇がみられる。価格水準も最も高いレベルであったものの、エスピリタサ州の 224,935.30 / ha / 年、最も低いレベルのマダ・ゴロソ州の 93,894 とある。また、1年間でも最も高い値上り率を示したのが、サバダナ州にあり、66.7%、これは、サバダナ州は前年よりも 14.9% 下回った。価格水準の傾向は、農地価格の動きと一致し、経済政策にも影響を及ぼす。

2.4 労働力の賃金

1. 賃金

全国に於ける製造業部門の平均賃金は、1984年度より、経団連の就業人口が50.3万人、そのうち製造部門は29.8%に相当する55.15万人に増加した。製造部門の平均賃金は、83年度27.1%、79年度22.5%であった。30%前後に増加した。

地域別	経団連人口と就業人口の比率、1984年		
	経団連全体	製造部門	製造部門の割合
第I地域（北海道）	4,833.3	279.0	5.6
第II地域（東北）	11,812.3	1,249.4	10.6
第III地域（関東・中部）	8,762.0	3,428.6	39.1
第IV地域（関西）	4,364.2	2,335.5	53.7
第V地域（中国・四国・九州）	2,775.4	913.6	32.9
中央部平均	34,547.2	8,197.1	23.7
全国平均	15,661.1	6,777.3	43.3
全国計	50,208.8	14,974.9	29.8

出所：PNAD

1984年には83年に比して経団連全体の人口増加率が3.6%であった。製造部門の人口は14.2%増加した。79年と84年間の6年間の推移をみると、逆に経団連全体の人口が13.7%増加した。製造部門の人口は4.3%増加した。79年と83年との5年間で経団連全体の9.7%の人口増加をみた。製造部門は8.7%の減少であった。

地域別	経団連人口の増減率 %					
	1979 ~ 83		1979 ~ 84		1983 ~ 84	
第I地域	9.5	29.0	10.1	34.6	0.6	9.3
第II地域	14.4	2.5	20.3	9.1	5.2	11.3
第III地域	110.7	117.0	8.6	117.9	2.3	1.1
第IV地域	13.8	16.6	16.6	19.5	2.5	2.5
第V地域	-	-	-	-	3.9	3.5
中央部平均	5.3	3.9	8.6	3.9	3.2	0.4
全国平均	9.7	8.7	13.7	9.3	3.6	14.2

出所：1986、PNAD

この結果は、1981年より83年にかけ、失業問題が製造部門にも波及し、製造部門の就業人口が減少した。経団連の回復がみられ、84年にはこの状況を回復させた。この年製造部門の就業率は経団連全体の就業率にほぼ同様のレベルに上った。

中央部では、84年の経団連全体の就業人口は34.5万人に達した。そのうち製造部門の比率は23.7%、83年の24.0%、79年に比して25%を下回った。

昭和35年～昭和44年。暴動で、オビ地域(カンパウ州)及びオビ地域(サマタラ州)及びオビ地域(サマタラ州)の農業部門就業人口。この地域は減少しているが、その他の地域では経済的全体に占められ、この地域は増加し、農業就業人口の増加であった。

支 66 中央-南地区の労働形態 % 1954年度

区 分	甲 区	乙 区	丙 区	丁 区	戊 区	计
给分另仍者	22.4	64.3	21.7	53.5	45.8	211.6
独立	13.4	11.9	31.2	21.4	32.8	250.0
庄田主	6.3	5.3	2.0	5.3	6.1	40.0
水租另仍者	7.9	18.5	85.1	19.8	15.3	293.3
计	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

出所: 1962, PNAD.

注：外！地域：115.4.37.10

オム地域 : サン・パウロ

第Ⅱ c : パラタ, ヴェラ, カマリナ, 1/2, プラ:ヤ:ト:2-16

ネトル、ミナズ、ジゴラ、エスボルト、サント。

77. . 201. 2001. 2001. 2001

散粒的勞働形態に 1) 給分労働者, 2) 独立労働者 3) 在田主 及び 4) 水取労働者

に合せて中央、南部地域の状況を觀察すれば、北地域（北海道）及び東北地域（中部）においては、給食開始者の割合が大きい。北地域（北海道）では、非就学児が大半を家族給食の比率が高くなる。明らかに分る。全体的に、最長給食力の中における給食開始者の割合が、41.6%、家族給食が29.3%残り、独立給食（清夏作生等）を用いる分である。二つ中、給食開始者の比率は、79年に34.3%、83年に40.4%とある。この傾向は、53年の最近の特徴である。二つに及ぶ家族給食の比率は、34.5% ~ 31.0% ~ 29.3%と減少しており、家族給食が減少するにつれて給食開始者に変わっていく。これは、近頃は、

表に於ける労働者の割合は増加したものの正式に登録された農業労働者の割合は1984年の統計では中部地域で正式に登録された労働者の割合と所有する労働者の割合は18%に過ぎず、全国では13.7%にとどまること推定される。中部地域の場合も従来農業地域で、外・内、外・内、外・内、及び工業を除く。同比率は19.2%となり先進農業地域に比して概ね登録した労働者の増加を示している。中でも比率が最も高いのは東北地域（関東甲信）で27.5%を占め、次に続くが工業地域（京・神・山梨）は21.5%、東北地域（南部三州）19.6%、工業地域（三河及び東三河）12%、工業地域9.0%の割合である。

ロ 炭林貸金

注：ワシントン・カレッジ経済研究所の分類による炭林貸金者5世帯～管理人、人天取、トラー-運転手、常備人天、及び日傭人天の中央南部地域における貸金率、1985年に前年比270%上昇した。この中で日傭人天貸金の値は11年が最も高く、240%であった。この炭林貸金者の平均名目貸金と最低賃金と比較すると炭林管理人の5倍、3.7倍(1076.53) 常備人天(456.00) 及び日傭人天の月間25日間働いた場合の月給(514.70)は最低賃金の1.6倍とあり

過去37年の貸金水準の推移及び1980年の貸金水準との比較をみると、84年度にはこの炭林部内では炭林部内へのより多くの炭林吸収がみられた。貸金水準は依然として低く、下降傾向にある。85年にこの前年開始された炭林吸収の加速化により炭林需要が増大し、この炭林貸金者の貸金支出が増加し、名目貸金と上昇して実質所得も向上した。しかし80年当時の貸金率と比較すると85年にはより実質賃金の向上も80年の水準に「及び」大きく開きを残している。更に75年度の賃金と比較しても110%に低く、この10年間に実質賃金が向上しなかったことを示している。

86年にこの2月に実施されたグランド・マウンテン実質賃金の向上のため、80年のレベルに戻っている。

表 67 炭林貸金者の貸金率の推移 貸金率 1980=100

年度	管理人 C24/A	人天取 C24/A	トラー-運転手 C24/A	常備人天 C24/A	日傭人天 C24/D
1975	2,516.7	1,609.1	1,551.5	1,058.6	47.5
1980	2,333.3	1,524.5	1,396.8	1,001.7	39.6
1984	1,812.9	1,178.2	1,083.7	772.4	27.5
1985	1,965.0	1,304.0	1,194.2	885.4	30.8
1985*	2,000.0	1,312.1	1,210.2	877.7	31.4
1986*	2,361.4	1,467.2	1,296.0	875.7	36.3

出所: PROGNOSTIC

中央南部地域平均

※ 2世帯

表 68 炭林貸金者の賃金率の推移 (増減) %

期間	管理人	人天取	トラー-運転手	常備人天	日傭人天
85 / 75	(-) 20.1	(-) 18.5	(-) 22.0	(-) 17.1	(-) 25.3
85 / 80	(-) 17.7	(-) 13.8	(-) 13.4	(-) 14.9	(-) 19.9
85 / 84	10.9	11.4	11.7	13.6	18.3
86 / 85	20.2	12.5	8.5	1.1	15.5

出所: PROGNOSTIC

中央南部地域

3. 1982~1986年生産流通事情

3.1 穀類

3.1.1 とうもろこし

イ) 生産

表 31 とうもろこし、1986年収穫

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	バグ	2,300.0	4,300.0	1869
2	ミナス・ジェライス	1,559.3	3,266.2	2095
3	サン・パウロ	1,280.0	3,093.6	2,417
4	ゴマ	926.1	2,464.4	2,661
5	サンタ・カタリーナ	723.9	1,951.3	2,112
6	リオ・グランデ・ド・ノース	1,525.4	1,937.6	1,270
7	マト・グロソ	273.7	529.1	1,933
8	ピタゴ	444.2	351.3	771
9	マト・グロソ・ド・ノース	163.2	220.7	1,365
10	その他	3,069.2	2,275.3	748
	合計	12,465.0	20,509.5	1,645

出所: I.B.G.E.

85/86年度のとうもろこし生産は植付後の85年後半に中央南部地方で長期乾旱の被害を受けたことにより植付後から地域での被害が、未植付地帯でも植付直後により大被害減産が予想されたが、乾旱の時期と近づく時期に入ったものの天候の転調により、雨期が長びいたため、一部播種遅れ地帯を含む被害地域が回復し可能としたほか、1月の遅播き合当面積を拡大することによって当初の米穀的予想(約185万トン)を再び変更され200万トンに超す可能性が期待されることになり、結果的に前年を7%減少したものの20.5万トンの生産量であった。収穫された面積は12.5万haで前年を5.6%上回ったことにより平均単収は84/85年度の1,866kg/haより85/86年度は1,645kgに落ちたこと、当初の長期乾旱による被害の広範囲に及ぼされたこと、主要生産地帯の生産環境の悪化とミナス・ジェライス州を除く平均単収を低下させ、結果的に生産量を減少させた。

表 32 とうもろこし、過去5年間の生産推移

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バグ	5,430.0	5,018.9	5,400.0	5,803.7	4,300.0
2	リオ・グランデ・ド・ノース	3,147.2	3,178.8	3,567.4	3,558.6	1,937.6
3	ミナス・ジェライス	3,053.8	2,696.0	2,563.6	3,015.1	3,266.2
4	サン・パウロ	3,392.4	3,164.0	2,866.7	2,900.9	3,093.6
5	サンタ・カタリーナ	2,528.7	1,687.3	2,345.2	2,159.0	1,951.3
6	ゴマ	1,922.1	1,222.9	1,721.2	1,690.8	2,464.4
7	その他	2,291.2	1,277.9	2,710.1	2,889.0	3,496.4
	合計	21,865.4	18,743.8	21,174.2	22,017.1	20,509.5

面積	1000ha	12,601.3	10,742.0	12,205.2	11,801.7	12,465.0
----	--------	----------	----------	----------	----------	----------

国内最大の生産地帯を持つパナマの通常収量（オ1収量）とサリンニヤのサリンニヤ通常収量（オ2収量）に比べて、通常オ1収量はオ2収量より大きく、85/86年度は当初5.98トンに達した。しかし、オ1収量は乾燥の度合いが大きい減少（2.95トン）に落ちた。価格上昇を予想して、オ2収量面積は前年の144%増に拡大、両期の延長により、平均は2,596kg/ha（オ1収量は1,706kg/ha）に達し、1.35百万トンの収量を待た

中央南部地区で獲った長期貯蔵の収量に対し政府は次の緊急援助策をとった。

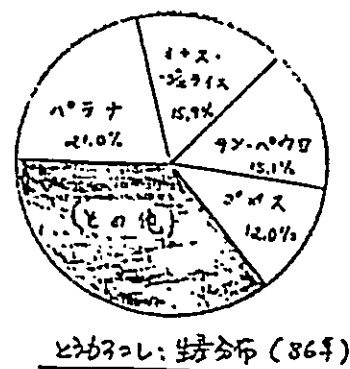
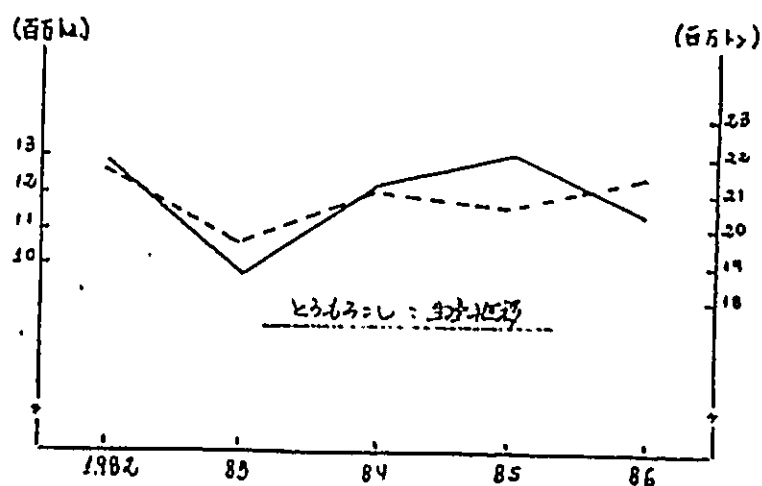
- 穀物、及び貯蔵期限を1月15日までとし、最低価格保証制度にもとづく基準価格のインフレに合わせた毎月調整を6月まで延期する
- 投資の促進に資する政策の促進及び85/86年度の生産融資の50%の償還期限を1年間に延期する
- 農業保険制度の事務処理を簡素化する。

政府によるこのような措置も、とうもろこし生産者が小規模によるものと占められ、銀行融資や最低価格保証制度を利用し得ないものが多い。その結果的の措置とされている。

表 7/1 とうもろこし主要生産地の収量

州	別	1982	1983	1984	1985	1986
パナマ	ト	2,385	2,125	2,207	2,488	1,869
コロン	ド・スー	1,700	1,785	1,894	2,039	1,270
ミナス	ジェラ	1,845	1,888	1,666	2,004	2,095
サソ	パウ	2,549	2,600	2,337	2,530	2,417
サソ	カリー	2,371	1,588	2,506	2,316	2,112
ゴ	ス	2,180	2,183	2,214	2,303	2,661
全	国	17,335	17,445	17,335	18,666	16,455

出所: FAO, E.



④ 国際市場とマニラの輸入

表 23		とうもろこし：世界の生産と輸入				100トン
国		83/84	84/85	85/86	86/87	
生産国						
米	国	106.0	144.9	225.2	208.8	
中	国	68.2	73.4	63.8	71.0	
米	欧	33.4	35.3	34.1	36.9	
E	C	21.8	23.1	23.5	24.3	
ブラジル		21.0	22.0	20.0	22.5	
ソ	連	12.0	12.5	13.5	15.0	
アルゼンチン		9.2	11.5	12.3	12.5	
メキシコ		9.3	9.9	10.5	10.0	
南アフリカ		4.0	7.8	8.0	9.0	
マ	イ	4.0	4.4	5.2	4.2	
その他		56.9	62.1	62.9	64.5	
計		346.2	457.1	481.1	478.7	
輸出						
米	国	47.4	46.7	31.1	35.6	
アルゼンチン		5.9	7.0	7.4	8.0	
中	国	0.4	5.2	6.0	5.5	
マ	イ	3.0	4.0	3.7	4.9	
南アフリカ		0.1	0.5	1.2	2.0	
その他		7.0	4.0	9.3	5.0	
計		63.8	68.4	52.7	59.0	
輸入						
日	米	14.5	19.0	14.7	15.6	
ソ	連	9.5	20.3	9.7	11.8	
E	C	9.8	9.1	4.9	4.6	
韓国		3.3	3.0	3.7	3.9	
台湾		3.0	3.0	3.2	3.3	
メキシコ		0.5	1.7	1.8	2.5	
米	欧	1.9	1.4	0.2	2.6	
その他		16.3	13.9	13.7	14.6	
計		68.8	66.4	53.7	59.0	
世界在庫(期末)						
米	国	256	41.9	102.6	140.0	
その他		14.6	18.6	19.9	18.6	
計		270.6	60.5	122.5	158.6	

出所: USDA

米国農務省が行った推定によるととうもろこしの世界生産量は 83/84 年度より 85/86 年度に11億トン増加し、85/86 年度には 481億トンに達した。86/87 年度に米国の作付面積が1800 平方キロ増え、7.3% 増え、見通しである世界の生産量は 478.7 億トンに下降が見えられ、前年と比較すると 1.05% の減少である。前年のレベルを維持するものと見られる。しかし米国の貿易上の競合国である中国、アルゼンチン、南アフリカ連邦等の増産によってカバーされるものがある。

とうもろこしの世界在庫は 85/86 年度に大きく後退したと、86/87 年度には、同様に世界の在庫量は再び 60 億トン近くに達する見込みである。上述に示す通り、世界の在庫は連続した輸入動向

と米国の輸出余力によることが大きい。米国の国内消費量の飼料工場への需要に比べて、3ヶ
月間増加を記録しているが、そのうち期末在庫は急激に増加しており、前年のストック量は36%増
加した。84/85年度平均の貯蔵量は87年9月に推定された世界在庫(158.6百万トン)の88.3%と見
込まれている。世界供給量の増加は国内価格を押し、米国の生産者価格は前年より19%~30%下
がるブレイクダウンUS\$1.65~1.90に落ちている。

ブラジルは世界的な大豆生産国であるが、生産の柔軟性が低いと国内消費量が大きいため、輸出を行
ない。輸入国に頼っている大豆を供給確保に注力している。輸出は81/82, 82/83, 83/84の3年
にわたって180~230万トンの規模で行われていた(=国内82/83年には約500万トンの輸入が行われた)
84/85年度には国内供給不足のため約200万トンの輸入を行っており、85/86年には国内生産の減少に
加え、牛肉不足による養豚、養豚飼料の需要増加により、国内供給能力に大きく不足が生じているため、大量の
輸入が行われている。

86年度の輸入量については現時点で発表されていない。86年9月までの実績で164万トンに抑えられて
おり、11月までに更に40万トンの輸入許可が下りた。穀物の国内供給政策に相当している
CFP(生産調整公社)では国内需要への対応と価格の高騰を避ける調整手段としての輸入政策を
採る。84/85年度の収穫が開始された直前の87年1月までの国内ストックは270万トン、2月末のストック
は378万トンに達している。これは前年より2月時点で200万トン以上の輸入が必要とされている
ことが予想される。85/86年度におけるブラジルの輸入量は360万トンに達するが、これはブラジルにとって
最大の大豆輸入国となる。中でもEC、韓国は次に輸入国となることを目指している。

1) 国内市場と価格

86年度の大豆市場は混乱した状態の中を終結した。大豆価格の急激な暴落に
打撃を受けた者により、85/86年度収穫の180万トンに下回ることが予想されている。この
価格の暴落は86年1~2月の価格を押し下げた。しかし、乾燥期が続く2期に入ると
天候が順調に推移し、大豆の生育がよいため、生産見込みは次第に回復し
結局前年とほぼ同じ水準の200万トンに上回る生産が予想され、価格も安定に向かう。

しかしながら、収穫が徐々に進んでいる7月頃には、結局安定的な価格の形成は、大豆が
自体による牛肉の供給不足が顕著になり、牛肉の価格が暴落した中で、代替品としての豚
肉、豚肉の需要が高まり、養豚、養豚飼料の需要が急激に増加することになった。

その傾向を牛肉の供給に同様に、11月頃より続いたが、飼料高騰に支えられ、この価格は上昇を続けた。この間、飼料は、高騰を避ける手段としての大豆の輸入が行われ、8月以降、大豆の政府発売分（AGF）と合して市場に放出された。

価格の高騰が抑えられ、他の理由として、2月末に実施された価格政策による、物価の凍結で、とうもろこしと飼料とが、最終製品の価格が凍結されたことがあげられる。この措置は、この製品の飼料高騰を減らし、生産者受取価格の上昇を抑える作用を働き、更に、貯蔵コストの利用が困難を招き、CFPの買付けも、受取不足により中止された。これも生産者にとって不利な要因として挙げられる。

このため、環境にあり、とうもろこしの国内消費量は前年と10%に迫るまで減少した。

CFPに支えられ、とうもろこしの高騰抑制及び、サトウキビにおける生産者受取価格の推移を、次表及びグラフの通りである。

表 73 とうもろこしととうもろこし由来の飼料の需要 (1,000ト)					
項目	1981/82	82/83	83/84	84/85	85/86
期首在庫	1,327.7	1,823.4	823.5	2,121.0	2,442.1
生産量	21,603.7	19,014.1	21,177.5	21,231.0	19,870.0
(中央部地方)	(20,138.6)	(18,438.7)	19,475.3	19,422.0	
(北部東北地方)	(1,465.1)	(523.4)	1,802.2	1,809.0	
輸入量	-	465.0	-	200.0	(1) 1,500.0 (2) 2,122.0
供給量計	22,996.4	21,302.5	22,001.0	23,552.0	25,934.0
国内消費量	20,609.0	19,749.0	19,700.0	20,100.0	22,154.0
輸出量	543.0	738.0	180.0	-	
期末在庫	1,823.4	823.5	2,121.0	3,452.0	3,780.0

出所: 81/82 ~ 84/85 CFP PRECO MINIMO ESTUDOS TECNOL.

(1) 85/86 11月15日 PRODUÇÃO 86/87 中 CFPの増減が発表された。増減の増減は、

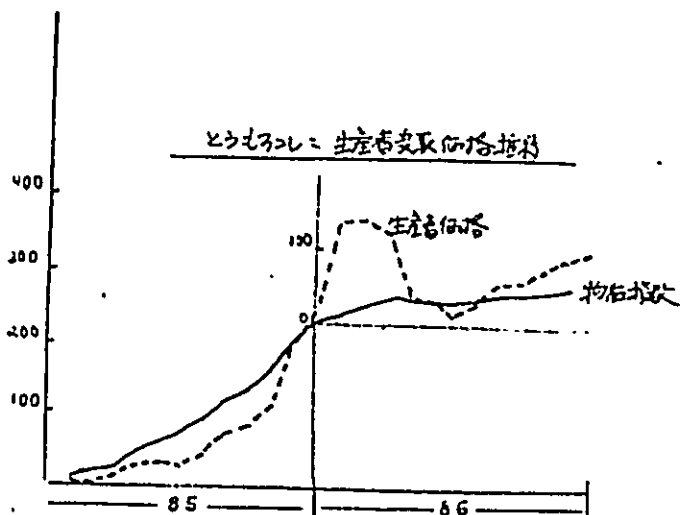
85/86 11/15 期首在庫と 85/86 期首在庫の合計は、

(2) 86年9月2日の輸入実績。 (3) 87年2月27日の輸入予定

表 74 とうもろこし生産者受取価格 (C\$/100kg)

月別	1985	1986
1	23.38	101.69
2	22.94	104.47
3	25.29	99.56
4	28.02	82.67
5	28.79	79.28
6	28.49	76.30
7	31.13	78.61
8	37.52	84.83
9	41.37	86.28
10	46.74	89.55
11	65.04	94.02
12	76.86	95.07

出所: 15月



2) 生産コスト

表 75 とうもろこし 86/87年度 収穫量 45 俵 (60kg)			
区 分	所要口数	単 価	全 額
A) 作業コスト			
1) 労 務	10.09	41.70	456.20
2) トラクター運賃	1.28	57.50	73.60
3) 4輪トラクター	1.28	338.97	433.24
4) 労 務	0.98	9.20	9.02
5) 耕 起	0.39	31.34	12.22
6) 耕 土	0.36	56.40	20.30
7) 播種施肥	0.17	59.19	10.06
8) 労 務 中耕	0.98	1.82	1.78
9) 運 搬	0.36	36.27	13.06
小 計			1029.48
B) 資材コスト	所要数量		
1) 粒 子	19.67 kg	11.5/kg	226.20
2) 追肥用硫酸	0.12 T	2259.74/T	271.17
3) 配合肥料	0.22 T	2242.47/T	493.34
4) 殺 菌	45.00 T	4.00/T	180.00
小 計			1170.72
果 計			2200.00
C) 間接コスト			
1) 機械使用費			164.19
2) 銀行利息			91.67
合 計	1俵当り 54.58		2456.06

出所: IEA 11-10-20-21 HVARC 12-12-23 55/56

表 76 とうもろこし 86/87年度 収穫量 60 俵 (50kg)

区 分	所要口数	単 価	全 額
A) 作業コスト			
1) 労 務	0.88	48.50	42.68
2) トラクター運賃	1.92	63.50	121.92
3) 4輪トラクター	1.81	338.97	612.63
4) 労 務	0.32	31.34	10.03
5) 石灰散布	0.18	47.78	8.60
6) 耕 土	0.25	56.40	14.10
7) 播種施肥	0.22	48.81	10.74
8) 労 務 中耕	0.25	11.19	2.80
9) 施 肥	0.18	68.44	12.32
10) 運 搬	0.14	32.96	4.61
11) 防 除	0.07	41.14	2.88
12) 収 穫 費	0.11	996.03	109.56
13) 運 搬 費			180.00
小 計			1129.14
B) 資材コスト	所要数量		
1) 粒 子	19.47 kg	11.50/kg	223.90
2) 石 灰	0.25 T	180.00/T	45.00
3) 追肥用硫酸	0.12 T	2259.74/T	271.17
4) 配合肥料 (9-14-8)	0.30 T	2242.47/T	672.71
5) 殺 虫 剤	0.80 kg	67.03/kg	53.62
6) 殺 菌 剤	1.00 kg	9.38/kg	9.38
小 計			1365.82
果 計			2504.96
C) 間接コスト			
1) 機械使用費			255.15
2) 銀行利息			104.37
合 計	1俵当り 55.08		2864.48

出所: IEA

11-10-20-21 11-10-20-21 HVARC 12-12-23 55/56

3.1.2 米

1) 生産

表 77

米: 1986年生産状況

順位	州 別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	リオ・グランデ・ド・スル	726.8	2,987.5	4,110
2	ゴアス	1,071.5	1,358.4	1,268
3	マタニョソ	937.4	1,292.0	1,378
4	ミナス・ジェライス	587.9	950.9	1,617
5	マト・グロソ	589.5	794.2	1,347
6	サン・パウロ	312.8	543.1	1,736
7	サンタ・カタリーナ	140.4	450.9	3,210
8	ピアウイ	252.7	387.9	1,535
9	ロンドニア	158.3	279.0	1,758
10	マト・グロソ・ド・スル	220.2	276.0	1,253
11	パラーナ	140.0	206.0	1,471
12	その他	452.4	873.4	1,930
合 計		5,570.3	10,399.3	1,860

出所: I.B.G.E.

85/86年度の米作は当初の楽観的な予想と、その予想と根本的に異なる過去5年間の最大の収穫により、水害に悩まされ市場に供給する年であった。このことは1つの作物が栽培期間中の天候条件に思わぬ増産を可能とすることを示した例である。同じ思わぬ不作は招く場合と合せ、農業生産の困難さと市場や肉保蔵肉に知らされた年でもあった。

当初の楽観的な予測は米作地帯の中南部地方の植付と直結した長期乾燥に見舞われた環境的な被害が予想より政府による米の輸入政策をとりしめた程深刻なものであった。10月、最終的に10.3百万トンの大型収穫と前年度に14.3%上廻り、これは過去5年間の始まる1千万トンの収穫であった。

国内の生産地帯は86年の生産実績11億5千万トンの(全国平均72%)の中、中央西部地方が8州に占め東北地方が2州(マタニョソ及びピョラシ両州)北部地方が1州(ロンドニア)を占められている。中部地方の生産量は全国平均の25%を占め、中でも米の主要な生産地帯であるマト・グロソ州が単独で全国生産量の28.7%を占めている。これは同州の生産量が全国生産に大きく影響する。

86年度は同州の生産量は1945年86年12月に発表された統計(11月最終値)で298万トンの前年度に1.8%下廻りであった。これは平均の減少による結果であり、(前年度の1ヘクタール当たり4,998 kgに比べ85/86年度は4,110 kg)。しかし、ミナス・ジェライス、マタニョソ、マト・グロソ州等他の大型生産地帯での単収増加により、全国平均でも前年度の1,662 kg/haに比べ1,860 kg/haに近づくことが面積の増加と合せて大型収穫を可能としたのであった。

中26 東北地方最大のマニョウ州では、83年に大干ばつに見舞われ、84年に生産は急落し、85年には再び洪水の被害に見舞われ、60%以上に落ちついた。86年には再度復活して、30%以上に回復した。この急激な上下は、米の生産に深刻な影響を及ぼすことがあり、

表 28 米：過去5年間の生産推移 (1000ト)

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	リオ・グランデ・ド・スール	2590.0	2220.5	3199.0	3207.0	2987.5
2	ゴマ	1394.5	1080.7	1037.8	1115.2	1358.4
3	ミナス・ジェライス	729.7	779.2	698.1	851.0	950.9
4	マラニョ	1526.5	430.9	1145.2	622.9	1292.0
5	マト・グロソ	999.0	784.2	672.7	521.8	794.2
6	その他	2426.3	2454.0	2368.8	2701.2	3016.3
	合計	9716.0	7749.5	9021.6	9019.1	10299.3

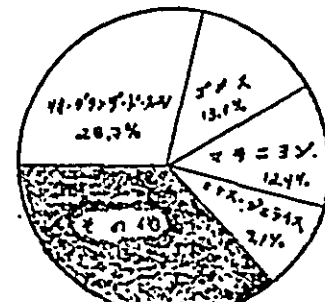
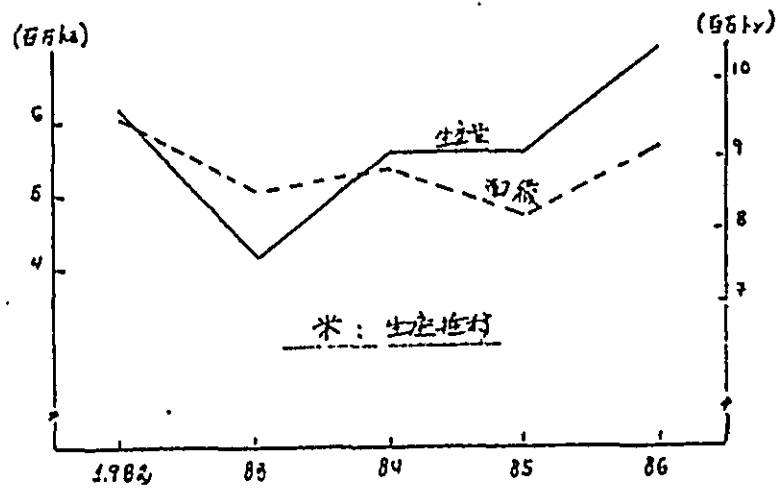
面積 (1000ha)

1982	1983	1984	1985	1986
6016.8	5110.4	5356.3	4751.9	5590.3

表 29 米：主要生産地の平均収量 (kg/ha)

州別	1982	1983	1984	1985	1986
リオ・グランデ・ド・スール	4149	3488	4304	4448	4110
ゴマ	1235	1097	1008	1297	1268
ミナス・ジェライス	1297	1468	1090	1577	1617
マラニョ	1351	596	1396	970	1328
マト・グロソ	1257	1116	1179	1283	1347
全国平均	1615	1516	1684	1662	1860

出所：IBGE



米：生産分布 (86年)

2) 国際市場

世界需要の増加にたいして世界の生産も大々的に増え、続いている。米消費量の伸びによる。この20年間に世界の消費量は82%増加し、173億トに達した。35.7億トは、米の生産に占める割合で、173億トに占める31.6億トは、83%の増加をみている。

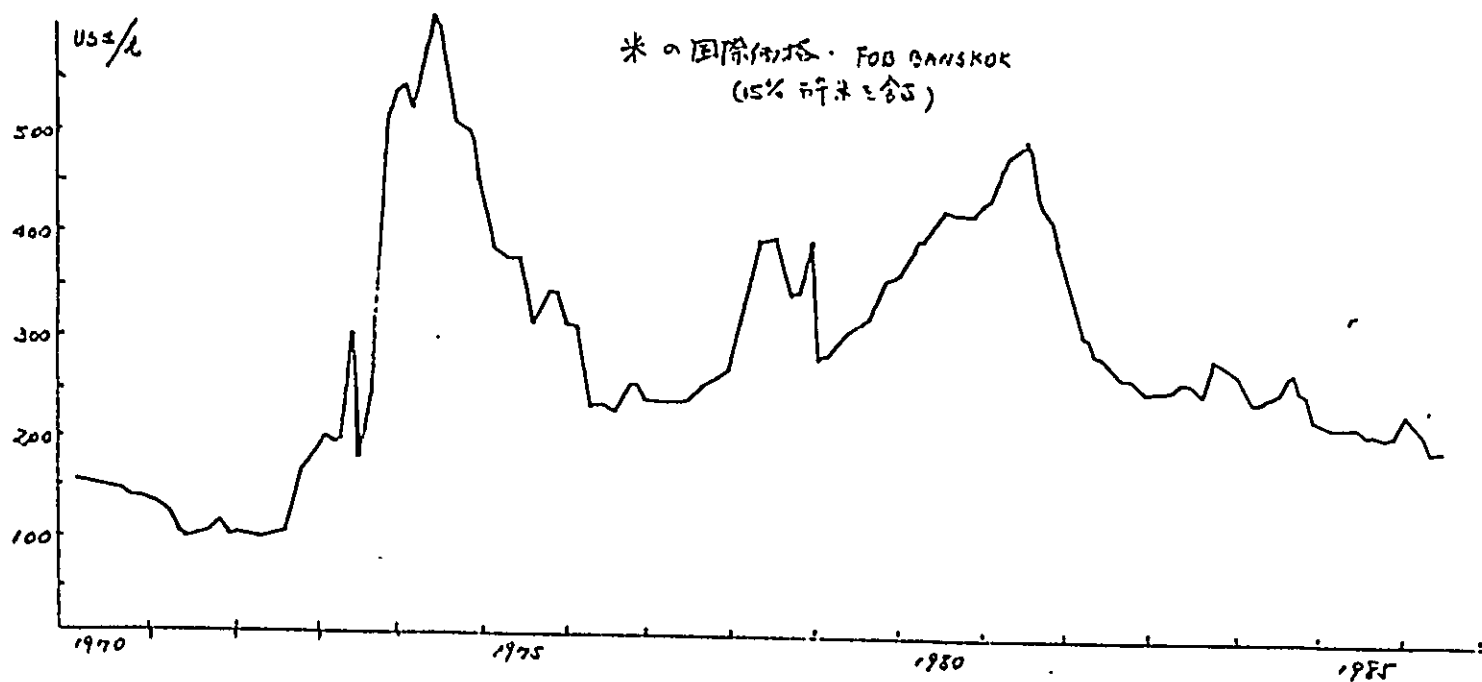
85/86年度におよび世界の米生産量は前年の319.3億トに比べて2.5億トに減少した。

中国の減産が大規模となり、その消費量も約100万トに上ったため不足が生じた。最終的に110万トの余剰が生じ、世界の在庫は23.3万トに増えた。自給率は年別消費量の74%に相当する。

世界の生産国では供給と需要がほぼ均衡しているが世界の在庫量は伸びている。但し、86年度は特例としてブラジルとメキシコの輸入が大幅に増えたため世界の取引量は12.6万トンと増えた。84/85年度は11.5万トンに上った。中でもブラジルの前年と3倍増加した120万トの輸入であった。

このうち一部の国の更なる増産も世界の相場を押し下げ、特に低いレベルにある国産価格も更に低下している。タイ米15%碎米含有のものでバンコク・スマイル・トーンの米は1951と増えた。この価格も前年の価格と8ドル落ちたのである。

86/87年度に於ける米の国際価格の予想として、世界の生産量は320万トン、消費量は322万トンとみている。この結果世界の在庫は21.2万トンに落ち、又輸入国側の国内生産の増加により世界の取引量は11.9万トンに落ち、前年より減ったと見られる。



1) 国内市場及び価格

経済安定策（バリエーション）のもとで国内食糧の供給と円滑に行きおうとしているブラジルにとって食糧の自給率と米の生産増加は非常に重要な意義を持つ。政府は特に注目を集めている部門である。

85/86 年度の生産は 86 年 12 月の 1942 年を以て 10.4 百万トンの大増収であり、これは前年
5 月の記録 806 千トンに追加し合計 11.1 百万トンの供給量に約 10.2 百万トンに推定され、国内
消費量は賄って余りあるものであり、CFP が推定した 9.7 百万トンの生産に上りも繰越いて約 10.5
百万トンにやはり消費量を越えり上廻りになった。

このように基礎食糧としての米は結果的に十分な供給状態に達したものの、極端な長期貯
蔵による被害が大きくなり、水害予想が実際に発生したため、政府は国内供給に大赤字不
足があることを懸念し、その対策として輸入を計画し許可した。この輸入は完全な競争で、北米の
国内市場を混乱させ、米国の米が最初の内は通関を措置し考慮した。若し乾燥、実際の
被害が早く判明し、北米の天候条件による回復が早く見込められれば、大型の輸入を中止
する措置も可能であったろうが、食糧供給の不足を恐れた政府は、約 400 千トン、白米 800 千
トン、計 120 万トンの輸入を許可した。

国内生産が過去 54 年間で最大の増収を行なった。高給が均衡した状況下での輸入は当然
のことであり、供給過剰と^例市場に大赤字問題が生じた。更に品質、価格上輸入品の
競争力が増え、国内産米の不利な立場を立派にし、輸入品の市場を占有する形と
なった。FV 米の米価は 1985 年 12 月 20 - 295 / 60 kg (11 月 20 日 - 200 kg 米 1.0 kg
に 1 米 - 商品流通税を含む 35 日以内 30 日) で取引されたものに 11 月 20 日 - 200 kg 米 1.0 kg
224 300 - 320 - 7 販売するものが国内米相場であった。

このように国内市場に更に米、中国、パキスタン、インド等の輸入に、更に深刻化を遂げ
た。政府は輸入業者が取引する機会を、此れを更に深刻化を遂げる輸入
米の到着を阻止する手段を、輸入品の価格に到着し、当初は 1985 年 9 月 1 日 - 11 月
に 11 月 3 日に推定された輸入量の全量が入ることを、86 年に輸入された 450 米は
全量物に換算して 1,944 千トンとなり、これは前年より 806 千トン (806 千トン) 及び 86 年の平均値に
2.6 倍増産量 12,416 千トンに^{追加}消費量推定 10,240 千トンに引いて 86 年度の消費量は
CFP 推定の 11.1 百万トン、1986 年推定の 10.85 百万トンに上り

このように需給状況に、価格の上昇の期待が、輸入品取引の中心に、国内市場
では国内米の需要が不可能な価格水準であった。この価格を、最も価格保証
制度による政府の天候に望みながら、政府の買上げは ASF 427,250,000 に見

年々、生産者に對して安定した収益を保障する政策を採り、前年と同じくが出稼を $\downarrow$ する。前年より米価 $120.00/50kg$ 、籾価 $133.00/60kg$ である。この折上計上では、 27.00 である。

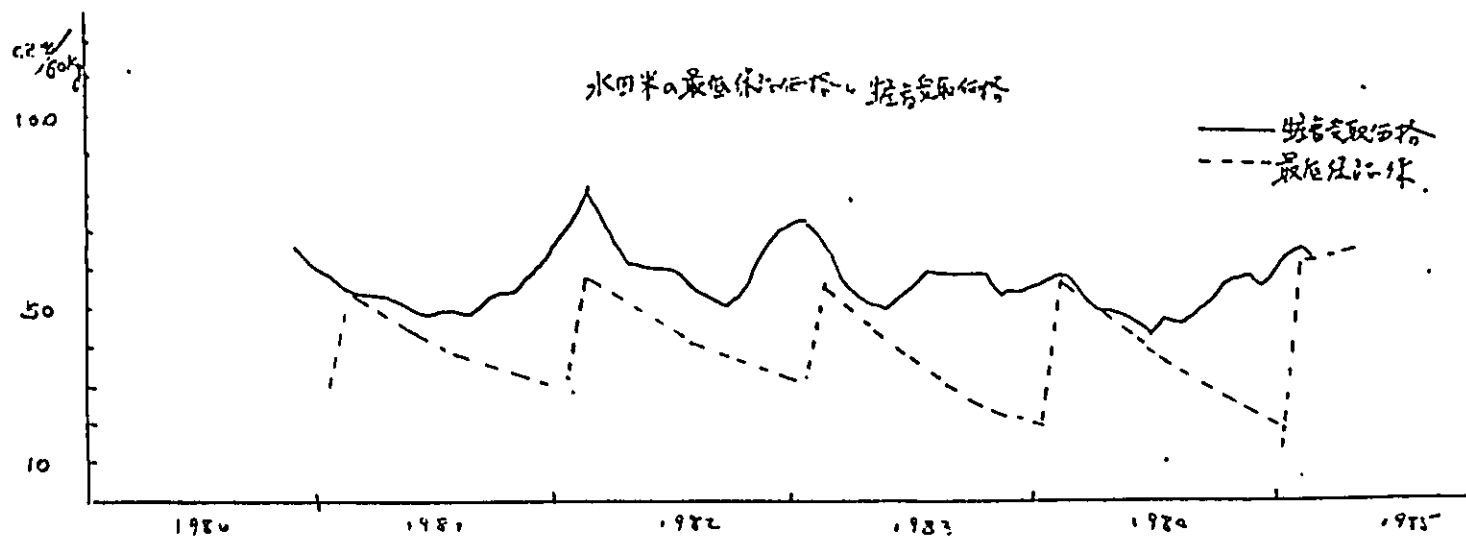
- 1) 3ヶ月計上中最底価格基準額の変更はない。
- 2) 最底価格の調整は毎月8月1日とし、調整はIPP (生産者受取価格指数) の80%の率で行われる。
- 3) IPP の80%を越す場合は自動的に調整が行われる。

1984年、1986年に於ける米の生産者受取価格は、1985年3月を100として、1984年12月と1986年12月の平均値である。

表 80 米(籾)生産者受取価格(調整価格) $100/60kg$

月別	1984年12月			1986年12月		
	1984	85	86	1984	85	86
1	126.82	143.37	152.88	177.80	170.49	196.80
2	140.75	157.00	154.01	172.60	164.72	172.10
3	136.71	151.23	156.60	174.23	151.68	145.22
4	131.91	171.90	153.92	165.20	159.50	137.17
5	122.57	164.62	150.99	158.34	154.91	133.15
6	124.20	154.82	149.61	149.82	156.55	132.35
7	119.96	150.00	147.17	151.24	164.35	135.68
8	116.72	144.46	146.13	148.97	181.30	138.56
9	113.62	138.72	168.32	149.31	191.18	
10	119.95	133.80	155.21	155.24	196.72	
11	125.04	141.73		168.32	192.47	
12	150.00	144.86		175.53	191.80	

出所: IEA 1986年3月 = 100



IPP が破産した米の価格が、期米とトウモロコシの相場を以て決まる。

表 81		米の需給 80/81 ~ 84/85					1000t
項目	1980/81	81/82	82/83	83/84	84/85		
期首在庫	2,040	1,404	1,644	1,181	1,063		
生産量	2,228	2,153	2,224	2,991	2,008		
輸入量	209	203	465	91	-		
供給量計	10,477	10,762	10,333	10,263	10,071		
国内消費量	9,000	9,100	9,150	9,200	9,400		
余 剰	1,477	1,662	1,183	1,063	671		
輸出量	73	18	2	-	-		
期末在庫	1,404	1,644	1,181	1,063	671		

出所: CFP.

86/87 年度に於ける米の需給計画は、その中で設定された基礎食糧部内需要量と消費量と米作増産の両方、その両方を併せて作付面積の増大が予想される。この消費増産は、中西部地方に於けるその傾向が強く、ゴア州では 9-10% の増加が見込まれる。この消費増産による新しい地帯の開発、牧畜地帯の拡大もまた、この消費増産の 1/2 程度に上乗せされる米作の面積増大が予想される。

また、ゴア州、州も同様の傾向にある。15% の面積増大が予想される。この問題の連絡と踏破地帯が不足していることは、この消費増産に於けるこの消費増産の要因となる。この 86/87 年度の米作増産は、この消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。

また、ゴア州、州も同様の傾向にある。15% の面積増大が予想される。この問題の連絡と踏破地帯が不足していることは、この消費増産に於けるこの消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。

南東地方も同様の傾向にある。15% の面積増大が予想される。この問題の連絡と踏破地帯が不足していることは、この消費増産に於けるこの消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。

他の主要地帯といたし、15% の面積増大が予想される。この問題の連絡と踏破地帯が不足していることは、この消費増産に於けるこの消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。

南部地方も同様の傾向にある。15% の面積増大が予想される。この問題の連絡と踏破地帯が不足していることは、この消費増産に於けるこの消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。この消費増産の要因となる。

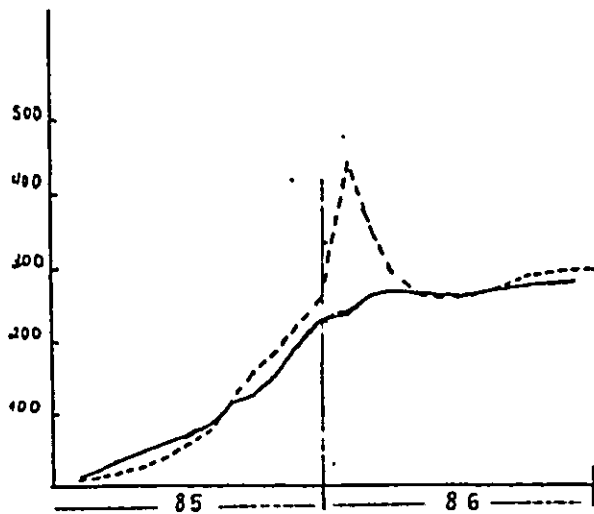
おいて同様である。同様に、価格が安くて品質がよい生産技術が整ったため、国際市場の品質に匹敵するレベルで維持出来、高価の技術も有している。86年の輸入米の割合は、不規則な事態に遭遇し、良好な状況環境ではなかった。生産は、いまだに拡大傾向があり、5%増の増加が見込まれる。1987年には、毎年米の増加傾向が、86/87年には、この傾向が、及ばず見込まれる。生産量は、前年より8%に増加が見込まれる。中国の輸入米の輸入の国産米の問題を扱っている。このため、生産見込みである。

全体的にみて、中央南部地方において米の生産は、8-7%の増加と見込まれる。

表 82 米：生産と販売価格 (元/60kg)

月別	1985	1986
1	40.10	46.19
2	42.68	47.65
3	44.29	48.72
4	47.12	49.85
5	52.28	52.80
6	56.97	53.69
7	65.15	56.90
8	81.93	61.66
9	90.27	62.53
10	105.58	63.62
11	118.84	64.30
12	134.20	64.85

出所：J.E.R. SP-11



⇒ 生産コスト

カンボジアの農業生産研究所が発表している、1986/87年度に於ける生産コスト予想は、次の通りである。

表 83 米：生産コスト (元/60kg) 収量

品 名	所要口数	単 価	全 額 (元)
A) 作業コスト			
1) 労 働 力	3.20	48.50	155.20
2) トレーダ手数料	1.97	63.50	125.10
3) 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000. 1001. 1002. 1003. 1004. 1005. 1006. 1007. 1008. 1009. 1010. 1011. 1012. 1013. 1014. 1015. 1016. 1017. 1018. 1019. 1020. 1021. 1022. 1023. 1024. 1025. 1026. 1027. 1028. 1029. 1030. 1031. 1032. 1033. 1034. 1035. 1036. 1037. 1038. 1039. 1040. 1041. 1042. 1043. 1044. 1045. 1046. 1047. 1048. 1049. 1050. 1051. 1052. 1053. 1054. 1055. 1056. 1057. 1058. 1059. 1060. 1061. 1062. 1063. 1064. 1065. 1066. 1067. 1068. 1069. 1070. 1071. 1072. 1073. 1074. 1075. 1076. 1077. 1078. 1079. 1080. 1081. 1082. 1083. 1084. 1085. 1086. 1087. 1088. 1089. 1090. 1091. 1092. 1093. 1094. 1095. 1096. 1097. 1098. 1099. 1100. 1101. 1102. 1103. 1104. 1105. 1106. 1107. 1108. 1109. 1110. 1111. 1112. 1113. 1114. 1115. 1116. 1117. 1118. 1119. 1120. 1121. 1122. 1123. 1124. 1125. 1126. 1127. 1128. 1129. 1130. 1131. 1132. 1133. 1134. 1135. 1136. 1137. 1138. 1139. 1140. 1141. 1142. 1143. 1144. 1145. 1146. 1147. 1148. 1149. 1150. 1151. 1152. 1153. 1154. 1155. 1156. 1157. 1158. 1159. 1160. 1161. 1162. 1163. 1164. 1165. 1166. 1167. 1168. 1169. 1170. 1171. 1172. 1173. 1174. 1175. 1176. 1177. 1178. 1179. 1180. 1181. 1182. 1183. 1184. 1185. 1186. 1187. 1188. 1189. 1190. 1191. 1192. 1193. 1194. 1195. 1196. 1197. 1198. 1199. 1200. 1201. 1202. 1203. 1204. 1205. 1206. 1207. 1208. 1209. 1210. 1211. 1212. 1213. 1214. 1215. 1216. 1217. 1218. 1219. 1220. 1221. 1222. 1223. 1224. 1225. 1226. 1227. 1228. 1229. 1230. 1231. 1232. 1233. 1234. 1235. 1236. 1237. 1238. 1239. 1240. 1241. 1242. 1243. 1244. 1245. 1246. 1247. 1248. 1249. 1250. 1251. 1252. 1253. 1254. 1255. 1256. 1257. 1258. 1259. 1260. 1261. 1262. 1263. 1264. 1265. 1266. 1267. 1268. 1269. 1270. 1271. 1272. 1273. 1274. 1275. 1276. 1277. 1278. 1279. 1280. 1281. 1282. 1283. 1284. 1285. 1286. 1287. 1288. 1289. 1290. 1291. 1292. 1293. 1294. 1295. 1296. 1297. 1298. 1299. 1300. 1301. 1302. 1303. 1304. 1305. 1306. 1307. 1308. 1309. 1310. 1311. 1312. 1313. 1314. 1315. 1316. 1317. 1318. 1319. 1320. 1321. 1322. 1323. 1324. 1325. 1326. 1327. 1328. 1329. 1330. 1331. 1332. 1333. 1334. 1335. 1336. 1337. 1338. 1339. 1340. 1341. 1342. 1343. 1344. 1345. 1346. 1347. 1348. 1349. 1350. 1351. 1352. 1353. 1354. 1355. 1356. 1357. 1358. 1359. 1360. 1361. 1362. 1363. 1364. 1365. 1366. 1367. 1368. 1369. 1370. 1371. 1372. 1373. 1374. 1375. 1376. 1377. 1378. 1379. 1380. 1381. 1382. 1383. 1384. 1385. 1386. 1387. 1388. 1389. 1390. 1391. 1392. 1393. 1394. 1395. 1396. 1397. 1398. 1399. 1400. 1401. 1402. 1403. 1404. 1405. 1406. 1407. 1408. 1409. 1410. 1411. 1412. 1413. 1414. 1415. 1416. 1417. 1418. 1419. 1420. 1421. 1422. 1423. 1424. 1425. 1426. 1427. 1428. 1429. 1430. 1431. 1432. 1433. 1434. 1435. 1436. 1437. 1438. 1439. 1440. 1441. 1442. 1443. 1444. 1445. 1446. 1447. 1448. 1449. 1450. 1451. 1452. 1453. 1454. 1455. 1456. 1457. 1458. 1459. 1460. 1461. 1462. 1463. 1464. 1465. 1466. 1467. 1468. 1469. 1470. 1471. 1472. 1473. 1474. 1475. 1476. 1477. 1478. 1479. 1480. 1481. 1482. 1483. 1484. 1485. 1486. 1487. 1488. 1489. 1490. 1491. 1492. 1493. 1494. 1495. 1496. 1497. 1498. 1499. 1500. 1501. 1502. 1503. 1504. 1505. 1506. 1507. 1508. 1509. 1510. 1511. 1512. 1513. 1514. 1515. 1516. 1517. 1518. 1519. 1520. 1521. 1522. 1523. 1524. 1525. 1526. 1527. 1528. 1529. 1530. 1531. 1532. 1533. 1534. 1535. 1536. 1537. 1538. 1539. 1540. 1541. 1542. 1543. 1544. 1545. 1546. 1547. 1548. 1549. 1550. 1551. 1552. 1553. 1554. 1555. 1556. 1557. 1558. 1559. 1560. 1561. 1562. 1563. 1564. 1565. 1566. 1567. 1568. 1569. 1570. 1571. 1572. 1573. 1574. 1575. 1576. 1577. 1578. 1579. 1580. 1581. 1582. 1583. 1584. 1585. 1586. 1587. 1588. 1589. 1590. 1591. 1592. 1593. 1594. 1595. 1596. 1597. 1598. 1599. 1600. 1601. 1602. 1603. 1604. 1605. 1606. 1607. 1608. 1609. 1610. 1611. 1612. 1613. 1614. 1615. 1616. 1617. 1618. 1619. 1620. 1621. 1622. 1623. 1624. 1625. 1626. 1627. 1628. 1629. 1630. 1631. 1632. 1633. 1634. 1635. 1636. 1637. 1638. 1639. 1640. 1641. 1642. 1643. 1644. 1645. 1646. 1647. 1648. 1649. 1650. 1651. 1652. 1653. 1654. 1655. 1656. 1657. 1658. 1659. 1660. 1661. 1662. 1663. 1664. 1665. 1666. 1667. 1668. 1669. 1670. 1671. 1672. 1673. 1674. 1675. 1676. 1677. 1678. 1679. 1680. 1681. 1682. 1683. 1684. 1685. 1686. 1687. 1688. 1689. 1690. 1691. 1692. 1693. 1694. 1695. 1696. 1697. 1698. 1699. 1700. 1701. 1702. 1703. 1704. 1705. 1706. 1707. 1708. 1709. 1710. 1711. 1712. 1713. 1714. 1715. 1716. 1717. 1718. 1719. 1720. 1721. 1722. 1723. 1724. 1725. 1726. 1727. 1728. 1729. 1730. 1731. 1732. 1733. 1734. 1735. 1736. 1737. 1738. 1739. 1740. 1741. 1742. 1743. 1744. 1745. 1746. 1747. 1748. 1749. 1750. 1751. 1752. 1753. 1754. 1755. 1756. 1757. 1758. 1759. 1760. 1761. 1762. 1763. 1764. 1765. 1766. 1767. 1768. 1769. 1770. 1771. 1772. 1773. 1774. 1775. 1776. 1777. 1778. 1779. 1780. 1781. 1782. 1783. 1784. 1785. 1786. 1787. 1788. 1789. 1790. 1791. 1792. 1793. 1794. 1795. 1796. 1797. 1798. 1799. 1800. 1801. 1802. 1803. 1804. 1805. 1806. 1807. 1808. 1809. 1810. 1811. 1812. 1813. 1814. 1815. 1816. 1817. 1818. 1819. 1820. 1821. 1822. 1823. 1824. 1825. 1826. 1827. 1828. 1829. 1830. 1831. 1832. 1833. 1834. 1835. 1836. 1837. 1838. 1839. 1840. 1841. 1842. 1843. 1844. 1845. 1846. 1847. 1848. 1849. 1850. 1851. 1852. 1853. 1854. 1855. 1856. 1857. 1858. 1859. 1860. 1861. 1862. 1863. 1864. 1865. 1866. 1867. 1868. 1869. 1870. 1871. 1872. 1873. 1874. 1875. 1876. 1877. 1878. 1879. 1880. 1881. 1882. 1883. 1884. 1885. 1886. 1887. 1888. 1889. 1890. 1891. 1892. 1893. 1894. 1895. 1896. 1897. 1898. 1899. 1900. 1901. 1902. 1903. 1904. 1905. 1906. 1907. 1908. 1909. 1910. 1911. 1912. 1913. 1914. 1915. 1916. 1917. 1918. 1919. 1920. 1921. 1922. 1923. 1924. 1925. 1926. 1927. 1928. 1929. 1930. 1931. 1932. 1933. 1934. 1935. 1936. 1937. 1938. 1939. 1940. 1941. 1942. 1943. 1944. 1945. 1946. 1947. 1948. 1949. 1950. 1951. 1952. 1953. 1954. 1955. 1956. 1957. 1958. 1959. 1960. 1961. 1962. 1963. 1964. 1965. 1966. 1967. 1968. 1969. 1970. 1971. 1972. 1973. 1974. 1975. 1976. 1977. 1978. 1979. 1980. 1981. 1982. 1983. 1984. 1985. 1986. 1987. 1988. 1989. 1990. 1991. 1992. 1993. 1994. 1995. 1996. 1997. 1998. 1999. 2000. 2001. 2002. 2003. 2004. 2005. 2006. 2007. 2008. 2009. 2010. 2011. 2012. 2013. 2014. 2015. 2016. 2017. 2018. 2019. 2020. 2021. 2022. 2023. 2024. 2025. 2026. 2027. 2028. 2029. 2030. 2031. 2032. 2033. 2034. 2035. 2036. 2037. 2038. 2039. 2040. 2041. 2042. 2043. 2044. 2045. 2046. 2047. 2048. 2049. 2050. 2051. 2052. 2053. 2054. 2055. 2056. 2057. 2058. 2059. 2060. 2061. 2062. 2063. 2064. 2065. 2066. 2067. 2068. 2069. 2070. 2071. 2072. 2073. 2074. 2075. 2076. 2077. 2078. 2079. 2080. 2081. 2082. 2083. 2084. 2085. 2086. 2087. 2088. 2089. 2090. 2091. 2092. 2093. 2094. 2095. 2096. 2097. 2098. 2099. 2100. 2101. 2102. 2103. 2104. 2105. 2106. 2107. 2108. 2109. 2110. 2111. 2112. 2113. 2114. 2115. 2116. 2117. 2118. 2119. 2120. 2121. 2122. 2123. 2124. 2125. 2126. 2127. 2128. 2129. 2130. 2131. 2132. 2133. 2134. 2135. 2136. 2137. 2138. 2139. 2140. 2141. 2142. 2143. 2144. 2145. 2146. 2147. 2148. 2149. 2150. 2151. 2152. 2153. 2154. 2155. 2156. 2157. 2158. 2159. 2160. 2161. 2162. 2163. 2164. 2165. 2166. 2167. 2168. 2169. 2170. 2171. 2172. 2173. 2174. 2175. 2176. 2177. 2178. 2179. 2180. 2181. 2182. 2183. 2184. 2185. 2186. 2187. 2188. 2189. 2190. 2191. 2192. 2193. 2194. 2195. 2196. 2197. 2198. 2199. 2200. 2201. 2202. 2203. 2204. 2205. 2206. 2207. 2208. 2209. 2210. 2211. 2212. 2213. 2214. 2215. 2216. 2217. 2218. 2219. 2220. 2221. 2222. 2223			

B) 変更コスト		数量	単価	金額
1) 石灰	1.00	T	180.00/T	180.00
2) 硫酸	30.00	kg	6.90/kg	207.00
3) 硫酸肥料	0.20	T	2,242.47/T	448.49
4) 硫酸肥料	0.13	T	2,259.74/T	293.77
5) 硫酸肥料	0.80	kg	9.38/kg	7.50
6) 合計	27.00		4.00/U	108.00
小計				1,244.76
累計				2,632.14
C) 追加コスト				
1) 硫酸肥料	-			237.63
2) 硫酸肥料	-			87.40
合計				2,947.18

出所: I.E.H.

サニタリー・パイプ・システム、硫酸肥料

表 XV		米: 生産コスト	55 級 (60kg) 水	全額 cost
B) 作業コスト		作業日数 (時間)	単価	金額
1) 石灰	15.16		40.70	617.01
2) 硫酸	3.36		54.10	181.78
3) 硫酸肥料	3.24		338.47	1,096.64
4) 硫酸	0.55		31.34	10.97
5) 硫酸	0.56		56.40	31.58
6) 硫酸	0.57		18.19	10.37
7) 硫酸肥料	0.33		81.62	26.93
8) 硫酸肥料	0.12		34.45	4.13
9) 硫酸	0.67		36.27	24.30
10) 硫酸	0.64		41.14	26.33
11) 硫酸	0.12		588.13	70.58
12) 硫酸	0.30		278.36	83.51
小計				2,104.13
C) 変更コスト				
1) 硫酸	90.00	kg	8.67/kg	780.30
2) 硫酸肥料	0.30	T	2,242.47/T	672.74
3) 硫酸肥料	0.15	T	2,259.74/T	338.96
4) 硫酸肥料	2.00	L	129.56/L	259.12
5) 硫酸	7.00	L	45.42/L	317.94
6) 硫酸	1.00	L	182.49/L	182.49
7) 合計	55.00	U	4.00/U	220.00
小計				2,791.55
累計				4,895.68
D) 追加コスト				
1) 硫酸肥料	-			486.09
2) 硫酸肥料	-			215.61
3) 硫酸肥料	-			170.00
合計				5,847.38

出所: I.E.H.

サニタリー・パイプ・システム、硫酸肥料

3.3.1 フェイジョン

1) 生産

表 35

フェイジョン：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000ty	単収 kg/ha
1	バ イ ア	636.5	323.0	507
2	サン・パウロ	437.3	286.0	653
3	ミナス・ジェライス	565.4	253.2	448
4	パラナ	627.5	215.7	343
5	サンタ・カタリーナ	367.8	180.9	429
6	セ ア ラ	501.4	114.8	229
7	バ ラ イーバ	333.6	107.0	321
8	ベルナンドコ	318.9	103.3	324
9	ピタウイ	316.4	81.7	258
10	その他	1,279.3	555.7	403
合計		5,484.1	2,221.3	405

出所: J.B.G.E.

ブラジルのフェイジョン栽培は、雨期、乾期及び冬期の3期に分けられ、全国の地域別にそれぞれ栽培時期は次の通りである。なお、フェイジョンの栽培時期は品種によって異なり、一般に70～100日間である。

フェイジョンの栽培時期

地域別	雨期収穫	乾期収穫	冬期収穫
南部地域	8～10月	1～2月	
南東地域	9～11月	1～3月	5～8月
サンパウロ州	9～11月	1～3月	5～6月
ミナスジェライス州	10～11月	2～3月	6～8月
中西部地域	10～11月	1～3月	6～8月
東北地域			
バイア州	11～12月	4～5月	
	2～3月		
ベルナンドコ州	8～9月		
アラゴイアス州	3～4月		
パラナ州			
低地帯	3～4月	7～8月	
高地帯	1～2月		
北部地域			
アラゴイアス州	3～4月		
パラナ州	4～5月		

冬収穫期別の栽培状況は次の通りである。

1) 雨期栽培

雨期収穫とも呼ばれる雨期栽培は、通常7～9月の雨季に栽培され、中央部地域が全

固執稻の播、54.7% 生産額、67.5%とある。北部、東北部地方は比較的高い生産性な気象条件が、すなわちこのため、技術面も高いレベルにある。改良種子の利用度が、人によって異なる。23/80歳年及の24/80歳年の平均は中央南部地方および北部、東北部地方に倍加した。

(カ) 85/86 年^前の中央部地区で、長期乾燥による作付面積比に栽培面積は減少し生産量は低下した。例として「ホムス・トール」の栽培期間中に栽培面積が 165 千 ha から 700 kg/ha の単収を想定した場合、実際の収穫量は 139.4 千 ha、単収は 217 kg (前年 235 kg) に止まった。

又バタコ州の同期に比べ作付面積の減少の平均で作付面積において全面積の22.1%生産量は28.7%と落ち、規模にあつたが85/86年度に比べ前2年間の平均に比べ収穫面積は15.5%生産量は17.60%、平均は53%と大きく減少であつた。サバコ州にも同様に減少、32.3%の減少が若干の増収をみられた。

2) 定期収入

大之期収穫の前期収穫より、中南部地方の栽培比率は北部、東北部より高く、7
 年より過去3年間の平均とみるに、前後より北部東北部が、大に5.4%より、中南部
 地方が52.6%とある。この傾向により、平均の値を示すものがある。

83/84年 α 中南部地方 α 北東北部 α 为5.5%塔 α 伸 α 。84/85年 α 为更 α 塔 α 伸 α 。
85/86年 α 及 α 北部、東北部 α 中南部地方 α 8.2% α 回 α 。

州別にみると、北海道・東北地方は、国内面積の14%、総量の13.4%と占める。中部地方の各州にも、85/86年の転期作の減少がある。各州とも前期作の失敗により、収穫の上昇を見込めず、作付が増加した。秋・冬の作付に、前年と若干上りの程度に所収。全体のところ、85/86年度の転期作の面積と総量は減少した。平均は、84/85年に比して3.4%増、85/86年に比して、7.5%の増加である。

3) 冬期冰成.

第2次收穫の冬期栽培は比較的は新法に100%統計で20年経過して、サニタリー及び
10%の3州が出現して、又20年中20年サニタリー20%の最も大規模の栽培の
段階へとつた。これは100%試験段階の小規模生産である。

このように、未だ初期の段階であるが、冬期には十分な栽培はできず、将来性と持った栽培形態として、
かんがい栽培の大令に比べて低い。しかし、大根と根菜類の生育は、病害や害虫の被害も
少なく、高い収量を得ることが可能であり、施設内での栽培が可能である。また、水不足による干ばつ
又は乾期水害で、1ヘクタール当たり10トン(600kg)以上の収量と予想される。冬期のかんがい排水
は、1分~20分程度を待つことが可能である。このため、1ヘクタール当たりの生産コストは高いが、単位生産当
りコストは低く、低コストである。

2. 86 71499: 长期系列连续进行

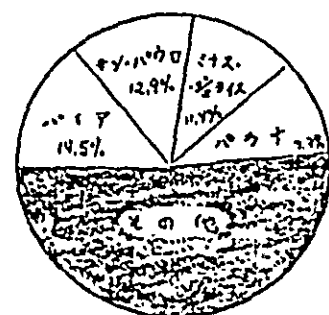
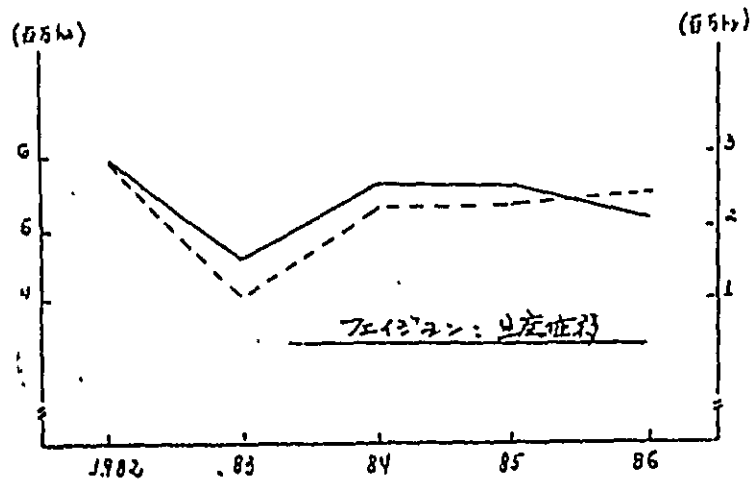
出所: PROBATION 85/86

185279

冬期収穫の面積は前年(47.1%)と平均の対比減少、12.9%と、生産量(11)の2.9%

面	1000ka.	5928.8	4068.9	5309.6	5317.2	5480.1
---	---------	--------	--------	--------	--------	--------

U/FF: I.B.G.E.



国内市場及び供給

1) 需給状況

CFPの発行に際しては、国内需給状況の表に示す通り、81/82年度に比べ、期末のストックは減少した。これは、理想的に、1.54月分の消費量に相当する35万トンのストックを1500に下回る水準に引き下げたことによる。特に、81/82年度末に、消費量の減少が認められ、国内消費量が280万トンに推定された。これは、従来のストックを削減するに、54300万トンの生産が必要となる。

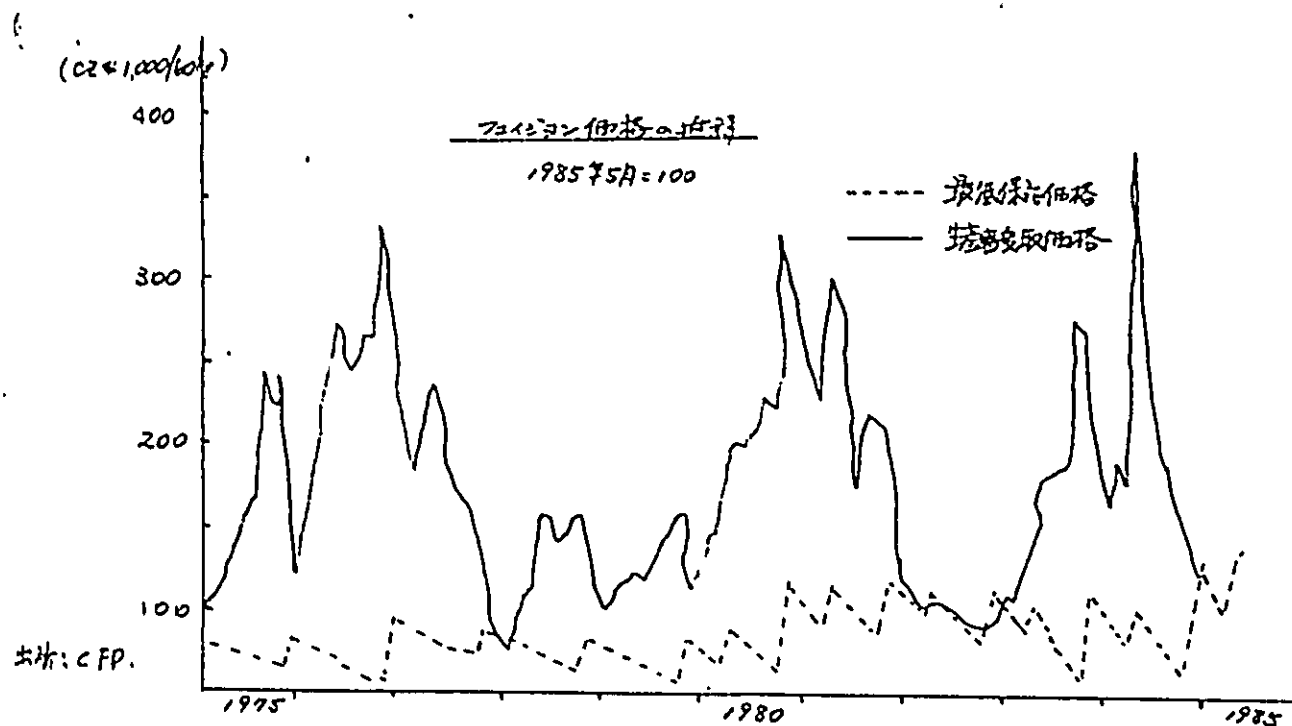
表 39 全消費電需給状況 (単位: 1000 kWh)					
項目	81/82	82/83	83/84	84/85	85/86
期首在庫	20.5	655.5	200.0	120.0	89.0
国内生産量	3092.6	1,632.3	2,582.6	2,702.0	2,756.2
輸入量	-	-	55.0	20.0	-
供給量計	3,113.1	2,287.8	2,637.6	2,822.0	2,845.2
国内消費量	2,452.6	2,079.6	2,692.6	2,752.0	2,808.1
余剰	655.5	208.2	125.0	89.0	37.1
輸出量	-	2.2	5.0	-	-
期末在庫	655.5	200.0	120.0	89.0	37.1

表 39 全消費電需給状況 (単位: 1000 kWh)					
項目	81/82	82/83	83/84	84/85	85/86
期首在庫	24.5	245.0	130.0	60.0	-
国内生産量	904.0	506.2	655.8	557.0	-
輸入量	-	-	-	5.0	-
供給量計	924.5	751.2	785.8	622.0	-
国内消費量	679.5	621.2	725.8	685.0	-
余剰	245.0	130.0	60.0	62.9	-
輸出量	-	-	-	-	-
期末在庫	245.0	130.0	60.0	62.9	-

出所: CFP 資料 26

況期等と関係する。1985/86年度並みの作付の維持を必要とするため、サトウ
カブとサトウ芋の増産(約2%)の期待が強い。調子から見て、同様に注
意すべき11%の増産は、程よい増産である。1986/87年度も更に増産を期待する
見通しである。

2) 価格



過去10年間の価格変動を比較したところ、同様の高低の変動を繰り返してきている。80年代に入ると、5年間の間に極めて不安定な価格推移が見られ、82年の最低価格(下田)より81及び84年の平均の40%以上の価格を経験した。

フェニコンの価格推移の中で、興味があるのは他の作物と異なり、収穫期に高く、出荷期に値が落ちるという現象を繰り返している。黒フェニコンの場合、10月(収穫期)の価格が5月(出荷期)の価格より低いことが多い。この価格特性の理由としては、フェニコンの特性、1回の収穫で年間収穫に相当するものが、各地域別に収穫期が異なるため、出荷期の特性(不足)が顕著である。フェニコンは収穫直後の新しい色で、軟らかいものが好まれる。色が落ちてきた商品価値の落ちる価格を持つため、及び、基礎食糧としてのフェニコン価格の安定を図るため、出荷期に政府の市場介入が行われ、政府ストックの購入品を市場に放出するなどの対策が行われる。

85/86年度の価格推移については、2) 需要が大きく増加している。1) 政府の最低保証価格

2) 単位収量面積当りコメ 3) 211270付付付付付 2234号(信託と米穀)の号付

サトウキビの例と34両期収量の場合 極付通商の長期乾燥の米と単収の極度の減少が(1ha当り6倍)あり、生産コストが高くなった。すなわち1haあたり10倍収量の通常生産に近づく推定が、27年CE#147.4からCE#282.0/倍に上昇、(家畜利用米の場合)CE1857より4774へ上昇(米及び米穀利用の場合)した。この両方の相対的収量の減少を生産コストの政府の支払い、最低保証価格(両期収量平均の25年11月に調整されたCE#149.2)を15%以上上回るものとなった。

このためサトウキビにおいては、生産者受取平均価格が85年12月にCE#324.66に上昇し、卸売米の価格が60kg>1倍高くなった。CE#300千を越え、サトウキビの取引価格が米と同等の値にあり、CE#360より10%以上高くなった。生産者受取価格の上昇は86年1月より継続した。

86年2月末に発表された信託と米穀の最低保証価格がCE#292.20で凍結され、小売価格が1kgあたりCE#9.60で統制された。3月の上旬、生産者受取価格の最低保証価格を平均9.5%上回るレベルに戻った。

他方、短期収量が良好な成績で、両期収量を15%以上上回る単収(770kg/ha)を得て、米穀と上の生産量とになり、米穀の需要と、生産者受取価格が前月比15.4%の下落となった。この生産者受取価格の下落は5月より継続され、米に最低保証価格(CE#292.20)を戻す水準であった。

6月より軽い足踏があり、7月には更に伸びてカンボジア米と米の生産者ベースでCE#295-/60kgの取引された。8月上旬には更に価格の上昇があり、アール・スメット360-カンボジア米と米のCE#502-に達した。

生産者ベースでの高値の取引は、カンボジア市の卸市場に4週間を待たずして、冬期米はこの取引を利権した。このため冬期米相場は前年比25%の増加となり、冬期米に外山で単収の低く、生産量の前年比22.5%減少したため、市場への取引量も減少した。このため10月にはCFPの27%放出と、輸出が主要となり、カンボジア市場への供給量は維持した。

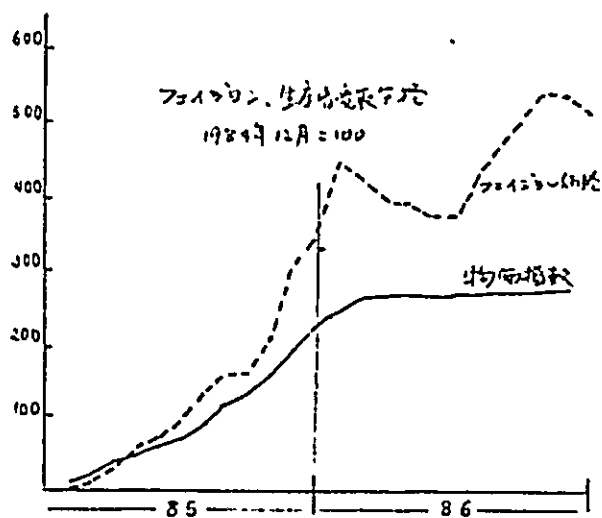
価格の継続的に上昇した。86/87年度は両期作を判断により、その水稲量増加、この合計の価格動向を決定する。

次年度は、カンボジアにおいては、生産者受取平均価格の推移、と物価指数とを比較したところ、85年の物価指数と、より上回って推移した。推定であった。86年はインフレ率を大きく上回る価格であった。

表 90 生産コストの推移

月別	1985	1986
1	72.84	403.93
2	84.29	384.43
3	93.47	363.60
4	112.28	361.21
5	127.64	348.04
6	139.83	357.07
7	174.06	393.03
8	185.17	418.03
9	192.16	441.31
10	232.42	472.93
11	295.80	465.87
12	324.66	451.85

出所: I.E.R. 227/6014 SPV.



② 生産コスト

サ・パ・カ | 収量、収量品質研究が促進され、サ・パ・カ | 1.543 ファイブの 26/27 歳で生産コストが
は、次回の 227/6014

表 91 生産コスト 16 値 (60kg) 生産コスト

区分	単位	単価	金額
A) 作業コスト			
1) 労力	11.10	41.7	462.9
2) トラクター運搬	1.82	57.5	104.7
3) 4輪トラクター	1.82	338.5	616.0
4) 耕起	0.40	31.3	12.5
5) 耕起	0.56	56.4	31.6
6) 家畜	1.98	9.2	18.2
7) 施肥	0.22	9.8	2.2
8) 家畜中耕	1.98	1.8	3.6
9) 防除	0.25	47.0	11.8
10) 運搬	0.26	36.3	9.4
11) 肥料	0.13	79.6	10.3
小計			1,283.2
B) 資材コスト	(数量)		
1) 種子	50.00 kg	58/kg	290.0
2) 石灰	1.50 T	240.0/T	360.0
3) 石灰 He 結	0.40 T	2242.5/T	897.0
4) 殺菌剤	4.50 kg	41.4/kg	186.4
5) 殺虫剤	3.60 L	67.0/L	241.5
6) 殺菌剤	1.00 kg	9.4/kg	9.4
7) 肥料	14.00 U	4.0/U	56.0
小計			2,040.1
合計			3,323.3
C) 間接コスト			
1) 機械使用費			236.9
2) 管理費			69.2
合計			3,629.4

出所: I.E.R.

サ・パ・カ | ヴォカセル

92

$$F = 1.9 \times 10^5 \text{ N} \cdot \text{m}^{-2}$$

10 瓩(60 瓩) 水櫃

世 分	所 需 口 数	单 价	全 额 元
A) 作業コスト			
1) 労 働 コ	17.81	41.7	742.7
2) 家 畜	7.06	9.2	65.0
3) 耕 起	1.62	4.2	6.8
4) 碎 土	0.86	14.6	12.5
5) 播種施肥	0.80	9.8	7.8
6) 家畜中耕	1.50	1.8	2.7
7) 運 搬	0.37	3.9	1.4
8) 防 除	0.59	2.7	1.6
小 計			840.5
B) 買掛コスト	(数量)		
1) 種 子	50.00 KG	5.8 / KG	290.0
2) 配合肥料	0.16 T	2242.5 / T	358.8
3) 殺菌剤	1.03 KG	41.4 / KG	42.7
4) 殺虫剤	0.37 L	67.0 / L	24.8
5) 殺虫剤	1.00 KG	9.4 / KG	9.4
6) 袋	10.00 U	40 / U	40.0
小 計			765.7
果 計			1606.2
C) 出荷コスト			
1) 板板成り果			74.9
2) 銀行利息			33.5
合 計			1714.4

出 所: I E. A.

7-10904 ノコバ 地産

3.1.4 ソルガム

1) 正座.

表 93

ソルカム: 1986年生産状況

順位	州 別	面積 1000ha.	生産量 1000t	単収 kg/ha.
1	リオ・グランデ・ド・スル	66.5	112.5	1693
2	サン・パウロ	32.7	70.3	2145
3	バイア	31.6	55.9	1770
4	パラナ	9.4	35.3	3741
5	マト・グロソ・ド・スル	16.5	29.5	1788
6	リオ・グランデ・ド・ノルテ	14.2	17.6	1240
7	その他	27.7	49.0	1769
	合 計	198.6	370.1	1864

出所: I.B.G.E.

1995年の統計によつて85/86年度の水稲の生産量は379.1万トンで前年比14.4%の増産であった。
主要6州で全国生産の86.7%を占め、その中に東北地方のバヤ州及びハ・フランド・ド・ハチ州を
含んでゐる。栽培時期はハ・フランド・ド・スル州の25度より栽培する19度15分程度の間に栽培され、
一般に短い期間の作物、たゞにはサニバツ州の早稲と大豆等の長に栽培する。

最大の主成分は、 $\lambda_1 = 0.78$ の方向に最も強く振動する。この方向は、 x_1 と x_2 の両方に沿ったものである。

表 94 ヴルガム：過去5年間の生産推移 (1000t)

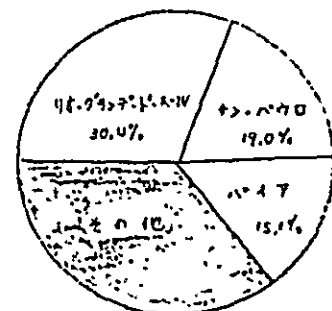
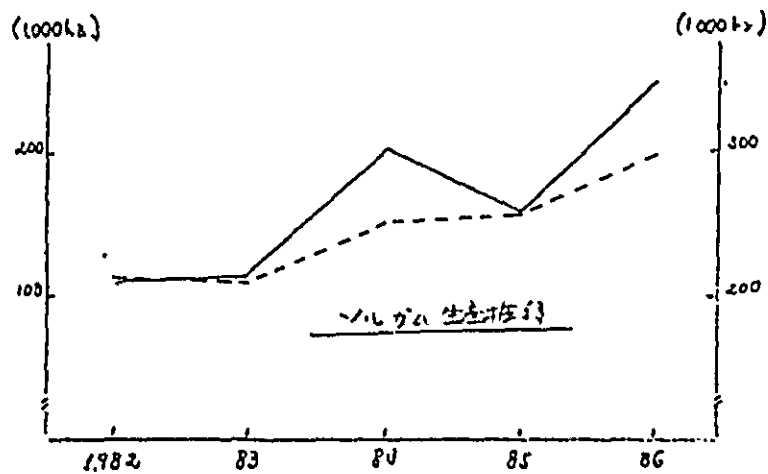
順位	1981	82	1983	1984	1985	1986
1	ウ・グ・マ・フ・ド・ス・ル	105.6	106.0	136.7	100.6	112.5
2	サ・マ・ハ・ウ・ロ	70.0	62.5	70.0	42.4	70.3
3	バ・イ・ア	—	—	—	37.7	55.9
4	他	35.4	44.5	13.9	77.1	131.4
合計		211.0	213.0	300.6	257.8	370.1

面積	1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
		115.0	109.6	150.8	162.9	198.6

表 95 ソルガム：主要生産者の生産 (1000t)

順位	81	1982	1983	1984	1985	1986
1	ウ・グ・マ・フ・ド・ス・ル	209.5	204.7	207.2	189.1	169.2
2	サ・マ・ハ・ウ・ロ	200.0	200.0	200.0	104.6	214.5
3	バ・イ・ア	—	—	—	199.3	177.0
全 国 平均		183.5	194.1	199.4	168.3	186.4

出所: I.O.G.E.



ソルガム：生産分布 (86年)

配合飼料の原料として、セウメに代わってソルガムは生産者価格でセウメに価格の70~80%という肉価を確保している。この価格差はセウメの供給不足や増産又は供給過剰で最終価格に差レベルに落ちた場合に縮小する。向きの価格が接近する。最近ソルガムの価格が最終に落ちたのは1983年であったが、同年中国での洪水によりセウメの生産が打撃を受けたことが原因とされている。

米国ではセウメの価格差が70%に達しており、ソルガムの需要が急激に伸び、ソルガムの生産拡大と価格差の大きい配合飼料工場がソルガムを大量に購入する傾向があり、このことがソルガムの生産拡大と価格差の大きい理由となっている。政府はソルガムの生産に補助金を付与して最終価格をセウメに価格の85%とする政策を採っている。現在のところ、セウメの価格が下落している。しかし市場が小さく取引が容易でないことがセウメの価格を低く保ち、生産者を悩ませている。最近米国の生産者の増産が市場の需給を圧迫していることがセウメの価格を押し下げ、生産者の利益を減らしている。またソルガムを採り入れる場合が多い。年々伸びる

0.6 kg of FeO + 2.45 kg of Fe = 3.05 kg of Fe

二、そのうち、北に遼河の谷、ソルガムを播く畑に、*in situ* 大豆を栽培拡大を図る余地が、残さずにはない。野果作物の分布もこれに受ける。また、とうもろこし、カボチャ、雑穀の産出地も、東北地方に偏して作物の分布は、中央地方のミッドランド、サウス、ウエスタン、その他の作物と適合するべき。畜場と栽培面積を拡大しようとする必要を持つからである。大豆の栽培地は栽培するべきところ、大豆に替わらずに、大豆の栽培地を、大豆作に因^てって、栽培と利用するべき可能である。又、ソルガムの水灌漑とうもろこしの適期に行きおき、受ける利用に致さる。たゞ、現在最大の生産地帯である、サウス、ミッドランド、ウエスタン、他、夏期作物と同じ時期に栽培される、その面積拡大の余地は少ない。

・化学工業用として配合飼料工場にヒレ、ヒレガラを供給する70-80名迄の原料工場と工場収益を
増加させるため需要は増えるであろう、ヒレガラはヒレの代用品として25%まで製品に影響はないといわれる
このほか、小魚の代用品として食用にも利用するところもあり、若パン等料として小魚若魚10名まで代用できる

二、国内市場の伸びにともなう海外市場の需要も、この方向に伸びる可能性がある。その点には生産性の向上によるコスト・ダウンによる競争力の高まりが条件となる。日本生産者の84%は23年までの輸出増強に世界平均の隣国アメリカの平均800万トンの増産を生じ、500万トンの輸出増強は生産性の向上の可能性の狭小な範囲内であると考えられる。

ソルガムは生産の激増する作物、以上の意味において、寧ろ、その生産の増進は、現在よりも、
これからの間にみられ、思案の指針、(とりわけその交通網の整備等)を、前記、生産増進の目標に
添え、又、本國品と適合する生産コストの把握を、同様の調査研究の投資が必要である。

项 目	80/81	81/82	82/83	83/84	84/85
期首在库	-	-	-	-	-
生 产 量	228.1	228.3	237.1	328.7	380.6
输 入 量	0.1	-	-	-	-
供 给 量 计	228.2	228.3	237.1	328.7	380.6
消 费 量	217.2	195.2	237.1	305.1	377.6
余 剩	11.0	-	-	23.3	3.0
输 出 量	11.0	33.1	-	23.3	3.0
期末在库	-	-	-	-	-

2. $P_1, \dots, P_n \in F P$

1) 生徒

小 麦：1986年生产情况

順位	州 別	面積 1000ha	生産額 1000円	平均収量 kg/ha
1	バ ラ 十	1447.0	2800.0	1.438
2	リオ・グランド・スール	1197.1	1693.8	1.415
3	マート・グランド・スール	346.0	430.0	1.136
4	サ ン パ ウ ロ	217.8	311.4	1.430
5	サ ン パ ウ ロ	138.2	102.0	1.100
6	サ ン パ ウ ロ	11.9	25.7	2.160
	合 計	3908.0	5432.9	1.390

1986年1に収穫した小麦の生産量 1986年12月1に発表された統計によると 543万トンの前年に
 達した大型収穫 (425万トンの) に更に 28% 増加した上最良の生産量であった。栽培面積は 79年に
 達した 410万ヘクタールのうち 390万ヘクタールにのみ、平均が前年 (1,538 kg/ha) に次ぐ高い材料
 (1,390 kg) に達したため生産量は高かった。

このように生産の増加は前年に通じて高い生産性により大型の収量が政府の小麦奨励策と今年と収量の
高い部門とから、増産の一の作付と削減したところでもその大きな理由としていた。前年の85年にみかたに画
期的な生産増大は、海外の大豆の国際市場の悪化、収量と減じたため、小麦の増産を奨励する政府の小麦の
作付の増加の増加した。今年と天候に恵まれた史上最高の単収をあげた。政府による小麦買上げ価格
の引き上げは、これによって買上げ価格の引き上げによるものだった。このように政府は、過去85/86年度に
生産量の増加に伴って技術指導と栽培のやり直しと、26年ぶり買上げ価格の引き上げの両方と、増産
の引き上げと、この作付増大の要因となっていた。

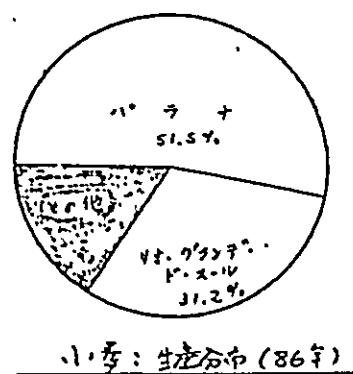
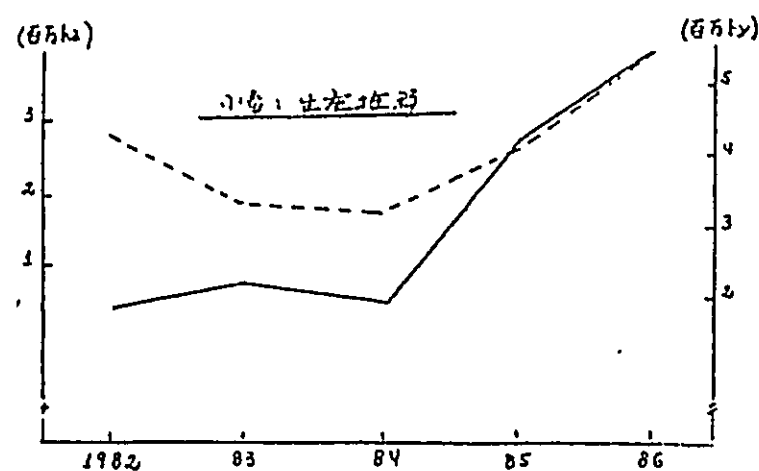


表 98 小豆：過去5年間の生産量 (単位：1000t)

年度	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	ハ ン テ ー	1025.0	1066.0	1086.7	2642.1	2800.0
2	リオ・グランデ・ド・スール	517.0	794.5	611.6	933.5	1693.8
3	マート・グロソ・ド・スール	120.0	158.2	108.8	317.7	450.0
4	サ ン パ ウ ロ	134.0	200.0	113.1	296.0	311.4
5	サ ン タ カ タ リ ナ	13.6	9.9	11.8	44.0	132.0
6	ミ ン ー	89.8	36.7	24.6	13.9	25.7
計		1849.4	2265.3	1956.5	4247.2	5432.9

面積	1000ha.	1982	1983	1984	1985	1986
面積		2829.0	1885.0	1741.3	2657.9	3908.0

表 99 小豆：主要生産者の収量 (単位：kg/ha.)

年度	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
ハ ン テ ー		872	1187	1310	2039	1438
リオ・グランデ・ド・スール		395	1156	965	974	1415
マート・グロソ・ド・スール		734	1383	979	1580	1136
サ ン パ ウ ロ		1000	1367	817	1911	1430
サ ン タ カ タ リ ナ		588	572	796	1100	1100
全 国 平 均		654	1190	1124	1598	1390

出所：I.O.G.E.

カ 国際市場と貿易の動向

最近の国際小豆市場は、貿易の急激な拡大と、価格の暴落、それに供給量の多さ、低価格が継続中である。米国農務省は10月に行った推定によれば、86年度におよそ世界の小豆生産量を505.6万トンと推定し、前年より0.3%以上の増産を予想している。主要生産国の中で中国は前年より1.9%増産を推定し、ソ連は前年より8.4%増産を推定し、米国は前年より12.5%増産を推定し、ブラジルは前年より1.2%増産を推定している。期米の市場価格は13.5セント（-0.8%）の下落を記録し、12.5セントに下落している。この大増産は、世界の国際市場に供給量を増加させることになり、輸入の理由となる。

小豆の国際相場は、米国の場合、1985年の177ドル/トンから86年度の10月期平均相場は104ドル/トンに下落しており、アルゼンチン産も同様に下落し、189ドルから81ドルへ、またカナダ産も212ドルから131ドルへと減少している。

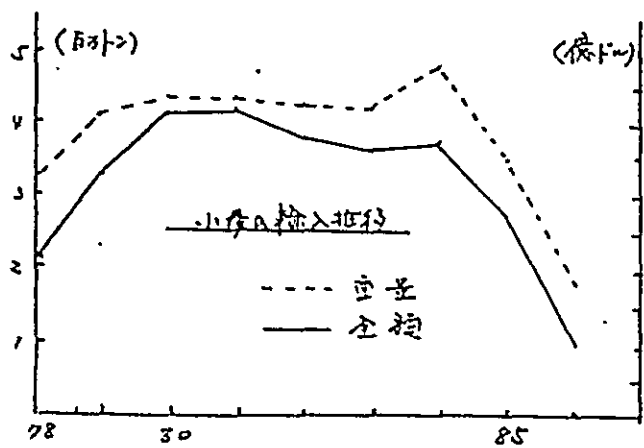
この下落は、価格の暴落と、供給量の増大と、輸入の増加と、競争市場の置かたがたである。米国は、ソ連連輸に際して、12ドルに引き上げ、15ドルの補助金を与えることと決定した。フランスも、12ドルから77～80ドルに引き上げ、米国の補助金に劣る能力で対応している。生産国で、同じような政策は、作付減少による供給量の減少、小豆の消費増大と、国際市場の回復と、同じような動きが集中している。

表 100 小国・地域の生産・消費		81/82	82/83	83/84	84/85	85/86
生産国						
中 国		59.6	68.4	21.4	22.8	26.0
ソ 連 邦		80.0	86.0	79.0	73.0	83.0
米 国		75.8	75.3	65.9	70.6	66.0
エ ー ン		54.4	59.8	59.2	74.6	65.9
イ ン ド		36.3	37.5	42.8	45.5	41.2
東 欧		30.6	34.7	35.4	40.1	38.2
カナダ		24.8	24.7	26.5	21.2	23.9
オーストラリア		16.4	8.9	22.0	18.3	14.5
アフリカ		8.3	15.0	12.8	13.2	8.5
その他		62.2	66.8	70.4	66.4	71.6
合計		448.4	479.1	490.9	514.7	503.8
輸出						
米 国		48.8	39.9	38.9	38.1	26.0
カナダ		17.6	21.4	21.8	19.4	17.5
エ ー ン		15.5	15.6	15.4	17.5	14.5
オーストラリア		11.0	8.1	10.6	15.3	15.7
アフリカ		4.3	7.5	9.7	8.0	6.1
その他		4.1	6.1	5.6	7.8	6.3
合計		101.3	98.6	102.0	106.1	88.1
輸入						
ソ 連 邦		19.5	20.2	20.5	28.1	17.0
中 国		13.2	13.0	9.6	7.4	6.0
日本		5.6	5.8	5.9	5.6	5.4
その他		63.0	59.6	66.0	65.0	59.7
合計		101.3	98.6	102.0	106.1	88.1
消費						
ソ 連 邦		102.0	105.7	92.0	96.1	92.0
中 国		22.8	21.4	41.0	95.2	92.0
米 国		23.1	24.7	30.2	31.4	29.3
その他		243.6	256.1	268.1	277.0	273.8
合計		448.4	467.9	486.3	499.7	492.1

出所: USDA

表 101 小国・地域の輸入・輸出		
年次	数量 1000トン	金額 100万ドル
1978	2,261	412
79	4,149	657
80	4,355	822
81	4,360	832
82	4,224	762
83	4,182	727
84	4,867	755
85	3,547	528
86	1,834	205

出所: CACEX 小国・地域の輸入・輸出



④ 国内市場の状況

1981年と85年に比べ53年間の国内小売消費量は年間の630~680万トに安定しており、1人当り年間消費量は50kg弱を推移してきたが、86年の経済政策により消費量は750万トに増加し、1人当り消費量は54kgに達したものと推定される。

表 102 小売：国内需要 1000ト

年次	国内生産量	国内消費量	輸入量
1981	2,210	6,300	4,360
82	1,850	6,300	4,224
83	2,100	6,400	4,180
84	1,900	6,300	4,867
85	2,300	6,800	3,547
86	5,300	7,500	1,834

出所：1986. CACEK.

小売の輸入量は不安定な低位の国内生産レベルから84年に500万トに達した。85年には大増産と国内生産の増加により国内消費を超過し、86年には国内消費量の増加に応じて国内生産の増産が計画された。輸入量は更に減少した。これは政府が輸入の国内生産が86年のレベルを維持するのを保証した（特に天候条件が好都合）、国内消費量が更に増加すると、350~400万トの輸入と同等の増産を必要と見做したためである。もしこの輸入が行われれば、現在の国際価格（US\$105/ト）に基準として5400万ドルの外貨が支出されることになる。

小売にもつくり置きを促進する一つの手段として、その外貨依存を減らすために政府は国内増産を奨励してきた。しかし、その外貨依存は小売の需要には最適で、国内生産は中・高のコストであった。政府の補助により、国内生産を支えるという状況が説明される。輸入と国内生産の買上げは、政府によって行われ、穀物市場に供給する。その中で買上げ価格と大に下回る価格に穀物を売却する。その差額が補助の形になる。

この穀物市場の買上げ価格と生産者受取価格との関係は、約30%前後で、70%許容の補助と見なされる。その割合は年によって異なり、もっとも補助率が高かったのは1980年の82%、もっとも低かったのは82年の63%であった。

このように、小売に与える補助金の支出は、国の財政に大きな負担となる。インフレ率の1つとして、このことから小売関連補助金の段階的減少政策が、80年8月以降の目標とされた。81年には生産者受取価格が141%削減された。これは穀物市場の買上げ価格が354%の増産を意味し、補助の削減へと動き出した。83年以降、68~70%の補助レベルに引き下げられ、今日に至るまでである。

表 103 小計：生産物取引価格の増減率（%）
CR/c

年次	生産物取引価格	生産物取引価格	比率	%
1977	3,170	1,202	38	
78	4,150	1,391	33	
79	5,400	1,527	28	
80	11,800	2,173	18	
81	28,500	4,860	16	
82	64,914	23,877	37	
83	185,453	61,252	33	
84	647,646	143,714	30	
85	2310,355	670,215	29	
86	3,390	1,060	32	

出所：ICA * 86年推定値

86年に実施された経済改革は、一方においては、価格の自由化と生産物取引価格の国内と国際との同歩調による一般購買力の増大と共に、一方は小計の消費を増加させた。小計の補助は依然として継続されており、一方においては、価格の自由化と生産物取引価格の国内と国際との同歩調の増加と海外依存の増加、生産物取引価格の上昇に特に低所得の国と発展途上の国との間で、社会的及び経済的負担が増加している。その結果として、生産物取引価格の国内と国際との同歩調の増加と海外依存の増加、生産物取引価格の上昇に特に低所得の国と発展途上の国との間で、社会的及び経済的負担が増加している。その結果として、生産物取引価格の国内と国際との同歩調の増加と海外依存の増加、生産物取引価格の上昇に特に低所得の国と発展途上の国との間で、社会的及び経済的負担が増加している。

表 104 小計：生産物取引価格の増減率（%）
CR/c

年次	1984	85	86
1	11,135	-	-
2	-	-	188.11
3	-	-	188.00
4	18,025	-	200.35
5	-	-	200.80
6	-	-	200.40
7	-	-	200.60
8	25,381	-	200.40
9	28,101	-	199.96
10	30,57	30,570	198.61
11	-	-	200.02
12	-	-	200.35

出所：IEA * CA

表 105 小計：生産物取引価格の増減率（%）
CR/c

年次	1984	85	86
1	305	1035	2.86
2	310	1270	2.86
3	388	1520	2.75
4	408	1634	2.77
5	433	1699	2.76
6	441	1644	2.75
7	524	1651	2.69
8	619	1692	2.67
9	619	1691	2.76
10	660	1649	2.68
11	791	2,056	2.72
12	830	2,381	2.77

出所：IEA * CR

3.1.6 大麥

表 106 大麥: 1986年生産状況

順位	国別	面積 1000ha	生産量 1000t	平均収量 kg/ha
1	リトアニア・ラトヴィア・ポーランド	49.4	80.1	1621
2	バングラデシュ	27.6	60.0	2174
3	ウズベキスタン	25.0	40.0	1600
4	モルドバ	—	0.1	—
	合計	102.0	180.2	1766

出所: I.B.G.E.

ラトヴィアは大麥の栽培に適した広い面積の土地を有しているため、自給需要を満足し、特別計画の設けられており、ビールの原料消費量も急速に増加している。しかし、依然としてマレーシアの輸入国であり、海外依存を脱している。

生産される大麥は主にビール原料としてのマレーシアと向けられる。国内のビール工場はマレーシアの製造設備を持つ2つのブラマ (BRAMA) とアンメルツ (AMMELTZ) の二大ビール工場である。両工場が生産者と栽培者の間で種子の供給、技術指導と行ない、栽培物の買上げを行なうシステムとなっている。これに生産物の一定の基準 (発芽率最低85%、蛋白質含有率最高12%、湿重13.4%) 内に収まることを条件とする。上記の二工場はマレーシアに輸入している。輸入国例で示すように、林田として、輸出補助によって恩恵を受ける場合が多い。

大麥の栽培は1970年代より政府の奨励策によって拡大された。同年ラトヴィアの主要な輸入国であったため、政府はビール工場、生産者協同組合、及び公共機関と統合して「大麥及びマレーシア給プログラム」を設け、生産奨励策を実施することになった。生産される大麥の工場例の要求する品質基準に達しなかった大麥は伸びず、70年代末にはほとんど停止した。

大麥の生産が増加し始めたのは80年代に入ってからで、新品種の開発により、栽培面積の増加と並行して、小麥の場合と同様に気象条件の不利により、生産量と面積の増加に平行している。

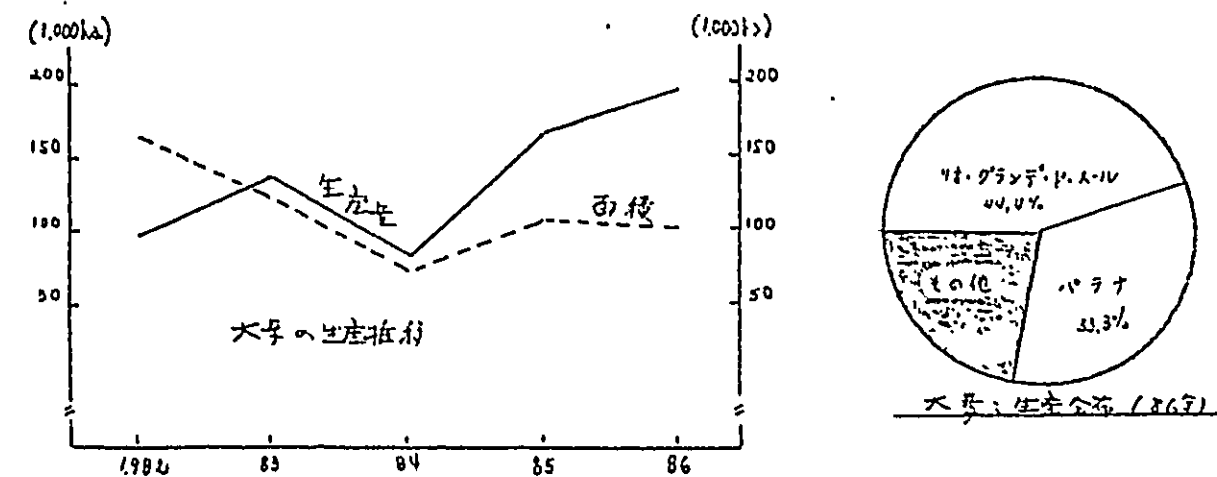


表 107 大分：過去5年間の生産量 1000t

順位	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	リト・グランデ・ト・スール	56.6	41.2	47.2	64.8	80.1
2	パ ラ	31.2	22.0	18.4	56.6	60.0
3	サント・カグリーナ	10.6	18.0	11.8	40.0	40.0
4	その他	-	-	-	0.1	0.1
合 計		98.4	131.2	77.4	161.5	180.2

面 積	1000ha	167.0	122.3	73.1	109.7	102.0
-----	--------	-------	-------	------	-------	-------

表 108 大分：主要生産物の単収 kg/ha

州 別	1982	1983	1984	1985	1986
リト・グランデ・ト・スール	519	1030	1122	1340	1621
パ ラ	710	1048	940	1560	2174
サント・カグリーナ	774	1418	1030	1600	1600
全 国 平 均	590	1073	1059	1473	1766

出所：I.B.G.E.

上記大分の生産計画が放棄された結果、過去10年を逆に見れば、大分の生産量は国内で最も生産能力185トンと高いにもかかわらず、煙草の輸入が減少した。86年には天候により、社会的な生産となり、国内需要にほぼ対応した180トンと生産量となった。生産量の増加と同様の単収は過去5年間の平均を1トン以上上回り、1,766kg/haに達している。

国内の栽培可能な面積は約30万ヘクタールと小さいが、冬期作物としての小麦と結合する主作物であり、政府の強力な援助に支えられている。小麦作業者は優先して大分の生産増産を阻んでいる。

3.1.7 カリブ

表 109 カリブ：1986年生産状況

順位	州 別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	リト・グランデ・ト・スール	79.7	72.0	903
2	パ ラ	17.8	25.8	1448
3	サント・カグリーナ	25.0	20.0	800
4	その他	6.9	3.2	474
合 計		129.4	121.0	925

出所：I.B.G.E.

表 110 からすき、産出と生産の推移 (1000t)

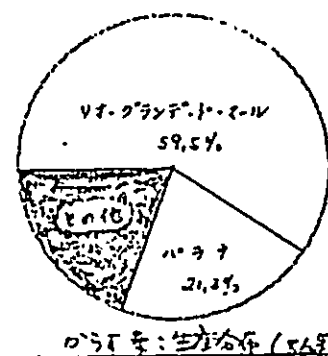
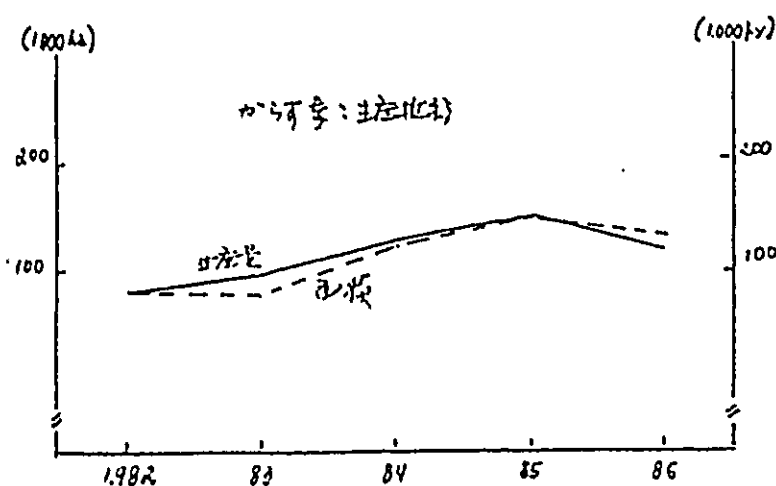
順位	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ・グランド・ト・ス・ル	59.2	53.3	60.5	63.1	72.0
2	サ・ソ・タ・タ・リーナ	14.9	17.2	44.6	60.0	20.0
3	パ・ラ・ナ	14.0	28.0	28.0	38.9	25.8
4	その他	—	0.1	—	0.1	3.2
	合 計	68.1	98.6	133.1	162.1	121.0

面積	1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
		97.1	46.9	120.6	142.1	129.4

表 111 からすき：生産と消費の推移 (kg/ha)

州 別	1982	1983	1984	1985	1986
バ・グランド・ト・ス・ル	644	990	1000	825	903
サ・ソ・タ・タ・リーナ	745	750	1151	1500	800
パ・ラ・ナ	855	1400	1318	1525	1448
全 国 平 均	701	1018	1104	1141	935

出所：I.B.G.E.



からすき：生産分布 (56%)

からすきの市場は食用のほかに競馬馬の飼料、家畜飼料、冬期の天然飼料等である。この中食用及び競馬馬の飼料は白色又は黄色のものが多く、その他の場合は黒色のものが多くみられる。統計上は、この各産品の色別を一括して示す。

80年代に入り、生産の増加がみられるが、量的には不足しており、需要が低かった年にも補完のために輸入が必要であった。他の冬期産物の場合と同様に、からすきも天候の影響が強く、供給が常に不安定である。そのため政府はVBC(生産調整基金)を高く設定し、生産を奨励しており、その結果として最近の生産増加となっている。

品質の改良に成功した飼料研究は「バ・グランド・ト・ス・ル」の「パス・フンド」(Passo Fundo)大学及び同組合が中心となっており、良品質の飼料の普及が図られている。この飼料は国内消費にたいして生産調整が期待されている。

から夏季のものは特徴は、その栽培が地力と保全、夏作に良い影響を及ぼすことにある。
 これはから夏季栽培の増加を呼ぶための理由とされている。

86年の作物は天候に恵まれ、高い平均収量と得点があり、品質が低く、工場での買上げ基準や、政府の最低保証価格制度に一致していない品質基準に達しないもの、大量の在庫が栽培の必要飼料として消費された。

3.1.8 ライ草

表 112 ライ草: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	収量 t/ha
1	パラナ	3.6	2.8	769
2	ミナス・ジェリス	0.8	1.0	1200
3	リオ・グランデ・ド・ノル	0.7	0.7	1079
合計		5.1	4.5	879

出所: IBGE

最近のライ草作は病害の被害が多く、消費も減っているため生産レベルは極めて低いものがある。
 この作物がブラジルに導入された歴史は古いが、生産量は小さく、精製飼料用のパンの原料として消費される程度である。これはライ草よりパンの小麦粉パンに比べて安く低所得層の食糧に消費されている。

ライ草も冬期作物で小麦と競合する地位にあるが、政府の援助下にある小麦作に優先されている。
 この地位の伸びは理由がいくつかある。小規模な市場で売れるという国内需要と関係があり、83年と84年にはそれぞれ41トンと181トンの輸入が行われた。輸入先は、世界的なからライ草の産国であるオーストラリアで、同国は常に食糧のものを輸出している。

この10年間のブラジルの生産量はほとんど見えないほどに増加し、80年に入ってから価格政策の促進措置が採られるにともなう栽培面積は増加をみられた。

調査研究の目的: 1/ 不銲鉄 (Fe) の含有率 / パン・ライ草の飼料小量試験の目的 - 病害 (FERRUGEM DO COLMO) に抵抗性のある品種の同定が、このようにあり、好結果を得ている。
 86年に新しく開発された品種は、少量の試験栽培が行われた。

一般的に小麦に不適な場所を栽培されている小麦栽培が拡大する場合、ライ草の栽培面積は減少する。

表 113 ライオン、過去5年間の人口推移 (1000人)

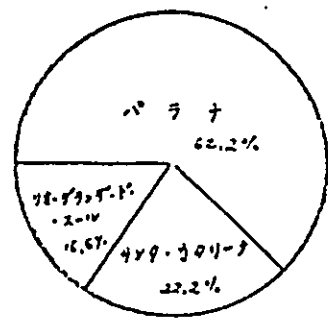
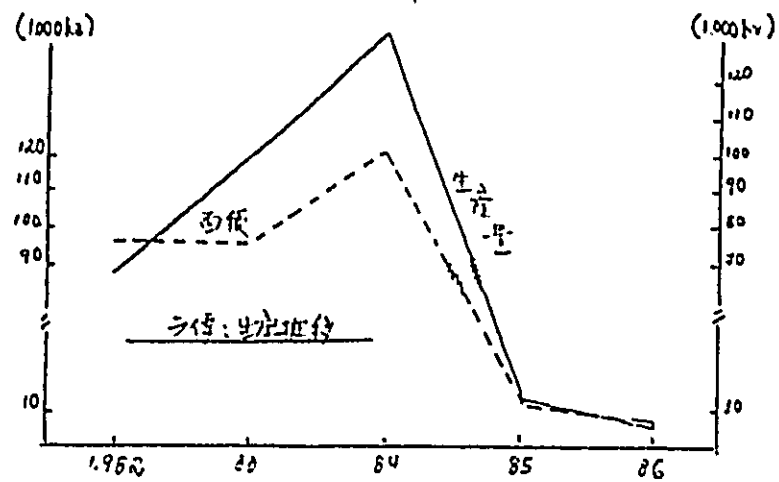
順位	町 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	パ ラ ー	14.0	28.0	28.0	11.1	2.8
2	サ ヲ タ ム カ リ ー	15.0	17.2	44.6	1.6	1.0
3	リ ョ ン グ ラ ヲ テ ー ト ー	39.1	53.3	60.5	0.6	0.7
	合 計	68.1	98.5	133.1	13.3	4.5

面 積	1000ha	77.1	97.0	120.5	12.6	5.1
-----	--------	------	------	-------	------	-----

表 114 ライオン、主要生産地の平均 (kg/ha)

町 別	1982	1983	1984	1985	1986
パ ラ ー	855	1400	1318	1036	769
サ ヲ タ ム カ リ ー	745	750	1151	1350	1200
リ ョ ン グ ラ ヲ テ ー ト ー	644	490	1000	942	1079
全 体 平 均	701	1018	1104	1061	879

出所: IBGE.



ライオン生産分布(86年)

3.2 油脂原料作物

3.2.1 大豆

1) 生産

表 105 大豆: 1986年生産状況

順位	品種	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	ササ・グランド・ノール	3248.8	3269.0	1008
2	パナ	1745.0	2600.0	1490
3	マツ・グランド・ノール	1206.3	1965.0	1629
4	マツ・グランド・ノール	913.2	1921.0	2104
5	コ	621.8	1127.6	1813
6	ササ・ハナ	425.9	918.0	1929
7	ミナス・グランド・ノール	438.8	796.5	1815
8	ササ・グランド・ノール	382.5	498.0	1302
9	パナ	99.5	140.4	1411
10	その他	68.2	97.2	1689
合計		9185.5	13334.7	1452

出所: IBGE.

1985/86年度の大豆作の打合正決に中央南部地方が乾燥の被害を受けた。当初想定していた16.5百万トン、大中下週は13.3百万トンの生産に終わった。前年度に引き続く低価格相場の中大豆の作付面積10%近く減少している。しかし単収は前年の1800kg/haから1452kg/haへと大幅に落ち込んでいる。この単収は通常の大豆作の平均単収の約25%落ち込んでいる。特に大豆生産地のササ・グランド・ノール及びパナナールにおいて顕著である。全国生産量の約半分を占めている。ササ・グランド・ノール及びパナナールは大豆作の主要品種であり、その生産量の減少は大豆生産の大幅な減少を意味している。86年には大豆生産の増産と見られ、このように低価格相場での減産に及ぶ新しい生産の増産がみられる。東北地方のバイナールで前年を84%上回る140千トンの生産が注目される。バイナールを中心とするバイナール・セラー地方の生産が本格化している現象であり、今後の生産増加が予想される。

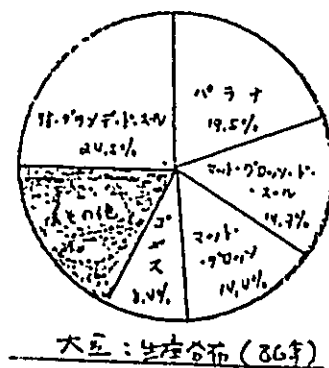
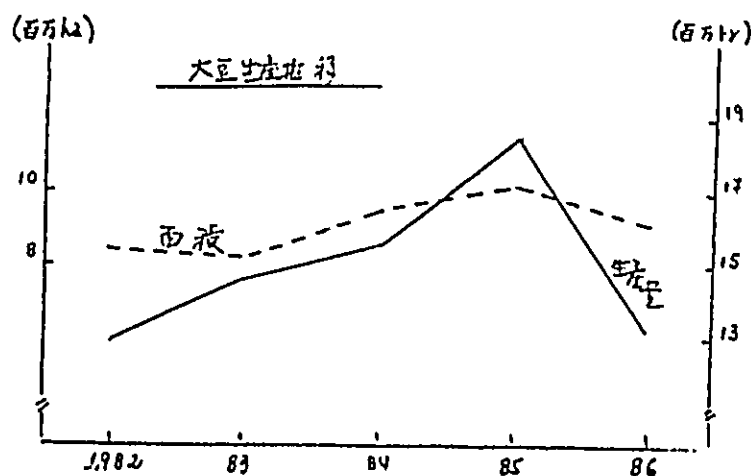


表 116 大豆：過去5年間の生産動向 1000t

順位	国 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	ロシア・ウクライナ・ドイツ	4220.6	5269.0	5415.5	5711.1	3269.0
2	パナマ	4200.0	4315.0	4121.0	4413.0	2600.0
3	マント・グロソ・ドイツ	1587.3	1801.0	2002.6	2558.7	3965.0
4	マント・グロソ・ドイツ	365.5	611.2	1051.1	1656.0	1921.0
5	ドイツ	560.9	693.7	847.4	1356.2	1127.6
6	その他	1950.7	1872.9	2098.2	2583.4	2452.1
合 計		12835.0	14582.0	15625.8	18278.4	13334.7

面 積	1000ha	8202.2	8136.5	9416.7	10152.7	9185.5
-----	--------	--------	--------	--------	---------	--------

表 117 大豆：主要生産国の平均収量 kg/ha

国 別	1982	1983	1984	1985	1986
ロシア・ウクライナ・ドイツ	1192	1548	1487	1570	1008
パナマ	2000	2184	1892	2009	1490
マント・グロソ・ドイツ	1825	1946	1698	1957	1629
マント・グロソ・ドイツ	1881	2023	1951	2082	2104
ドイツ	1768	1870	1456	1847	1813
全 国 平 均	1565	1792	1650	1800	1452

出所: J.B.G.E.

② 国際市場とブラジルの輸出

1985/86年度における10大油粕作物の平均生産量は、192.10万トン、前年比+5.5%の増加であった。生産量はより少量の増加に止まり、消費量が186.5万トンに拡大された。増産の増加分は下廻った大豆の供給量に前年よりも増加し、価格に不利な条件を作った。

表 118 10大油粕作物の輸出動向 100万トン

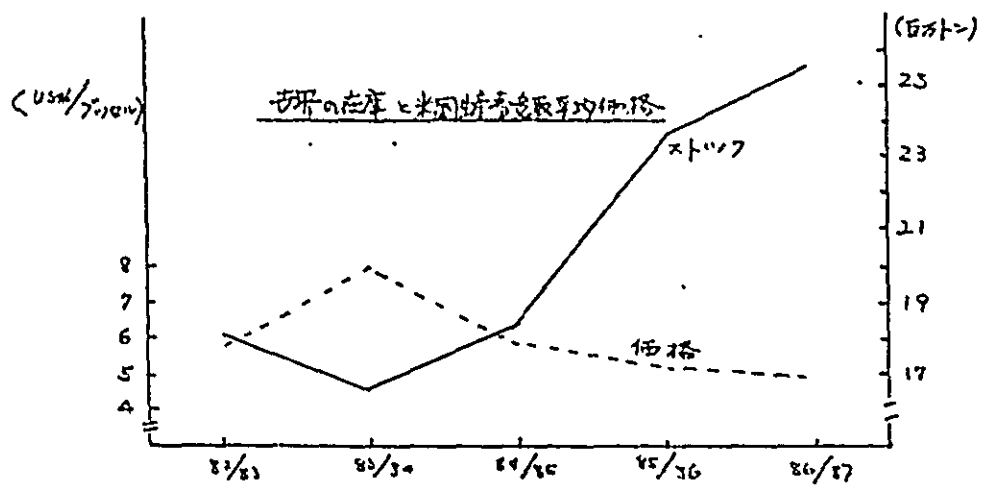
産 品	84/85	85/86	86/87
期首在庫	17.3	22.5	28.1
生産量	187.0	192.1	192.6
供給量計	204.7	214.6	220.7
消費量	182.2	186.5	191.4
期末在庫	22.5	28.1	29.3

出所: OIL WORLD WEEKLY

世界の10大油粕作物のうち大豆は51%、油15%、ヒマワリが9.5%の比重を占める。油粕の需給動向は、この作物の動向に大きく影響される。

86/87年度における大豆の平均生産量は、192.6万トン、前年比+5.5%の増加であった。同国の生産減少（-5.6%）が大きな要因となった。同国の生産減少は、生育時期の天候不順によるもので、平均収量は前年より2.6%増の2,230 kg/haに達した。USDA（米国農務省）が86年8月に発表したレポートによると、米国における86/87年度の大豆作の中央、南部地域の主要栽培地帯で高い生産性が示された。而るに、大豆の収量は受けた影響は、全体の生産に伸びが伸び、結果的に前年より6%増の53.9

万トに増加した。しかし生産の減少から、大豆の国内需要は減少した。86/87
 年度期末のストックは前年を2.5%増加した23.3万トンに達するものと予想されている。なお、この
 大豆相場は米相場と連動して、大豆相場と米相場との関係を示している。大豆相場は米相場に
 よって価格が変動し、大豆相場は米相場に連動して変動している。大豆相場の増減は米相場の増減に
 連動して86/87年には最大のストック、最低の価格となっている。USDAの資料によると米国の大
 豆生産者受取平均価格は、ストックが300万トン増えるたびに70セントの値下りとなるという
 ことである。同資料によると82/83年及び84/85年に達したストック170万トンの時代、生産者受取
 平均価格はUS\$5.70であったので、ストックが230万トンに達する86/87年度期末の生産者価格、
 プライムは、70セント値下り計算となり、5ドル以下となる価格水準となる見通しがある。



世界の大豆及び副産物市場の70年代にみられた急激な拡大の勢は80年代に入ると急激に減
 弱した。この例として世界の大豆生産量の推移がある。USDAが発表する世界の大豆生産量は82/83年度に
 頂点として1億932万トンに達した後、下降しており、86/87年にはUSDAが予想している77.9万トンの大豆
 が実現する場合、82/83年度のレベルに達することはある。このような大豆生産の減退は食料
 需要の増大と相対的に開発途上国における大豆需要の悪化と相対的に輸入能力の減少から世
 界の貿易量も又減少した。82/83年度のレベルに戻った。

表 119 世界の大豆(豆)生産量、消費量及び貿易量 1,000トン

年度	生産量	消費量	貿易量
1982/83	93.5	76.1	28.6
83/84	83.1	71.1	26.1
84/85	92.6	73.7	25.2
85/86	96.2	75.8	26.0
86/87	98.0	77.9	29.8

出所: USDA

大豆副産物の市場と大豆粕の

価格上昇、大豆油の価格下落の傾向
 大豆粕の国際価格上昇は、ヨーロッパ
 通貨の下落と大豆粕の下落と理由あり
 2あり、又大豆油に於ける国際相場
 下落は、マレー半島におけるオイルパーム
 トツク増大により、米国の市場(OECATUA)
 における大豆油の価格、85年7月のト
 ンあたり641ドル、86年7月には358
 ドルへと下落した。マレー半島のオイル
 パーム、ストウチは、3年間で増加の勢
 に見え、86/87年度末には765千トン
 に達する見通しがある

以上の様子を踏まえ、大豆粕の国
 際価格、85年8月以降は200ドル
 を割った、86年7月現在の価格は低値の
 勢を維持している

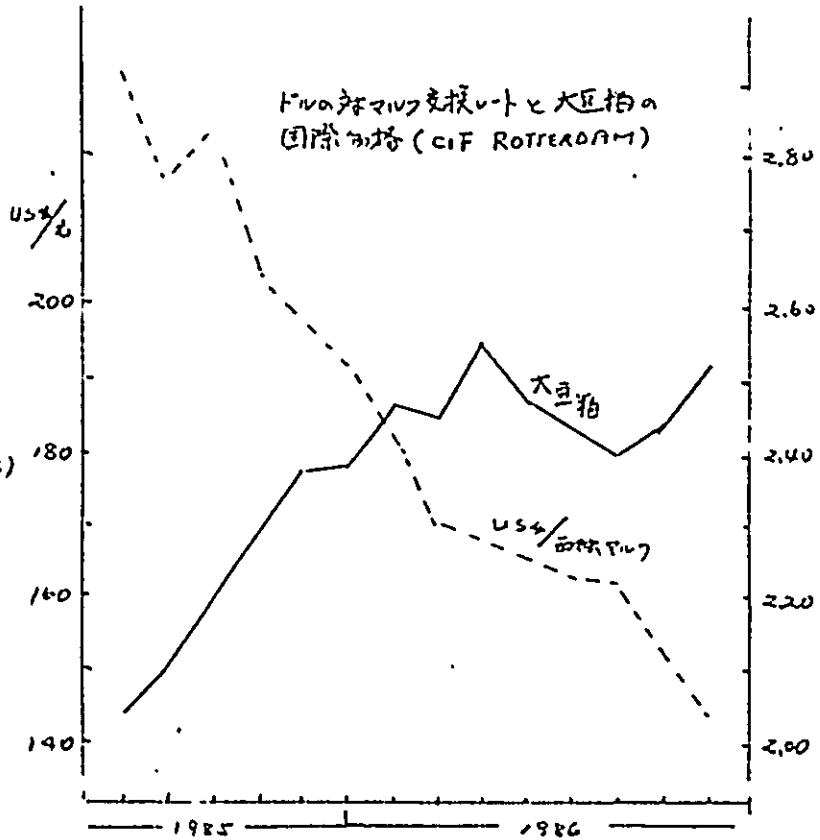


表 120 マレー半島におけるオイルパームの増産と在庫

年次	増産 1,000トン	期末在庫 1,000トン
1982/83	3,179	318
83/84	3,322	472
84/85	3,817	529
85/86	4,730	670
86/87	5,000	765

出所: USDA

表 121 大豆の国際市場の価格 US\$/t

月別	1985	1986
1	215	199
2	212	193
3	217	195
4	219	192
5	212	191
6	209	193
7	201	189
8	188	..
9	184	..
10	179	..
11	184	..
12	189	..

出所: USDA

表 122 大豆の国際市場(CIF Rotterdam)の価格 US\$/t

月別	1983	1984	1985	1986
1	235	305	243	221
2	242	293	239	216
3	253	314	241	217
4	252	315	243	213
5	243	338	231	215
6	263	308	227	213
7	339	270	223	209
8	352	261	211	202
9	350	245	207	195
10	329	245	205	..
11	324	250	210	..
12	311	241	213	..

出所: OIL WORLD WEEKLY

86/87年度、大豆相場についてOIL WORLD誌が述べている理由から、市況は生産量に比べて米穀的でないとの見解である。

- 1) 大豆粕の需要は85/86年度に前年比4%増え、86/87年度に前年比1.7%増えたと見込
- 2) その理由は大豆粕の価格上昇による。他の粕類は価格の肉体的な増減が少なく、安価な大豆粕が求められている。
- 3) 米国及びヨーロッパの一部の国において中低価格の減少が予想され、飼料需要の減少が予想される。
- 4) 東欧諸国及び中国等への輸送途上国において、通貨事情の悪化は依然として大豆及び大豆粕の市場拡大を抑制する理由となる。

このように大豆の国際市場は米国に次ぐ生産国兼輸出国としてのフランスに有利な状況にある。外国市場の需要減退、価格の下落により深刻な影響を受けている。

フランスの輸出は、次第にフランスのみならず、85年8月大豆価格の増加傾向、大豆粕は大きく上下し、大豆粕は重量において横這いの傾向を脱して下落傾向に転じた。輸出は全般的に漸減傾向にある。86年に入った年度は、経銷先である消費価格に凍結し、一方、油価の急激な高騰による購買力の増大により、国内消費が増加したため、生産量の減少に加え輸出品の低下を招いた。

表 123 大豆(豆) フランスの輸出統計

年度	重量 (1000トン)	金額 (100万フラン)
1977	2,587	208
78	659	170
79	638	179
80	1,549	394
81	1,450	404
82	500	123
83	1,245	309
84	1,561	454
85	3,491	763
86年	1,200	243

出所: CACEX 1987年11月9日



表 124 大豆(豆) フランスの輸出 1985年

輸出先国	重量 (1000トン)	金額 (100万フラン)
アメリカ	730	158
西独	476	102
ベルギー	451	98
スペイン	433	95
イタリア	436	94
日本	212	46
オランダ	179	40
フランス	106	24
その他	466	106
合計	3491	763

出所: CACEX

大豆: 12,010,000

表 125 大豆油：ブラジル輸出(1977)

年度	重量 1000トン	金額 100万ドル
1977	487	274
78	488	235
79	524	327
80	744	421
81	1107	545
82	509	222
83	354	155
84	503	557
85	521	331
86	213	70

出所: CACEX 1986.11.19

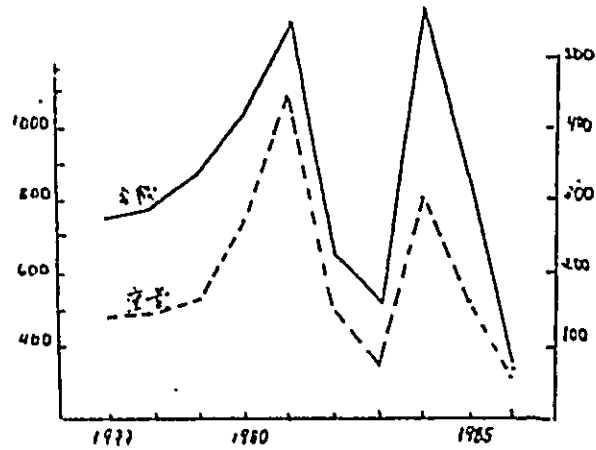


表 126 大豆油(豆油) ブラジル輸出 1985

輸出国	重量 1000トン	金額 100万ドル
インド	186	122
イラン	99	61
ノルウェー	90	57
チリ	43	26
米国	24	15
メキシコ	15	9
モロッコ	13	9
ユゴスラビア	11	2
その他	40	25
合計	521	331

出所: CACEX 1986.01.01

表 127 大豆粕：ブラジル輸出

年度	重量 1000トン	金額 100万ドル
1977	5,354	1,150
78	5,461	1,048
79	5,171	1,136
80	6,582	1,449
81	8,285	2,136
82	7,954	1,668
83	8,493	1,793
84	7,587	1,460
85	8,588	1,175
86	6,666	1,198

出所: CACEX 1986.11.19

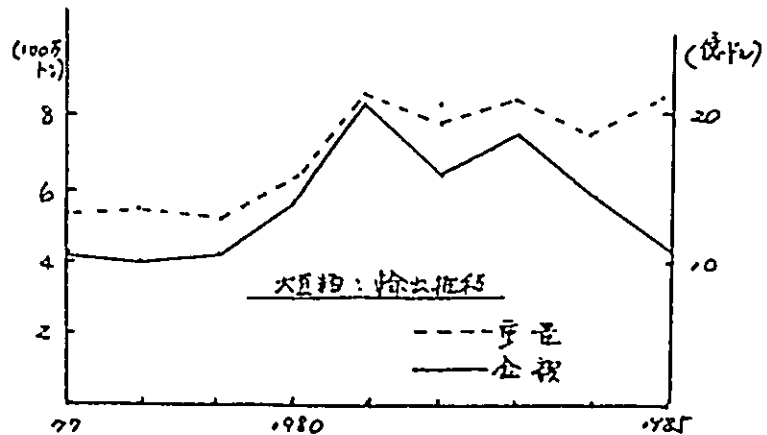


表 128 大豆(粕)輸出実績 - 1985年

輸出国	重量 1000トン	金額 100万ドル
オランダ	2665.0	362.9
フランス	2090.9	293.8
スペイン	740.4	98.2
西独	715.6	91.8
イタリ	421.1	53.4
ベルギー	341.8	46.8
ポランド	250.8	30.8
その他	256.5	36.3
合計	8588.0	1174.8

出所: CACEX 1986.05.03

ハ) 国内市場と価格

85/86農年作の生産減少にかゝらば、期待されて国内価格の上昇はあらず、76年1-8月間の生産者受取価格と実需価格とをみれば、中央・南部地区におき、前年同期に比して1.4%~1.2.5%の減少であった。これは86年当初に支拂された政府調達米におき、大豆相場価格が暴落した大豆相場価格の転落と小豆他豆相場価格も大豆(豆)、大豆油ともに下落したためである。

国内市場におき、有利な販売の困難にあっては、この損害を国内市場に補填するべく、不可能な状態にあり、1月工場価格、国内価格とも高目に設定された政府の最低保証価格(60kg入、11kg当り、225.40)を上回る価格での買付を困難にした。生産物の大半が最低価格に於て政府への販売に集中した。このため政府の買付の寸前を上回る10万トンを達する見込みであったが、86年より買付制度の一部変更により、1割程度、225.40以上の場合代金、分割払いで決済するようになった。現物と保付、販売するもの、現物担保の融資(EGF)を受けた方法も増大し、当初の寸前と大巾に上り、約230万トンの融資の要求とされた。政府への輸送事情が悪い中西部地区におき、市場価格が暴落するレベルに下り、これに注目し、融資面での条件を緩和して、生産者を援助する方針を打ち出した。このように措置にかゝらば、市場価格の好転材料が、期待の持てたところ。EGFよりAGFへの切替は、既に政府スタッフを増大させることとされた。

このように大豆に買いとが、政府のスタッフも9月以降市場に放出したところ、この再び価格上昇のプレキとして作用している。次期収穫までの間に価格が上昇する見込みがある。

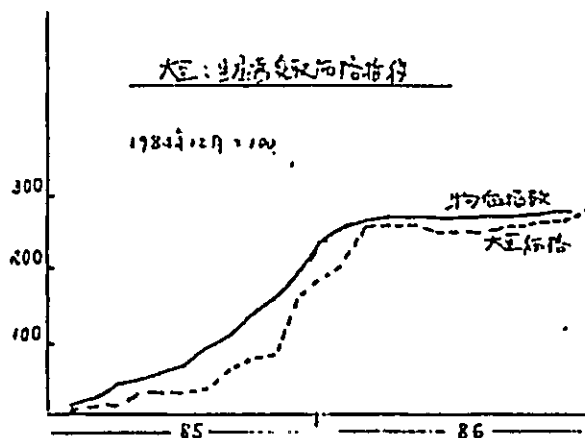
なお、今後の政策動向とすれば、現今の停滞した国内市場下で、当面価格の上昇を見込み、結果として生産の増進と国内需要への対応と価格維持を必要と形成する方向にある。今後年間4.7%の成長と見て、1989年までに21.4万トンを増産する目標としている。年間4.7%の成長にみれば、その中3.0%が生産性の向上に伴う単収増進によるものと、残りの1.7%は中西部地区を中心とする農業前線の大規模な増産による計画である。長年において、大豆生産の中にも、大豆の増産の位置を占める大豆に於いて、このように政策が決定されている。近き将来の政策動向の転換は、いまだ。

サバヨウの増産の場合、例として生産者受取価格。85年より86年年初、大豆相場価格と比較した価格レベルは、次の通り、グラフに示す通りである。

表 129 大豆：生豆高収率価格 単位/100kg

月別	1985	1986
1	37.80	111.53
2	41.36	125.93
3	42.37	129.19
4	46.23	129.22
5	46.23	127.91
6	46.82	127.84
7	48.49	126.78
8	58.41	128.61
9	64.38	129.05
10	67.92	130.51
11	96.82	133.87
12	103.24	129.32

出所：I.E.H. SP-M.



二) 生産コスト

大豆の生産コストは、大豆の生産に必要となる費用を、大豆の生産量で割ることで算出される。

表 130 大豆 生産コスト 単位/100kg

項目	1985年	1986年	合計 単位
ア) 作業コスト			
1) 労力	1.15	48.5	55.8
2) 燃料・運搬	1.68	62.5	100.3
3) 4輪トラクター	1.48	328.5	500.9
4) 耕起	0.49	31.3	15.4
5) 耕土	0.33	56.4	18.6
6) 大豆中耕	0.09	11.2	4.0
7) 播種施肥	0.13	48.8	6.4
8) 石灰散布	0.09	47.8	4.3
9) 除草	0.24	41.1	9.9
10) 運搬	0.11	36.3	4.0
11) 収穫	0.10	58.1	58.8
小計			775.3
イ) 資材コスト	(数量)		
1) 肥料	2500 kg	6.3/kg	468.8
2) 石灰	0.80 T	180.0/T	144.0
3) 配合肥料(0-18-6)	0.30 T	2128.0/T	638.4
4) 除草剤	200 L	67.8/L	34.8
5) 殺虫剤	0.41 L	84.8/L	44.2
6) 殺菌剤	0.41 L	107.7/L	135.5
7) 根腐病剤	0.25 L	20.3/L	5.1
8) 根腐病剤	0.25 G	8.6/G	2.1
小計			1472.8
ロ) 管理コスト			
1) 機械整備費			203.8
2) 労務費			104.9
合計			2556.9

出所：I.E.H.

大豆の生産コストは、大豆の生産に必要となる費用を、大豆の生産量で割ることで算出される。

3.2.2 落花生

1) 生産

表 131 落花生：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	サトウパウロ	135.0	191.6	1419
2	バタ	8.3	6.4	771
3	リオ・グランド・ノール	5.7	5.1	896
4	バタ	2.7	3.5	1306
5	マント・グランド・ノール	1.7	1.7	1023
6	その他	1.6	7.7	1039
合計		161.0	216.2	1343

資料：I.B.G.F

砂糖や油の輸送が奨励され、最近の落花生作は、84/85年度にこの政策の効果を反映して増加が見られ、面積は29%、生産量は37%の増加があり、特に85/86年度は前年度に比べて落花生油の低価格による生産意欲の増進に加え、植付直後の長期乾燥の被害が広域に発生した。しかし、国内生産の90%を占めるサトウパウロの面積は減少し、全国的な減少につながっており、全国生産量は前年と36%減少した。

過去5ヶ年間の生産推移：207.8千haとあり、平均的に下降傾向を辿っている。

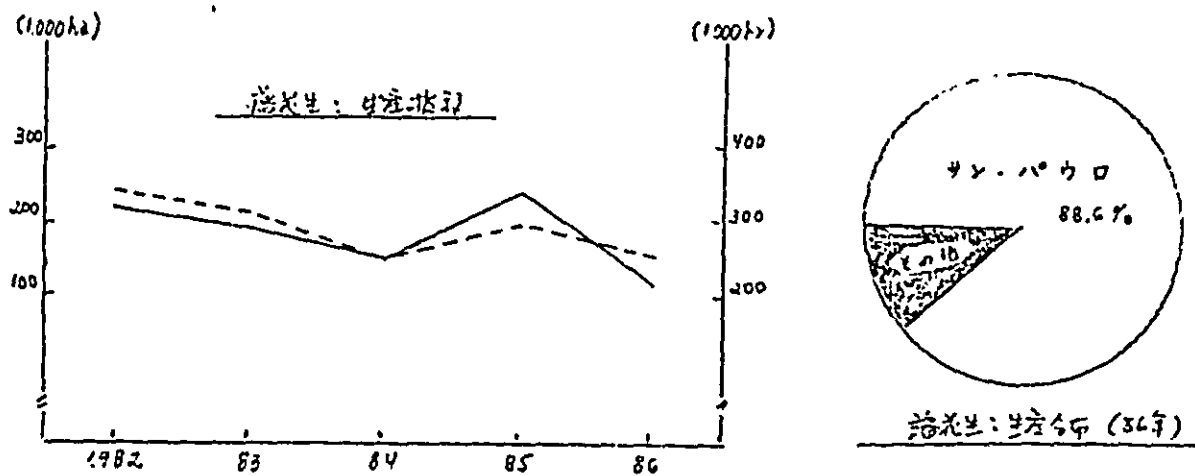


表 132 落花生：過去5ヶ年の生産推移

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	サトウパウロ	249.3	232.8	215.4	289.8	191.6
2	バタ	38.0	28.5	14.8	26.8	5.4
3	リオ・グランド・ノール	6.5	6.5	6.3	6.1	5.1
4	バタ	3.5	2.7	3.0	4.8	3.5
5	マント・グランド・ノール	10.0	7.1	2.7	4.4	2.4
6	その他	10.0	6.7	5.2	7.4	8.2
合計		317.3	284.3	247.4	339.3	216.2

面積	1000ha	257.0	212.2	149.8	192.9	161.0
----	--------	-------	-------	-------	-------	-------

表 133 落花生 : 生産量の年次

年次	1982	1983	1984	1985	1986
中国	1255	1365	1744	1801	1252
インドネシア	1402	1337	1423	1730	254
タイ	996	1001	1016	1003	896
ベトナム	1435	1268	1340	1768	1306
合計	1340	1340	1653	1259	1343

出所: I.B.G.E.

ロ) 国際市場への輸出入

世界の落花生生産は70年代の終りから80年代の前半にかけて年間平均1.76%の増加を記録した。86年には20%の増加を記録した。これは更に増加する見込みである。世界最大の生産国である中国の生産増加は世界の生産増加に大きく影響している。又、主要な輸出国は米国である。この5年間の生産増加は、わが国の食料の減少に資している。各輸入国の生産の増加は、わが国の食料の減少に資している。

落花生と原料とする副産物の主要輸出品である。落花生の国際相場は、他の油糧作物と比べて半島におよび、インドネシアの供給増大と関係して低価格が続いている。1986年には前期の15%に40%の増産が生じている。

表 134 落花生の国際相場 (単位: CIF ROTTERDAM)

年次	1984	1985	1986
1	983	890	701
2	1024	873	580
3	1086	944	591
4	1159	1020	578
5	1171	1026	578
6	1155	974	560
7	1054	880	548
8	984	896	501
9	931	810	534
10	846	808	...
11	905	911	...
12	912	827	...

出所: OIL WORLD WEEKLY

世界の輸出入は、(穀物、豆、油) 油 (粗油、精製油) 及び粕と行われている。この落花生及び副産物の輸出入は、77年及び80年に1億ドルを超えた。80年には、84年には36億ドルの落ち込み、85年には79億ドルに回復した。80-85年の水準に近づいている。86年には、11%の増産が生じている。生産量の減少は、落花生の輸出の主体となっている粗油の国際相場に大きく影響している。このため、全体の輸出入は85年に大幅に下落したと見られる。

表 135 落花生及び副産物の輸出実績

年次	単位 1,000ト			金額 100ドル FOB
	豆	油	粕	
1976	25.3	44.1	42.0	24.6
77	30.9	49.3	47.5	68.8
78	17.3	60.3	32.7	77.0
79	24.5	82.6	86.1	104.3
80	32.4	121.9	101.5	124.2
81	30.4	45.8	46.4	28.2
82	17.4	77.6	41.5	82.9
83	12.4	57.0	36.6	39.5
84	12.8	26.5	13.4	36.1
85	18.3	79.4	36.8	79.3

表 136 落花生(殻付き)輸出 1985年

輸出先国	重量 1000ト	金額 100ドル
スペイン	1.1	0.6
アンゴラ	0.2	0.5
イタリ-	0.1	0.1
フランス	0.1	0.1
西独	0.1	0.1
オランダ	0.1	0.1
その他	-	-
計	1.7	1.4

出所: CACEX

12010101

表 137 落花生(殻なし)輸出実績 1985

輸出先国	重量 1000ト	金額 100ドル
スペイン	10.2	6.0
イタリ-	2.2	1.9
フランス	1.2	0.7
ドイツ	0.6	0.4
マレー	0.3	0.2
英国	0.3	0.2
その他	0.8	0.4
計	16.6	9.8

出所: CACEX

12010102

表 138 落花生: 精製油輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000ト	金額 100ドル
日本	10.2	9.1
オランダ	6.8	5.6
西独	2.7	2.0
フランス	1.9	1.6
イタリ-	0.7	0.6
その他	0.7	0.6
計	23.0	19.5

出所: CACEX

15070203

表 139 落花生: 粗油輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000ト	金額 100ドル
オランダ	39.3	32.4
フランス	10.0	7.9
西独	5.8	4.6
マレー	0.6	0.5
英国	0.3	0.2
その他	0.4	0.3
計	56.4	45.9

出所: CACEX

15070103

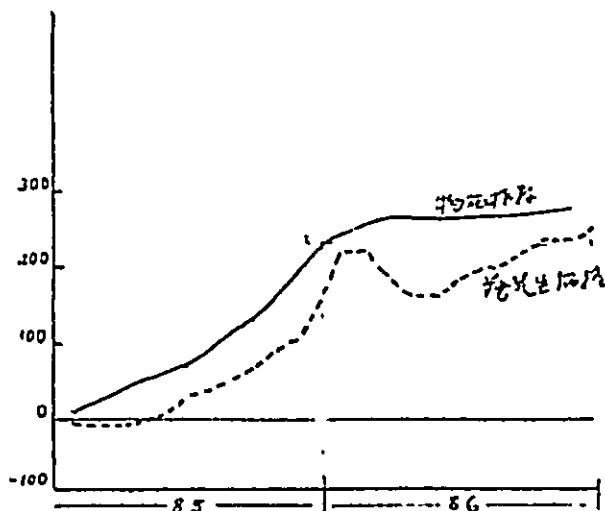
1) 国内市場及び価格

落花生油の低い国際価格を反映して国内価格も 85~86年を通じて物価指数を下げ価格抑制であった。国際価格の下落、マレー半島のオリーブオイルの増産に伴う価格の低下、国内落花生油を含む植物油の需要が減少したことが起因している。また、86年にはセサール・パルセンと米国の落花生の増産が行われたこと、国内価格の反落と期待されたが、

表110 汚染土 生育率変化率 %/50%

月 日	1985	1986
1	22.60	80.13
2	21.37	83.85
3	21.66	10.02
4	23.79	55.00
5	26.40	64.03
6	31.74	68.04
7	34.93	72.81
8	36.65	76.21
9	40.22	80.00
10	43.94	84.94
11	49.19	83.97
12	62.22	87.14

出所: J.E.H. (SP-W)



ハ) 経費コト

サニタリー施設構築費研究費、実収レ 86/87 年度 汚染土対策に必要の出費

表 101 汚染土対策コト 86/87 年度 経費 90% (25%)

項目	数量	単価	金額 CEM
A) 作業コト			
1) 汚土	20.68	48.50	1,002.98
2) トラック運搬	2.45	63.50	155.58
3) 汚土運搬	2.45	338.47	829.25
4) 租 税	0.32	31.34	10.03
5) 汚土撤去	0.14	47.78	6.69
6) 汚土	0.24	56.40	13.54
7) 汚土撤去	0.21	59.17	12.43
8) 汚土撤去	0.29	11.19	4.36
9) 汚土撤去	0.39	47.02	18.34
10) 汚土撤去	0.16	36.27	5.80
11) 汚土撤去	0.15	34.45	5.17
12) 汚土撤去	0.24	6.49	1.56
13) 汚土撤去	0.21	64.60	13.57
14) 汚土撤去			245.00
小計			2,324.28
B) 資材コト			
1) 汚土	140.00 kg	7.20/kg	1,008.00
2) 汚土	1.00 T	180.00/T	180.00
3) 混合肥料(2-20-20)	0.25 T	2,662.98/T	665.74
4) 殺虫剤	2.50 L	111.38/L	278.45
5) 殺菌剤	0.80 kg	277.74/kg	222.19
6) 殺菌剤	3.00 kg	44.06/kg	132.18
7) 殺菌剤	1.00 kg	9.38/kg	9.38
8) 殺菌剤	2.00 L	67.77/L	135.54
9) 殺菌剤	10.00 U	320/U	3,200.00
小計			2,919.49
C) 経費			
1) 経費			287.80
2) 経費			154.94
合計			5,684.51

出所: J.E.H.

サニタリー施設構築費研究費、実収レ

3.2.3 ヒマ

表 142 ヒマ: 1986年生産状況

順位	州 別	面積 1000ha	生産量 1000t	収量 kg/ha
1	バ イ ア	324.0	150.0	463
2	バ ラ ナ	21.2	27.3	1289
3	バ ン ナ ヲ コ	34.2	24.7	630
4	セ ア ラ	18.9	17.5	922
5	セ ナ 他	54.4	43.5	800
合 計		457.7	263.0	575

出所: I.B.G.E.

前年 416 トンの生産記録を破った。86年には大作に収れ 263 トンに落ちた。この生産減少はヒマ油の国際価格が下落し、国内価格もそれに影響。生産者の作付け意欲を減じたため。面積の前年比 26%減少した。4~5月の42年産以降の積算は長期乾燥の影響で、平均 31.5%減少したため。

10月7月の収穫は、フランスの他、イタも大に減産。前年 500 トン、350 トンの生産に落ちた。この影響で前年より大量の在庫率に。このため、国際市場におき、ヒマ油相場は上昇し始めた。国際市場におき、ヒマ油の相場は 85年に大に下落した。86年の1月に、持ち直し、トナリ 72 ドル (CIF ロンドン) に記録された。その後、1-6月の平均 64 ドルであった。

表 143 ヒマ: 過去5年間の生産状況

順位	州別			1982	1983	1984	1985	1986
1	バ	イ	ア	90.0	46.0	120.3	276.2	150.0
2	バ	ラ	ナ	43.3	37.1	39.5	39.8	27.3
3	サ	ン	ハ	27.0	22.0	26.2	28.2	16.6
4	セ	ア	ラ	32.1	16.5	39.0	71.7	69.1
合計				192.4	121.6	225.0	415.9	263.0

面積	1000ha	463.0	271.8	412.8	495.1	457.7
----	--------	-------	-------	-------	-------	-------

表 144 ヒマ: 主要生産者の収量

州別		1982	1983	1984	1985	1986	
バ	イ	ア	264	515	410	792	463
バ	ラ	ナ	1515	1400	1453	1526	1289
ナ	ン	ナ	1161	1000	869	1088	1089
全国平均		416	632	545	840	575	

出所: I.B.G.E.

国内価格は国際価格に平行しており、86年の不作が確認された。端境期の在庫低減量の減少が、下落期に生産者受取価格の上昇がみられた。上半期には、最廉価格 (86年4月10日現在 60kg x 1トン = 150.-) 以下のレベルであった。

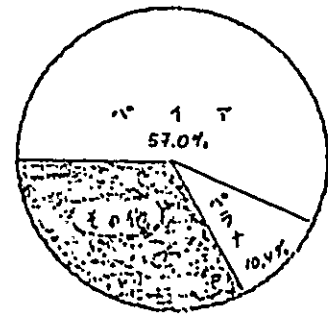
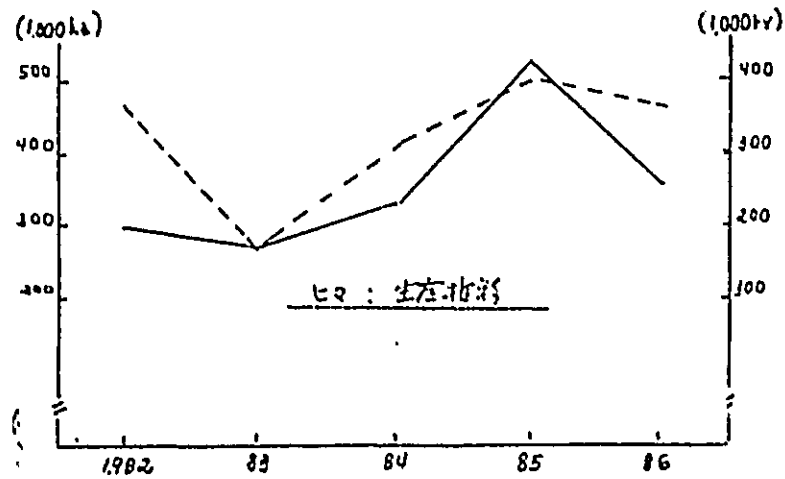
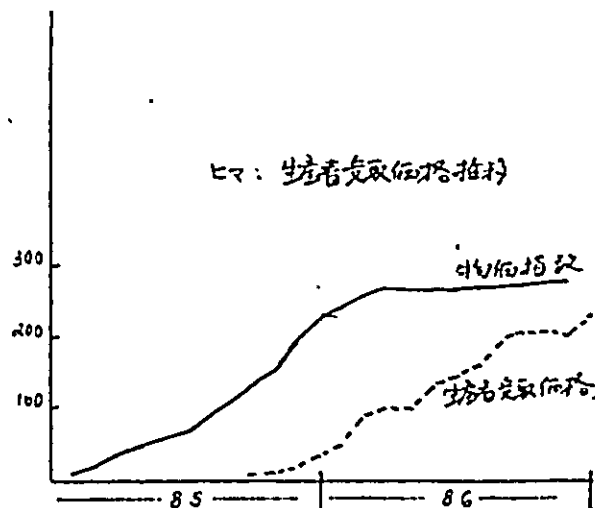


表 145 ヒマ: 生産指数 (1985-1986)

月別	1985	1986
1	0.89	1.31
2	0.88	1.65
3	0.86	1.75
4	0.85	1.77
5	0.88	2.00
6	0.87	2.15
7	0.86	2.27
8	0.89	2.37
9	0.98	2.69
10	1.01	2.73
11	1.03	2.70
12	1.13	2.91

出所: J.E.A.



3.2.4 ココヤシ

表 146

ココヤシ: 1986年生産状況

順位	州別	面積 (1000ha)	生産量 (1000t)	単収 (t/ha)
1	バ 1 7	37.4	136.2	3.641
2	セ 10 ジ 11 ベ	43.3	88.8	2.049
3	セ 7 ア 7	22.7	81.1	3.567
4	バ 10 ア 10 ア 10 ア 10	21.9	79.1	3.533
5	ア 7 ア 7 ア 7	16.9	64.1	3.796
6	バ 11 ア 11 ア 11	12.2	47.3	3.867
7	セ 10 他	20.1	79.2	3.940
	合 計	174.5	575.7	3.299

出所: J.B.G.E

表 130 ココヤシ: 産出量と価格 (単位: 1,000/10)

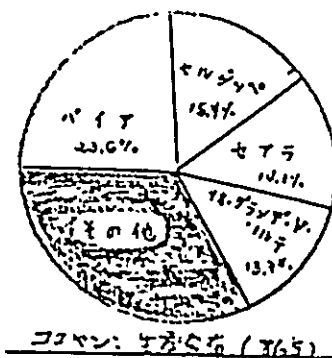
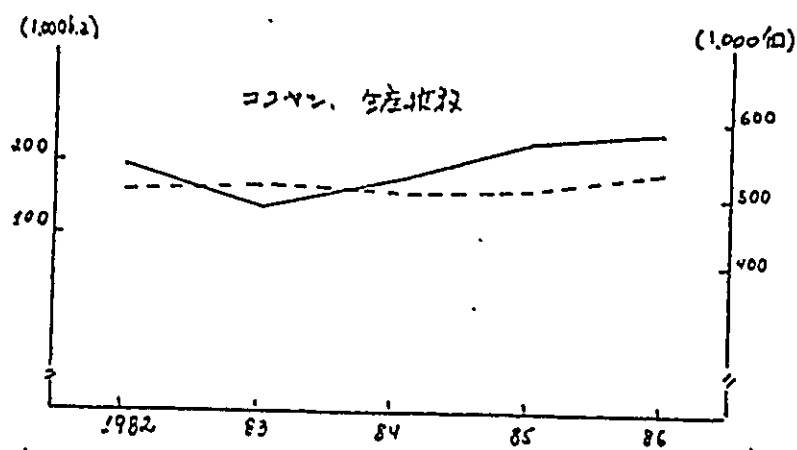
順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ イ ア	129.4	124.3	123.9	131.0	136.2
2	セ ア ラ	103.1	61.9	103.7	106.1	81.1
3	セ ル ジョ	75.4	75.0	66.3	87.9	88.8
4	リオ・グランデ・ド・ノルテ	56.7	40.7	67.1	74.4	79.1
5	その他	177.3	178.9	160.0	168.6	190.5
	合計	541.9	480.8	521.0	568.0	575.7

面積 (1000ha)	1982	1983	1984	1985	1986
	165.9	168.7	158.1	165.4	174.5

表 131 ココヤシ: 生産コスト (単位: 100/h)

州別	1982	1983	1984	1985	1986
バ イ ア	3708	3655	3613	3641	3641
セ ア ラ	5000	3000	5400	5021	3567
セ ル ジョ	1873	1814	1630	2106	2049
リオ・グランデ・ド・ノルテ	3372	2278	3668	3728	2733
全 国 平均	3267	2850	3295	3434	3279

出所: J.B.G.E.



3.3 工業原料作物

3.3.1 砂糖キビ

1) 生産

表 109

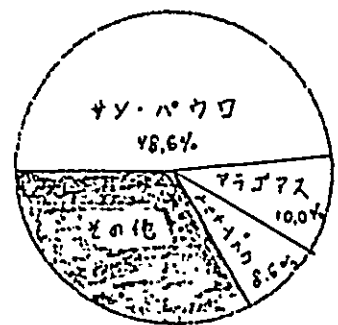
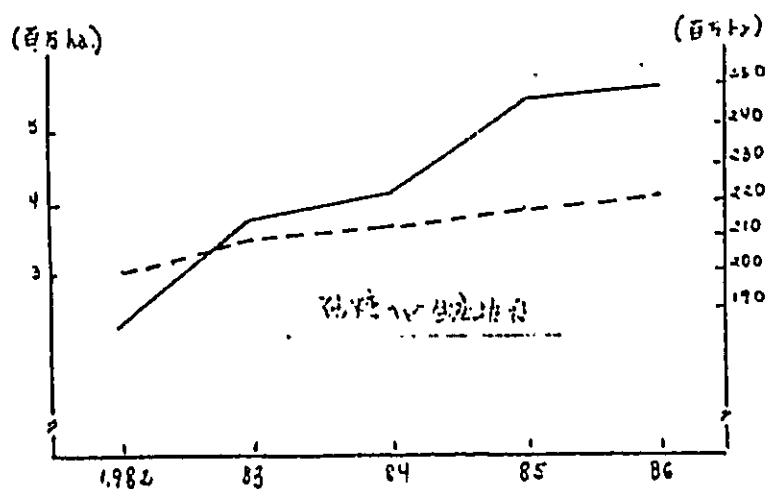
砂糖キビ：1986年生産状況

順位	種別	面積 1000ha	生産量 1000t	平均収量 t/ha
1	サヤ・パウロ	1,680.3	121,272.1	72.174
2	アヲゴアス	496.4	25,003.2	50.364
3	ヤル・ヤゴ	423.0	21,349.7	50.467
4	ミクス・ジュライス	297.7	16,800.6	56.435
5	パヲ	160.0	11,900.0	74.375
6	パヲ・イ・パ	178.1	10,710.7	60.147
7	リ・テ・メ・ネ・ロ	223.7	10,356.1	46.295
8	ゴ・メ・ス	103.2	7,024.1	68.083
9	マ・ト・グ・ロ・ソ・ド・ス・ル	64.1	3,983.3	62.162
10	パ・イ・ア	85.0	3,315.0	39.000
11	リ・オ・ワ・ラ・メ・ド・リ・ウ・サ	59.5	2,757.4	46.340
12	エス・ピ・リ・ト・サ・メ・ト	49.4	2,887.3	58.452
13	マ・ト・グ・ロ・ソ	40.2	2,663.2	66.255
14	セ・ア・ヲ	52.8	2,429.9	45.903
15	セ・ル・ジ・ッ・ベ	32.1	2,013.1	62.686
16	マ・ラ・ニ・ヨ・ソ	26.3	1,223.9	46.490
17	その他	77.8	3,337.5	42.898
合計		4,054.6	249,232.1	61.479

出所：J.B.C.I.

植民地時代からの伝統的な作物であり、70年代の中期以降、国内需要の増加に支えられ、砂糖キビは毎年生産増加の傾向を呈し、秋サヤの作物である。86年産も乾燥の被害による平均収量の低下にもかかわらず、1.4%の上昇と、249万トンに達した。世界最大の生産量を維持している。

国内の産地帯は中央南部地区が71%、北部東北部が29%を占め、中央南部地区で、サンパウロ州が国内最大の産地帯で、全国生産量の半分以上を占めている。1985/86年産の場合、乾燥の被害を受けた産地の生産量が前年より減少し、全国生産比率も低下している。



砂糖キビ：全国生産 (85/86)

表 150 砂路土：亞美尼亞內特非列 1000ly

順位	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	サッポロ	92,228.4	115,000.0	117,210.2	125,240.0	121,232.1
2	アサヒ	21,535.6	23,065.2	21,300.5	24,338.0	25,003.2
3	ベルタ	17,578.5	19,628.0	19,871.2	20,826.4	21,349.7
4	ミナソノ	10,329.0	12,600.5	14,539.6	16,212.6	16,800.6
5	リオン	10,784.9	10,010.9	9,560.8	10,946.5	10,356.1
6	パナソニック	7,272.9	7,168.9	8,931.8	10,746.8	10,710.7
7	パナソニック	6,840.0	9,680.0	8,428.8	10,425.0	11,900.0
8	その他	19,273.1	19,549.9	22,853.3	27,168.9	31,884.7
	合 計	186,392.4	216,703.4	222,716.2	245,904.2	249,277.1

面 積	1000 ha.	3.085.7	3447.4	3660.6	3851.5	4054.6
-----	----------	---------	--------	--------	--------	--------

表 151 計測機 : 主計生方 α の平均 μ_0/σ_0

州別	1982	1983	1984	1985	1986
サ・ハ・ウ・ロ	72000	76,000	74,192	77,428	72,174
ア・ラ・ゴ・ア・ス	56,000	51,530	46,558	50,432	50,364
ハ・ル・ナ・ヤ・コ	49,218	49,375	49,000	50,383	50,467
ミ・ナ・ス・エ・チ・ス	50,119	56,158	55,664	57,872	56,435
リ・オ・チ・ジ・ネ・イ・ロ	54,639	48,927	44,439	50,425	46,295
ハ・ラ・イ・バ	53,924	49,797	57,491	60,256	60,147
ハ・ラ・ナ	76,000	88,000	67,261	74,000	74,375
全 国 平 均	59,947	60,405	68,235	63,046	61,479

出所: J.B.G.E:

サハリンを除く他中央部に於ける州(シベリヤに於ける州を除く)は、東北地方の3州(アムール州、バヤン州及びバヤン・ウルギ)に計6州のみ、千石以上の生産を行つた主要な生産地である。この主要生産地帯の中の一は、その70以上の半分以上は、その1/2以上は、及びバヤン州の2州のみに、他の60以上の半分以上は、

砂粘灰の平均とす。砂粘灰の平均の経年変化は、生灰の平均と設定した。85/86年度は、砂粘灰 8.25 割、平均 11.1 割、又 86/87年度は砂粘灰 8.56 割、平均 11.7 割とした。と定めた。

86年6月より開始した86/87年度の特徴は、二子砂浜とミナトの遊歩道の従来の歩道の計画より、3ヶ年計画に変更した長期の基礎工事の遊歩道が採用されたことである。二子砂浜とミナトの遊歩道の86/87～88/89年度に計画的に2年間にわたって1)3.6%、2)2.5%、3)1.0%、4)6.8%と減少し、ミナトの方では、二子砂浜15.1%とミナト13.3%の増加とあり、割合が明らかになっている。

国家プロジェクト計画(70プロジェクト)による CENAL(プロジェクト計画実行委員会)が承認した新しいプロジェクトは、95年までに15件に上り、従来のリストを格下にするが、このため、プロジェクトの同数計画もまた有限なものに到達して来ていると見られる。その一方で、政府の政策として新しい生産工場の新設も存在する。

におよぶコスト・ダウンと生産性の向上と因る方向に変化している。また新しい需要＝増産の方向には、アルミの自給体制の出来により、優先的に設置されることになった。この方針のもとで、すでに他方への低価格の生産は、特に、アルミの自給体制の出来により、優先的に設置されることになった。

地域別	砂防ダム・アルミの生産計画		1986/87年度	
	1,000トン	%	100万L	%
北部・東北部地区				
アサヒ	1,355.0	15.8	877.5	7.5
アルミ	1,617.0	18.9	606.0	5.2
100トン	155.0	1.8	382.0	3.3
アルミ	135.0	1.6	146.3	1.3
アルミ	105.0	1.2	57.1	0.5
その他	213.0	2.5	134.1	1.0
合計	3,580.0	41.8	2,163.0	18.5
中央・南部				
サンパ	3,752.1	43.8	2,019.7	17.8
アルミ	200.0	2.3	751.6	6.4
アルミ	505.0	5.7	530.6	4.5
アルミ	14.0	0.2	352.8	3.0
アルミ	-	-	248.7	2.1
アルミ	374.2	4.4	290.0	2.5
その他	114.7	1.4	331.0	2.8
合計	4,980.0	58.2	9,565.4	81.6
合計	8,560.0	100.0	11,728.4	100.0

出所：199

年度	砂防ダム・アルミの生産計画	
	1,000トン	100万L
83/84	7,086	7,864
84/85	8,899	9,249
85/86	7,819	11,821
86/87	8,560	11,728

出所：199

合計

ロ 国際市場とアルミの輸出

砂防ダムの国際相場は、85年の下半期、86年の4月にかけて147ドルに上昇したが、その後は低値に低迷し、80年に達した。平均69ドルに落ち、85年11月には89ドル、86年9月には79ドルにまで下落した。

このような価格の低迷は、砂防ダムの供給の構造的な変化によるもので、砂防ダムは、日本と中国に強力な保護政策のもと、従来の大型輸入国、大型輸出国に転向した。砂防ダムの消費市場である中国において、とりわけ、シロップを中心とした代替材料の消費増加と砂防ダムの自給率の向上

政策が、M34211:2を大に制限して、

年別	154 砂糖の制限額		155 砂糖の制限額		平均
	高	低	高	低	
1980	895.50 (10A)	378.72 (1A)	609.11		
81	609.79 (1A)	257.84 (9A)	372.10		
82	289.40 (2A)	127.81 (9A)	186.20		
83	234.00 (8A)	132.89 (1A)	187.16		
84	154.12 (1A)	80.35 (12A)	117.00		
85	120.97 (11A)	61.43 (6A)	89.69		
86	183.89 (9A)	102.95 (10A)	137.7		

出所: INTERNATIONAL SUGAR ORGANIZATION

86/87年度に、砂糖の制限額の一部を生産国、とくにフランスにおよぶ砂糖大産国の拒否が決定してあり、オーストラリアにおよぶ面積の減少が、砂糖生産にや、減少の見込みで、価格及制限の材料となることが期待されている。

USDA (米国農務局) の推定によると 86/87年度に、砂糖の生産量は約100百万トン、年間の消費量に見合うものとされている。この秋、砂糖の在庫が増加し、消費量の40%に達している。一部の生産国に問題があるとしても、短期に価格の回復は困難と見込まれる。また、砂糖の輸入に依存している諸国が自給能力を求めていることも最近の傾向であり、世界の貿易量の減少に注目が集まっている。国際砂糖協会の目的として、組織された国際砂糖協会の生産国の輸入削減と、EC国と同様に、砂糖の輸入と交換している。一部の生産国では、砂糖のインポートに生産を削減する方向に向かっている。国産の砂糖（主に、砂糖）供給能力の減少は、価格の低下を招き、砂糖の消費を増加させる見込みはない。価格の低下は、砂糖の価格の低下を招き、砂糖の消費を増加させる見込みはない。

このように、砂糖の生産と消費のバランスが崩れ、砂糖の価格が上昇している。2010年代の始めに、10億ドルに達している。砂糖の生産と消費のバランスが崩れ、砂糖の価格が上昇している。

表 155 砂糖: ブラジルの輸出実績

年度	1000トン				100万トン			
	粗糖	製糖糖	結晶糖	計	粗糖	製糖糖	結晶糖	計
1980	1392	612	569	2579	624	346	313	1287
81	1564	916	222	2702	579	396	83	1062
82	1222	1090	398	2710	259	244	77	580
83	1575	783	146	2504	333	168	26	527
84	1545	1212	303	3060	326	213	48	587
85	1048	1192	308	2548	166	168	33	367

表 156 砂糖:粗糖輸出実績 - 1985年

輸出先国	数量 1000ト	金額 100万ト
米 国	811.0	76.0
メ 国	334.0	31.2
スロバコ	108.0	10.3
ポルトガル	52.4	6.7
ソマリア	11.0	6.6
アルゼンチン	65.5	6.1
スエーデン	29.7	3.5
フランス	21.5	2.2
その他	40.0	3.7
計	1047.9	166.3

出所: CACEX

17.01.02.02.

2) 価格

砂糖生産者の受取価格は国際アルコール計画
の中で政府が定める工場買上げ価格に他の
作物に劣らぬよう政府が補助金による価格の受給
を得る。

3) 生産コスト

サトウキビ栽培者協会の発表によると 86/87年度の生産コストは概ね次の通り。

表 159 砂糖生産: 生産コスト 86/87 (T/HA) 生産 95 T

項目	消費口数	単価	全額 CEX
A) 作業コスト			
1) 労 働	27.10	43.7	1184.3
2) トラック-燃料	7.58	70.5	534.4
3) 4輪トラック	5.54	537.9	2979.7
4) 耕 起	1.59	31.3	49.8
5) 耕 土	0.96	56.4	54.1
6) 防 除	0.19	29.0	5.5
7) 運 搬	1.07	36.3	38.8
8) 石灰散布	0.27	47.8	12.9
9) 複 合	0.80	162.6	130.1
10) トラック	2.04	367.2	749.2
11) 肥料散布	0.30	29.1	8.7
12) 土 産	0.21	48.5	10.2
13) 中 耕	0.15	48.2	7.2
小 計	-	-	5764.9
B) 買入コスト (数量)			
1) 酒	8.20 T	165.0/T	1135.0
2) 石灰	1.69 T	190.0/T	321.1
3) 配合肥料(5-20-20)	0.40 T	3000.0/T	1200.0
4) 追肥用硫酸	0.25 T	2259.4/T	564.9
5) カリ	0.05 T	2748.1/T	137.4
6) 殺虫剤	0.57 kg	9.4/kg	3.5
7) 除草剤	1.25 kg	498.0/kg	622.4
8) "	2.50 L	187.2/L	468.0

表 157 砂糖:精製糖輸出実績 1985年

輸出先国	数量 1000ト	金額 100万ト
ドイツ	325.7	41.7
イタリヤ	187.8	24.8
アルゼンチン	163.7	24.4
インド	166.0	23.7
米 国	33.5	16.1
イラン	45.0	12.6
コロンビア	54.8	7.1
エジプト	34.0	4.9
アンゴラ	13.2	2.2
その他	78.4	10.7
計	1192.1	168.2

出所: CACEX

17.01.02.00

表 158 砂糖:精製糖輸出実績 1985年

輸出先国	数量 1000ト	金額 100万ト
エジプト	174.8	17.6
スリランカ	49.5	6.0
ソマリア	27.0	3.0
インド	17.5	2.0
アルゼンチン	12.0	1.4
ソマリア	12.0	1.4
アンゴラ	10.0	1.1
その他	-	-
計	308.0	33.4

出所: CACEX

17.01.02.02

小計		4,670.3
累計		10,435.2
② 間接コスト		
1) 取扱価卸費		1,332.6
2) 銀行利息		1,252.2
合計		13,020.0

出所: I.E.H.

11-1040-41 カンパ- 地方

表 101

砂場 36% 砕石 62% 合計 100% (11-1040-41)

項目	所要量	単価	金額
① 作業コスト			
1) 労働カ	16.60	43.7	725.4
2) トラック運搬	2.80	70.5	197.4
3) 4輪トラック	1.70	537.9	914.3
4) レ-フ	0.33	57.9	21.4
5) 中 耕	0.18	56.4	10.2
6) 砕 土	0.19	29.0	5.5
7) 防 除	0.24	36.3	8.7
8) 運 搬	0.52	163.6	84.6
9) 搬込費	1.10	367.2	404.0
10) トラック	0.20	64.6	12.9
小計			2,384.4
② 資材コスト	(数量)		
1) 混合肥料	0.40 T	2,637.6/T	1,055.1
2) 殺虫剤	0.35 kg	9.4/kg	3.3
3) 除草剤	1.50 kg	114.9/kg	172.4
4) 水	1.50 L	187.2/L	280.8
小計			1,511.5
累計			3,895.9
③ 間接コスト			
1) 取扱価卸費			481.2
2) 銀行利息			311.7
合計			4,688.8

出所: I.E.H.

11-1040-41 カンパ- 地方

表 101

砂場 36% 砕石 62% 合計 100% (11-1040-41)

項目	所要量	単価	金額
① 作業コスト			
1) 労働カ	14.66	43.7	640.6
2) トラック運搬	2.49	70.5	175.6
3) 4輪トラック	1.57	537.9	844.4
4) レ-フ	0.34	57.9	19.7
5) 中 耕	0.15	56.4	8.5
6) 防 除	0.19	29.0	5.5
7) 運 搬	0.25	36.3	9.1
8) 搬込費	0.44	162.6	71.6
9) トラック	0.92	367.3	337.9
10) 中 耕	0.20	64.6	12.9
小計			2,125.7
② 資材コスト	(数量)		
1) 混合肥料(19-5-19)	0.40 T	2,637.6/T	1,055.1
2) 殺虫剤	0.35 kg	9.4/kg	3.3
3) 除草剤	1.50 L	187.2/L	280.8
4) 水	1.50 kg	114.9/kg	172.4
小計			1,511.5
累計			3,637.2
③ 間接コスト			
1) 取扱価卸費			432.1
2) 銀行利息			291.0
合計			4,360.3

出所: I.E.H.

11-1040-41 カンパ- 地方

2.3.2 綿

1) 生糸

表 162 生糸(単位) 1986年生糸状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000ty	単収 kg/ha
1	バ ラ +	415.0	768.4	1852
2	サ ヨ . バ ウ ロ	356.0	701.3	1970
3	バ イ ア	201.1	219.4	1091
4	ミ + ス . ジェラ イ ス	161.6	169.9	1051
5	ゴ ノ ス	34.6	85.7	2481
6	その他	328.6	253.6	306
合 計		1996.9	2198.3	1101

出所: J.B.G.E.

表 163 生糸(木綿) 1986年生糸状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000ty	単収 kg/ha
1	ヒ ア ウ イ	155.1	43.8	283
2	セ ア ラ	411.5	30.5	74
3	バ ラ イ - バ	221.0	14.6	66
4	ペ ル + ソ ゴ	84.5	8.9	105
5	その他	256.5	8.1	32
6	その他	35.3	10.2	289
合 計		1163.9	116.1	100

出所: J.B.G.E.

85/86年度における生糸の生産は前年より18.9%低下し、2,194千トンに止まった。生糸の減少は、
及び木綿生産の首位に占めるパラナ州及びセアラー州における減産によるものである。この2州と
単収の減少が主たる原因で、栽培期間中の天候不順と、その中でも大きな理由となっている。

表 164 生糸(原糸) : 1982-1986年生糸状況

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ ラ +	737.0	700.0	611.9	1035.7	768.4
2	サ ヨ . バ ウ ロ	529.2	464.2	507.7	702.5	701.3
3	ミ + ス . ジェラ イ ス	82.1	110.9	85.3	208.7	169.9
4	バ イ ア	48.1	52.9	67.3	161.2	219.4
5	その他	293.2	197.6	620.2	540.0	339.3
合 計		1691.6	1525.6	1892.4	2648.1	2198.3

面積 1000ha	1531.1	1348.0	1674.1	2243.9	1996.9
-----------	--------	--------	--------	--------	--------

表 165 生糸(原糸) : 1982-1986年生糸単収

州別	1982	1983	1984	1985	1986
バ ラ +	2000	1591	1899	1918	1852
サ ヨ . バ ウ ロ	1664	1504	2081	1839	1970
ミ + ス . ジェラ イ ス	830	1330	781	1334	1051
バ イ ア	716	736	626	1248	1091
全 国 平 均	1073	1132	1130	1180	1101

出所: J.B.G.E.

表 166 綿(木綿) 近5年間の生産推移 1000t

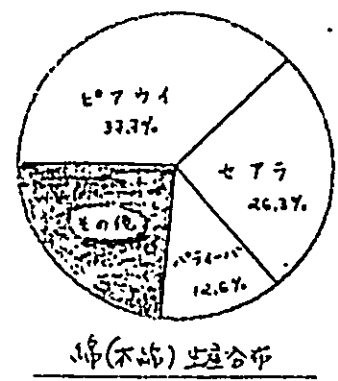
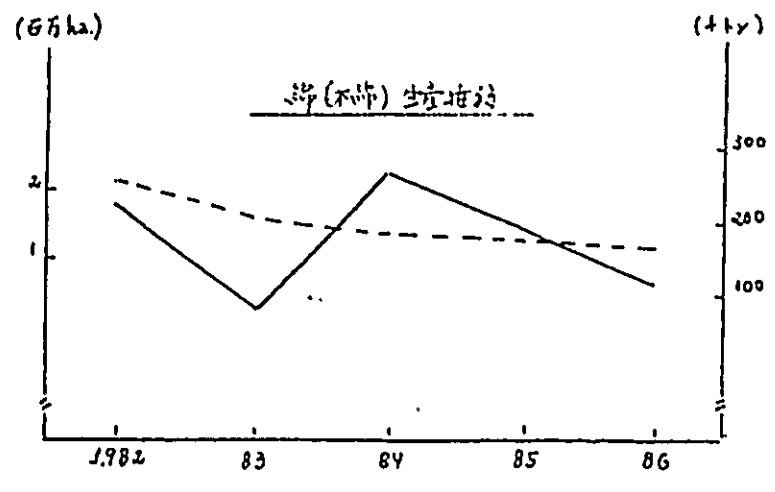
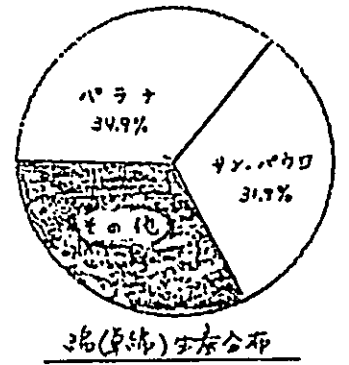
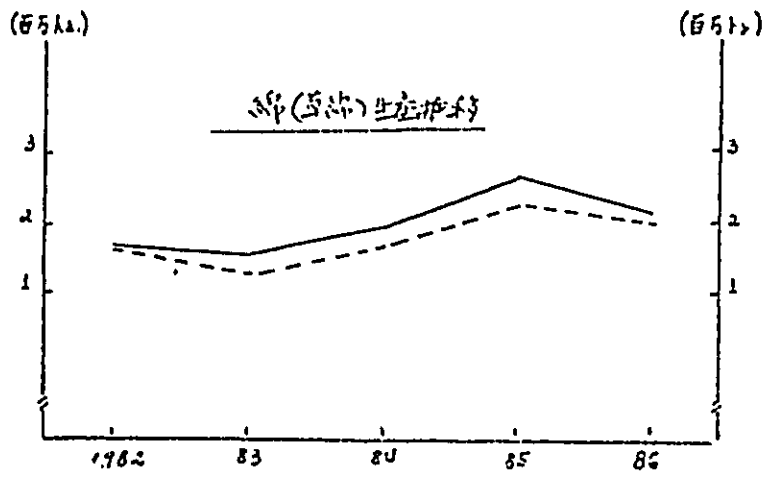
順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	セ ア ラ	140.8	47.2	100.7	65.7	30.5
2	ロ ア ウ イ	17.1	3.4	33.3	47.1	43.8
3	ハ ラ イ - パ	24.0	8.7	58.3	26.7	14.6
4	リ・グ・ラ・ン・デ・ト・ノ・イ・ラ	27.7	4.3	49.7	25.0	8.1
5	ベ ノ ア ヲ コ	9.8	6.2	15.8	15.7	8.9
6	シ の 他	11.9	8.4	9.9	7.7	10.2
	合 計	233.3	78.2	267.7	188.1	116.1

面 積	1000ha	2072.7	1580.6	1430.0	1337.6	1163.9
-----	--------	--------	--------	--------	--------	--------

表 167 綿(木綿) 主要生産地の収水 kg/ha

州別	1982	1983	1984	1985	1986
セ ア ラ	151	70	193	146	74
ロ ア ウ イ	95	19	210	312	283
ハ ラ イ - パ	54	22	174	94	66
リ・グ・ラ・ン・デ・ト・ノ・イ・ラ	101	22	178	78	32
ベ ノ ア ヲ コ	91	70	151	161	105
全 国 平 均	112	49	187	141	100

出所: I.B.G.E.



ロ) 国際市場

世界の綿糸生産量は 84/85 年度に 18.94 百万トンに大増産を遂げたが、下降し 85/86 年度に 17.91 百万トンに落ちた。(前年比 = 92.3%)。世界の綿糸消費は、主要産国 8 国で 85% を占め、そのうち 80% 以上は、毎年に見られる減産は、世界最大の生産国である中国の減産によるものである。

表 168 世界の綿糸生産量 (単位: 1000 トン)

国	84/85	85/86	86/87
中国	6,249	4,159	4,289
ソ連	2,343	2,636	2,613
米国	2,827	2,925	2,324
インド	1,726	1,829	1,715
パキスタン	1,008	1,241	1,154
ブラジル	963	762	762
トルコ	580	518	479
エジプト	401	435	435
その他	2,844	2,686	2,365
計	18,940	17,911	16,136

出所: USDA 推定、* 予想

86/87 年度に於いて USDA (米国農務局) の予想は、中国、インド、パキスタンの減産により、全体の 85/86 年度に 16.14% の減少を示すとの見通しである。

世界の綿糸消費量は 84/85 年度の実績が 15.23 百万トン、85/86 年度の推定 16.77 百万トン、86/87 年度の予想は 16.66 百万トンとなっている。中でも、世界の綿糸取引量は、大増産を遂げた 84/85 年度の 4.42 百万トンより 85/86 年度に 4.47 百万トンと 0.2% 増産を遂げたことによる見通しである。これは、伝統的に輸入国が国内生産と増加した輸入と減少した輸入とで、86/87 年度には再び増加した 4.47 百万トンに増加するとの見通しである。

86/87 年度開始時点で、世界の綿糸ストックは 10.28 百万トンで、80 年以降最大の量に達した。85/86 年度生産量の 60% に相当する。ストックの増減と比率は 81/82 年度に 25% まで落ちたことが、大増産による世界の綿糸供給の増大を説明している。

表 169 世界の綿糸供給 (単位: 1000 トン)

項目	81/82	82/83	83/84	84/85	85/86	86/87
期首在庫	5,485	5,451	5,438	9,112	10,200	8,639
生産量	14,813	14,730	18,940	17,191	16,136	16,660
消費量	14,859	14,961	15,027	16,171	16,660	16,660
輸出品	4,230	4,180	4,024	4,433	4,886	4,886
期末在庫	5,451	5,438	9,112	10,200	8,639	8,639

出所: USDA

年次	3月	6月	9月	12月	平均
1980	93.54	84.14	100.62	99.16	93.67
81	91.72	82.14	76.99	67.75	84.08
82	70.44	75.65	72.75	69.51	72.55
83	78.89	86.01	89.85	89.36	84.08
84	88.43	87.71	73.16	71.99	80.41
85	67.21	62.85	53.93	48.25	59.81
86	52.35	41.04	41.24	-	45.54

出所: COTTON WORLD STATISTICS, USDA

(一) 国内市場と価格

カンパネラ織造工業組合の原料によると、綿糸の国内生産は85年に前年20%上昇し、6314千トに達しており、86年にはさらに増加して700千トに達するものと推定されている。また国内で消費される織造類の中に、E型織物の比率は80年の56.8%より、85年には64.5%に増加しており、綿織物の需要が次第に増加していることが明らかになっている。

表 171 フラジルの織造消費量

年次	天然繊維			人工繊維	合成繊維	合計
	綿	羊毛	計			
1980	572.4	106.8	719.2	48.8	240.4	1,008.4
81	561.9	124.8	686.7	42.1	183.1	911.9
82	580.6	113.0	693.6	41.4	193.2	928.2
83	559.7	86.4	646.1	31.7	169.4	847.2
84	555.2	106.8	662.0	36.2	163.7	861.9
85	631.4	116.7	748.1	37.8	192.9	978.6

出所: SINDICATO DA INDUSTRIA DE FIBRA E TECELAGEM EM SP

国内における綿糸の価格相対率は、現在の値よりも低減しているが、毎年2%程度上昇している。86/87年度末の2ヶ月間の年間消費量は、72.5%に達する見通しで、供給過剰の状態にあり、余剰分の輸出を余剰とする。国内生産の20%程度の輸出に、政府の補助を余剰とする状態にある。しかし政府による相対的価格の受入可能性は低く、国内生産を減らすのが国内価格の安定に役立つ唯一の方法である。そのため、86/87年度に於ける最低保証価格を低減に決定して、作付と輸入の両方法が採用された。作付の位置タイプ6に於ける最低保証価格は85/86年度のセ71.85/15に引き上げられ、全版に前年のレベルに引き上げられ、前年を上回る最低価格に決定された。中々明らかでない措置はなかった。また新しい最低価格制度は導入され、IPP（生産者支払価格）による最低価格の自動調整による保障の仕組みも綿糸に含まれている。金融面では、前年の相対価格を越えた場合、金融面が安定したことがもたらされた。価格政策面、金融政策面の両面から、綿糸生産の方向に向かう方針である。

前年より内装化により、ビーク（害虫）の被害は減少し、調査対象は同様に、防除の効果が、
 明らかである。生産コストは、少額から増え、増え続けている。

表 172 防除費収支表 (円/ha)

月別	1985	1986
1	17.77	22.26
2	19.80	89.77
3	21.73	15.76
4	25.13	81.15
5	26.55	15.51
6	27.14	72.83
7	28.53	13.66
8	30.26	73.82
9	33.64	14.04
10	26.90	74.74
11	42.16	26.52
12	50.07	78.86

出所: I.E.R.

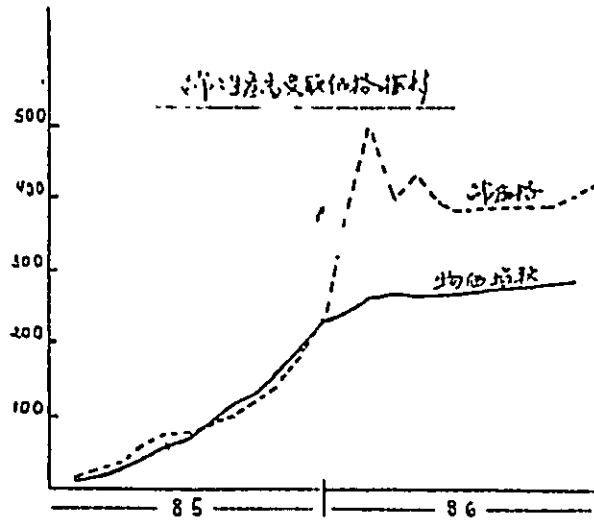


表 173 生産コスト

表 173

生産コスト

生産量 14570-15

項目	数量	単価	金額 (円)
A) 作業コスト			
1) 労 務	5.06	43.70	221.12
2) トラクター運転	3.54	70.50	249.57
3) トラクター	3.54	338.47	1198.18
4) 燃料	0.38	31.34	11.91
5) 石灰散布	0.17	47.78	8.12
6) 耕 土	0.48	56.40	27.07
7) 播種施肥	0.21	26.76	5.62
8) 撒布中耕	0.68	11.19	7.61
9) 防 除	0.95	47.02	44.67
10) 運 搬	0.43	36.27	15.60
11) D-211-1000	0.24	34.45	8.27
12) 収穫調整費			2,176.00
小 計			3,972.74
B) 資材コスト (数量)			
1) 種 子	37.35 kg	8.90/kg	332.41
2) 石灰	1.26 T	190.00/T	239.40
3) 混合肥料(20-5-20)	0.18 T	2637.63/T	474.77
4) " (4-20-20)	0.39 T	2929.04/T	1142.33
5) 殺虫剤	1.00 L	84.79/L	84.79
6) " "	0.80 L	107.68/L	86.14
7) " "	1.60 L	67.03/L	107.25
8) 殺菌剤	1.00 kg	9.38/kg	9.38
9) 除草剤	1.50 kg	114.92/kg	172.38
10) " "	1.50 L	67.77/L	101.65
11) 殺菌剤	0.75 L	20.20/L	15.22
小 計			2765.74
果 計			6,738.48
C) 内装コスト			
1) 撒布作業費			441.71
2) 銀行利息			449.23
3) 強制保険料			104.00
合 計			7703.42

出所: I.E.R.

サニタリー、カンボジア

表 174	部: 耕コスト	1ha. 115 坪 - 1 水田の割合	
工 号	所要日数	単 価	全夜 cen
A) 作業コスト			
1) 労 働 力	5.52	43.70	241.22
2) トラック-運搬	3.76	70.50	265.08
3) 4 輪トラクター	3.76	338.47	1272.65
4) 耕 起	0.38	31.34	11.91
5) 石灰散布	0.17	47.78	8.12
6) 草 上	0.48	56.40	27.07
7) 播種施肥	0.21	26.76	5.62
8) 撒 播 中耕	0.51	11.19	5.71
9) 防 除	1.11	47.02	52.19
10) 運 搬	1.66	36.27	25.94
11) ロ-タリ-カッター	0.24	34.35	8.27
12) 収穫諸費			2175.00
小 計			4096.78
B) 資材コスト			
	(425)		
1) 粒 子	37.35 kg	8.90/kg	332.41
2) 石 灰	1.26 T	39000/T	239.40
3) 混合肥料(4-20-20)	0.39 T	2927.04/T	1142.33
4) 一一 (20-5-20)	0.18 T	2637.63/T	474.77
5) 追肥用粒子	0.12 T	2259.74/T	271.17
6) 殺虫剤	1.50 L	107.68/L	161.52
7) 一一	400 L	84.79/L	339.16
8) 一一	300 L	67.03/L	201.09
9) 一一	0.62 L	84.79/L	52.57
10) 一一	0.30 L	348.96/L	104.69
11) 除草剤	2.20 L	67.77/L	149.69
12) 一一	1.50 kg	114.92/kg	172.38
13) 殺菌剤	1.00 kg	9.38/kg	9.38
14) 展着剤	1.00 L	20.30/L	20.30
小 計			3670.26
直接費計			7764.04
C) 間接コスト			
1) 機械使用費			441.38
2) 銀行利息			517.80
3) 栽培保険			104.00
合 計			8830.22

出所: I.E.H.

サンパシロ川カンピートスルカ 板板神作.

3.3.3 マンゴ

1) 生産

表 175

マンゴ：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	バ イ ア	413.0	5421.0	13.000
2	パ ラ	172.0	2294.6	13.338
3	マ ラ ニ ヨ	228.3	3808.3	7919
4	ピ ア ウ イ	120.8	1779.9	14737
5	パ ラ	85.8	1700.0	19814
6	グアテマラ	134.6	1592.0	11831
7	ペルナンブコ	141.2	1429.6	10.127
8	サントスピリット	84.8	1234.7	14.558
9	ミナスジェライス	93.5	1141.4	12206
10	その他	571.3	2141.0	12499
合計		2049.3	25542.5	12.464

出所: I.B.G.E.

マンゴの国内生産は、83、84年に低迷した後、85年に回復し、86年には過去5年間の最高の生産量25.5万トンに達した。これは、面積の拡大と、収穫面積が205万haに達し、平均単収が過去5年間の最高の12.5トン/haに達した生産量の増加による。

国内生産の約70%は、パイア州の生産による。パイア州は、85/86年度に、面積413千ha、生産量542万トンの規模であった。パイア州は、4位のロドリゲス、東北部及び北部の州によって占められ、中央-南部の州はパイア州に次ぎ、南部の州は主要生産地と見られる。パイア州は、全国最高の生産量をもち、その単収は、全国平均より大きく、20トン/haのレベルに達し、これは南部の州の85年末の予測値よりもマンゴの作付けに大きく影響を及ぼしている。

表 176

マンゴ：1982-86年の生産状況

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ イ ア	4439.2	3960.0	4350.8	5317.0	5421.0
2	パ ラ	1675.4	1849.4	1645.3	1903.9	2294.6
3	マ ラ	1218.7	1383.0	1446.2	1722.9	1700.0
4	グアテマラ	1685.4	1672.3	1410.2	1515.8	1592.0
5	ペルナンブコ	1666.2	1356.6	1516.3	1474.7	1429.6
6	その他	13324.5	11524.8	10920.3	11188.2	13105.3
合計		24009.4	21746.1	21289.1	23072.5	25542.5

面積 1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
合計	2133.0	2021.1	1815.5	1865.7	2049.3

表 177

マンゴ：1982-86年の単収

州別	1982	1983	1984	1985	1986
バ イ ア	12.400	12.000	11.375	13.000	13.000
パ ラ	12.779	12.350	12.306	13.024	13.338
マ ラ	19500	19794	19.627	20.080	19.814
グアテマラ	12.227	12.207	11.080	11.879	11.831
ペルナンブコ	9.531	8.280	10.125	10.202	10.127
全国平均	11.256	10.759	11.226	12.366	12.464

出所: I.B.G.E.

ハ) 生産コスト

平成10年度|栽培部 米作関係調査|平成10年度 米/ha 生産コスト予想は 平成10年度に比し

表 179 マンビヤ: 生産コスト 86/87年度

項目	所要日数	平均	全額 yen
ハ) 作業コスト			
①			
1) 田舎	36.60	40.7	1489.6
2) 家畜	3.46	9.2	31.8
3) 田舎	0.69	1.8	1.3
4) 家畜中種	2.58	1.8	4.7
5) 運搬	0.19	2.8	0.7
②			1528.1
1) 利起(橋本)			550.0
2) 利起(・)			250.0
小計			2328.1
③ 資材コスト	(数量)		
1) 石灰	0.50 T	272.0/T	136.0
2) 堆肥	5.00 M3	100.0/M3	500.0
3) 殺虫剤	0.51 kg	9.4/kg	4.8
4) 配合肥料(4-30-10)	0.17 T	3328.4/T	565.8
小計			1206.6
累計			3534.7
④ 関係コスト			
1) 機械使用費			25.3
2) 銀行利息			176.7
合計			3736.8

出所: 169

マンビヤ: 生産コスト

3.3.4 煙草

表 180 煙草: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	サウダ・カタリーナ	45.7	166.9	1643
2	バ・ブ・デ・ト・ス・N	90.1	130.0	1442
3	ア・ア・ア・ア・ス	39.1	43.8	1120
4	バ・ア・ア	18.3	27.9	1525
5	バ・イ・ア	19.6	14.1	720
6	その他	16.7	12.9	772
合計		279.5	385.6	1380

出所: 586.0

1986年度のタバコ生産量は、前年度に比し、14%減少した。これは、前年度に比し、6.3%の減少である。

煙草の生産はサント・カタリーナ、リオ・グランデ・ド・スール、パラナの南部3州と東北地方のアゴアス州に集中し、この4州で全国生産の93%を占めている。86年度における生産の減少は、この主要生産州の中部3州においてみられる。植付面積の長期増減への影響によるものであり、この単位面積あたりの収量の減少が観察される。

表 181 煙草：主要生産州の生産推移 (1000t)

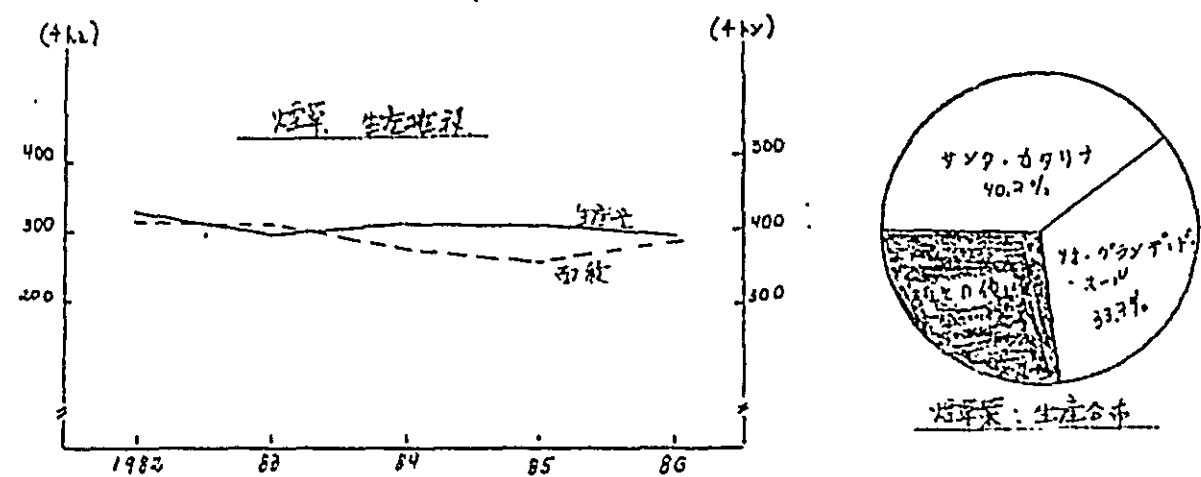
順位	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	サント・カタリーナ	132.1	132.1	151.6	160.0	156.9
2	リオ・グランデ・ド・スール	153.0	156.1	162.9	154.8	150.0
3	パラナ	20.0	29.2	24.8	36.0	27.9
4	アゴアス	42.0	31.0	30.4	31.4	43.8
5	パラナ	39.0	29.3	19.0	16.1	14.1
6	その他	20.4	17.8	16.1	12.6	12.9
	合 計	421.5	395.5	414.8	410.9	385.6

面積	1,000ha.	318.6	316.0	285.3	268.6	279.5
----	----------	-------	-------	-------	-------	-------

表 182 煙草：主要生産地の平均収量 (kg/ha.)

州 別	1982	1983	1984	1985	1986
サント・カタリーナ	1851	1478	1661	1778	1641
リオ・グランデ・ド・スール	1553	1436	1629	1710	1422
パラナ	1713	1529	1789	1879	1625
アゴアス	943	949	995	995	1120
パラナ	750	693	815	757	720
全 国 平 均	1323	1252	1454	1530	1380

出所: I.B.G.E.



国際市場では最大の生産国である米国との競争に伴い低品質の煙草ストックに頼り、現在は約36万トンに達しているといわれる。しかし低い価格で販売しているため、世界の喫煙の過剰減を招き、国際価格に大きな影響を与えている。また他の生産国への生産及び輸出に多大な保護が与えられており、ブラジルの輸出増進は難しい状況ではない。ブラジルの煙草輸出はコーヒー、大豆、コップ及び砂糖

に次のとおり主要な輸出品目であることの概観で、86年度の輸出は^量空前規模に前年を下回り、
たまたま推定される、CACEXが発表している11月までの統計では373トン、1375万ドルの輸出で前年同
期と比して数量は12.3%、金額は7.1%の減少と見られる。

表133 煙草葉及び製品4輸出推移

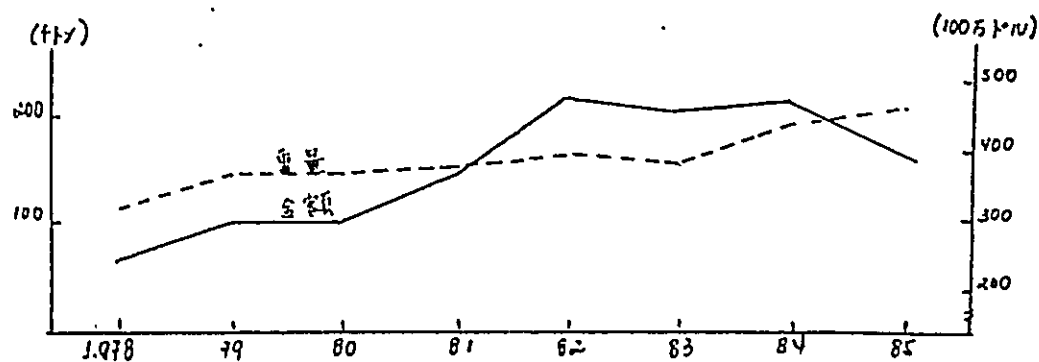
年次	1,000ト	100万ドル
1978	119.4	249.3
79	141.6	296.5
80	144.8	295.3
81	150.0	368.3
82	166.9	477.0
83	155.0	456.0
84	189.2	468.6
85	201.1	459.3
86推	165.6	392.0

出所: CACEX ※ 86年1-11月

表134 煙草葉及び製品の輸出実績 1985年

区分	重量 1,000ト	金額 100万ドル
煙草葉		
葉	42.9	69.8
葉	33.9	77.1
西	21.9	58.2
オランダ	17.9	35.2
その他	82.6	209.4
計	198.7	449.7
製品 葉煙草、葉巻	2.4	9.6
合計	201.1	459.3

出所: CACEX



煙草の国内価格の生産者側と工場側の相違はよく決定されている。政府による最低価格保証制度に
煙草を含め、動きもあつた。生産者団体と工場側の相違が比較的小さく行なわれていた。この間の
相違はそれほどあり、生産者側も現状に特に不満を感じていない。この形勢が当面継続していくと思われる。

表135 煙草葉：生産者側価格 C&B/154

月別	1983	1984	1985
1	32.845	53.125	---
2	33.453	---	---
3	34.642	---	---
4	34.950	60.954	---
5	37.191	53.007	---
6	37.167	57.600	---
7	39.021	57.600	---
8	---	---	---
9	49.322	---	---
10	52.000	---	---
11	53.000	---	---
12	53.125	---	---

出所: I.E.A. 注) 84年5月以降発表されている。

3.3.5 サイザル

表 186 サイザル: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	収量 kg/ha
1	バ イ 7	190.0	152.0	800
2	バ ラ イ - バ	94.6	74.7	789
3	リオ・グランデ・ド・ノルテ	35.8	17.9	500
4	その他	3.9	3.6	842
合 計		322.3	246.2	764

出所: I.B.G.E.

表 187 サイザル: 1982-1986年の生産状況 (1000t)

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ イ 7	150.0	75.0	119.0	190.0	152.0
2	バ ラ イ - バ	79.0	88.5	83.3	78.2	74.7
3	リオ・グランデ・ド・ノルテ	14.1	12.4	16.1	17.8	17.9
4	その他	6.1	4.9	6.4	4.8	3.6
合 計		249.2	180.8	224.8	290.8	246.2

面積 1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
	341.6	306.7	320.3	332.6	322.3

表 188 サイザル: 1982-1986年の収量 (kg/ha)

州別	1982	1983	1984	1985	1986
バ イ 7	800	500	700	1000	800
バ ラ イ - バ	702	751	754	765	789
リオ・グランデ・ド・ノルテ	409	374	476	497	500
全 国 平 均	730	590	702	875	764

出所: I.B.G.E.

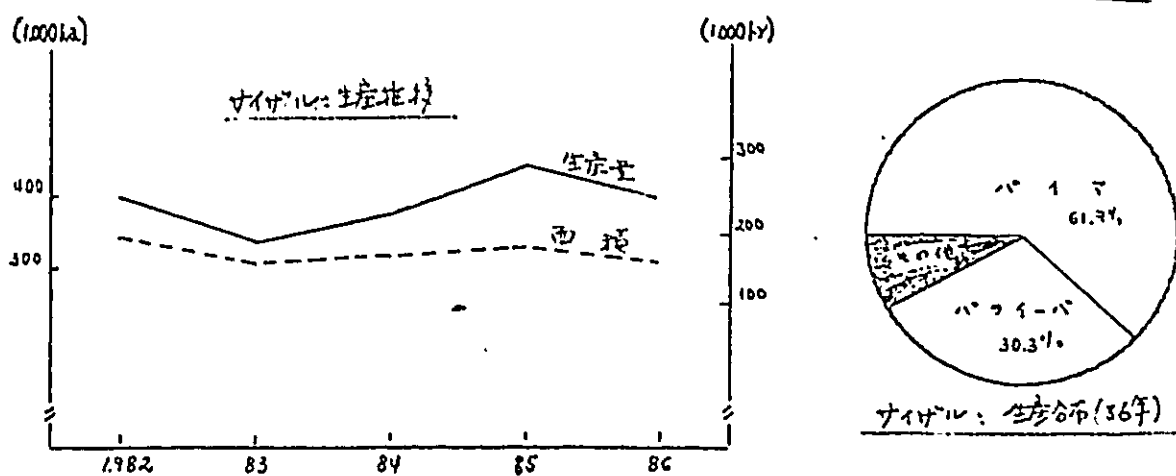


表 189 サイザル: 1981-1985年の生産と輸出実績

年度	生産 (1000t)			輸出 (1000t)		
	総生産	ロープ	計	総輸出	ロープ	計
1981	69.6	81.0	150.6	36.6	66.2	101.8
82	36.7	56.7	93.4	17.0	48.0	65.0
83	99.8	87.3	187.1	36.5	54.8	91.3
84	82.4	118.2	200.6	29.5	63.2	94.7

出所: CACEX

3.3.6 シュ-ト及びアルハ

共 190

シュート: 1986年生産子犬1匹

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	並列 1/1000
1	ア マ ソ ー ナ ス	22.8	20.0	878
2	ハ ヲ	5.9	7.8	1318
	合 計	28.7	27.8	969

出所: J B.G E

191

註一：此表54年同の表を推す

100317

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	マゾーナス	10.3	7.8	10.1	15.7	20.0
2	ハラ	3.9	5.1	9.0	4.4	7.8
	合計	14.2	12.9	19.1	20.1	27.8

面	大	1000h.	14.6	11.0	20.9	21.2	20.7
---	---	--------	------	------	------	------	------

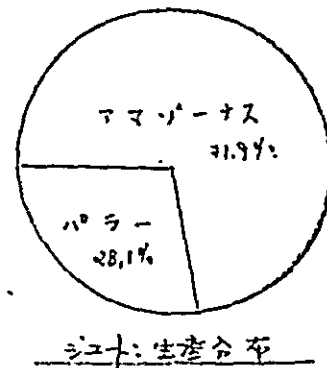
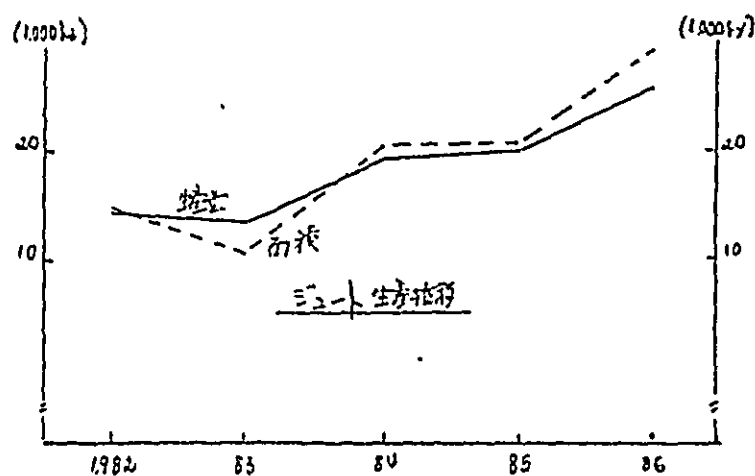
५१, १२

註一： 主審官： 0.5 收。

12/12

国 別					1982	1983	1984	1985	1986
マ	ソ	ー	ナ	ス	1041	1200	748	897	876
パ	ラ			ー	833	1137	1218	1189	1318
全	国	平	均		774	1125	914	948	969

出 所: I 6 G.1.



全国の農業生産に占める比重（生産量及び生産高）は小さいものの、穀類、化学農産物の販入の減少に伴って、包装用袋の原料不足が深刻化してきており、生産量の約70%が土産田袋の原料として用いられている。今後生産量の増加と共に袋田布を用いたフィルム化への移行が期待されている。

このように包蔵同様の条科に20の30-ト及びマルバハアマゾン川河畔の肥沃な地帯に分布地
とあり、低地での30-ト、高地でのマルバハ栽培が主であるアマゾンの水を利用した脱酸素作業
が行なわれる

表 193 マルバ: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	収量 112 kg/ha
1	パナマ	26.2	21.0	800
2	アマゾン	8.5	11.0	1300
3	マラニョ	2.9	2.8	976
	合計	37.6	34.8	926

出所: I.B.G.E.

表 194 マルバ: 過去5年間の生産推移 (1000t)

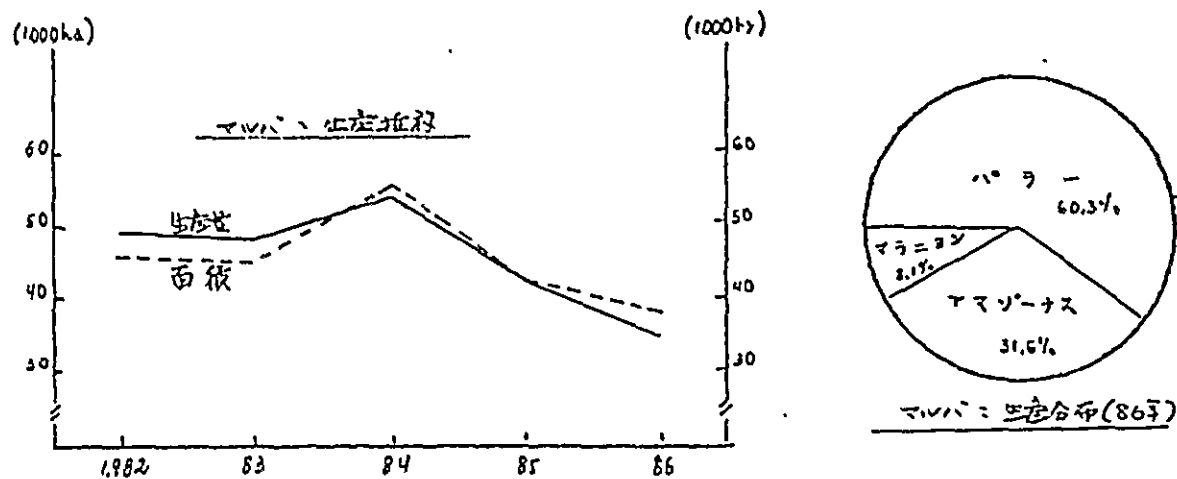
順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	アマゾン	19.6	24.7	22.4	22.3	11.0
2	パナマ	23.2	20.3	28.9	17.8	21.0
3	マラニョ	6.1	3.0	2.4	2.2	2.8
	合計	48.8	48.0	53.7	42.3	34.8

面積 1000ha	46.0	44.7	55.4	42.5	37.6
-----------	------	------	------	------	------

表 195 マルバ: 主要生産地の収量 (kg/ha)

州別	1982	1983	1984	1985	1986
アマゾン	1800	1800	1120	1256	1300
パナマ	800	730	880	789	800
マラニョ	1030	930	948	972	976
全国平均	1067	1072	969	994	926

出所: I.B.G.E.



過去5年間の生産の中で、国内の需要に十分対応できなかったのは、31年分だけ、残りは需要量に満たない生産状況であり、85年には7,500トンの輸入に依存した。このように生産が減少し、生産価格が下落している。マルバの種子は、供給不足に陥っており、輸入に依存している。輸入は、前年より上回っているが、約17万トン前後のレベルである。

表 196 ジュート及びマルバの輸出実績 (金額) (1000USD)

関税番号	品名	1982	1983	1984	1985
57.03	紐 雄	91.8	28.7	654.6	1,319.8
57.06, 0100	ワンプ	183.1	61.4	129.6	99.7
57.10	苗	10,038.8	6,841.1	10,276.7	5,026.1
63.03, 0200	葉	—	—	409.1	—
計		10,313.7	6,931.2	11,470.0	6,385.6

出所: CACEX

3.3.7 ラミ-

表 127 ラミ- : 1986年産出統計

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	平均 4/ha
1	バ 5	5.5	7.0	1266
	合計	5.5	7.0	1266

出所: J.B.G.E.

表 128 ラミ- : 近5年間の生産推移 (1000t)

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ 7	9.4	9.6	9.6	10.0	7.0
2	バ 1 7	0.2	—	—	—	—
	合計	9.6	9.6	9.6	10.0	7.0

面積 1000ha	6.0	4.7	4.9	4.9	5.5
-----------	-----	-----	-----	-----	-----

表 129 ラミ- : 主要生産地の平均 (kg/ha)

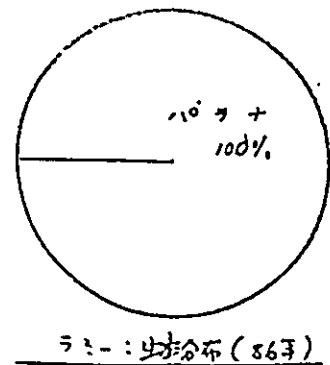
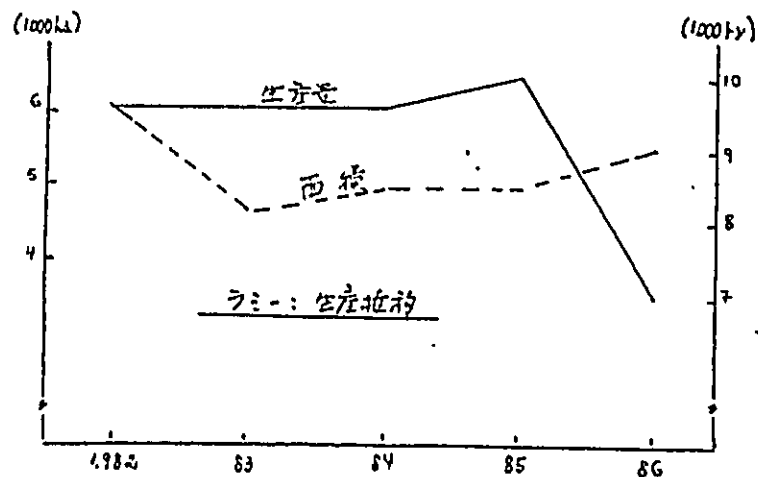
州別	1982	1983	1984	1985	1986
バ 7	1629	2052	2141	2047	1266
バ 1 7	1200	—	—	—	—
全国平均	1618	2052	2141	2047	1266

出所: J.B.G.E.

ラミ-の国内生産は4,500~7,000haの規模で安定しており、生産量は7,000~10,000tの範囲で上下している。1970年代後半の2万haの栽培面積より、3万tの収穫量を実現し、24t/haの収穫量と、従来の生産規模が縮小した今でも113%の増産が達成された。これは、主に栽培技術の向上と、肥料・農薬の適正な使用によるものである。また、近年は生産者の高齢化が進み、労働力の不足が懸念されている。しかし、近年は生産者の高齢化が進み、労働力の不足が懸念されている。

生産物の70%は外国市場向けで、約20%の低品質のものが国内市場で消費される。最近の価格の下落は、主に輸入品の増加によるものである。また、近年は生産者の高齢化が進み、労働力の不足が懸念されている。

年間の平均生産量は10~11トンで、生産者の年齢は25%以下である。工場での生産量は1,200トン程度である。



3.4 嗜好作物

3.4.1 コーヒー

1) 生産

表 200 コーヒー：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	平均収量 kg/ha
1	ミナス・ジェライス	663.0	654.0	986
2	エスピリト・サント	408.1	486.0	1191
3	パラナ	422.8	292.4	692
4	サン・パウロ	503.7	266.6	527
5	バヤ	98.7	132.8	1345
6	その他	162.7	176.4	1084
合計		2,254.0	2,007.2	889

出所：IBGE.

1986年12月に発表された生産統計によれば、85/86年度に於いてコーヒー（豆）の生産量は約200万トンで前年の375万トンに比し46%減少したことが示された。この生産減少はコーヒーの特性として前年並みに来る減産の年であったにもかかわらず、85年、後半に南東部の主要生産地帯で長期乾魃に陥り、南東部のコーヒー樹に大きな被害が生じたことが主な理由とされている。この被害は最初にパラナ、パラナ及びミナスの南部地域に及び、86年の始めにはエスピリト・サントも同様の被害を受けた。この被害はコーヒーの品質に及ぼす影響は収量の割合に現れた。1ヘクタールの平均収量は極度に落ち、1ヘクタール当たり前年の平均1,512kgに比し85/86年度は僅か889kgに過ぎず5年間の平均よりも低い水準に落ちた。

表 201 コーヒー：近5年間の生産推移

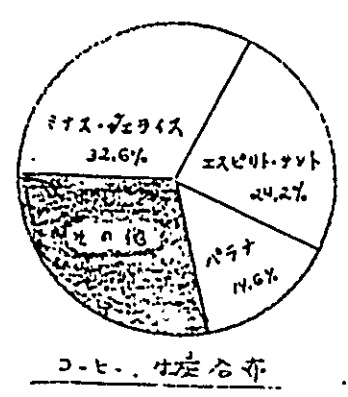
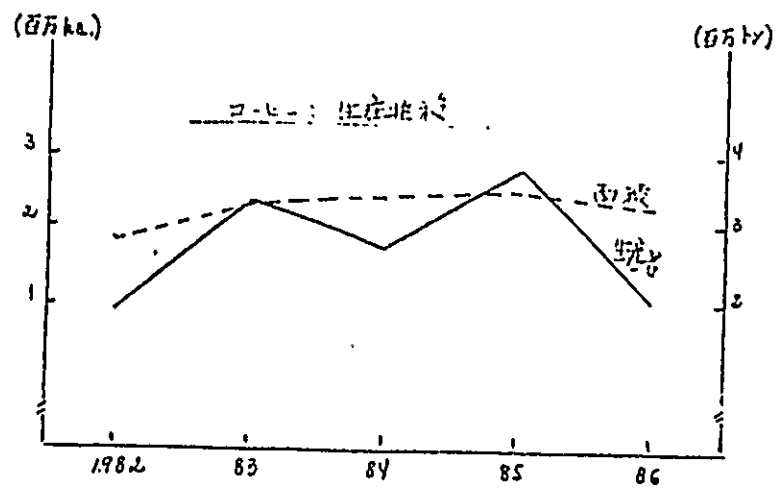
順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	ミナス・ジェライス	479.4	1084.2	695.6	1277.6	654.0
2	サン・パウロ	674.4	798.3	846.0	1032.2	266.6
3	パラナ	162.7	609.0	477.3	588.1	292.4
4	エスピリト・サント	346.8	554.5	436.7	556.6	486.0
5	バヤ	75.0	72.6	62.5	118.2	132.8
6	その他	115.6	166.9	160.9	180.6	176.4
合計		1,853.9	3,305.5	2,679.0	3,753.3	2,007.2

面積	1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
		1,857.5	2,279.3	2,452.4	2,483.0	2,259.0

表 202 コーヒー：主要生産地の平均収量

州別	1982	1983	1984	1985	1986
ミナス・ジェライス	999	1805	1141	2045	986
サン・パウロ	1213	1229	1069	1323	527
パラナ	537	1387	1123	1364	692
エスピリト・サント	1058	1435	1129	1398	1191
バヤ	1003	1099	654	1285	1345
全国平均	998	1450	1092	1512	889

出所：IBGE.



④ 国際市場とブラジルの輸出

1986年7月に USDA (米国農務省) が行った推定によると 86/87 年度における世界のコーヒー生産量は、精製コーヒー 60kg 入缶が 82,935 千缶、前年より 14% 増である。但しブラジルの生産量は USDA の推定は 16,500 千缶、これに対し IBC (インターナショナルコーヒー協会) の推定は 11,200 千缶である。この点から世界の生産量は更に減少する可能性がある。

国別		コーヒー：世界の生産量					60kg 入 100 万缶	
		81/82	82/83	83/84	84/85	85/86	86/87	
南米	ブラジル	17.8	30.0	27.0	33.0	33.0	16.5	
	コロンビア	13.3	13.0	12.8	12.0	12.0	12.4	
	その他	4.1	5.1	4.3	4.8	4.8	4.9	
	小計	35.2	58.1	44.1	49.8	49.8	33.8	
	合計							
アジア	インドネシア	9.5	1.4	4.6	4.7	4.7	4.8	
	フィリピン	4.0	2.7	2.8	2.7	2.7	3.0	
	その他	12.5	12.1	12.2	13.5	13.5	13.4	
	小計	26.0	16.2	19.6	20.9	20.9	21.2	
	合計							
中米	メキシコ	4.5	4.5	4.3	4.5	4.5	4.7	
	エルサルバドル	0.8	0.4	0.8	0.3	0.3	0.6	
	グアテマラ	0.5	0.3	0.7	0.5	0.5	0.9	
	その他	2.6	6.4	2.1	6.0	6.0	6.3	
	小計	8.4	11.6	7.9	17.3	17.3	22.5	
	合計							
アフリカ	インドネシア	4.8	5.5	5.6	5.8	5.8	5.8	
	その他	3.8	3.1	4.9	3.7	3.7	4.1	
	小計	8.6	8.6	10.5	9.5	9.5	9.9	
	その他							
	小計	0.7	1.0	0.7	0.9	0.9	0.9	
	合計							
世界計		81.9	88.5	91.8	96.4	96.4	82.9	

出所：USDA

同様に USOA のデータによれば、世界の在庫量は ブラジルが最大の在庫年である 12.9 百万トン、世界の 90.7 百万トンと十分すぎるほどの在庫があり、期末在庫は前年比の 44.8 百万トン、37.5 百万トンに減少が見込まれる。但し、前述の通りブラジルの生産量については USOA の推定が IBC の発表と大きく上回っている。IBC の取手と変化による世界の期末在庫は更に減少し 32.3 百万トンと推定。この在庫は、南米に集中し中でもブラジルが 12.1 百万トンと保有する。

表 204 コーヒー生産国の生産量と在庫量 100 万トン

国別	期前年	生産量	輸出量	在庫量	輸出量	国内消費	期末在庫
南米	26.1	33.8	-	59.9	29.6	11.8	18.5
(ブラジル)	(11.4)	(16.5)	(-)	(27.9)	(14.3)	(8.5)	(9.9)
(コロンビア)	(13.1)	(12.4)	(-)	(25.5)	(11.5)	(1.9)	(12.1)
アフリカ	1.3	21.2	0.1	32.6	18.1	2.7	11.8
中米	9.3	17.1	0.2	21.6	13.3	1.9	9.4
アジア	2.9	9.9	0.2	13.0	7.4	2.0	2.6
その他	0.2	0.9	-	1.1	1.0	-	0.2
世界計	44.8	82.9	0.5	125.2	69.3	21.4	37.5

出所: USOA.

ブラジル中南部 30 州の主要産地帯に大規模な生産と半ば長期にわたる減産 国際コーヒー協会の更新 政治問題によるブラジルの輸出問題 等が主な理由として 85 年 9 月の際国際市場におもむき、コーヒー価格の高騰がみられた。このため国際協会におもむき指示価格 85 年 9 月の平均値 119 センツ、86 年 3 月には 204 センツへと上昇した。4 月以降は再び下降し 7 月には 109 センツと落ちたが 9 月には再び上昇し 181 センツへと戻った。

この価格の下落は、国際取引市場においてブラジルの生産量の過剰とみられ、思惑が反映された。85 年末 ブラジルによって行われた大量販売による価格の下落は、86 年に以降の価格の下落に拍子がかかった。この価格の下落は、ブラジルの IBC が注文の輸出を制限し、事実上外国への販売を中止する措置を講じたことが価格に反映された効果があった。

表 205 コーヒー協会の指示価格 平均値 センツ

年次	コロンビア	ブラジル	インドネシア	平均
1980	148.60	142.68	111.05	125.46
83	141.61	142.75	124.12	127.91
84	147.33	149.65	138.16	141.21
85	155.87	151.76	121.24	133.26
最高	202.69	201.70	153.40	179.84
最低	144.85	130.81	105.11	118.78
86	2	-	-	-
最高	263.77	303.42	172.22	204.23
最低	191.36	183.40	125.79	149.12

出所: OIC.

注: GOX 入 1 トン 132.271 センツに相当する。

OIC (国際コーヒー協定) の輸出国に与える割当制が、86年1月14日、15日間の平均相場(PIC)が本日より210セントに達し、OICに決定している最高限額の145セントを越えたため、輸出割当制が解除され、自由に輸出が可能となった。割当制はPICが134セント以下の場合再び導入される予定である。86年10月3日、利用に付いた。

ブラジルの輸出: 例年通りコーヒー(豆)とインスタントコーヒーの2つの形で輸出された。85年比26億ドルの収入に達した。86年度は、輸出全量が減った。11月までの統計で輸出総額(豆)の場合前年比15.1%と激減した。トータル輸出が前年のUS\$2,305.1からUS\$1,955.2に19.3%の減少をみた。輸出総額は、前年比16.3%の減少に止まった。11月までのコーヒー(豆)とインスタントコーヒー輸出額は26億ドルであった。

表 206 コーヒー: 輸出実績

年度	量 1000ト			金額 100万ドル		
	コーヒー(豆)	インスタントコーヒー	計	コーヒー(豆)	インスタントコーヒー	計
1980	784	40	824	2486	285	2771
81	825	44	869	1517	288	1755
82	888	45	933	1858	251	2109
83	940	43	983	2075	247	2342
84	1032	45	1077	2564	287	2851
85	1034	40	1074	2369	253	2622

出所: CACEY

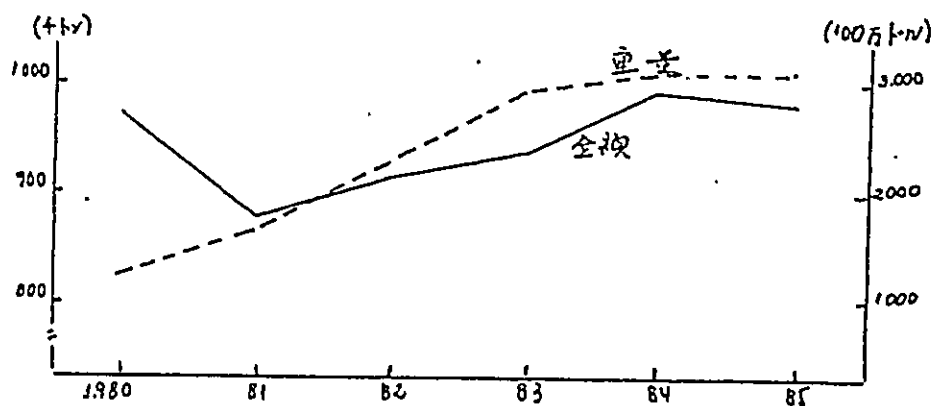


表 207 コーヒー(豆) 輸出実績 1985年

輸出先国	量 1000ト	金額 100万ドル
米 国	266.6	607.4
西 独	90.4	207.0
イタリ	84.1	201.3
日 本	74.2	171.8
フランス	67.4	155.7
スウェーデン	53.9	119.2
スペイン	43.6	103.4
オーストラリア	45.3	100.5
ス イ ス	40.3	93.8
オランダ	36.6	84.6
デンマーク	29.6	68.1
ベルギー	28.5	69.0
カナダ	23.2	50.8

表 208 インスタント・コーヒー輸出実績 1985年

輸出先国	量 1000ト	金額 100万ドル
フィンランド	11.9	70.1
英 国	7.1	43.5
ソ 連	4.8	38.4
チリ	3.3	20.3
西 独	2.8	17.7
オーストラリア	2.4	14.6
日 本	2.0	12.2
オランダ	1.1	6.9
ルーマニア	0.8	6.3
ハンガリー	0.7	4.7
シンガポール	0.2	2.2
イスラエル	0.4	2.3
フランス	0.3	2.3

ノルウェー	21.5	50.8
ギリシャ	17.2	37.6
ポルトガル	13.5	31.2
フィンランド	11.4	20.5
英国	10.1	19.1
その他	13.2	155.4
計	1073.6	2369.2

出所: CACEX

09.01.01.00

オーストリア	0.3	2.0
イタリア	0.2	1.5
スペイン	0.2	1.8
その他	1.2	7.2
計	2.0	12.5

出所: CACEX

2102.01.01

ハ) 国内市場及び価格

カンパネラ(商品取引所)の取引価格は85年9月、86年1月にピークを記録し、輸入業者の需要増大と反映して、10月以降に急激に下落した。国際市場に於けるフランス・コート・ダジュールの需要増大と反映して、国内価格の1月のCET 4,624-(60kg)は6月のCET 2,786.1へと、国際価格に平行に下落をみせた。

年頭より下落傾向の価格を消費価格に反映させるには、最悪の場合に於けるコート・ダジュールの価格比率が、85年の7%より86年初めに4.125%へと上昇し消費を促した。政府は供給不足による国内価格の上昇を抑制するべく、輸出量に於ける一定量の13%に引込率を設け、救済措置の導入を決定し、国内価格の不足をカバーした。この制度は86年の下半期に入り、国内価格に平行に国際価格の下落により中止された。生産者買取価格も国内市場に反映し、価格の変動が減少した。

表209 コーヒー: 生産者買取価格 CEX/60kg

月別	1984	1985
1	56,649	310,330
2	62,218	401,834
3	66,697	431,010
4	79,113	449,710
5	90,550	470,775
6	106,117	454,164
7	125,936	453,342
8	130,631	483,005
9	146,866	524,182
10	163,000	735,927
11	189,560	1,130,331
12	215,030	1,680,126

出所: I.E.H.

カンパネラ

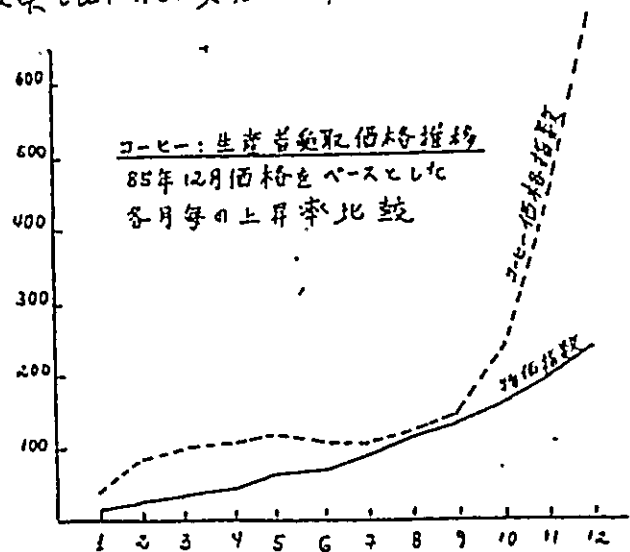
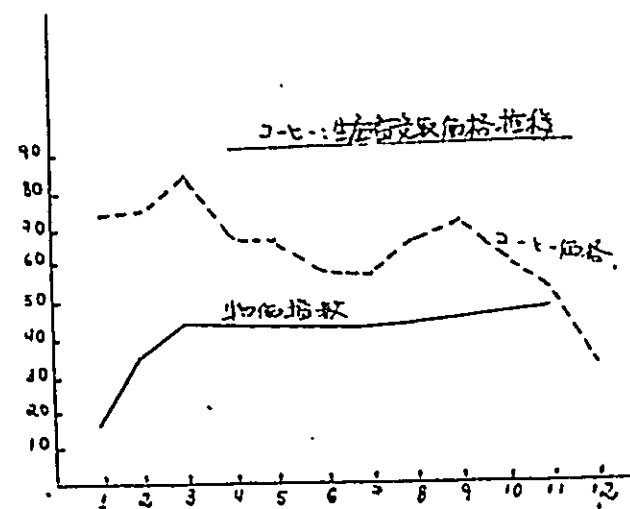


表210 コーヒー: 生産者買取価格 CEX/60kg

月別	1985	1986
1	310,330	2,930,36
2	401,834	2,940,23
3	431,010	3,090,48
4	449,710	2,822,16
5	470,775	2,825,39
6	454,164	2,663,24
7	453,342	2,659,25
8	483,005	2,603,70
9	524,182	2,891,06
10	735,927	2,713,56
11	1,130,331	2,613,92
12	1,680,126	2,231,30

出所: I.E.H.



ハ) 生産コスト

サニタリヤの養蚕技術研究の成果として、サニタリヤカンベ-ナステス及びリ-イオン、アロ-
シエに於ける86/87年度の実績コストは次の通りである。

表 211 コ-ヒ-：生産コスト 86/87 1haあたり1,000本 産量12.2倍(60kg)

項目	所要日数	単価	合計 円
ア) 作業コスト			
1) 労 力	40.31	43.70	1,761.55
2) トラック-運搬	2.25	70.50	158.63
3) 4輪トラック-	2.25	338.47	761.56
4) 機械中耕	1.95	11.19	21.82
5) 運 搬	0.30	36.27	10.88
6) 防 除	4.72	48.69	229.82
7) 家 畜	0.84	9.20	7.73
8) 施肥	0.84	3.85	3.23
9) 乾燥	1.80	278.36	501.05
10) 収 穫			1,586.00
小 計			5,042.25
イ) 資材コスト			
1) 混合肥料(20-5-20)	0.71 T	2637.63/T	1872.72
2) 有機肥料(鶏糞)	4.53 T	400.00/T	1812.00
3) 微量要素(硫酸)	10.00 kg	15.00/kg	150.00
4) 石灰(硫酸)	5.00 kg	6.50/kg	32.50
5) 殺虫剤	3.00 L	84.79/L	254.37
6) 殺菌剤	1.50 L	96.09/L	144.13
7) 殺虫剤	11.58 kg	34.20/kg	396.04
8) 節	1.00 U	57.40/U	57.40
9) RASCEL	1.00 U	8.25/U	8.25
小 計			4727.41
合計			9769.66
ロ) 管理コスト			
1) 機械修理費			695.94
2) 燃料費			683.87
小 計			1379.81

出所：J.E.A.

サニタリヤカンベ-ナステス

表 212 コ-ヒ-：生産コスト 86/87 1haあたり1,000本 産量12倍(60kg)

項目	所要日数	単価	合計 円
ア) 作業コスト			
1) 労 力	44.62	48.50	2164.07
2) トラック-運搬	4.85	63.50	307.97
3) 4輪トラック-	4.85	338.47	1,641.58
4) トラクタ	0.34	15.00	5.10
5) 機械中耕	1.70	11.19	19.02
6) 運 搬	1.00	36.27	36.27
7) 防 除	1.81	29.01	52.51
8) 乾燥	1.80	53.38	96.08
9) 収 穫			2400.00
小 計			6722.60

B) 肥料コスト (トン)			
1) 配合肥料 (20-5-20)	0.92 T	2637.63/T	2426.62
2) 有機肥料	7.53 T	202.00/T	1521.06
3) 肥料 (尿素)	0.01 T	3085.90/T	30.86
4) 追肥用硫酸	0.10 T	2259.74/T	225.97
5) 微量要素 (硫酸)	400 kg	15.00/kg	60.00
6) " (硫酸)	720 kg	6.50/kg	46.80
7) "	600 kg	2.86/kg	17.16
8) 石灰	300 L	84.79/L	254.37
9) 市 3 x 3	1.00 U	52.50/U	52.50
10) 砂	100 U	57.40/U	57.40
11) KISTEN	100 U	8.25/U	8.25
12) 級	12.00 U	14.70/U	176.40
小計			4877.39
累計			11579.99
C) 飼料コスト			
1) 飼料給与量			576.99
2) 飼料単価			812.00
合計			12788.97

出所: I.B.G.

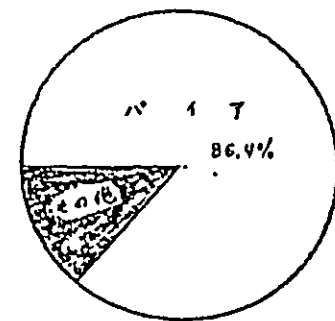
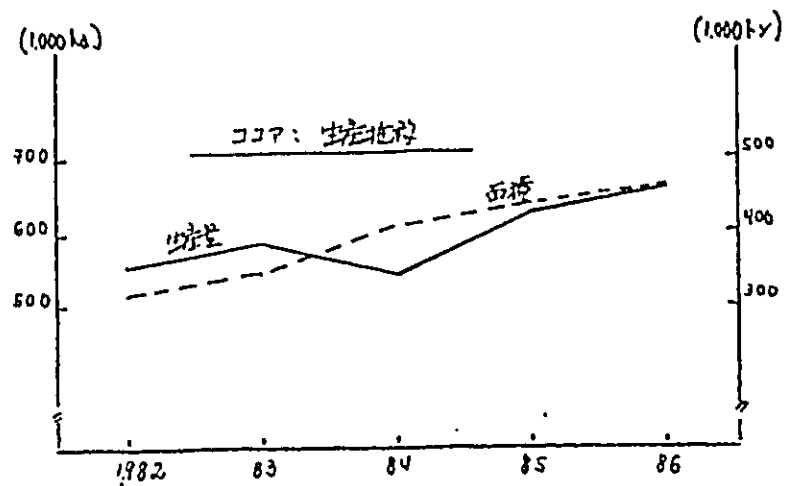
Y21504. リバース・アレイ・セル

3.412 ココP

表 213 ココP: 1986年生産状況

順位	州 別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	バ イ ア	566.2	396.7	713
2	ロ ソ ト ニ ア	41.6	30.6	736
3	パ ラ -	33.1	15.4	466
4	エスピリト・サント	21.6	13.1	607
5	アマゾナス	2.8	1.0	357
6	その他	2.9	2.5	862
合 計		658.2	459.3	698

出所: I.B.G.E.



ココP: 生産割合 (86)

表 214 ココア : 過去5年間の生産推移 1000t

順位	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ イ ア	336.9	347.5	310.1	361.8	346.7
2	ロ ソ ト ニ ア	6.7	10.8	10.8	29.4	30.6
3	パ ラ -	2.1	9.5	12.0	13.0	15.4
4	エスビリト・サント	11.7	11.0	11.1	12.3	13.1
5	その他	1.1	1.4	1.4	2.8	3.5
	合 計	363.5	380.2	345.4	419.3	409.3

面 積	1000ha.	516.7	544.3	608.8	638.0	658.2
-----	---------	-------	-------	-------	-------	-------

表 215 ココア : 主要生産地の平均収量 kg/ha.

州 別	1982	1983	1984	1985	1986
バ イ ア	734	725	590	670	713
ロ ソ ト ニ ア	383	462	347	708	736
パ ラ -	481	533	431	437	466
エスビリト・サント	520	566	543	589	607
全 国 平 均	704	698	567	657	698

出所: J.B.G.E.

ココアの収穫は5月に開始され翌年の1月まで継続する。収穫期は、85/86年度の収穫は、85年5月から86年1月までの収穫、86/87年度は86年5月から87年1月までの収穫と推定される。収穫後の2月より次の収穫の開始となる。4月までの期間がココアの熟成期である。

収穫は2段階に分けられる。本収穫 (SAFRA PRINCIPAL) と乾期収穫 (TEMPORARIO) に分けられる。前者は10月〜1月、後者は5月〜9月である。ブラジルの収穫はアフリカの収穫と比較して、大規模な収穫と推定される。乾期収穫の量は本収穫とほぼ同等と推定される。アフリカの乾期収穫はブラジルの半量と推定される。

最近5年間のココア生産は上昇傾向にある。85/86年度には前年度に最大の収穫であったが、87年1月に終了した86/87年度の収穫は、前年度並みの大型収穫にはならなかったと推定される。英国のココア専門の調査機関 GILL & DUFFUS によれば、ブラジルの生産量は、1922万トンと見込まれ、世界生産の23%に相当する。

ブラジルのココア生産はバイア州に集中し、同州が全国栽培面積の85%を占める。この主要栽培地帯は北東部のアマゾン地方のオリント州とパロ州の栽培地帯である。この両州には、5000ヘクタール以上の栽培地帯があり、そのうちオリント州には45千ヘクタール、パロ州には4.5千ヘクタールの栽培地帯がある。

ココア栽培に従事する人口は約26千人と推定される。各生産地帯の主要な産物として、又国の重要な外貨獲得源でもあることから、その栽培を指導、援助する機関として CEPALC (ココア栽培技術)

委員会) 及び CEPEC (ココア調整委員会) が改選された。

砂糖とチョコレートの原料となるココア豆は、主にエクアドル(ココア豆を加工して砂糖とチョコレートの原料となるココア豆)、ココア豆(ココア豆を加工して砂糖とチョコレートの原料となるココア豆)に加工され、加工品として海外及び国内市場に輸出される。

このうち加工品は、国内最大の規模をもち、工業団地のバイヤル イリエス市にあり、世界でも有名なココア工業地帯として知られている。イリエス市(ILIUS)はバイヤル都サルバドル市より450 km 南下した地点の大西洋岸にあり、ココアを主産とする輸出港であり、最近の10年間に加工工場が集中している。

BARRETTO DE ARAÚJO PRODUTOS DE CACAU S.A

JOANES INDUSTRIAL S.A.

CARGILL CACAU S.A.

BERKAU CACAU INDUSTRIAL

以上の4つのココア生産組合連合会(COPECACAU)が購入したITAISA社に近い工場グループに売却する予定となっている。このうち原料加工工場は他、ココアの加工技術の活用を行っているRESICA社、受託加工工場はNESTLÉ社も経営中である。イリエス工業団地のサルバドル市に加工工場(CHADLER)があり、この工場はバイヤル工業施設の加工能力は25万トン(60t入420万個)で、国内加工能力の90%に相当する。

バイヤル市にはエスピリト・サント市にチョコレート工場VITORIA社及びGAROTO社、サルバドル市にINDICA社、マナウス市にAGROINDUSTRIAL RIO PARDO社等がある。

ココア及び加工品の90%は海外に輸出されるが、ココアは完全な輸出商品であり、国内市場の価格が国内価格を支配し、生産者の収益決定の鍵となる。

1986年12月、世界的な生産増加による供給過剰に呈し、需給差に際して供給量が4万トンに減少し、在庫が2115トン、国内価格が減少傾向を呈している。この間の平均価格は84年の1トンあたり2,322ドル、85年2,096ドル、86年11月7日の統計で2,044ドルと前年比で1.5%下落している。

ココアの完全自由化は、同様に世界の生産国、消費国、及び国際ココア協会の形成により、世界最大の消費国米国が加入を拒否しているため、完全に開放している合理的な価格調整が行われ、国内価格低迷の大きな理由の一つである。最近生産増加による

注: 1. このような国際市場の好悪により、今後の収支に可成りの困難を伴うことが予想される。

表 216 ココア及びココアの輸出

年度	ココア (豆)			ココア・バター			ココ-ル		
	1,000トン	100万ドル	US\$/t	1,000トン	100万ドル	US\$/t	1,000トン	100万ドル	US\$/t
1976	125.3	218.8	1,698	21.7	70.0	3,220	19.3	42.1	2,184
77	107.6	435.5	4,046	19.3	26.8	5,012	37.0	166.1	4,491
78	134.1	453.8	3,385	19.1	83.0	4,343	97.8	194.4	4,066
79	156.9	486.9	3,102	21.2	119.3	5,637	67.6	270.7	4,077
80	123.6	219.7	2,360	30.5	158.2	5,194	68.1	219.3	3,221
81	125.2	241.6	1,929	29.0	144.9	4,991	72.5	194.9	2,688
82	143.5	216.0	1,505	30.5	120.4	3,952	46.5	79.6	2,179
83	152.8	283.8	1,857	32.1	128.5	4,004	52.3	118.6	2,269
84	107.2	148.9	2,322	35.8	167.8	4,687	66.8	172.5	2,595
85	122.2	360.6	2,944	42.8	203.4	4,752	68.6	189.8	2,635
86	127.1	259.6	2,042	39.8	181.2	4,578	51.0	125.4	2,459

出所: CACEX * 86年1-11月実績

表 217 ココア(豆)輸出実績 1985年

輸出先国	数量 (1000t)	金額 (100万ドル)
ソ連	49.5	103.6
米 国	33.1	68.4
オランダ	18.6	38.8
スペイン	17.2	36.0
ポランド	13.4	28.4
ユーゴスラビア	6.2	13.2
西 独	6.1	12.2
ベルギー	5.4	11.5
カナダ	5.0	10.3
ハンガリー	4.6	10.0
その他	13.1	28.2
計	172.2	360.6

出所: CACEX

18 01 01 00

表 218 ココア・ココ-ル輸出実績 1985年

輸出先国	数量 (1000t)	金額 (100万ドル)
ソ連	35.3	92.5
米 国	21.8	56.7
アルゼンチン	3.9	11.2
ポ 蘭	2.0	5.4
ブラジル	1.3	3.4
ポランド	0.7	2.0
オランダ	0.7	2.0
日 本	0.7	1.9
オーストラリア	0.6	1.9
その他	1.6	3.8
計	68.6	180.8

出所: CACEX

18.03 01.00

表 219 ココアバター輸出実績 1985年

輸出先国	数量 (1000t)	金額 (100万ドル)
米 国	24.9	117.6
オランダ	6.8	32.9
ソ連	4.1	19.3
日 本	2.8	13.4
カナダ	1.1	5.2
ハンガリー	0.8	4.3
ユーゴスラビア	0.6	2.9
ベルギー	0.5	2.3
その他	1.2	5.5
計	42.8	203.4

出所: CACEX

18 04 00.00

3.4.3 ヒメマツ.

表 220 ヒメマツ: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 t/ha
1	パラ	18.2	41.8	2298
2	エスピリト・サント	0.9	2.3	2506
3	パ	0.7	0.5	711
4	マラニニョ	0.2	0.3	1528
5	その他	0.6	0.5	833
合計		20.6	45.4	2197

出所: J.B.G.E.

国内産面、輸出面はアマゾン地域を代表する農作物としての位置に支えられ、全国栽培面積の88%が生産量の92%を占める。生産傾向はここ5年間の栽培面積の増加から下降傾向にある。年によって単収の上下が大きいものの生産量は上下の変動を繰り返している。現在の栽培面積は面積の2万ha、単収 2.2トン/ha、生産量 45千トンである。

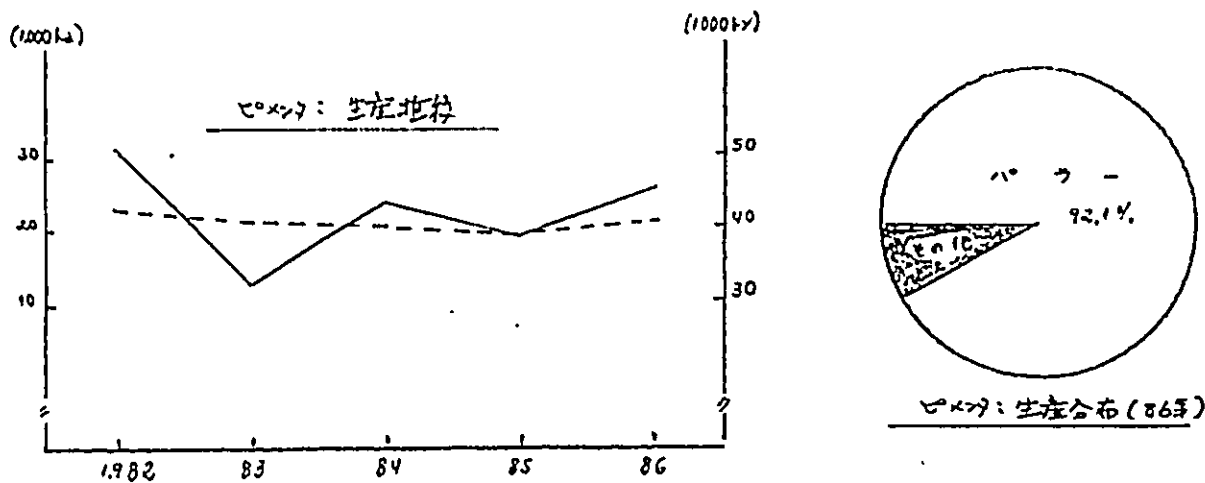


表 221 ヒメマツ: 過去5年間の生産推移

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	パラ	48.0	29.3	40.1	34.8	41.8
2	エスピリト・サント	1.2	1.4	2.1	2.0	2.3
3	パ	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5
4	その他	1.3	1.2	0.8	0.7	0.8
合計		51.1	32.4	43.5	38.0	45.4

面積 1000ha	22.5	20.8	20.2	19.3	20.6
-----------	------	------	------	------	------

表 222 ヒメマツ: 主要産地の単収

州別	1982	1983	1984	1985	1986
パラ	2411	1609	2261	2062	2298
エスピリト・サント	2389	2105	2650	2483	2506
パ	740	769	746	711	711
全国平均	2231	1568	2153	1973	2197

出所: J.B.G.E.

1986年の国際市場は120千トンの需要を有し、生産国の輸土可搬量（生産量と国内消費量を除く）は計116千トンで需要の供給不足となる。しかし、この不足は、国際価格が上昇したため、トナリ US\$ 9,850、白ロウは US\$ 6,700 と高いレベルで維持されている。

84/85年度の世界生産は96.5千トンであったが、85/86年度の116千トンに前年比19.5千トン増加する大型の収穫となった。この生産増加は、インドの増産に起因する。同国の増産は62.5千トンで、世界最大の生産規模を持つ。インドの増産は、世界の増産の約55%に相当する。

85/86年度に於いて、ブラジルの輸土量は当初45千トンの見込みであったが、主要生産地帯における害虫の発生や天候不順により、前年並みの25千トンに引き下げられた。11月31日の統計によれば、輸土量の伸びは2,891トンに達し、1,158トンに飛躍した。この伸びは、前年比39%の上昇で、今期（83.4百万トン）に達している。この輸出全体の輸出枠の少ないアマゾン地域に集中して増産しているものがある。

同じ主要生産国のインドネシアの増産量は、天候上の問題から増産の期待は薄く、その輸土量は21千トン（黒ロウは9千トン、白ロウは12千トン）と推定されている。マレー半島の増産量は5千トンと見られる。

このほか、中国、マダガスカル、スリランカ、タイ、ヌベト、ルワンダ、コンゴの生産国は増加するものの、その生産規模が小さく、輸土量の微々たるものである。また、増加する余地も無い。

これらの輸土国に於いて、世界の主な輸入国は米国、ヨーロッパ諸国（特に西独、フランス、英国及びオランダの割合が大きい）、ソ連等である。中でもソ連は、86年中にインドから16千トンの輸入を行っていると見られる。ソ連の消費は増加傾向にある。この傾向が続き、場合によっては、インドがその買付国として有利な立場を築くことになる。

表223 ロウの輸土推移

年次	量 1,000トン			全 額 100万トン		
	黒ロウ	白ロウ	計	黒ロウ	白ロウ	計
1976	18.6	1.6	20.2	29.2	5.7	34.9
77	16.0	1.7	17.7	33.5	6.0	39.5
78	25.4	4.6	30.0	42.8	12.0	54.8
79	22.0	2.7	24.7	39.5	7.3	46.8
80	26.2	4.6	30.8	42.4	10.6	53.0
81	39.4	6.3	45.7	45.3	11.5	56.8
82	39.4	5.1	44.5	40.4	8.1	48.5
83	26.1	3.9	30.0	28.0	6.3	34.3
84	32.6	3.9	36.5	60.6	12.2	72.8
85	22.5	2.1	24.6	69.3	8.0	77.3
86*	18.8	0.9	19.7	77.5	5.9	83.4

出所: CACEX

* 86年11月までのデータ

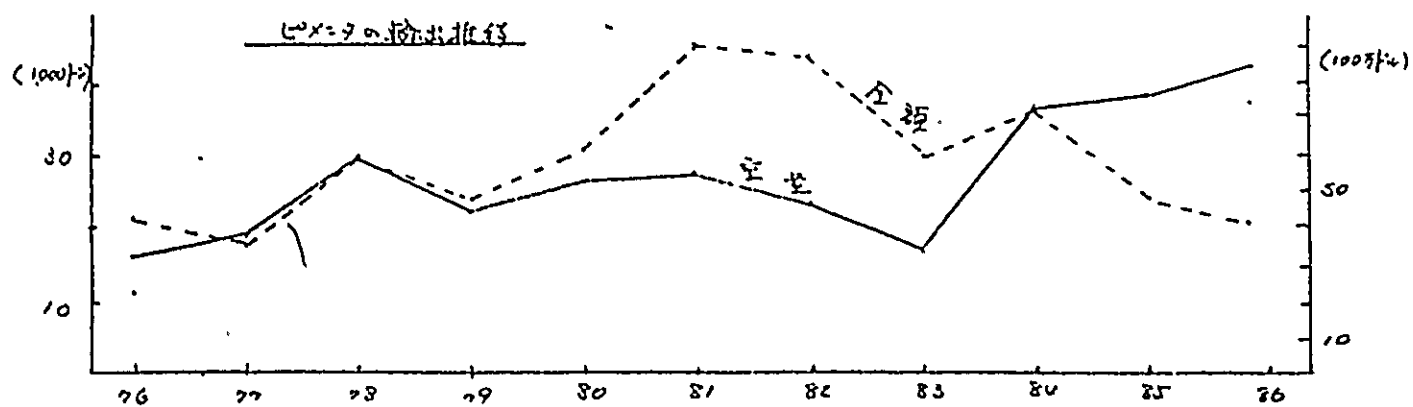


表 224 ビメタ(黒)輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000トン	価額 100百万円
米 国	10.3	30.6
フランス	2.7	9.0
イタリア	1.8	6.2
西 独	1.7	5.1
ソ 連	1.2	4.5
米 独	1.7	4.3
メキシコ	0.6	2.1
ベル -	0.4	1.4
モロッコ	0.6	1.3
その他	1.5	4.8
計	22.5	69.3

出所: CACEX

表 225 ビメタ(白)輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000トン	価額 100百万円
アルゼンチン	0.5	2.1
西 独	0.5	1.9
フランス	0.5	1.6
イタリア	0.2	0.7
米 国	0.1	0.5
米 国	0.1	0.5
スペイン	0.1	0.1
その他	0.1	0.6
計	2.1	8.0

出所: CACEX

99.04.01 02

3.5 果実

3.5.1 オレンジ

1) 生産

表 3.5.6

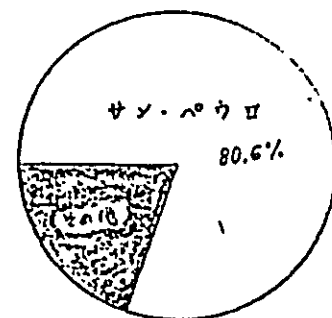
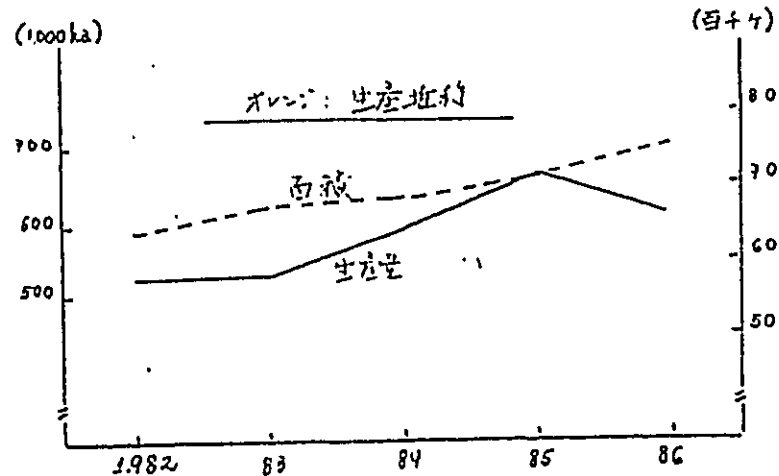
オレンジ: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000ty	単収 kg/ha
1	サン・パウロ	541.8	53707.1	99.117
2	セーラ・ペ	29.0	3116.0	107.461
3	ミナス・ジェライス	36.1	2299.3	63.705
4	パラナ	31.9	1949.1	61.118
5	リオ・グランデ・ド・スル	21.1	1736.7	82.431
6	バヤ	16.5	1290.1	78.000
7	パラナ	4.3	344.7	79.123
8	マツロ	2.7	294.4	109.930
9	ゴイアス	2.7	203.2	75.821
10	サンタ・カタリーナ	2.7	202.6	74.260
11	ピオ	1.3	174.5	132.998
12	ペルナンブーコ	2.9	171.9	59.479
13	マト・グロソ・ド・スル	2.4	167.9	70.210
14	エスピリト・サント	2.0	161.2	81.717
15	その他	9.7	788.7	81.309
合計		707.1	66,607.4	94.192

出所: IBGE.

86年度のオレンジ生産は主要産地の中、サンパウロを除く前年並みあるいは前年を上回る収穫であった。国内産の80%を占めるサンパウロの収穫は前年比6.8%増加、全体の生産量は前年比6.2%の結果であった。全国生産減少の原因となっているサンパウロのオレンジ生産は、収穫量が85年の106万本より110万本へ増加したにもかかわらず85年末に暴落した長期乾燥によって大きく被害を受け、単収を落としたため生産量を減らした。同州のオレンジ生産量は、1985年が125万本、1986年は133万本に達した。

産地の60%は工業用で、40%が消費とされている。オレンジ原料とするジュースの産地はサンパウロ州内の4工場(SUCOCITRILCO CULTURAL S.A., CITRUSULCO PAULISTA S.A., CARGIL INDUSTRIAL DO FRUTO S.P.)によって行われ、2年以内50万トン前後の量を消費している。



オレンジ: 生産割合(86年)

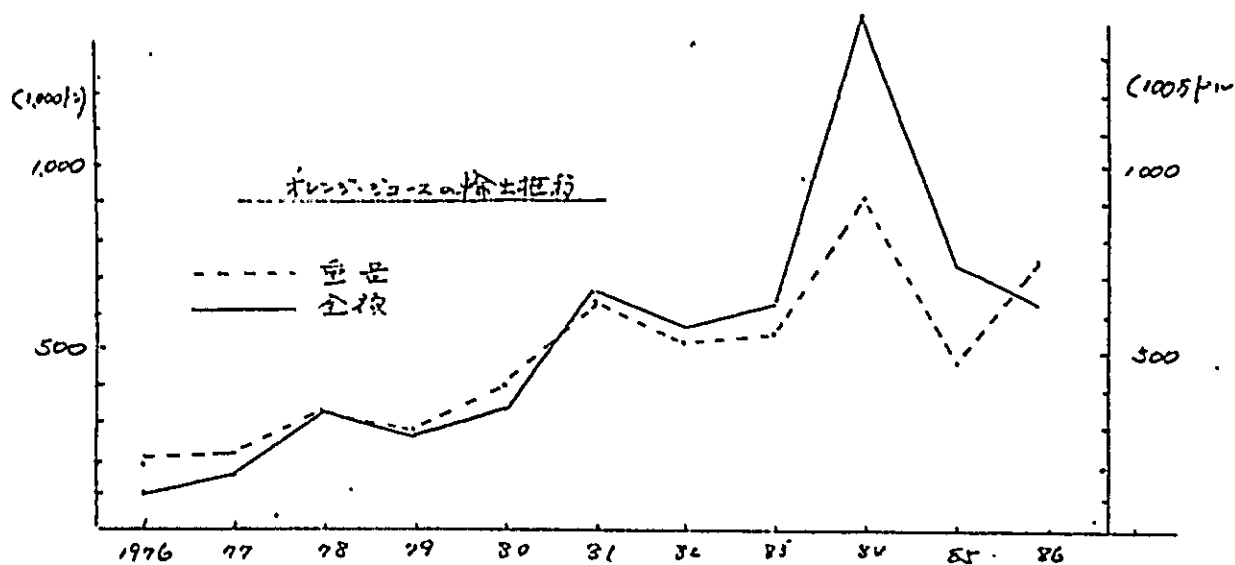
再考す、米国の生産比率と需量のバランスが十分でないが、南米の移動してあるや、生産は従前の水準に
 復旧する態勢にある。しかし、米国の生産比率、強い圧力があり、フランスの輸入に制限を課せ
 ることになり、輸入課税全(8.5%)の放棄がフランスの輸出に阻害され、多くの問題が生じている。又
 世界貿易機構の追加の関税削減は、1,000ドルに達しており、フランスの輸出に大きな影響を及ぼ
 している。この影響は、フランスの輸出に、84年と85年と、前年並みの輸出
 価格が維持されたものの輸出量が半減し、又86年には輸出量は、復旧したものの輸出単価が半減
 した。また、752万トン及び622万トン(概算)に落ちている。

米国の輸入の輸出は、国産の需要、特に、最近のヨーロッパの輸出の減少に復旧し
 ている。このため、フランスの生産国、イギリス、EC国で、フランスの輸出の課税全放棄は、
 1984年のため、米国の輸入を計画している。フランス政府は、この影響を、米国の輸入に及ぼ
 している。日本市場への輸出は、連続的な増大を期待している。

表 229 フランスのオレンジの輸出の推移

年次	生産 (1,000ト)	全額 (100万フラン)	輸出単価 F/ト
1976	209.8	100.9	1,023
77	213.5	177.0	829
78	338.4	332.6	983
79	292.2	281.4	963
80	401.0	338.7	845
81	639.1	659.2	1,031
82	521.1	573.4	1,100
83	553.1	608.0	1,099
84	904.8	1,444.5	1,563
85	484.8	748.9	1,545
86	742.2	624.3	841

出所: CACG 注: 1986年



ハ) 国内市場及び価格

輸出用濃縮オレンジ原料としてのオレンジ

1985年10月19日の6工場による買入価格の平均値は、その買入価格の平均値と生産者側の平均値の差を考慮して決定された。買入価格は40.8158を1箱を単位として定めた。価格の算定は、エス・エフ・取引市場の過去12ヶ月間の平均価格を基準として、24工場と生産コストを基に決定された。現物の3) 濃縮オレンジの3分の1、残りの3分の2は10月1月及び4月の3国に合計して支払う方法がとられていた。この価格決定の仕組みの両者の相違は、各

お点の算定が異なること、尚年々解決せず、政府の干渉を受けることが多く、86年の場合の工場側の1箱当りの買入価格と生産者側の買入価格との差は、協定線を見ても分かるように、連邦政府の仲介による解決は困難であった。

34年に国際価格の高騰に伴い、国内の相場指数は大幅に上昇したが、生産者受取価格も85年11月同様に物価指数の変動中、下回る価格推移をみられた。86年に入ると国際価格は800ドルに割って、これに反して後半に転じて下落する傾向をみせた。サンパウロにおける生産者受取価格の平均の月別価格を1月が37.12/箱、12月が39.15/箱と1年間の平均を比較すると、2010年のインフレ率を考慮すると、実質的な下落傾向が明らかである。

表230 オレンジ濃縮ジュース輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1,000kg	金額 100万R\$
米国	286.5	436.6
オランダ	78.9	118.4
カナダ	42.4	72.0
チリ	21.9	34.3
日本	12.5	20.7
西独	9.0	14.6
英国	6.1	10.5
イスラエル	5.4	9.3
スウェーデン	3.3	5.2
オーストリア	3.1	3.6
メキシコ	2.2	3.5
バハマス	2.6	3.2
トリニダード	1.2	2.5
ノルウェー	1.3	2.1
スเปน	1.2	2.0
フィンランド	1.2	2.0
アルゼンチン	1.0	1.8
ニュージーランド	1.4	1.6
その他	3.6	5.0
計	484.8	748.9

出所: CACEX

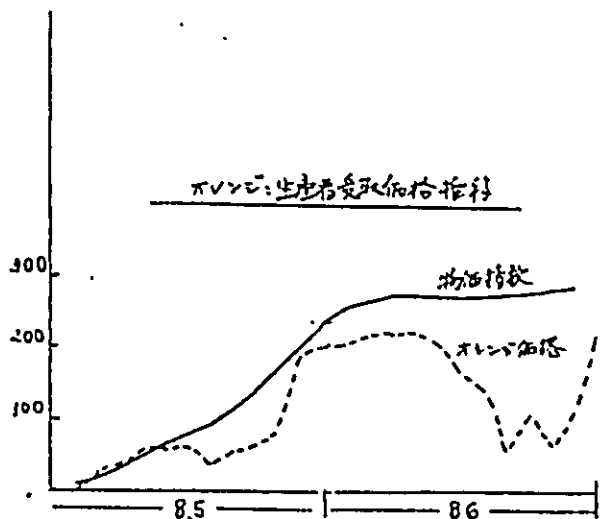
2007.01.05

表231 オレンジ生産者受取価格

月別	1985	1986
1	12.43	37.12
2	15.88	38.85
3	17.20	38.97
4	19.28	39.29
5	18.94	37.04
6	19.24	37.72
7	16.90	29.73
8	18.95	19.16
9	19.83	25.42
10	22.53	20.84
11	25.21	26.19
12	27.05	39.15

出所: I.F.R.

サンパウロ



2) 生産コスト

サンパソ州栽培の、液肥活用等による変動は、サンパソ州におよびオレンジの生産コスト 86/87 年度
与り、表 232 の通りである。

表 232 オレンジ: 生産コスト 1987/88 年 1ha 当たり 200 本

項目	所要口数	単価	金額 czt
A) 作業コスト			
1) 労 働 力	29.01	41.60	1206.82
2) トラック・運搬料	4.50	57.50	258.75
3) 1 輪トラクター	4.50	338.47	1523.12
4) 利 起	0.50	31.34	15.67
5) 研 土	0.71	56.40	40.04
6) 防 除	0.75	150.78	113.09
7) 運 搬	0.94	36.27	34.09
8) ,	1.60	32.96	52.74
小 計			3,244.31
B) 肥料コスト			
	(数量)		
1) 面	220.00 U	10.00 /U	2200.00
2) 肥料 追肥	0.08 T	1,973.25 /T	157.86
3) 追肥用 肥料	0.08 T	2,259.74 /T	180.78
4) 石 灰	2.00 T	320.00 /T	640.00
5) 硫 黄	1.80 kg	16.89 /kg	30.40
6) ---	0.60 L	62.75 /L	37.65
7) ---	0.60 L	192.48 /L	115.49
8) 殺虫剤	0.50 L	152.78 /L	76.39
9) 殺菌剤	0.60 L	23.26 /L	13.96
10) スプレー油	2.00 L	10.50 /L	21.00
11) 殺虫剤	3.00 kg	9.38 /kg	28.14
小 計			5,504.67
果 計			6745.98
C) 内掛コスト			
1) 肥料 肥料費			602.05
2) 銀行利息			539.68
合 計			7,887.71

出所: J.E.H.

サンパソ州

表 233 オレンジ: 生産コスト 1988/89 年 1ha 200 本

項目	所要口数	単価	金額 czt
A) 作業コスト			
1) 労 働 力	23.18	41.60	964.09
2) トラック・運搬料	2.34	57.50	134.55
3) 1 輪トラクター	2.34	338.47	792.02
4) 運 搬	0.31	36.27	11.24
5) 防 除	1.50	150.78	226.17
6) 研 土	0.44	56.40	24.82
7) ローター・カッター	0.09	34.45	3.10
小 計			2072.99
B) 肥料コスト			
	(数量)		
1) 追肥用 肥料	0.20 T	2425.66 /T	485.13

2) 殺菌剤	0.70 kg	41.43/kg	29.00
3) " 殺菌剤	3.60 kg	16.89/kg	60.80
4) 殺菌剤	2.40 L	62.75/L	150.60
5) " " "	1.20 L	192.48/L	230.98
6) 殺菌剤	1.00 L	152.78/L	152.78
7) 殺菌剤	1.20 L	23.26/L	27.91
8) スプレー油	2.00 L	10.50/L	21.00
9) 殺菌剤	3.00 kg	9.38/kg	28.14
小計			1186.34
果計			3259.33
9) 商標コスト			
1) 取扱手数料			448.70
2) 銀行利息			260.75
合計			3968.78

出所: IEA

サンパネール

表 274

テレビ: 50cm 2/17 1/12.200本 500箱

項目	所要日数	単価	金額 (円)
9) 作業コスト			
1) 労働	38.46	41.60	1599.94
2) トラクター運転手	5.24	57.50	301.30
3) 4輪トラクター	5.24	338.47	1773.58
4) 油	0.44	56.40	24.82
5) ローター・カッター	0.18	34.45	6.20
6) 運搬	1.62	36.27	58.76
7) 防除	3.00	150.78	452.34
小計			4216.93
9) 販売コスト			
1) 配合肥料(19-10-19)	0.50 T	2917.42/T	1458.71
2) 石灰	1.00 T	320.00/T	320.00
3) 殺菌剤	2.40 kg	41.43/kg	99.43
4) 殺菌剤	8.00 L	62.75/L	502.00
5) " " "	4.00 L	192.48/L	769.92
6) 殺菌剤	4.00 kg	34.20/kg	136.80
7) 殺菌剤	4.00 L	23.26/L	93.04
8) 微量要素(24.00, 1.00)	20.00 L	10.80/L	216.00
9) スプレー油	6.00 L	10.50/L	63.00
10) ハエ駆除剤	8.00 L	45.26/L	362.08
11) 殺菌剤	3.00 kg	9.38/kg	28.14
小計			4049.12
果計			8266.05
9) 商標コスト			
1) 取扱手数料			749.68
2) テレビ: 園使料			1085.55
3) 銀行利息			661.28
合計			10962.56

出所: J.E.A.

サンパネール

3.5.2 バナナ

表 235 バナナ：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	バ イ ア	57.5	79.2	1378
2	サ ヨ . ハ ウ ロ	39.5	66.3	1676
3	サ ヨ . カ リー ト	25.7	38.4	1495
4	ミ ナ ス . ヴ ェ ラ イ ス	36.8	37.7	1026
5	バ . テ . ジ ャ ー ト	33.6	35.2	1050
6	コ . ヌ . ス	35.1	31.2	890
7	セ . ア . ラ	23.2	20.6	890
8	その他	168.4	185.6	1102
合 計		429.8	504.2	1173

出所：I.B.G.E.

表 236 バナナ：過去5年間の生産推移 1000t

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	バ イ ア	75.2	76.3	74.1	74.4	79.2
2	サ ヨ . ハ ウ ロ	40.7	39.1	46.9	47.8	66.3
3	セ . ア . ラ	41.0	27.5	45.0	42.1	30.6
4	ロ ヌ ト ニ ア	24.3	28.5	18.6	40.7	17.4
5	その他	273.8	270.7	285.3	236.0	310.7
合 計		455.0	441.1	469.9	441.0	504.2

面積 1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
	395.4	401.7	395.7	441.0	429.8

表 237 バナナ：主要生産地の単収 kg/ha

州別	1982	1983	1984	1985	1986
バ イ ア	1388	1384	1380	1378	1378
サ ヨ . ハ ウ ロ	1027	986	1405	1128	1676
セ . ア . ラ	1375	925	1566	1436	920
ロ ヌ ト ニ ア	897	898	898	900	896
全 国 平 均	1150	1098	1188	1135	1173

出所：I.B.G.E.

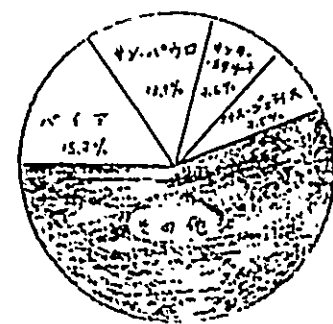
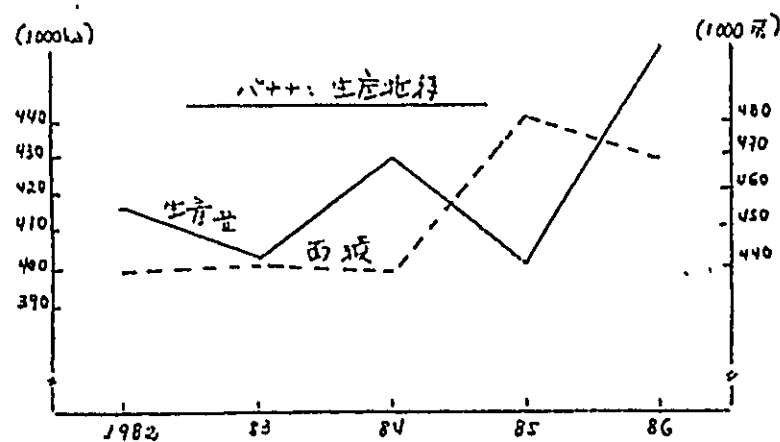


表238 パナマの輸出入推定

年度	重量 1000ト	金額 100万ト
1980	67.3	11.2
81	66.7	12.7
82	59.2	10.5
83	89.4	10.7
84	103.2	16.5
85	105.3	16.6

出所: CACEX

08.01.02.01

表239 パナマ: 1985年の輸出入実績

輸出品目	重量 1000ト	金額 100万ト
バナナ	78.0	12.8
バナナ皮	27.2	3.8
その他	0.1	0.1
計	105.3	16.7

出所: CACEX

08.01.02.01

表240 パナマ: 価格推移指数 C24

月別	1985	1986
1	1.18	19.97
2	4.97	18.20
3	3.57	21.59
4	3.88	22.80
5	3.83	24.89
6	3.13	23.79
7	3.61	22.38
8	5.19	20.14
9	11.52	28.65
10	18.85	38.13
11	21.05	39.12
12	21.91	31.31

出所: I.E.H.

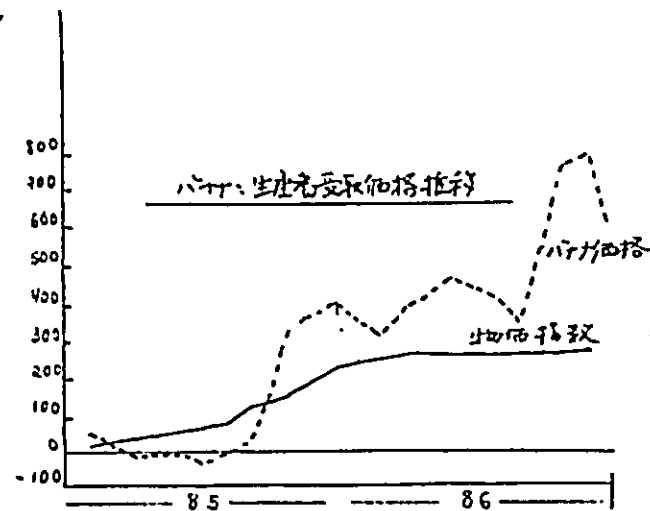


表241

バナナ: 生産コスト 36/37 1/2kg 2,200本 生産 30T

項目	消費日数	平均	金額 C24
a) 作業コスト			
1) 労 働 力	71.67	37.10	2,658.96
2) トラクター燃料	5.12	64.30	329.22
3) トラクター	4.87	338.47	1,648.35
4) 運 搬	2.61	36.27	94.66
5) 防 雨	2.00	29.30	58.60
6) トリッパメント	0.13	46.85	6.09
7) トレーラー	0.25	367.23	91.81
8) 運 搬			290.00
小計			6,177.68
b) 肥料コスト			
1) 石灰肥料 (5-7-28)	220 T	2780.54/T	6,117.18
2) マグネシウム	225.00 L	8.42/L	1894.50
3) 硫酸肥料	66.00 kg	228.65/kg	15,084.30
4) 石灰	70.00 02	10.30/02	721.00
5) 硫酸肥料	11.00 L	84.29/L	927.29
小計			24,744.67
			29,922.35
c) 収穫コスト			
1) 収穫機燃料費			559.46
2) 収穫機油費			2793.26
合計			33,280.01

出所: I.E.H.

計算: 36/37 1/2kg 2,200本 生産 30T

表 242 パナマ生産コスト 3687. 1ha当り112,000kg 生産コスト

項目	生産口当り	単位	全額 csa
ア) 作業コスト			
1) 労力	103.96	37.10	3856.92
2) 肥料	2.53	48.69	123.19
小計			3980.10
イ) 管理コスト			
1) 組合費料(15.7-28)	220 T	2780.64/T	612.18
2) スプレ- 油	110.00 L	8.42/L	926.20
3) 石灰 100 kg	11.00 kg	228.55/kg	2514.05
4) 竹	1000 DC	10.30/DC	721.00
小計			10278.43
累計			14268.53
ロ) 南米コスト			
1) 銀行利息			1230.80
合計			15589.33

出所: I.B.G.E.

サンパソ-1 リトル地方

3.5.3 ぶどう

表 243 ぶどう: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 t/ha
1	リオ・グランデ・ノルテ	39.8	392.8	9.863
2	サン・パウロ	8.9	96.9	10.870
3	サンタ・カタリーナ	5.8	65.1	11.204
4	パラナ	2.2	21.9	7833
5	その他	1.8	13.1	2278
合計		58.5	589.8	10.085

出所: I.B.G.E.

83年と85年に比べて生産量が増加してきてぶどうの栽培が85年と長期乾燥の被害を受けて85年には早収と遅い収と生産量の両方で前年より18%落ちこんでしまった。中でももっとも被害が大きかったのはリオ・グランデ・ノルテで栽培面積が前年の39.2千haよりも増えて39.8千haにありながら生産量は前年の502千tに落ち、393千tという落ち込みであり、これは全国生産に大きく影響した。及び、86年の収穫の割合の占有率も前年よりも落ち込んでしまった。

これによって生産量のサンパソ州の割合も当初は前年と大巾に上回った生産の期待がたてられていたが、結果的に前年と下回った早収による生産量の落ち込み。州内のぶどう栽培地帯はジュンパイ(JUNPAI)地方に集中し、リオ・グランデ・ノルテ産のぶどうは酒造用にしか用いられ、ジュンパイ地方の産物は食卓用として出荷される(その98%が「アグア種」)。このため、サンパソ州内のぶどう畑には酒造用のリオ・グランデ・ノルテ産ぶどうが購入されている。

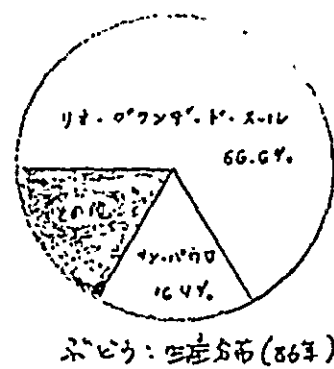
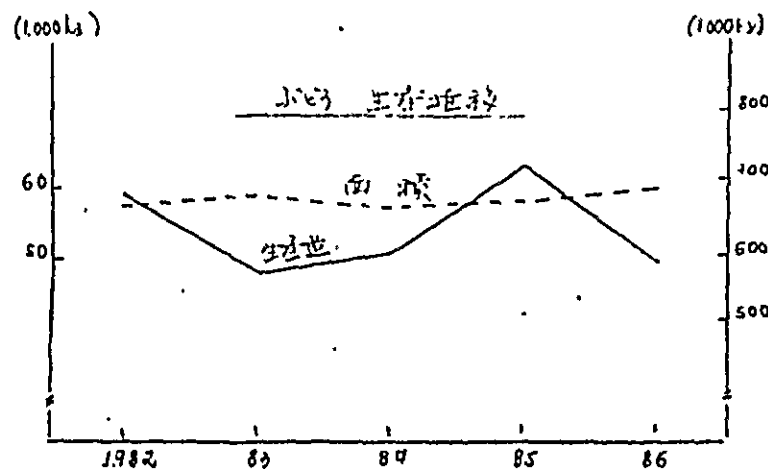


表 200 ふじや: 過去5年間の物価推移 (1000k)

順位	品名	1982	1983	1984	1985	1986
1	リチウム・ニッケル・コバルト・スズ	430.0	347.5	390.2	502.3	372.8
2	サリン・ハロゲン	149.0	141.5	110.6	101.1	96.7
3	サリン・カダリート	80.5	55.0	72.5	78.8	66.1
4	ハロゲン	19.2	19.5	19.7	21.6	21.9
5	ハロゲン	9.8	11.0	10.4	14.4	13.1
合計		688.5	574.5	603.4	718.1	589.8

表 245 ふじや: 主要生産物の平均 (kg/ha)

品名	1982	1983	1984	1985	1986
リチウム・ニッケル・コバルト・スズ	11.116	8.765	10.102	12.812	9.663
サリン・ハロゲン	14.487	15.386	12.426	11.666	10.870
サリン・カダリート	15.852	10.371	12.881	13.862	11.204
ハロゲン	8.734	8.545	8.984	9.637	7.833
全平均	11.965	9.895	10.602	12.434	10.085

出所: I.B.G.E.

ふじや市場は例年夏期に値引され、秋先戦に受向
にあり、夏場のふじや市場の値引は、例年より遅く、
86年11月の最中に毎月安値を記録し、物価の下落が行
なされた。この値引は、例年より遅く、秋先の値引に
予想される収量の低下を招いた。このため3月には、原料の
保の低価格の原料を買い取り、行方不明の原料
に大きな影響を与えた。

小売価格の調整は6月をピークに行われ、市場
価格に近づき、秋先の値引は、例年より遅く、

表 246 ふじや: 月別収量 (kg/ha)

月別	1985	1986
1	16.08	45.00
2	11.89	56.44
3	14.07	55.84
4	21.27	74.49
5	33.88	84.76
6	—	—
7	—	—
8	50.73	—
9	64.80	188.79
10	105.70	207.48
11	114.77	242.48
12	53.67	224.04

出所: J.E.H.

表 247

ふじの生産コスト 26/87年 7月 5,400円/ha

項目	所定日数	単価	金額 円
1) 作業コスト			
1) 労力	152.75	43.70	6,683.91
2) トラクター運転手	14.68	70.50	1,034.94
3) トラクター	14.68	338.47	4,968.74
4) 耕 耘	1.22	31.34	38.23
5) 耕 耘	0.61	56.40	34.40
6) 耕 耘	12.85	48.30	620.65
7) 耕 耘	2.25	2.65	5.96
小計			13,386.84
2) 肥料コスト			
1) 面 積	4,000.01 U	15.00/U	60,000.14
2) 枕	5,400.00 U	0.20/U	1,080.00
3) 有機肥料(堆肥)	16.30 T	400.00/T	6,519.99
4) (骨粉)	2.00 T	2285.00/T	4,570.00
5) 石灰	250 T	190.00/T	47,500.00
6) 殺菌剤	10.00 kg	44.06/kg	440.60
7) 殺虫剤	2.00 L	135.49/L	270.98
8) 殺菌剤	0.50 L	23.26/L	11.63
小計			73,368.35
果実			86,755.19
3) 削減コスト			
1) 機械使用費			2,075.19
2) 銀行利息			6,940.39
合計			95,770.75

出所: I.E.H.

リビエール エンジン社

表 248

ふじの生産コスト 26/87年 7月 5,400円/ha

項目	所定日数	単価	金額 円
1) 作業コスト			
1) 労力	282.50	43.70	12,345.25
2) トラクター運転手	8.50	70.50	599.25
3) マシン・トラクター	8.50	73.19	622.12
4) 耕 耘	13.00	2.65	34.45
5) 水灌漑設備			1,156.00
小計			14,757.06
2) 肥料コスト			
1) マシン	136.00 kg	11.00/kg	1,496.00
2) MOURUC	53.00 U	36.60/U	1,939.80
3) 骨粉	213.00 U	19.40/U	4,132.20
4) 石灰	250 T	5.00/T	1,250.00
5) 石灰	250 T	260.00/T	65,000.00
6) 混合肥料(10-10-10)	1.00 T	2425.66/T	2,425.66
7) 有機肥料(骨粉)	2.00 T	2285.00/T	4,570.00
8) 殺菌剤	30.00 kg	44.06/kg	1,321.80
9) 殺虫剤	550 L	135.49/L	74,519.50
10) 殺菌剤	150 L	23.26/L	3,489.00
小計			178,215.54
果実			32,972.60
3) 削減コスト			
1) 機械使用費			300.36
2) 銀行利息			2,637.81
合計			35,910.75

出所: I.E.H.

リビエール エンジン社

3.5.4 パイン・アノナル

表 249 パイン・アノナル 生産5年以内の生産額 1000t

年度	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	パライーバ	161.0	206.8	255.2	343.1	369.8
2	ミナス・ジェライス	125.2	167.2	182.4	229.3	261.1
3	サント・パウロ	28.6	27.1	36.7	35.5	35.6
4	バイーア	19.3	19.3	30.6	29.2	43.5
5	エスピリト・サント	18.8	25.3	36.7	26.6	21.8
6	その他	77.8	85.6	99.4	99.0	106.8
合計		445.7	551.3	641.0	762.7	838.6

面積	1,000ha.	26.4	30.5	32.2	36.6	29.8
----	----------	------	------	------	------	------

表 250 パイン・アノナル: 生産5年以上の生産額 1000t

州別	1982	1983	1984	1985	1986
パライーバ	21,955	22,720	26,567	25,892	26,567
ミナス・ジェライス	15,779	17,171	17,484	19,094	19,267
サント・パウロ	21,870	22,073	20,283	24,163	22,918
バイーア	12,332	12,305	11,496	11,637	13,600
エスピリト・サント	33,187	26,327	30,040	28,097	26,646
全国平均	16,902	18,086	19,881	20,851	21,057

出所: I.B.G.E.

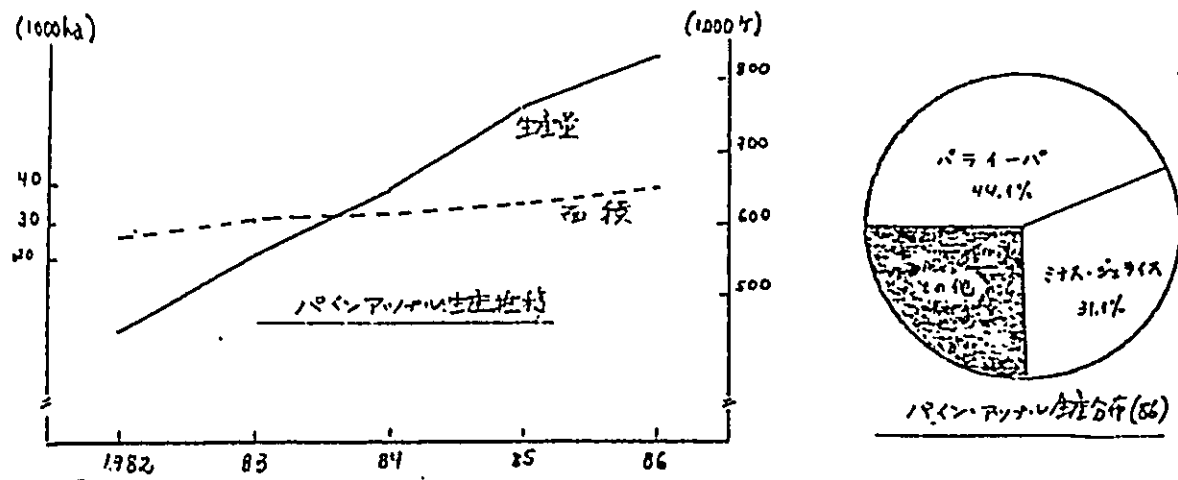


表 251 パイン・アノナル: 生産5年以上の生産額 1000t

月別	1985	1986
1	102.64	384.11
2	126.94	478.73
3	145.73	564.02
4	157.05	627.04
5	165.02	624.84
6	151.42	589.74
7	166.16	491.31
8	176.22	378.46
9	183.60	476.00
10	202.17	379.00
11	261.00	403.62
12	311.27	458.16

出所: I.B.G.E.

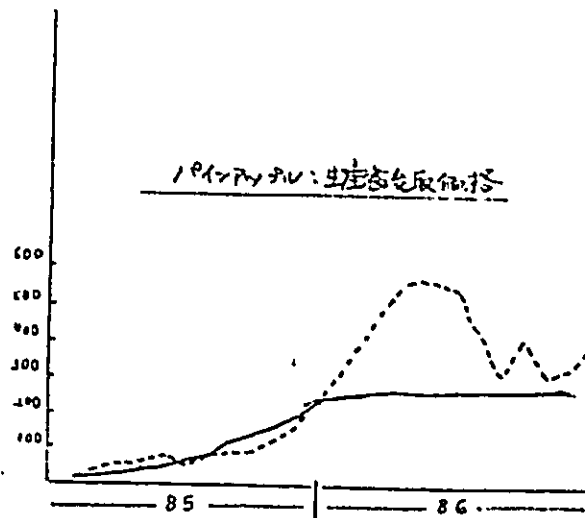


表 252

パイナップル：生座コスト 1.7月 26/87

項目	所要日数	単価	合計 円
A) 作業コスト			
1) 労 力	26.03	38.90	1,012.57
2) トラック運搬費	5.23	56.00	292.88
3) トラクタ運搬	5.23	338.47	1,770.20
4) 耕 起	1.03	31.34	32.28
5) 耕 土	0.50	56.40	28.20
6) 機械中耕	3.20	11.19	35.81
7) 防 除	0.50	55.13	27.57
小計			3,199.50
B) 肥料コスト	(参考)		
1) 炭 酸	15,000.00 U	0.10/U	1,500.00
2) 殺虫剤	1.00 L	67.03/L	67.03
3) 消毒剤	0.41 kg	71.70/kg	29.40
4) 混合肥料(10-10-10)	2.00 T	2,425.66/T	4,851.32
5) 除草剤	5.79 kg	114.92/kg	665.39
小計			7,113.13
果 荷			10,812.63
C) 売場コスト			
1) 取扱賃金等			559.44
2) 銀行利息			825.04
合 計			11,697.07

出所: I.E.H.

サニタリー バブル-SE

表 253

パイナップル：生座コスト 1.7月 26/87

項目	所要日数	単価	合計 円
A) 作業コスト			
1) 労 力	44.22	38.90	1,720.16
2) トラック運搬費	7.63	56.00	427.28
3) トラクタ運搬	7.63	338.47	2,582.53
4) 防 除	12.07	48.69	587.69
5) 運 搬	3.93	36.27	142.54
6) 機械中耕	3.20	11.19	35.81
小計			5,495.99
B) 肥料コスト			
1) 除 草 剤	5.80 kg	114.92/kg	666.54
2) 殺虫剤	1.65 L	67.03/L	110.60
3) 混合肥料(10-10-10)	2.00 T	2,425.66/T	4,851.32
4) 新 腐 敗	100.00 kg	1.50/kg	150.00
5) ヒ モ	0.83 kg	35.50/kg	29.46
小計			5,807.92
果 荷			11,303.91
C) 売場コスト			
1) 取扱賃金等			866.67
2) 銀行利息			904.31
合 計			13,074.89

出所: I.E.H.

サニタリー バブル-SE

3.6 野菜類

3.6.1 トマト

表 254 トマト: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	サッ・ハ・ウロ	18.0	723.1	40226
2	ベ・ル・ヤ・フ・コ	10.2	310.5	30413
3	バ・イ・ア	4.7	164.6	35000
4	ミ・ス・ジ・ラ・イス	4.1	158.7	39004
5	リ・オ・チ・ジ・ネ・イ・ロ	2.4	120.7	49289
6	ゴ・メ・ス	1.6	63.9	40459
7	エ・ス・リ・ト・サ・ツ・ト	1.1	53.7	47421
8	その他	9.4	243.1	26862
合計		51.5	1838.3	35709

出所: I.B.G.E.

表 255 トマト: 過去5年間の生産推移 (1000t)

順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	サッ・ハ・ウロ	826.0	758.3	780.4	809.5	723.1
2	ベ・ル・ヤ・フ・コ	215.5	99.1	238.1	265.0	310.5
3	バ・イ・ア	95.4	100.2	142.8	183.7	164.6
4	ミ・ス・ジ・ラ・イス	159.4	151.4	169.8	157.8	158.7
5	リ・オ・チ・ジ・ネ・イ・ロ	92.3	112.3	114.0	110.2	120.7
6	その他	348.8	326.7	374.6	405.4	360.7
合計		1737.4	1647.0	1819.7	1931.8	1838.3

面積 1000ha	55.1	48.1	52.2	53.9	51.5
-----------	------	------	------	------	------

表 256 トマト: 主要生産地の単収 (kg/ha)

州別	1982	1983	1984	1985	1986
サッ・ハ・ウロ	35603	36023	38309	41727	40226
ベ・ル・ヤ・フ・コ	24960	23890	31140	38680	30413
バ・イ・ア	27912	26756	29718	33550	35000
ミ・ス・ジ・ラ・イス	36265	36610	39790	37980	39004
リ・オ・チ・ジ・ネ・イ・ロ	38240	42148	47274	44140	49289
全国平均	31531	32126	34860	35843	35709

出所: I.B.G.E.

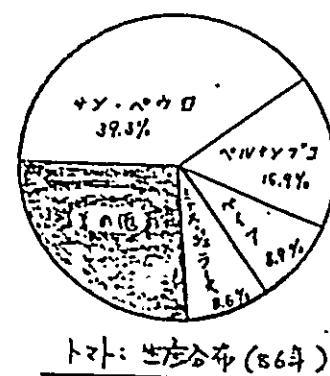
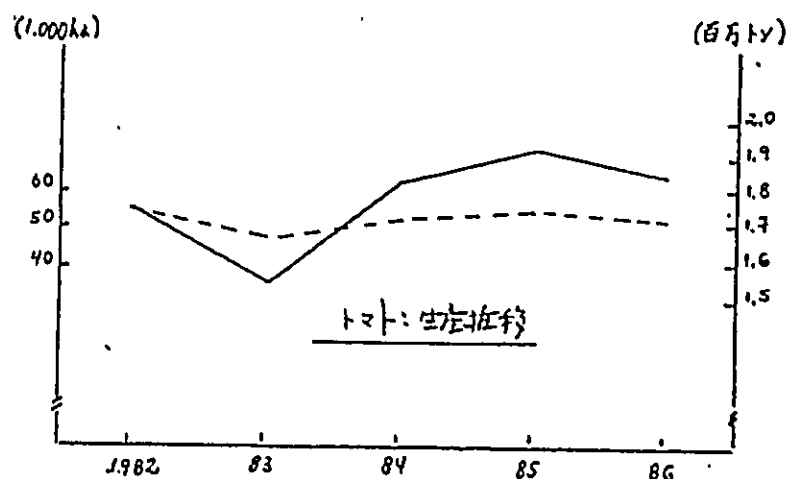


表257 トマト生産費原価 86/87

月別	1985	1986
1	14.43	52.09
2		76.83
3	17.88	116.41
4	10.33	183.49
5	32.16	170.45
6	40.14	136.12
7	37.56	112.83
8	38.98	96.54
9	39.07	102.84
10	36.28	105.96
11	40.69	111.14
12	44.32	129.56

出所: J.E.A.

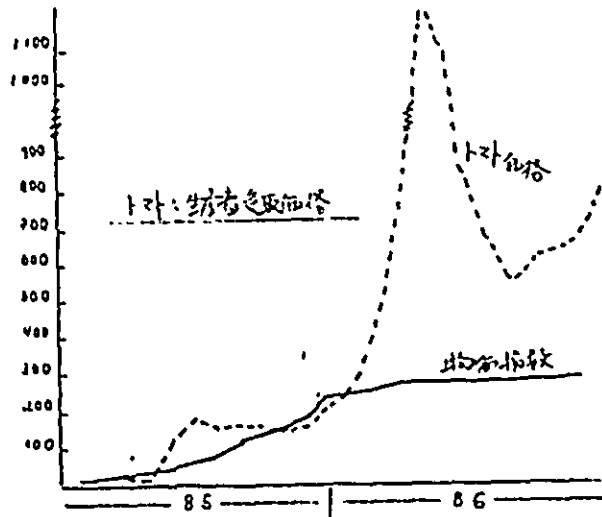


表258

トマト生産コスト 86/87 単位: 2089箱 1ha 14590坪

項目	原価目数	単価	金額 C円
A) 作業コスト			
1) 労 務 費	516.68	41.70	21,545.56
2) トマト 運搬費	8.00	57.50	460.00
3) 4輪トラック	8.00	338.47	2,707.76
4) 耕 起	1.98	31.34	62.05
5) 耕 土	0.86	56.40	48.50
6) 中 耕	0.77	65.29	50.27
7) 防 除	19.70	72.42	1,426.67
8) かき出し	16.29	279.46	4,552.40
9) 畦 立	1.53	1.82	2.78
10) 家 賃	1.53	7.20	11.08
11) 運 搬	4.39	36.27	159.23
小 計			31,029.29
B) 資材コスト			
	(数量)		
1) 粒 子	324.00 G	130/G	42,120
2) 石 灰	4.93 T	240,000/T	1,183,200
3) 配合肥料 (4-14-8)	4.46 T	2,242,477/T	10,001,411
4) " (10-10-10)	2.25 T	2,425,667/T	5,457,733
5) 有機肥料 (鶏糞)	6.97 T	400,000/T	2,788,000
6) 硫酸肥料 (硫酸銨)	52.43 KG	34,200/KG	1,793,000
7) " "	23.65 KG	44,066/KG	1,042,022
8) " "	25.24 KG	232,455/KG	5,867,044
9) " "	2.12 KG	179,144/KG	379,788
10) 殺虫剤	3.76 L	111,381/L	418,799
11) " "	15.16 L	67,031/L	1,016,177
12) " "	7.10 L	125,161/L	888,641
13) 除草剤	3.76 L	37,967/L	142,733
14) 石灰 70	17.17 MT	18,000/MT	309,060
15) ワイヤ	45.00 KG	12,800/KG	576,000
16) プラスチックフィルム	13.64 KG	46,400/KG	632,900
17) 坑	7,045.00 U	0.20/U	1,409,000
18) Moulins	360.00 U	19,400/U	6,984,000
19) 箱 (50個)	2,089.00 Cx	30.00/Cx	62,670.00
小 計			104,060.76
集 計			135,090.04
C) 間接コスト			
1)			5,305.27
2)			5403.59
合 計			145,798.86

出所: J.E.A.

サンパルメーノ ヴロカパセ

3.6.2 ジャガイモ

表 259 ジャガイモ：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	平均収 1/ha
1	サレ・ハウロ	27.7	547.7	19.772
2	ミナス・ジェライス	22.4	509.6	22.750
3	パラナ	40.6	416.6	10.286
4	リオ・グランデ・ド・スール	41.9	188.2	4.492
5	サンタ・カタリーナ	12.4	122.9	9.838
6	その他	10.7	38.6	3.607
	合計	160.7	1833.6	11.410

出所：IBGE.

中央南部地方におよぶ 85/86 栽培の前期収穫は 86 年 1~4 月間に進行した。過去数年間に比較して 11% 以上の減少であった。パラナ州の場合、早い植付期と生育期の不規則な降雨が主原因と見られる。植付面積は前年より 10% 以上増加したが、収量は減少した。生産者の付加価値は減り、前年の栽培面積に達していない。収量は 10.15 t/ha である。

4-8 月間の収穫は、前期収穫は主に中南部の収穫と一致した。86 年 26 年 49.2 t/ha に達し、前年より 2.2 t/ha (4.7%) 増加した。パラナ州 (9.9%)、リオ・グランデ・スール (2.9%)、リオ・グランデ・ド・スール (9.0%) にも増加した。ミナス・ジェライス (-2.7%)、サンタ・カタリーナ (-3.3%) は若干の減少であった。生産量は 540.6 t/ha で前年より 53.5 t/ha 増加した。

前期収穫は：ミナス・ジェライス州とサンタ・カタリーナ州の収穫は、227.8 t/ha の収穫であった。

表 260 ジャガイモ：過去 5 年間の生産推移

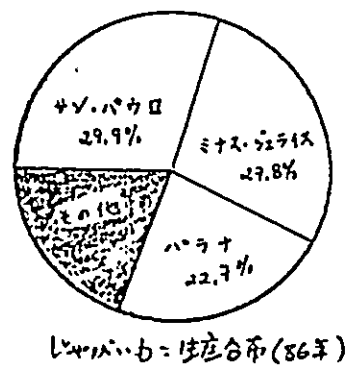
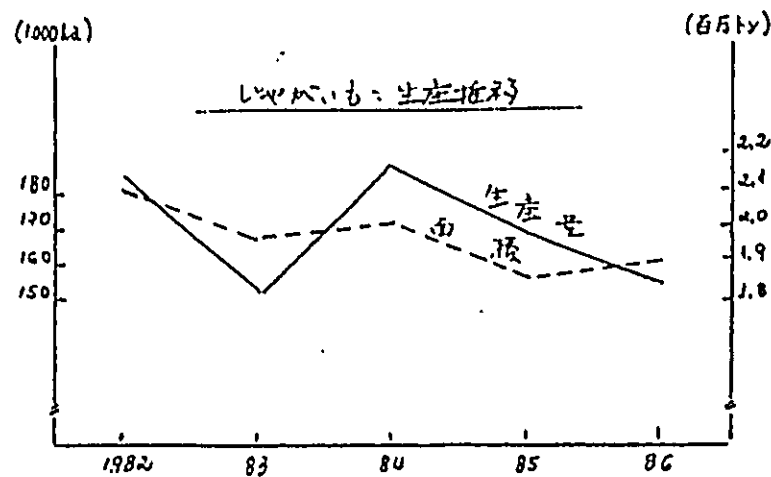
順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	ミナス・ジェライス	542.7	462.1	596.4	539.6	509.6
2	パラナ	598.5	422.9	509.7	497.5	416.6
3	サレ・ハウロ	573.3	528.7	545.2	490.6	547.7
4	リオ・グランデ・ド・スール	245.0	260.1	324.3	264.7	188.2
5	サンタ・カタリーナ	160.8	118.5	160.7	161.9	122.9
6	その他	27.7	26.0	35.7	36.0	38.6
	合計	2148.0	1818.5	2173.0	1989.3	1833.6

面積 1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
	181.9	167.9	172.5	157.4	160.7

表 261 ジャガイモ：主要生産地の平均収

州別	1982	1983	1984	1985	1986
ミナス・ジェライス	16921	16811	18002	17643	22750
パラナ	11862	9396	12453	12760	10286
サレ・ハウロ	17948	17028	18511	18602	19722
リオ・グランデ・ド・スール	5376	5664	6636	6359	4492
サンタ・カタリーナ	8481	7401	9432	9647	7638
全国平均	11809	10833	12594	12641	11410

出所：IBGE.



ジャガイモは、昨年度に比べて、生産量は、前年と比べ、増減なし、455 ha、収穫量は、前年と比べ、減じ、580 ha、で、全体では、前年比、1.3% (300 ha)、増減なし、14.7%、で、気象条件に恵まれた、市場価格、高い水準で推移し、生産者の収益は、高かった。

ジャガイモは、東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州に、生産の中心が、移り、供給不足に由来し、この、85年の、8~9月に、市場価格、高騰した、産地の、一部は、消費地に、販売された、と、みられる。

表 262 ジャガイモ: 生産者受取価格 (単位: 100円/100kg)

月別	1985	1986
1	27.45	108.84
2	30.21	170.03
3	28.23	226.97
4	32.23	290.58
5	29.26	297.74
6	54.36	294.64
7	69.11	319.15
8	113.66	340.46
9	138.53	342.00
10	97.51	366.53
11	87.47	377.04
12	90.42	363.05

出所: JCA

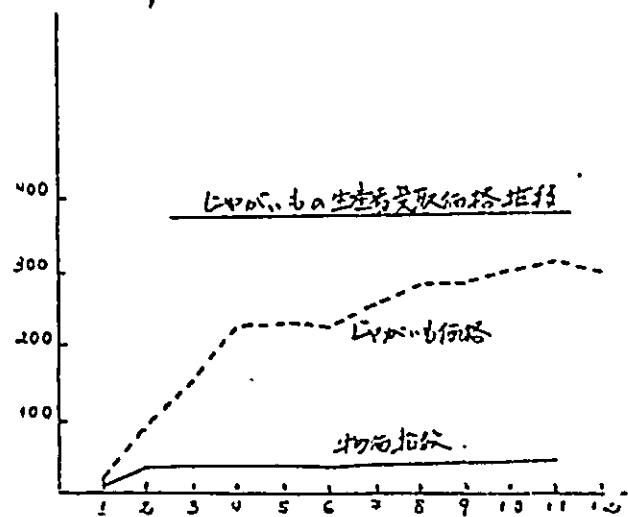


表 263 ジャガイモ: 生産コスト 85/87. 生産 413 億 (60t/ha)

項目	前年度	当年度	金額 (100万円)
1) 労 務 コ ス ト	38.08	41.70	1,587.94
2) トラクター運賃	5.56	57.50	319.70
3) トラクター	5.23	338.47	1,770.20
4) 肥料	0.68	31.34	21.31
5) 資 材	0.41	56.40	23.12
6) 労 務 費	0.18	47.78	8.60
7) 労 務 費	0.39	68.43	26.69
8) 労 務 費	0.39	11.19	4.36
9) 労 務 費	1.46	57.45	83.88

① 逆搬	1.46	32.96	48.12
② 搬取	0.87	65.65	57.12
③ カム	5.75	537.75	3,092.06
④ トリ	1.12	367.23	411.30
⑤ 逆搬	0.06	36.27	2.18
小計			7,456.57
⑥ 肥料コスト			
1) 種子	1860.00 kg	9.35/kg	17,391.00
2) 石灰	207 T	240.00/T	496.80
3) 配合肥料(9-16-08)	4.13 T	2410.30/T	9954.54
4) 除草剤	250 L	136.58/L	34,145
5) "	0.83 L	339.93/L	282.14
6) " 播種前	2.07 L	139.56/L	288.89
7) 殺菌剤	20.66 kg	44.06/kg	910.28
8) "	8.26 kg	232.45/kg	1,920.04
9) "	300 kg	209.66/kg	62,898
⑦ 殺虫剤	750 L	67.03/L	50,272
⑧ "	2.07 L	125.16/L	259.08
⑨ 袋	413,00 U	7.33/U	3,027.29
小計			36,003.20
⑩ 商売コスト			
1) 林務税印原			2,429.14
2) 銀行利息			1738.37
合計			47,627.29

出所: J.E.R.

サンパノ川 トラウバ地方

3.6.3 玉ねぎ

表 264 玉ねぎ: 1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 t/ha
1	サッ・パ・ウ・ロ	15.8	264.3	16759
2	サッ・グ・カ・フリー・ト	16.7	148.4	8906
3	ワ・グ・ラ・ン・チ・ド・ス・ル	17.2	107.6	6250
4	バ・	4.4	47.1	10759
5	ヤ・ル・ナ・ヤ・マ・コ	3.6	42.0	11630
6	バ・	4.6	19.3	4165
7	その他	1.1	6.5	5909
合計		63.4	635.2	10,020

出所: J.B.G.E

前年と比較し、再度天候不順に見舞われ、そのうち、干ばつ(780トン)と大旱(755トン)の生産に陥った。南部地方は特に乾燥の影響が大きい。1/10、フランス・ドイツ・オランダの3ヶ国は、収量が前年と比較して35%低下し、生産量が激減し、全国生産に影響した。同様の干ばつはサン・タール・ナールでも発生し、南部の大半の地域は、おろし乾燥量が前年並みに低下した。東北地方の重宝生産地であるサン・フラン・スコ川中流地帯でも、特に7月、8月、9月の3ヶ月の降雨量による被害がみられた。最大の産地であるサン・パノ川でも、前年と比較して、生産量が伸びず、減った。

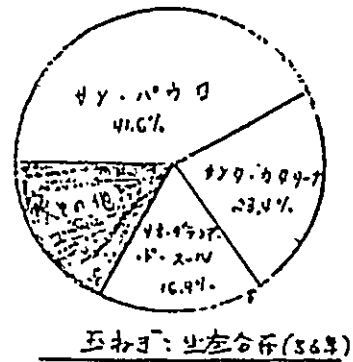
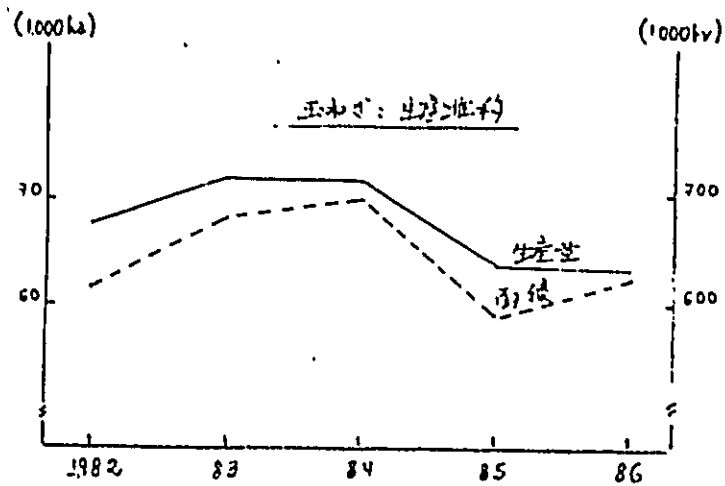


表 265 玉ねぎ: 近5年間の生産推移

順位	州 別	1982	1983	1984	1985	1986
1	サッポロ	253.6	253.9	270.1	236.9	264.3
2	山形県	168.5	167.5	156.0	172.9	107.6
3	青森県	113.6	125.7	111.3	148.1	148.4
4	他	131.5	177.5	181.2	79.1	114.9
合 計		667.2	724.6	718.6	637.0	635.2
面 積		1000ha	62.3	67.2	69.3	67.8
						63.4

表 266 玉ねぎ: 生産単収の年次

州 別	1982	1983	1984	1985	1986
サッポロ	16.799	10.725	16.628	16.462	16.759
山形県	8.555	8.434	6.346	9.512	6.250
青森県	9.983	10.191	9.140	10.288	8.906
全 国 平 均	10.235	10.232	10.375	11.022	10.020

出所: IRIE

南部地区は、減産、価格の上昇と予想され、出荷物の保固に不安が感じられ、年明けには早くも価格の上昇がみられ、2月末に発表された、臨時安定策による、消費者価格の224.680/kgに抑えられたため、相場と年明けの相場は中断された。この年の交差点後、保冷量が増え、次々と復活し、5月頃には平常に戻った。しかし、4月下旬以降、南部産品の1/3がサッポロ川(ヒロギン川)にサッポロ川の中流地区の産物が市場に出回ったため、6月に30kgサッポロ川産品の収量が順調にすぎたため、降雨多量のため、輸送に困難を来し、保冷量が減り、価格が再び上昇。サッポロ市内では、凍結価格で15kgに上回る価格で取引が行われた。

この年の価格面は、^秋国産に代替されたSUNAR(国産市販品)は、6月に新潟産の価格と発表し、玉ねぎに712円、山形産品に712円、サッポロ川産品の平均価格は224.50/kg、小売価格は224.60/kgと発表された。主要価格による、2定3の野菜相場は、価格相場を抑える方法で、交通の各段の問題が生じた。

表 267 玉和町: 生産物収入 (12/10)

月別	1985	1986
1	0.61	3.27
2	0.77	4.63
3	0.78	4.67
4	0.75	4.55
5	1.11	5.10
6	1.56	5.43
7	6.54	4.55
8	6.88	4.95
9	5.50	4.04
10	3.81	4.27
11	2.51	4.37
12	2.11	4.00

出所: T.T.P.

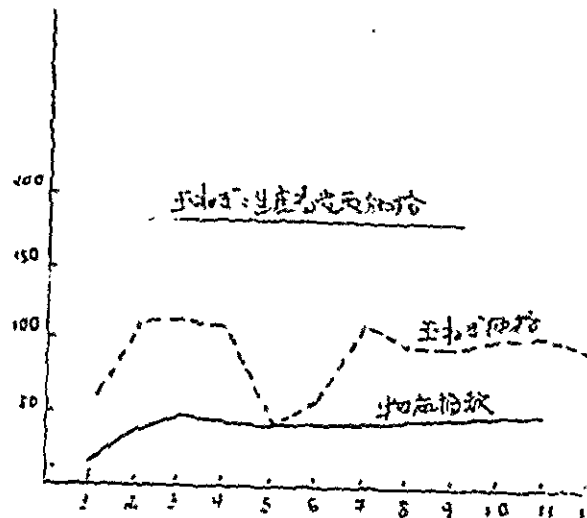


表 268

玉和町: 生産物 86/87

生産 240倍 (11.45kg)

項目	必要日数	手配	金額 (円)
A) 作業コスト			
1) 労務費	82.01	41.70	3,419.82
2) 燃料費	6.11	37.50	351.32
3) 4輪トラクター	6.11	338.47	2,048.05
4) 耕 土	0.63	31.34	19.74
5) 碎 土	0.63	36.40	25.53
6) 防 除	2.72	57.45	156.26
7) 運 搬	2.13	26.27	77.26
8) かんがい	5.15	279.46	1,634.84
9) 収 穫			1,890.00
小計			9,652.82
B) 資材コスト			
1) 苗 床	637.00 m ²	3.77 / m ²	2,401.49
2) 石 灰	0.72 T	240.00 / T	172.80
3) 配合肥料 (4-16-8)	1.58 T	2,410.30 / T	3,808.27
4) " (10-10-10)	0.48 T	2,425.66 / T	1,164.32
5) 有機肥料 (鶏糞)	1.00 T	400.00 / T	400.00
6) 殺虫剤	1.25 L	111.38 / L	139.22
7) "	2.14 L	52.35 / L	112.03
8) 殺菌剤	11.44 kg	44.06 / kg	504.05
9) "	2.85 L	137.66 / L	391.23
10) "	0.54 kg	277.74 / kg	149.18
11) "	0.64 kg	201.37 / kg	128.88
12) 除草剤	1.00 L	339.93 / L	339.93
13) "	0.35 kg	114.92 / kg	39.72
14) 薬剤費 (合計)	420.00 円	3,751.00	1,575.00
小計			11,441.14
合計			21,093.96
C) 商材コスト			
1) 振込手数料			2075.50
2) 銀行利息			984.38
合計			2,069.88
合計			23,163.84

出所: T.T.P.

中核部 1/10 11/15 15/15

3.6.4 にんじん

表 269 にんじん：1986年生産状況

順位	州別	面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
1	千葉県・千葉県	3.6	17.8	4900
2	ミナミ・シラヤ	3.1	13.0	4114
3	宮崎	1.2	6.4	5080
4	リオ・グランデ・ド・スル	2.1	6.3	2964
5	その他	4.7	23.5	6008
合計		14.7	60.8	4146

出所：J.B.G.E.

80年代の5年間に於けるニンジンの収穫面積は年平均14千ヘクタール規模で、中でも82年の18千ヘクタールに最大とし、85年には4千ヘクタール減少傾向にあったが、86年に4千ヘクタールの面積と回復した。過去5年間の生産量は82年の64.2千トンに最高値を記録し、84、85年には4千ヘクタールに落ち込み、86年には60.8千トンに回復した。

86年に於ける生産の回復は種子の改良と栽培技術の向上によるものであり、全国平均の単収に伸びた。生産地域別にみると、千葉県・千葉県、ミナミ・シラヤ、リオ・グランデ・ド・スル等の生産が突出しており、この3州は全国生産の60%を占めている。

85年より86年に於ける作付面積の増加に伴って栽培者の増加も促進した。国家は人々の増産計画の達成面積1,200haを目標としており、86/87年も更に増加が見込まれている。これは主として、この主要生産地の4州に於ける86年に降雨量が少なく、収穫が容易なため栽培者数の増加、生産者の次期作付意欲を刺激しているためである。

表 270 にんじん：過去5年間の生産推移

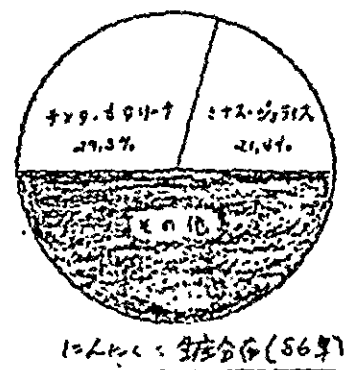
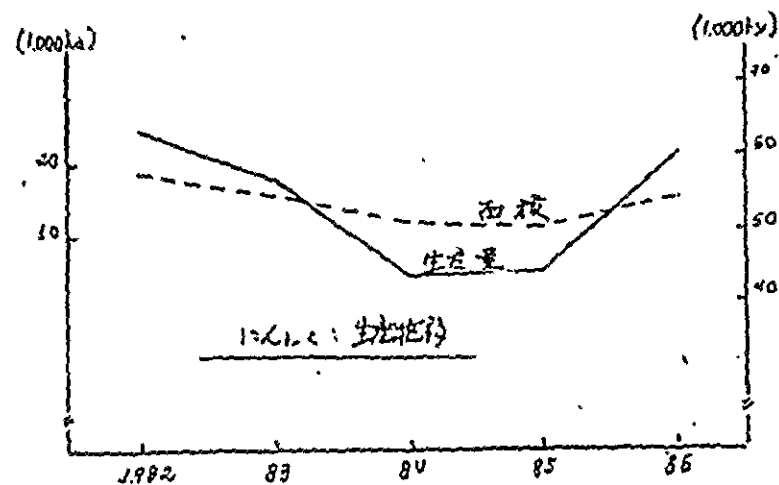
順位	州別	1982	1983	1984	1985	1986
1	千葉県・千葉県	8.5	8.5	9.0	11.0	17.8
2	ミナミ・シラヤ	22.0	19.2	11.9	10.8	13.0
3	リオ・グランデ・ド・スル	5.8	6.0	5.7	3.2	0.2
4	その他	27.9	23.9	17.0	16.5	4.8
合計		64.2	67.6	43.6	41.5	60.8

面積 1000ha	1982	1983	1984	1985	1986
	18.3	15.6	11.8	11.2	14.7

表 271 にんじん：主要生産地の単収

州別	1982	1983	1984	1985	1986
千葉県・千葉県	3323	3323	4185	4490	4900
ミナミ・シラヤ	4386	4435	3920	3996	4114
リオ・グランデ・ド・スル	2767	2796	2805	2901	3152
全国平均	3505	3695	3686	3924	4146

出所：J.B.G.E.



生産上の問題点として、新しく栽培に開始した生産者が増加していること、全国的に栽培技術が低下し低品質のものが増えること、また価格の下落が予想されること、また、技術の伝播と大量の労働力を必要とする点、主要生産地帯では労賃の高騰がみられ、最終コストに影響していることである。このほか、税関に輸入の需要が大きい供給が不足していること、電算機化の決定が遅れていることなどが追加される。

カンパチの中央卸市場では、83年から85年にかけて期間の入荷量は、年間平均134千箱(10kg)で、81年、82年に比して50%の増加であった。しかし86年に入ると9月までの統計で65千箱に抑えられている。年間を通じて前年比同様の減少であったものと推定される。これは86年始めに実施された、価格決定策下で消費者価格の統制された、CEAGESP(中央卸市場)に入市すると厳しい監督下に置かれること、価格の自由取引を認める他の市場と出所されたためである。この他最近の傾向として中央卸市場と並行して直接スーパーに販路を拡大しているため、CEAGESP入荷量の減少に関連するものがある。

しかしながら、CEAGESPの取引価格は市場の動向をある程度反映するものと変化する。最近の価格水準は82年を最高としており、85年、86年と84年に比して下落している。82年のレベルに近づいている。

輸入は恒常的に行われており、国内の不足がカバーされてきた。ただし輸入の時期と量が適当でない場合が多く、生産者の不満を買っている。86年には9月にモンテネグロで開かれたALADI(ラテンアメリカ自由貿易連合)の会合で、ラテンアメリカ輸入量は6千トンに決定された。この量は85年に輸入された15千トンの40%、84年輸入量の20%に相当するものである。大量輸入による値下りの事態が発生する懸念がなくなり、生産者を安心させている。

政府の方針も輸入を減少して国産を増やすことにあり、民間部門の輸入も政府の監督下に置かれ、輸入の時期は国産品の土産時期と合致しないことが条件とされている。

輸入は国家統制委員会 (CONAO)、供給及び価格特設局 (SEAP) が決定し、CACEX (貿易総局) によって輸入許可証が発給される。この際輸入者側は本年中に国産品に代えて購入したことの証明のほか前年の輸入実績を報告し、その比率として輸入許可量が決定される仕組みとなっている。このために輸入割合は合計的に16%の輸入率によって決められている。

輸入品の輸入時期は国産品の土産時期に3月～7月内に行われる。この間の輸入肉は0であるが、8月～2月内にはモータリカル品と定められ、国産品と同等の扱いを受ける。この期間中、ALADI 諸国に付与された優先的取扱いは中止し、他の国の場合と同様の輸入肉は適当な税率を課せられ、国産品保護の必要性がある場合に用いられる。

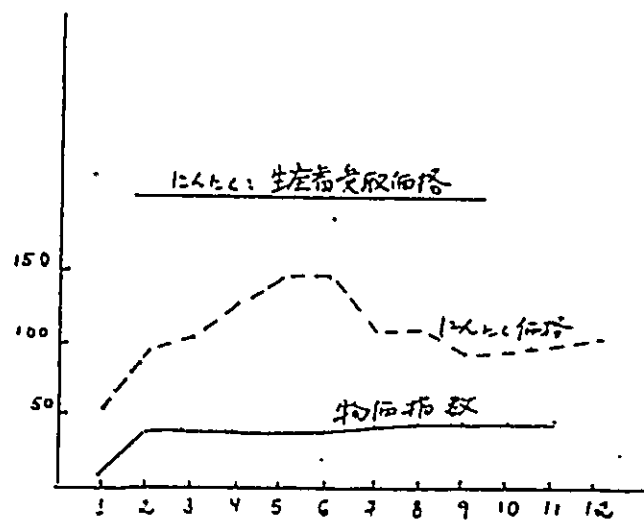
サハラ以南の国々における生産者受取価格は、86年5、6月に頂英と似たような価格推移を示した。この価格の時期でも物価指数に上回る価格推移があった。これは消費者価格も23年以降に落ちたことと24年以降に上昇を遂げたことと関係している。

このような価格状況の中で生産者の収益は良好であり、次年度も生産の拡大が予想されている。

表 272 生産者受取価格 (C/mt)

月別	1985	1986
1	3.21	34.21
2	3.84	40.99
3	4.92	46.10
4	6.10	50.89
5	10.70	53.58
6	14.31	53.60
7	15.70	48.80
8	15.89	49.42
9	15.01	43.04
10	13.31	44.18
11	13.21	46.18
12	22.29	46.52

出所: I.E.A.



3.7 牧畜部門

3.7.1 牛

1) 国内市場

86年度における牛肉市場は、経済安定策の実施により、変化は経済環境の中で格段に^混雑化して、
態に違ひ供給の不振、ヤミ便の横行という好まぬ事態が生じた。ブルート計画がもたらした
経済環境の変化とは、インフレに著したため、物価と実給金^{（実給金）}の両方が急激に暴落した。再稼働化と
国の政策の中で失業率が減り、実給金の向上により、購買力が増加し、国内需要が異常に増加した
現象である。この傾向は基本的な合意として、牛肉の需給が端的に現れ、牛肉需要が急増した。
牛肉の消費は、1人あたり年間消費量が、1977年の20.5kgより、85年には13kgに落ちた。
たが、国民の購買力が回復する場合、反動として消費が増え、供給不足となる恐れがある。
た問題である。86年の場合、最低安全と牛肉の価格関係は、25kgより34.3kgに飛躍した。
経済安定策により、金融市場における利便の面から見て、中産階級が中心となり、長期にわたって
対応してきた消費に向かい、牛肉需要とある。一因と見て、

この牛肉需要の増加は、主に供給面から、1) 1982年より、85年までの4年間の畜産の増産に起因する
2) 結果として、86年の供給量が減少した。3) 価格調整の存在（15%）と市場価格
の操作が行われ、増産に寄与した。4) 経済安定策による金利の低下から、金融市場への投資より、
他の部門への投資に振り向いた。5) 牛肉の供給は、畜産の増産に寄与した。6) 牛肉の供給は、
牛肉の供給が強化された。7) 農地改革の促進は、遊休農地の活用とあり、牧場としての利
用の増加した。8) 牛肉の供給は、牛肉の供給と押さえる一連の要素が支配した。

牛肉の供給不振とある。牧畜業者は、冷凍工場と肉を仲介して、紳士協会の維持と
基本的に肥育牛の価格をコントロールし、マート・プロット・200kgより200kg（15kg）より
225,000. 100kgの州で205.と増えた。これは、牛肉の価格の暴落によるマート・プロットの
減少を避ける措置である。しかしながら、この協会の時とすると、放棄した肥育牛の価格は
240.に上昇し、以後年末に42,000,000.と高騰した。

6月に22kgの牛肉不足は、深刻化し、供給不足の恐れは、小売店に通常の営業の土壌が、
少量の牛肉は、ヤミ便の横行と最も顕著に呈している。政府は、罰則を設けて、牧場の
牛保留を中止させ、強硬措置を取らざるを得ない情勢となっている。罰則^{（罰則）}は、牛肉の取引が行われる牧場

主に、畜産の中止、肥育牛の接収にいたるまでの手段を講じられた。この措置は成功といえるものではなかったが、相場を低押し、屠殺の増加、低殺量の増進に役立った。すなわち本措置の適用後15日間には効果を感じ、1日あたり13,000頭とあり、各殺収が10月末までに22,000頭に達した。

他方ヨーロッパ牛肉の緊急輸入を行って国内供給の不足をカバーする措置もとり、輸入肉が不足が過ぎたため長期にわたる肉不足が続いた。10月下旬になってようやく輸入肉の市場への開始で市場が一時的に安くなり、生産者受取価格が一時的に下落した。しかし11月に入ると供給が回復し、その結果から生産者が相場を押し上げた。再び相場は上昇し、その結果11月に達した。

表 273 1985年10月の牛屠殺頭数

月別	1984		1985		1986	
	1,000頭	死亡率%	1,000頭	死亡率%	1,000頭	死亡率%
1	190.3	21	176.8	21	171.3	26
2	188.9	29	163.0	22	178.0	27
3	203.9	22	171.5	22	201.4	21
4	203.9	19	214.3	18	227.6	14
5	239.8	16	249.7	15	224.9	10
6	232.3	16	230.3	16	212.4	6
7	226.4	15	238.5	18	125.3	5
8	176.9	17	164.6	20	87.6	4
9	106.4	18	136.3	17	26.2	7
10	117.3	19	146.8	20	...	...
11	156.1	18	110.4	23	...	...
12	165.1	22	144.8	19	...	...
計	2,207.5	20	2,147.1	19	...	...

出所: SCRP / SP.

表 274 肥育牛受取価格 (円/頭)

月別	1985	1986
1	35.45	211.79
2	53.02	214.15
3	52.38	213.13
4	53.07	214.10
5	53.27	219.02
6	53.34	237.80
7	81.79	258.70
8	114.97	283.80
9	134.27	329.77
10	154.47	292.58
11	204.75	390.66
12	209.60	554.98

出所: J.E.A.

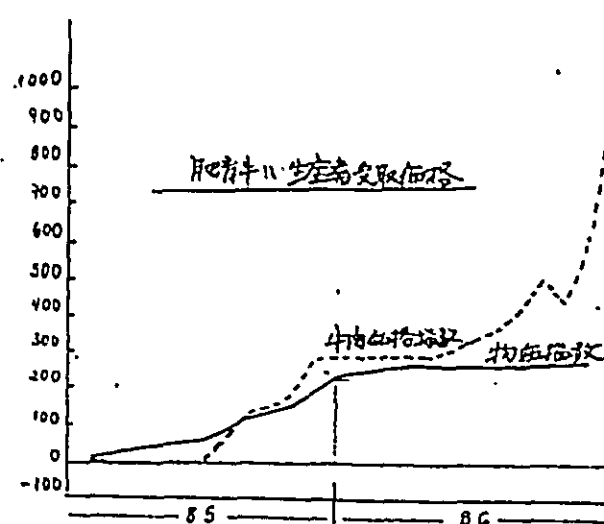
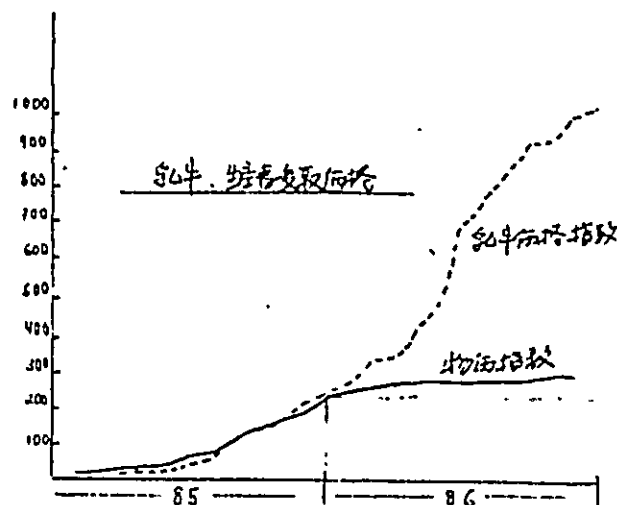


表 275 統計：物価指数 (C/152)

月別	1985	1986
1	1,456.75	5,251.42
2		5,917.35
3	1,615.28	6,097.85
4	1,673.18	7,047.93
5	1,734.08	8,095.30
6	1,954.30	10,378.60
7	2,341.99	11,700.80
8	2,873.56	12,914.70
9	3,227.84	13,864.84
10	3,527.14	14,081.73
11	4,186.76	14,885.72
12	4,603.12	16,106.65

出所: J.E.D.



ロ) 輸土

牛肉の輸出は生肉、冷凍及び工業加工品にわたるコンビネーションで行われている。総量は85年27万トに達し、81年以降増加の途に上った。輸出全般も量に平行して増加した。83年以降5位以下の外貨を獲得している。10月以降86年までの国内産冷凍牛肉は、輸出に比べて増加傾向にある。従来、増加傾向を中断した形で1-8月の統計で前年と比較し、生肉の量は23.2%、合計は16.3%、加工品は4.1%、合計は5.7%、合計金額は115.1%となっている。年間の統計は発表されていないが、おおよそこの傾向を81年まで追って見られる。フランス牛肉の輸出先は生肉の割合、例年中心に中近東及びEC、諸国、コンビネーションで英国が圧倒的に大きく、米国が次いでいる。

表 276

牛肉：ブラジルの輸出実績

月 重量 トン

区分	生肉 骨つき①	生肉 骨なし②	冷凍 骨つき③	冷凍 骨なし④	コンビネーション ⑤	コンビネーション 冷凍⑥	その他⑦	計
1981	15.0	1,404.4	61.6	44,917.9	82,642.3	12,187.3	3,278.2	144,506.7
82	—	1,331.6	4035.8	89,074.0	88657.9	12458.5	1596.9	197,154.7
83	—	2891.3	1511.6	115,893.8	109,235.3	18439.5	688.7	249,160.3
84	238.9	4,253.4	164.7	110,438.8	118,034.6	22,065.0	1,090.8	256,286.7
85	106.0	4,835.9	464.5	136,631.9	112,597.9	16,103.7	697.0	271,436.9

B 金額 1000トN

区分	生肉 骨つき①	生肉 骨なし②	冷凍 骨つき③	冷凍 骨なし④	コンビネーション ⑤	コンビネーション 冷凍⑥	その他⑦	計
1981	64.5	6,646.7	75.6	116,779.4	243,142.6	46,280.5	3551.7	417,241.0
82	—	4,358.3	4478.9	179,450.3	206,990.8	41757.3	1744.7	438,780.3
83	—	8,364.3	1711.8	200,242.2	260,157.2	55,351.0	830.0	516,656.5
84	513.8	13,522.0	250.7	199,623.1	244,805.7	60,624.7	1,287.0	520,627.0
85	211.9	13,468.8	503.7	248,498.5	215,842.7	43,492.0	1,000.4	523,018.0

出所: CACEX

① 02.01.01

② 02.01.01.02

③ 02.01.01.03

④ 02.01.01.04

⑤ 16.02.01.01

⑥ 16.02.01.02

⑦ 16.02.01.99

表 277 牛肉(冷凍品以外)輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000トン	金額 100万円
イタリヤ	51.2	104.7
米国	13.3	21.2
西独	9.2	18.2
イタリヤ	9.3	17.0
オランダ	8.3	16.8
香港	7.9	14.2
イスラエル	9.4	13.2
ソマリア	5.5	10.0
スペイン	4.7	9.0
シンガポール	3.0	4.6
マルタ	2.0	3.6
コロンビア	3.0	3.4
フランス	2.3	3.3
ベルギー	0.9	1.6
ギリシャ	0.9	1.0
その他	3.7	6.7
計	134.6	248.5

出所: CACEX

02010104

表 278 コンビーフ輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000トン	金額 100万円
西独	55.0	103.3
米国	25.2	52.0
フランス	4.6	9.1
イタリヤ	4.4	8.2
カナダ	3.6	6.8
オランダ	3.2	5.5
日本	2.3	4.2
イタリヤ	2.4	4.2
ソマリア	2.0	3.8
イスラエル	1.7	3.0
トリニダード	1.0	1.9
西独	1.0	1.9
ギリシャ	0.6	1.1
ベルギー	0.6	1.1
モロッコ	0.5	1.1
その他	4.5	8.6
計	112.6	215.8

出所: CACEX

16020101

表 279 牛肉輸出 1985年86年比較(1-8月)

種類別	重量 1000トン			金額 100万円			平均単価/ト FOB		
	1985	86	増減(%)	85	86	増減(%)	85	86	増減(%)
生肉	103.6	79.6	-22.2	191.7	160.4	-16.3	1849.71	2014.96	8.9
加工肉	51.1	28.9	-5.7	164.2	176.7	7.6	2023.86	1987.69	-1.8
計	217.1	168.5	-22.9	355.9	337.1	-5.3	-	-	-

出所: CACEX

表 280 牛肉の国内推定消費量 85年86年比較(1-8月) トン

月別	1985	1986	増減 %
1	147,614.0	132,539.5	-10.2
2	125,073.5	121,695.0	-2.7
3	161,108.5	176,463.5	9.5
4	162,866.5	199,609.5	22.6
5	185,593.0	169,487.5	-8.7
6	164,191.0	148,805.0	-9.5
7	157,734.5	144,404.0	-8.9
8	115,191.5	84,802.0	-26.9
計	1,216,372.5	1,107,754.0	-8.9

出所: 1986. CACEX

3. 7. 2 脉.

サバコ川内の希釈液及び豚肉重量と連邦検疫所の希釈液の検計とより、頭取で485年
85年に0.4%減されたため、86年に11月、87年9月レベルに復活しており、肉の重量で486年に1頭
当りの重量が30%減されたため、88年11月より平均10%減に達し、85年と上廻り。

80年に比べて、降加率の低い、豚肉生産の減少傾向は、86年には中止された。同年に比べて、経済
安定策に伴う、肉類消費の増加、牛肉供給量の不足による代替品としての豚肉及び鶏肉消費の増加によ
るものであった。

86年の豚肉市場：経済安定策で中心として非常に変動の多い年であり、収量と圧迫された前半より、収量と増大した後半期へと推移した。通常豚肉の需要はクリスマスを中心とした年末に増大し、年頭の夏期は減少するが、一般の傾向と異なり、価格もこの年に急激に暴落をみせるものあり、すなわち期をよ越したにもかかわらず、86年の場合は、85年末中米南部地区の悪化が原因で輸出に支障をきたす被害が深刻となり、この大増産の減産が予想された。1月1日の価格の上昇をみると、この年頭からの増産水準に圧迫され、需要も低下し、JCFP（日本畜産公社）の苦境が政府に波及したことが、この年頭急激に悪化した原因として加わった。年頭の豚肉価格は低く、バラエティ化がすすむ中、1～2月間はとくに（一）6割の価格下落がみられ、翌年価格の下落、この上昇という好転はからず、事態はあつた。

2月未に交配された、新開子交配、2-4、豚肉-消化系組織の押之にみられ、腔骨の付く変位に於ける
小児のマージンと腔骨の付く、冷凍工場による腔骨例への低下を尋ねて居るが、居る。

取 281 豚: 肝臓内へ蓄積した肝性脂肪 (連邦検査済)

A 列	1934		1935		1936	
	1000 元	元	1000 元	元	1000 元	元
1	42.1	2,859.6	39.5	2,225.7	36.4	2,433.4
2	39.0	2,658.0	29.2	1,958.4	40.9	2,846.4
3	38.5	2,703.0	32.8	2,204.3	39.0	2,729.0
4	40.2	2,875.2	33.8	2,226.2	37.9	2,601.4
5	44.5	3,182.1	41.0	2,838.7	34.9	2,413.9
6	41.8	2,026.5	37.0	2,562.5	37.2	2,635.6
7	41.5	2,946.7	41.4	2,869.2	46.4	3,151.5
8	42.3	2,836.6	42.4	3,039.6	42.4	2,951.1
9	40.6	2,748.1	33.7	2,317.3	47.2	2,518.6
10	17.6	3,092.7	38.9	2,625.0	---	---
11	40.3	2,693.2	42.6	2,723.6	---	---
12	59.0	3,026.1	53.4	3,067.5	---	---
合計	485.4	34,622.9	460.8	30,782.9	483.7	362.3
平均	40.5	2,885.2	38.4	2,565.2	40.2	2,697.4

出片: 1 片

及面、重要な飼料としてのとうもろこしは栽培後期の両期中に天候に恵まれず、乾燥の被害を蒙り、
 後には前年よりも若干の減少を計るに及ぶ、その結果、飼料の不足が懸念され、とうもろこし
 の不足を補填するために、大豆、小麦、大麦、とうもろこしの不足を補填するために、大豆、小麦、
 大麦、とうもろこしの不足を補填するために、大豆、小麦、大麦、とうもろこしの不足を補填する。

豚肉価格の上昇は、豚肉ととうもろこし、豚肉と飼料との価格関係に起因して、養豚収益を増大させた。

表 282 豚肉と飼料の価格関係 (円/kg)

月別	1985	1986
1	49.49	186.97
2	54.07	192.74
3	56.17	191.17
4	56.77	192.10
5	57.98	198.70
6	63.88	209.20
7	79.98	229.80
8	105.11	251.00
9	122.12	280.02
10	125.78	294.72
11	145.75	321.34
12	127.13	394.74

出所: J.E.A.

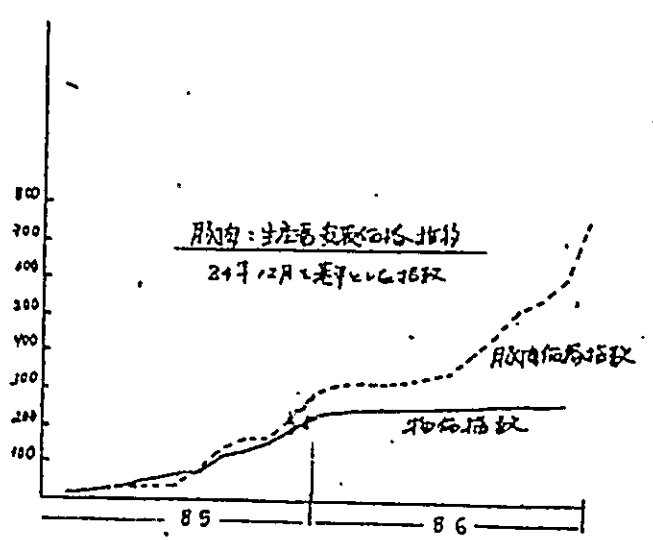


表 283 豚肉と飼料の価格関係 (円/kg)

月別	84	85	86
1	5.09	7.25	6.90
2	6.03	8.62	6.56
3	7.41	8.30	6.63
4	7.97	7.07	7.19
5	8.93	7.13	7.45
6	9.75	7.85	8.58
7	9.24	8.73	9.24
8	8.03	9.43	9.14
9	9.35	9.60	9.73
10	8.57	9.11	10.39
11	7.88	7.22	---
12	6.97	8.45	---

出所: J.E.A. 豚肉1kgの代金に購入したとうもろこしの量 (kg)

表 284 豚肉と飼料の価格関係 (円/kg)

月別	84	85	86
1	3.91	5.31	6.28
2	4.62	5.39	7.94
3	5.24	4.91	7.43
4	5.43	4.51	7.46
5	5.25	4.39	7.61
6	5.82	4.41	7.85
7	5.93	5.19	5.33
8	5.94	6.43	5.82
9	6.48	6.87	6.50
10	6.38	6.70	6.84
11	5.56	6.15	---
12	5.29	7.21	---

出所: J.E.A. 豚肉1kgの代金に購入した飼料の量 (kg)

国際市場もブラジルの場合と同様に牛肉生産の減少、豚肉、鶏肉の需要増大傾向にあり、87年度
 にはブラジルはほぼカナダ、EC諸国、日本及び中国の生産増大によって前年と15%以上の増産が予想さ
 れている。ブラジルの豚肉輸出は冷凍生肉の形で増加しており、84年には6.2千トン、11万トンに達する
 増加している。香港及びスペインは主要市場とされている。

表 285 冷凍豚肉の輸出推移

年度	数量 t	金額 1000円	単価 US\$/t
1981	1,197.7	2,085.5	1745
1982	2,621.3	4,864.6	1856
1983	2,319.5	3,321.9	1432
1984	6,267.6	11,079.5	1768
1985	5,204.1	7,714.6	1482

出所: CACEK

02040402

3.7.3 豚

経済政策による実需急増の向上、牛肉供給量の不足、消費者価格の決着等一連の要素から、86年の国内消費が急増し、この需要に応じた生産量の増加が期待され、豚肉用ヒナ協会 (APINCO) による 86年上半期の豚肉生産量は 766千トンの推定とされている。この量は過去の上半期に前例のない大量生産である。

この増産の中で、豚肉及び卵の価格が年間で通じ物価指数に上回る推移がみられ、実需の急増による価格の上昇がみられる。

表 286 豚肉: 実需取価指数 %/kg

月別	1985	1986
1	1.78	8.62
2	1.81	9.04
3	1.78	7.72
4	1.74	7.74
5	1.99	8.23
6	2.58	8.95
7	3.51	10.07
8	4.81	10.74
9	5.12	11.03
10	4.91	11.06
11	6.12	12.74
12	7.84	14.04

出所: J.E.A.

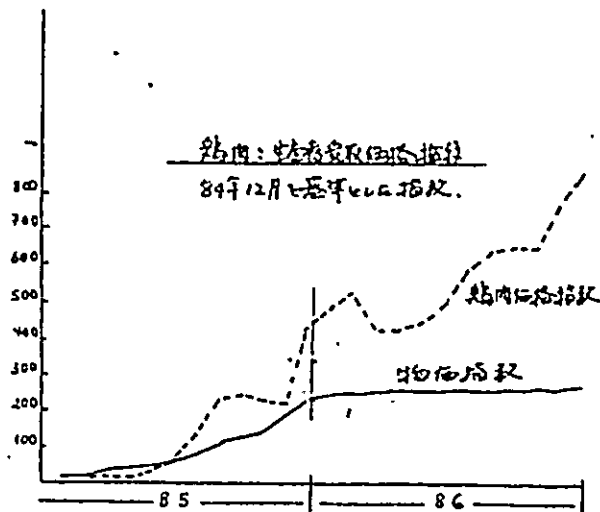
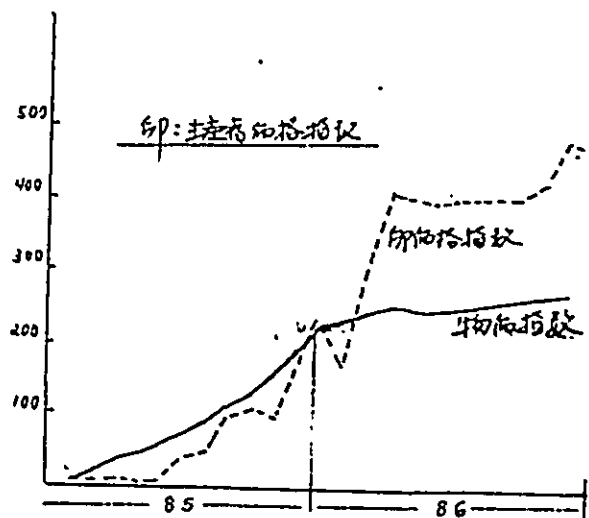


表 287 卵: 実需取価指数 %/30個

月別	1985	1986
1	36.21	99.76
2	40.97	146.87
3	41.21	185.82
4	37.37	181.17
5	40.65	180.10
6	50.57	180.87
7	54.07	181.73
8	71.56	182.79
9	76.60	182.35
10	72.19	189.90
11	98.14	202.25
12	121.89	206.17

出所: J.E.A.



養鶏用配合飼料の価格が経年変動によ
て変動している、鶏肉 1kg の販売代金に購入
した配合飼料の量、経年変動を調査した。
2.2kg 5、10月には 3.15kg へと増加した、し
かし 1 月に達した 3.49kg は 4 月と 5 月にはない。

一方、鶏肉の小売価格も 2 割増しにされた
と、その価格に 2 割の増しにされた小売価格
の 2 割増しにされた価格の問題が生じた時期もあった。

………の調査結果を基に、経年変動の傾向を分析した。

生産者の中、畜産、血統、繁殖、飼育などの問題がある、その中でも、飼育の飼料の供給に大きな問題
がある、飼料の供給不足が問題になっている。

一方、国際市場の価格も、飼料の供給不足が問題になっている、その中でも、飼料の供給に大きな問題
がある、飼料の供給不足が問題になっている。

表 288 鶏肉と飼料の価格関係

月別	84	85	86
1	2.37	2.41	3.49
2	2.68	2.28	2.83
3	2.55	1.97	2.20
4	2.38	1.76	2.20
5	2.51	1.92	2.34
6	2.61	2.30	2.55
7	2.92	3.05	2.87
8	3.00	3.67	3.06
9	3.80	3.60	3.14
10	3.12	3.13	3.15
11	2.40	3.23	...
12	2.19	3.26	...

注: 1kg の鶏肉に購入した飼料の量

表 289 プロイター輸出推計

重量 1000kg					金額 100万円				
1984	82	83	84	85	1984	82	83	84	85
293.9	301.8	289.3	280.3	277.1	354.3	285.5	242.2	263.5	242.9

出所: CACEX 02.02.01.02

表 290 プロイター輸出実績 1985年

輸出先国	重量 1000kg	金額 100万円
ソビエト連邦	85.6	67.4
イタリヤ	65.6	59.2
エジプト	50.0	40.1
日本	15.2	17.6
スペイン	11.0	11.7
コロンビア	12.8	10.3
イギリス	4.9	8.0
オランダ	6.4	5.0
バレーン島	4.4	3.7
スイス	2.1	3.1
その他	17.1	16.8
計	277.1	242.9

出所: CACEX 02.02.01.02

3.8 林業部内

一、1984年(ラビ地理統計院)の1985年交付税に拠る森林部内の統計の中心となる通年値

表 291 ユー・カ・の植林面積と植林本数

種 別	面 積 1,000ha		本 数 1,000本	
	1983	1984	1983	1984
ミナソウ	3,824.9	2,946.8	1,548.2	1,594.9
サ・ノ・ノ	1,542.8	1,530.1	732.9	727.1
ミナソウ・ノ	799.4	814.9	423.0	432.7
ノ・ノ・ノ	479.5	504.7	209.7	221.0
ミナソウ・ノ	212.9	220.2	151.8	155.6
ノ・ノ・ノ	248.5	264.3	126.1	134.2
ノ・ノ・ノ	196.0	188.2	82.1	85.9
ノ・ノ・ノ	134.8	153.6	70.3	89.5
サ・ノ・ノ	126.7	145.7	56.2	63.9
ミナソウ	189.4	212.4	107.3	120.6
全 計	6,759.9	6,985.9	3,514.6	3,616.9

出所: ANUÁRIO ESTADÍSTICO 85

表 292 ア・ノ・ノの植林面積と植林本数

種 別	面 積 1,000ha		本 数 1,000本	
	1983	1984	1983	1984
ノ・ノ・ノ	1,218.5	1,244.5	561.0	582.8
サ・ノ・ノ	591.7	543.9	289.6	259.3
サ・ノ・ノ	492.9	477.1	261.0	255.5
ミナソウ	323.5	324.7	202.0	202.2
ノ・ノ・ノ	370.0	409.8	222.1	248.0
ノ・ノ・ノ	281.1	298.6	136.2	143.7
ミナソウ	274.3	296.0	177.1	188.8
全 計	3,552.0	3,598.6	1,840.0	1,905.3

出所: ANUÁRIO ESTADÍSTICO 84

表 293 木植、新木発生量 (造材林) 1984年

種 別	木 植 1,000m ³		新 木 発生量 1,000m ³	
	1,000m ³	1,000m ³	1,000m ³	1,000m ³
サ・ノ・ノ	1,511.9	9,641.1	1,498	
ノ・ノ・ノ	2,646.5	3,101.4	9.8	
ノ・ノ・ノ	1,044.4	1,781.0	9.2	
ミナソウ	2,557.5	8,945.6	1,340.7	
サ・ノ・ノ	2,753.4	382.5	9.6	
ノ・ノ・ノ	1,043.5	-	-	
セ・ノ・ノ	190.0	-	-	
ノ・ノ・ノ	208.5	508.6	1.5	
全 計	35,321.6	26,680.2	1,610.4	

出所: ANUÁRIO ESTADÍSTICO 85

表 294 木材、薪、木炭の生産 (天然林) 1984年

品名	材 木 1,000 m ³	薪 1,000 m ³	木 炭 1,000 m ³
パ ー -	19,072.0	5,021.2	29.0
パ ー +	9,672.7	7,473.2	36.7
サ ー -	4,751.4	2,922.0	83.5
パ ー 1	9,172.3	21,013.9	152.2
サ ー 2	1,871.9	9,214.5	438.9
マ ー 3	1,249.8	8,188.8	137.2
サ ー 4	895.8	2,041.8	5.6
マ ー 5	722.0	1,751.3	106.4
サ ー 6	609.7	5,306.2	2.8
マ ー 7	509.4	502.7	9.8
マ ー 8	1,316.6	4,470.0	4.7
マ ー 9	603.7	22,347.5	1,845.3
マ ー 10	951.1	3,782.8	0.8
マ ー 11	1,256.3	271.6	3.8
セ ー 12	680.7	19,540.2	24.5
セ ー 13	2,272.8	21,081.2	539.2
全 計	49,923.9	131,928.9	2,359.9

出所: ANUARIO ESTADISTICO 85

表 295 木材の輸出と輸入

年度	出 口 1,000 m ³			入 口 1,000 m ³		
	材 木	薪	計	材 木	薪	計
1981	870.1	0.2	870.3	391.6	0.6	392.2
82	658.7	0.1	658.8	274.3	0.3	274.6
83	768.5	0.1	768.6	318.9	0.3	319.2
84	803.2	0.2	803.4	310.3	0.5	310.8
85	788.0	0.1	788.1	302.7	0.9	303.6
86	725.4	0.1	725.5	272.4	0.7	273.1

出所: CACE. 86年11月31日統計

4. 86/87 年度の作付状況

表 276 86/87 年度作付面積

作物別	85/86 年度収穫 面積 1000ha	86/87 年度作付面積 1000ha	増減 %
穀物			
とうもろこし	12,465.0	13,809.4	10.8
米	5,590.3	6,208.5	11.1
小麦	3,908.0	---	---
フェイジョウ	5,484.1	4,393.4	(-) 19.9
ソルガム	198.6	161.9	(-) 18.5
大豆	102.0	---	---
アサギ	128.4	---	---
ライム	5.1	---	---
小計	27,882.5	---	---
油糧作物			
大豆	9,185.5	9,081	(-) 0.8
落花生	161.0	112.9	(-) 29.9
ヒマ	452.7	345.9	(-) 24.5
綿	3,60.8	4,445.2	(-) 22.6
小計	12,965.0	12,012.1	(-) 7.4
合計	40,847.5	---	---

出所: 1896.

表 297 86/87 年度の生産予想

作物別	85/86 年度 A	1896 予想 B	CFP 予想 C	増減 %	
				B/A	C/A
穀物					
とうもろこし	20,509.0	22,757.0	28,041.0	35.3	36.7
米	10,399.3	10,745.0	10,736.4	3.3	3.2
小麦	5,432.9	5,400.0	5,632.2	(-) 0.1	3.7
フェイジョウ	2,221.3	2,409.0	2,342.1	8.5	5.4
ソルガム	370.1	335.0	530.4	(-) 9.5	43.2
大豆	180.0	180.0	131.5	---	(-) 27.2
アサギ	121.0	120.0	139.3	---	14.9
ライム	9.5	9.5	8.4	---	86.7
小計	39,238.6	46,991.0	47,561.9	19.8	21.2
油糧作物					
大豆	13,334.7	16,878.0	16,760.5	26.6	25.7
落花生	216.2	226.0	203.7	4.6	(-) 5.8
ヒマ	263.0	153.0	145.3	(-) 71.9	(-) 44.9
綿	231.44	1,313.0	1,260.2	(-) 43.1	(-) 45.5
小計	16,128.3	18,570.0	18,389.7	15.1	14.0
合計	55,366.9	65,561.0	65,951.6	18.4	19.1

出所: 1896. CFP.

注) 1896 年の場合、大豆、アサギ、ライム、フェイジョウは、1896 年の作付面積と収穫量とが一致している。前年並みの生産量を想定している。1896 年(コロンビア植民地)より CFP(駐米公使館)が 87 年 3 月に行った調査結果により、穀類(穀物及び油糧作物)の 86/87 年度に於ける生産量は、1896 年の場合、65 万トンに上廻り、前年並に 1 千万トン増加し、コロンビア農業の歴史の中で、有史以来初めて 6 千万トンを超える大豊作の収穫と見る予想である。

< 参考資料 >

LEVANTAMENTO SISTEMÁTICO DA PRODUÇÃO AGRÍCOLA	ブラジルの地理統計院
ANUÁRIO ESTATÍSTICO DO BRASIL 1985	同上
PROGNÓSTICO 85/86	サントパウロ経済発展研究所
INFORMAÇÃO ECONÔMICA	同上
RELATÓRIO BANCO CENTRAL 1986	ブラジルの中央銀行
COMÉRCIO EXTERIOR	ブラジルの銀行貿易管理局
CONJUNTURA ECONÔMICA	セウラ・ブラジルの経済研究所
AGROANÁLISE	同上
RELATÓRIO ANUAL DA CFP 1986	生産融資公社
POLÍTICA DE PREÇO MÍNIMO 1985	同上
GAZETA MERCANTIL	ガゼタ・メルカンチル紙
SUMA AGRÍCOLA	サマ・アグリコラ社農業情報誌

< 所見 >

1. 単位の統一のため、合計値の数字と一致しない結果が一致しないことがある。
2. 統計表と最近の数字は、後日修正される可能性がある。

1987年3月

報告作成、SIN PROMOÇÃO E MARKETING (TAP)

